

# クボタトラクタ

## 取扱説明書

# GL

201・221・241  
261・281・301  
321・277・337  
367・417・467



F-9244



ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# 操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	注意マーク		作業灯
	火気厳禁		作業灯 (前)
	ディーゼル軽油		作業灯 (後)
	燃料 (残量)		シヤトル (前後進切換)
	グロー		アクセル高
	バッテリー充電異常		アクセル低
	エンジンオイル圧力異常		倍速ターン
	エンジン停止		水平制御
	エンジン水温		自動耕深制御
	ホーン		後進時作業機上昇
	方向指示器		オートアップ
	ヘッドライト (下向)		3点リンク (上げ)
	ヘッドライト (上向)		3点リンク (下げ)
			ワイパ

# はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。  
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## ▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。  
なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### ■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



**危険**： 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



**警告**： 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



**注意**： 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示します。

**重要**： 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

**補足**： その他、使用上役立つ補足説明を示します。

## 仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

なお、説明はGL241を基本とし、GL241と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によつて …………… “201仕様” “221仕様” “241(K)(J)仕様”  
“261(K)仕様” “281(K)(J)仕様”  
“301(E)仕様” “321(E)仕様”  
“277仕様” “337仕様” “367(E)仕様”  
“417(E)仕様” “467(E)仕様”
- パワーステアリング付き …………… “S仕様”
- モンローマチック付き …………… “M仕様”
- モンローマチックオート／オートアップ付き … “MA仕様”
- ノンクラッチトランスミッション付き(F) …………… “Uシフト仕様”
- AD(オートディスクブレーキ)付き …………… “BS仕様”
- 倍速ターン付き …………… “B仕様”
- Eスペシャル …………… “ES仕様”
- 安全キャブ付き (エアコン付き) …………… “Q仕様”
- 大径タイヤ付き …………… “J仕様”

トラクタを安全にしかも上手にご使用していただくために、この取扱説明書は次の手順で構成されていますので、基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

#### まずは安全確保をしましょう

1. **▲安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項、警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と守るべき警告・注意事項を解説していますので熟読のうえ理解し、必ず守ってください。

#### 動かす前に実施しましょう

#### 2. 確認と手続き：

- (1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。
- (2)小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の交付を受けてください。
- (3)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば、その名称に記してある参照ページをご覧ください。

#### 動かす前に機械の健康診断をしましょう

3. **運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため、作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

#### 最初にトラクタの安全運転のための基本操作を体得しましょう

#### 4. トラクタの運転：

- (1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。
- (2)安全にトラクタを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。
- (3)倍速ターン、AD、デフロックの正しい取扱い方を体得してください。
- (4)トラックへの安全な積み・降ろし、ほ場への出入時の注意、および旋回方法等を理解し、必ず守ってください。

#### トラクタの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

#### 5. 上手な装置の使いかた：

- (1)油圧、三点リンク、PTOの正しい取扱いと調整方法を体得してください。
- (2)モンローマチック・MCオート、およびタイヤの正しい取扱いと調整方法を体得してください。
- (3)キャブ装備品の正しい取扱いと調整方法を体得してください。

#### 良く働いた機械をいたわりましょう

6. **メンテナンス：**機械を長持ちさせるために、シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し、来シーズンに備えてください。

# 目次

## ▲安全に作業するために…… ▲-1

サービスと保証について ……………	1
ご相談窓口 ……………	1
小型特殊自動車としての取扱い ……………	3
小型特殊自動車取得の届出と 標識(ナンバープレート)の取付け ……	3
運転免許 ……………	4
損害賠償保険について ……………	4
運転に必要な各部の名称 ……………	5
イージーチェッカ ……………	6
運転前の点検 ……………	8
エンジンの始動と停止 ……………	9
始動のしかた ……………	9
キースイッチ ……………	11
停止のしかた ……………	13
暖機運転 ……………	14
バッテリーあがりの処置 ……………	14
バッテリープラスカッター ……………	15
トラクタの運転 ……………	16
ならし運転(最初の約50時間) ……………	16
運転席回りの調節 ……………	16
シート ……………	16
安全キャブ・安全フレームと シートベルトについて ……………	17
ステアリングハンドル ……………	18
バックミラー ……………	18
灯火類の操作 ……………	19
コンビネーションスイッチ ……………	19
駐車灯スイッチ 【GL277・337・367・417・467仕様】 ……	19
バックランプ 【GL277・337・367・417・467仕様】 ……	19
ブレーキランプ 【GL277・337・367・417・467仕様】 ……	19

発進・走行 ……………	20
ブレーキペダル ……………	20
クラッチペダル ……………	21
クリープレバー ……………	21
倍速ターンレバー ……………	22
AD(オートディスクブレーキ)レバー 【BS仕様】 ……………	24
マニユアルシフト仕様 ……………	25
シャトルレバー ……………	25
主変速レバー ……………	25
副変速レバー ……………	25
クリープレバー ……………	25
アクセルレバーとアクセルペダル ……	25
Uシフト(F)仕様 ……………	26
駐車ブレーキ ……………	26
主変速レバー ……………	27
シャトルレバー ……………	27
クリープレバー ……………	27
停車・駐車 ……………	28
運転中の作動確認 ……………	28
次の場合には、直ちにエンジンを 止めてください。 ……………	28
イージーチェッカ ……………	29
燃料計 ……………	29
水温計 ……………	30
トラクタメータ ……………	30
デフロックの使い方 ……………	31
デフロックペダル ……………	31
旋回のしかた ……………	31
坂道での運転 ……………	31
ほ場への出入り時の注意 ……………	32
道路走行中の注意 ……………	32
トラックへの積み・降ろし ……………	33
パワーステアリングの取扱い 【パワーステアリング仕様】 ……………	33
外部電源取出端子 ……………	34
作業灯用カプラ, トレーラ尾灯用カプラ, ローダ電源用カプラ, 予備電源カプラ ……………	34
燃料給油ポンプ専用電源コンセント ……	34

油圧・三点リンク・PTO	35
油圧	35
油圧(ポジションコントロール)レバー	35
レバーストツパの使い方	35
ポンパレバー【MA仕様】	36
ポンパランプについて【MA仕様】	36
オートアップスイッチ【MA仕様】	37
作業機落下速度の調整	38
三点リンク	39
ロアーリンク取付け穴の選択	40
トップリンクの調整	40
リフトロッドの調整	40
チェックチェーン	41
作業機を取付けないときの注意	41
けん引ヒッチ(別売)	41
けん引フック	42
PTO	42
PTO変速レバー	42
PTO軸カバー, PTO軸キャップ	43
<b>モンローマチック・</b>	
モンローマチックオートの取扱い	44
スイッチの取扱い	44
モンロー切換えスイッチ	45
モンロ角度ダイヤル	46
オート切換えスイッチ【MA仕様】	46
耕深調節ダイヤル【MA仕様】	47
三点リンク高さ規制ダイヤル 【MA仕様】	47
バックアップスイッチ【MA仕様】	48
モンローマチック手動スイッチ	49
作業機の取扱い	49
故障・異常の表示	50
<b>タイヤ・ウエイト</b>	<b>51</b>
タイヤ	51
タイヤの空気圧	51
ウエイト	51
ウエイト(オプション)	51
輪距の調整	52
前輪	52
後輪	52

<b>キャブ装備品の取扱い</b>	<b>53</b>
ドア・窓の開閉とロック	53
ドア	53
リヤウインド	53
クォータウインド	54
ルームランプ	54
ワイパ	54
フロントワイパ・ウォッシュスイッチ	54
リヤワイパ・ウォッシュスイッチ	54
作業灯	55
作業灯スイッチ	55
作業灯(前)	55
作業灯(後)	55
エアコン【Q仕様】	56
空気の流れ	56
風向調整	56
コントロールパネル	57
取扱い操作方法	58
ヒータ使用上の注意	59
<b>AM/FMラジオ付き</b>	
カセットプレーヤの取扱い	60
共通部の操作のしかた	60
電源の入/切のしかた, 音量・左右の バランス調整	60
フェダー調整	60
低音・高音の調整	60
時計表示のしかた	60
時計の調整のしかた	60
ラジオを聞くには	61
バンド切換え/オートプリセット	61
手動選局のしかた	61
自動(シーク)選局のしかた	61
プリセットメモリ(放送局のメモリ)	61
オートプリセットのしかた	62
ディスプレイ表示	62
FM放送時のモノラル/ステレオ切換え	62
ラジオの放送は同一のプログラムが 各地の放送局から送られていることが ありますので, 感度のよい放送局に 合わせてください。	62

テープを聞くには	63	パワーステアリングホースの点検	80
カセットテープの挿入	63	燃料パイプの点検	80
演奏面の切換え	63	100時間ごとの点検・整備	81
巻戻し、早送り	63	エンジンオイルの交換	81
カセットテープの取出し	63	バッテリー電解液の点検	81
取扱い上の注意	64	エアクリーナエレメントの清掃	83
アンテナ	64	ファンベルトの点検・調整	83
灰皿	65	ブレーキペダルの点検・調整	84
シガライタ	65	クラッチペダルの点検・調整	85
インプレメントの装着	65	200時間ごとの点検・整備	85
インプレメント用操作ボックスの組付け	65	エンジンオイルフィルタカートリッジの 交換	85
<b>トラクタの簡単な手入れと処置</b>	<b>66</b>	油圧オイルフィルタカートリッジの交換	86
廃油の処理について	66	ラジエータホースの点検	86
定期点検箇所一覧表	66	トーイン調整・タイロッドの点検	87
給油（水）一覧表	67	室内エアフィルタの清掃	88
推奨オイル・グリース一覧表	68	外気フィルタ	88
エンジンオイル・ミッションオイル	68	エアコンコンデンサの詰まり	89
グリース	68	エアコンベルトの張り	89
フロントグリル及びサイドカバーの外し方	69	300時間ごとの点検・整備	89
フロントグリル及びサイドカバー	69	前車軸ケースオイルの交換	89
日常点検	69	400時間ごとの点検・整備	90
エンジンオイルの量及び汚れ	70	ミッションオイルの交換	90
ミッションオイルの量及び汚れ	70	ステアリングギヤボックスオイルの点検 【マニュアルステアリング仕様】	90
冷却水の量	71	燃料フィルタエレメントの清掃交換	91
バキューエータバルブの清掃	71	600時間ごとの点検・整備	91
燃料フィルタの水、沈殿物の点検	72	前部デフケース前後遊びの調整	91
タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷	72	800時間ごとの点検・整備	92
防虫網の清掃	73	エンジンバルブクリアランスの点検	92
防虫網の清掃（コンデンサ用）	73	1年ごとの点検・整備	92
ブレーキペダルの遊び・点検	73	エアクリーナエレメントの交換	92
駐車ブレーキの作動点検	73	注油	92
クラッチペダルの遊び・点検	74	ヒータ配管、ホースの点検	92
メータ・ランプ類の作動	74	エアコン配管、ホースの点検	92
燃料給油ポンプの取扱い	75	2年ごとの点検・整備	92
ご使用方法	76	冷却水の交換	92
50時間ごとの点検・整備	77	ラジエータの洗浄	93
グリースの注入	77	ラジエータホースの交換	93
エンジン始動システムの点検	78	パワーステアリングホースの交換	93
けん制装置の点検【BS仕様】	78	燃料パイプの交換	93
タイヤ取付けボルトの点検	79	モンローシリンダホースの交換 【M・MA仕様】	93
ワイヤハーネス、 バッテリー⊕コードの点検・交換	79		
クラッチハウジングの水抜き	79		



---

必要に応じた点検・整備	94
燃料の空気抜き	94
ヒューズの交換	95
スローブローヒューズの交換	95
ランプ類の交換	95
プラスカトリレーのリセット方法	95
オイルの注油	96
ウォッシュ液の補充	96
冷媒(ガス)量の点検【Q仕様】	97
<b>格納</b>	<b>98</b>
長期格納時の手入れ	98
<b>付表</b>	<b>99</b>
主要諸元	99
トラクタの主要諸元	99
走行速度表	102
PTO回転速度表	103
標準付属品	103
主な消耗部品一覧表	104
アタッチメント一覧表	105
インプルメント一覧表	108
<b>作業ごとの一般的な調整要領</b>	<b>112</b>
型式検査（国検）成績表	114

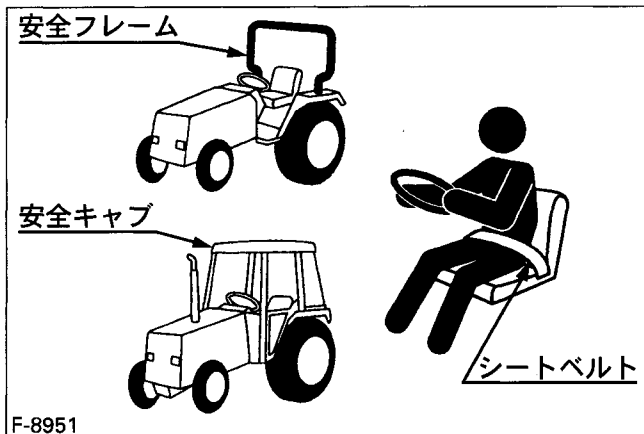
# ⚠️ 安全に作業するために

必ず読んで  
ください。

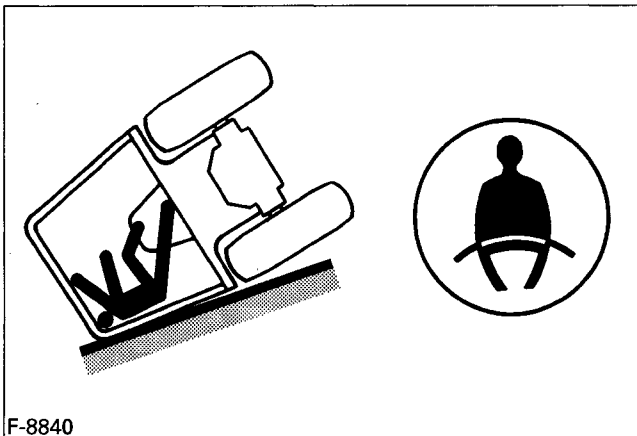
本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠️ **危険**・⚠️ **警告**・⚠️ **注意**・**重要**・**補足**としてそのつど取上げています。

## 1. 安全キャブ、安全フレームについて

安全キャブ、安全フレームは、万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであつて、転倒事故を防止するものではありません。注意事項を守って、安全運転を心がけてください。

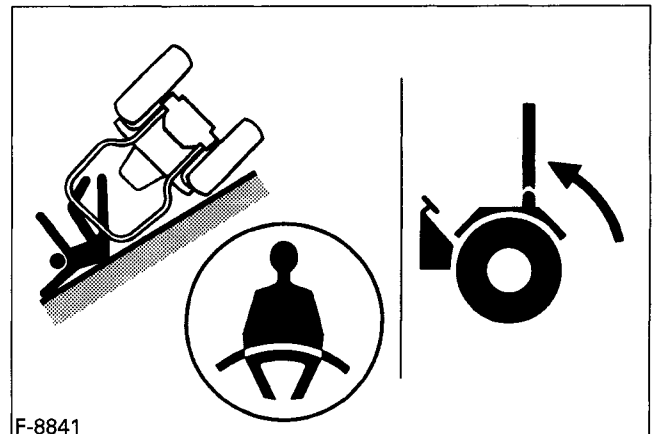


(1) 運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようになしてください。

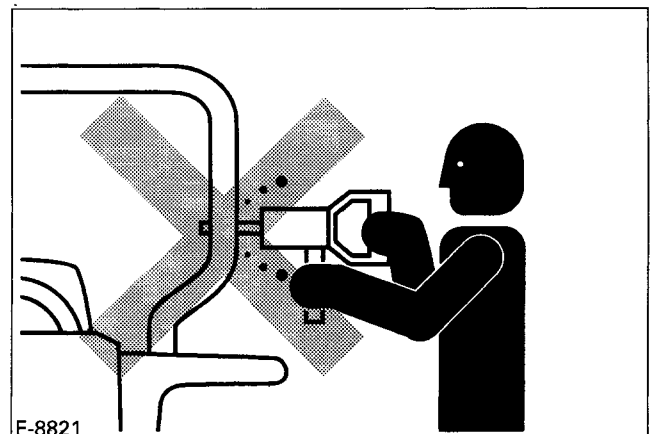


(2) 安全フレームを取外して運転しないでください。  
 (3) 納屋の出入り等、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実にロックして使ってください。  
 安全フレームを折りたたんだ状態では、万一トラクタが転倒したとき、安全フレームの役目をしません。

(4) 安全フレームを立てたときは、運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では、シートベルトを使用しないでください。  
 (5) 安全フレームを折りたたんだり、立てたりするときは、平坦な場所で、必ず作業機を地面に降ろし、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行なってください。



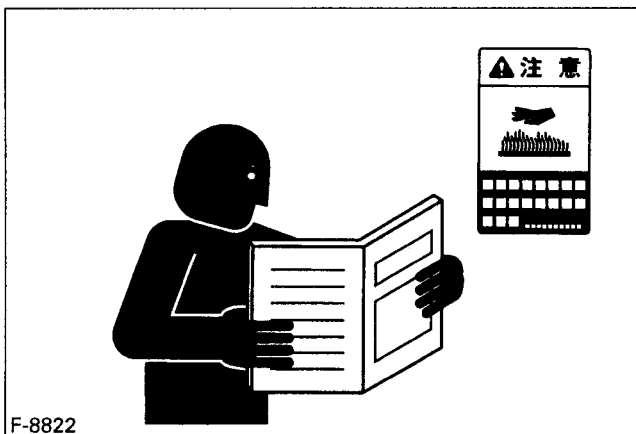
(6) 安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。



# 安全に作業するために

## 2. 運転前に

- (1)トラクタを動かす前に、トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み、理解した上で運転してください。
- (2)トラクタ、作業機を他人に貸すとき、又、運転させるときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読ませてください。
- (3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

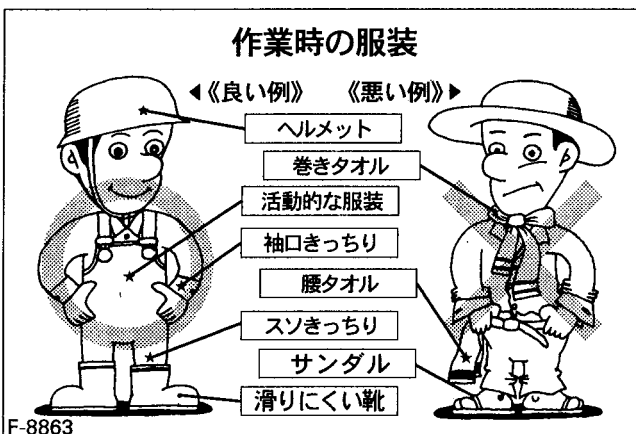


F-8822

- (4)飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。
- (5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。

回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。

安全のため、ヘルメット、安全靴、保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



F-8863

- (6)トラクタを改造しないでください。改造すると、トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

- (7)安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。

紛失したり損傷した部品は交換してください。

ブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば、交換してください。

又、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は“トラクタの簡単な手入れと処置”の章参照)

- (8)トラクタは常に清掃しておいてください。

バッテリー、配線、マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

## 3. 始動時に

- (1)エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバー・PTO変速レバーが“中立”かどうか、又、駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

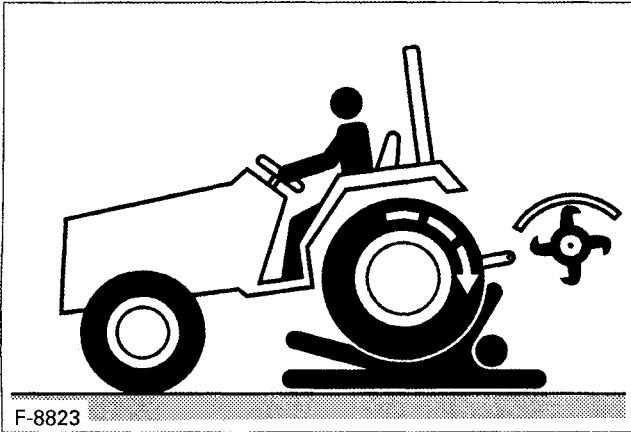
- (2)地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。

トラクタが突然動き出す恐れがあります。



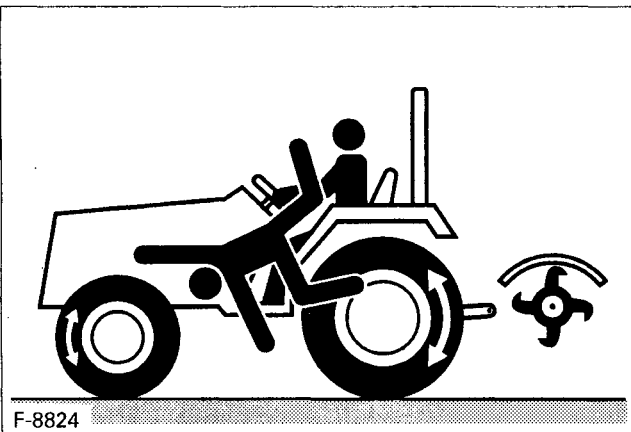
F-8861

(3)トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又、キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。



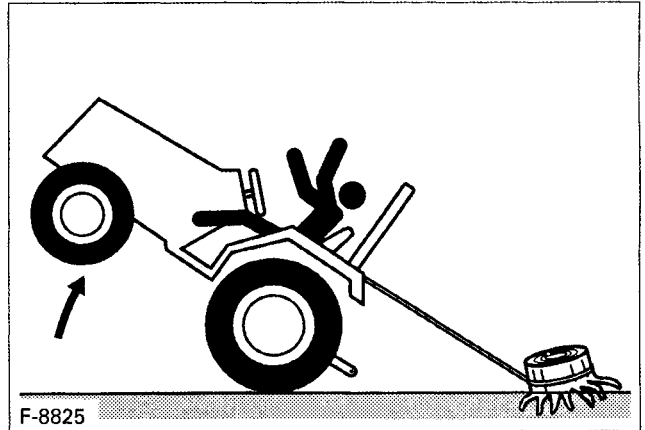
#### 4. 運転時に

(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。  
又、必ずシートに座って運転してください。



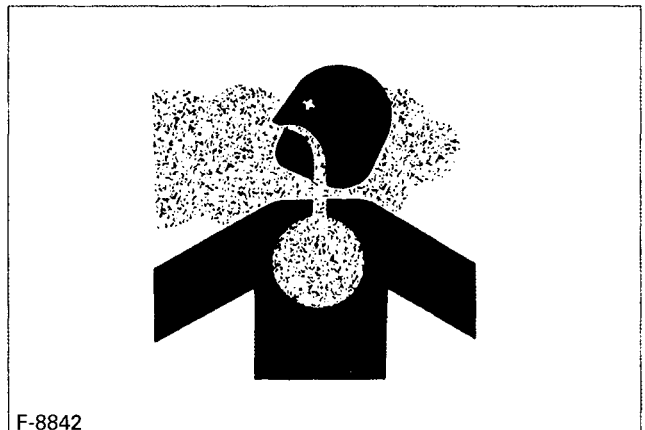
(2)けん引作業には、けん引ヒッチ(別売)を用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。

トラクタの破損や転覆の原因となります。



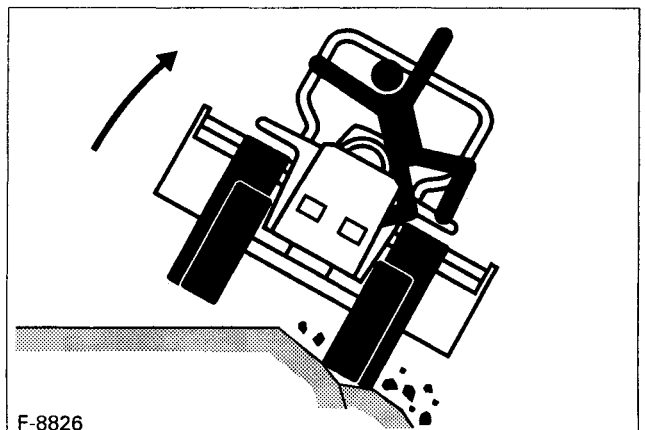
(3)換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。

排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。



(4)溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。

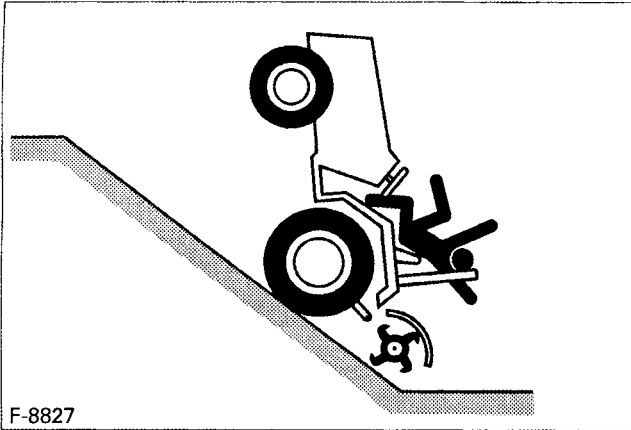
また、草の繁ったところや水たまりなどには、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。





## 安全に作業するために

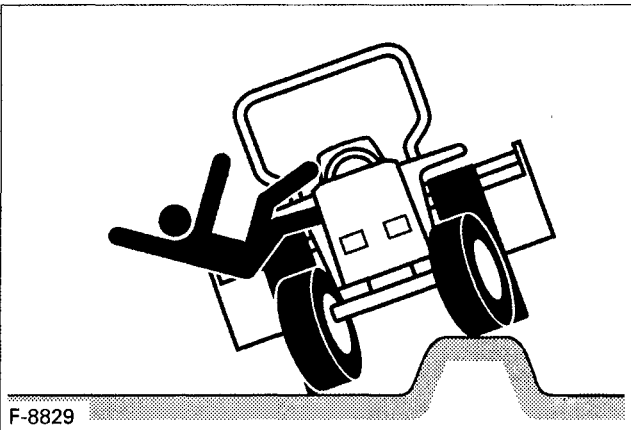
(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では、バックで運転してください。



F-8827

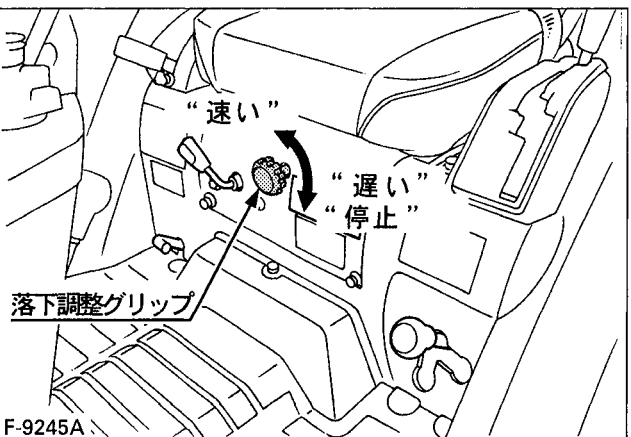
(6)共同で作業をするときは、声をかけあつて、お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで、急傾斜の上り降りや溝越えは、低速にして直角に進行してください。その際、必ず左右のブレーキペダルを連結し、デフロックの解除を確認してください。



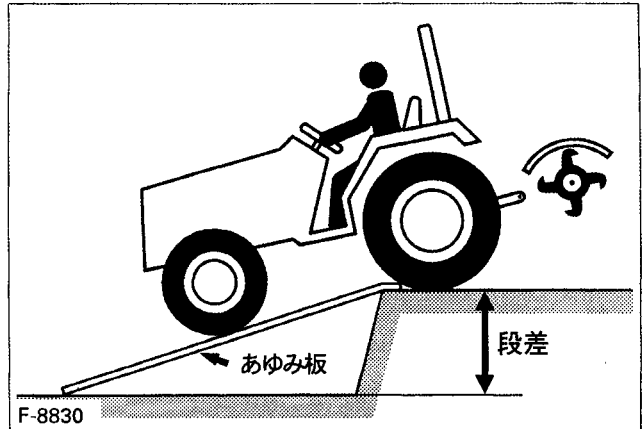
F-8829

(8)ほ場外では、油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



F-9245A

(9)ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の登り降りや、溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行なってください。

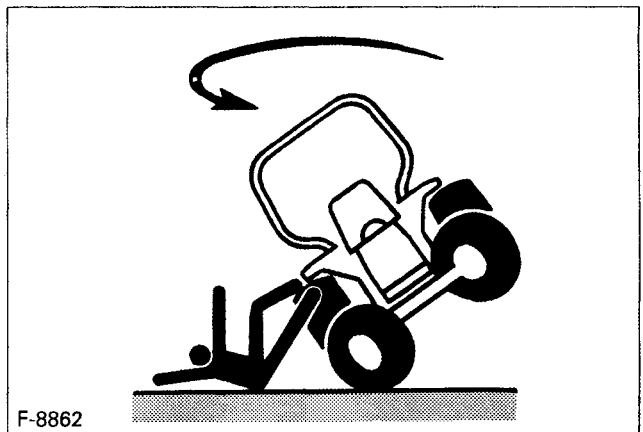


F-8830

あゆみ板は段差の4倍以上の長さのものを使用してください。

(10)急な坂道・車両への積み込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

(11)倍速ターンはほ場以外では“切り”にし、使用しないでください。又、高速では倍速ターンを使用しないでください。

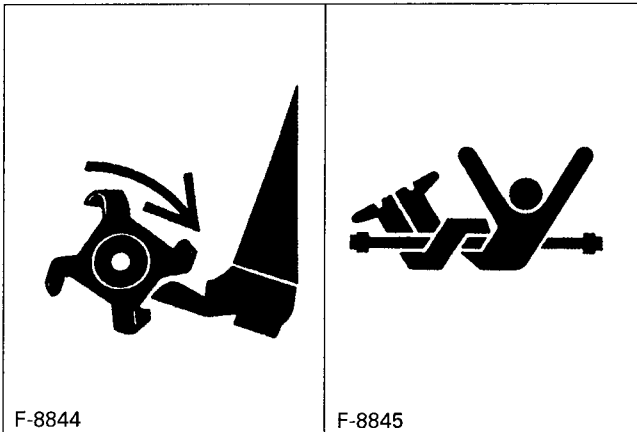


F-8862

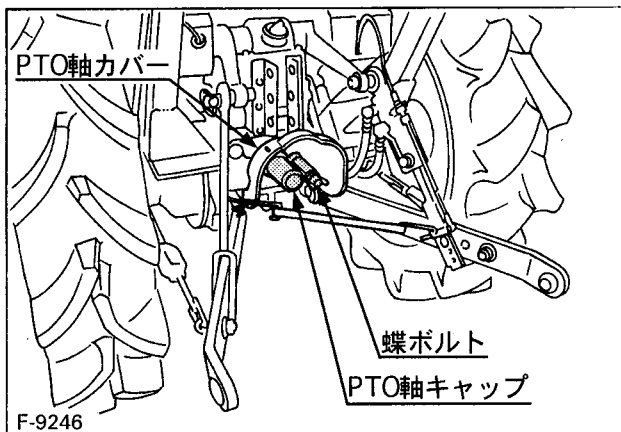
必ず読んで  
ください。

## 5. 作業機使用時に

- (1) 作業機の着脱は、平坦で安全な場所で行なってください。
- (2) トラクタから降りるときや、ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。

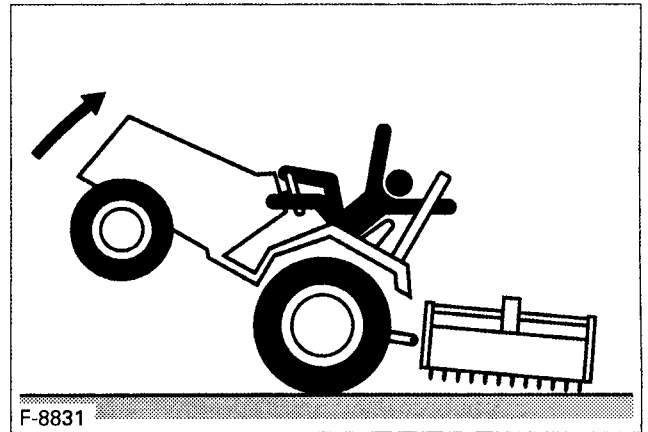


- (3) PTOを使用しないときは、PTO軸キャップを装着しておいてください。

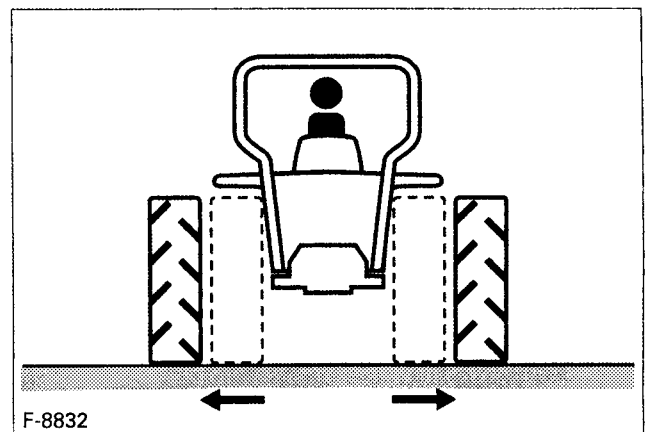


- (4) PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
- (5) PTO作業機は、その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。  
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

- (6) トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。  
前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。



- (7) 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。  
大きすぎたり、小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。  
詳細は購入先にご相談ください。
- (8) 傾斜地作業、フロントローダ作業などでは、安定を良くするために、支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

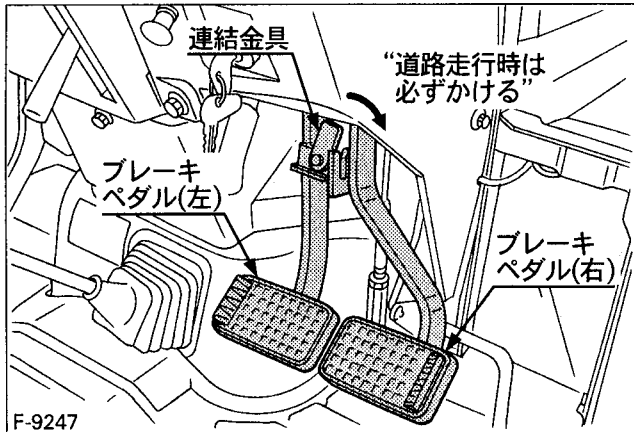


# 安全に作業するために

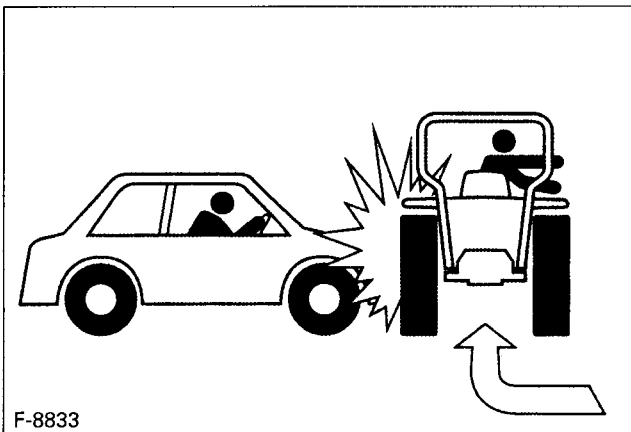
## 6. 道路走行時に

(1)道路走行時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。



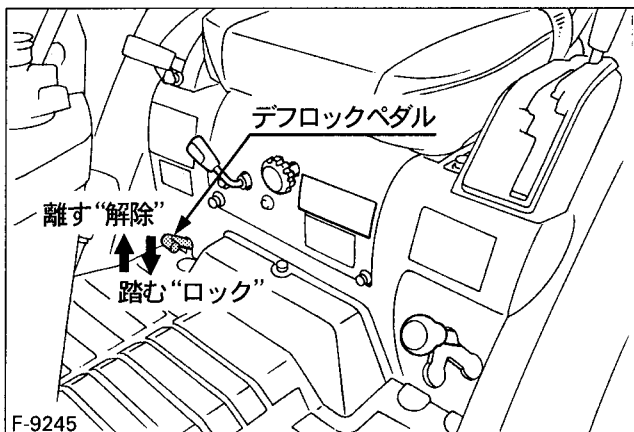
F-9247



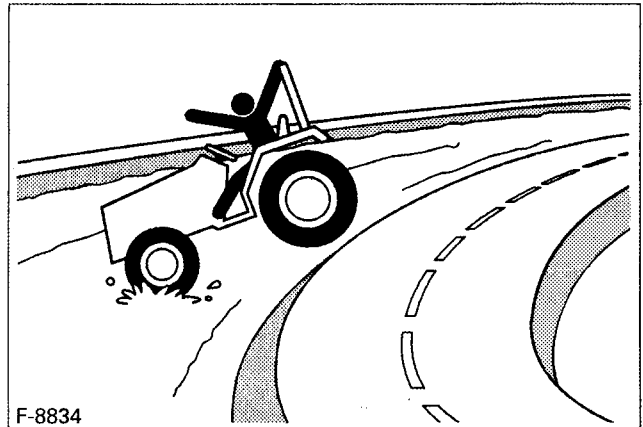
F-8833

(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。

ハンドル操作が出来なくなります。



F-9245

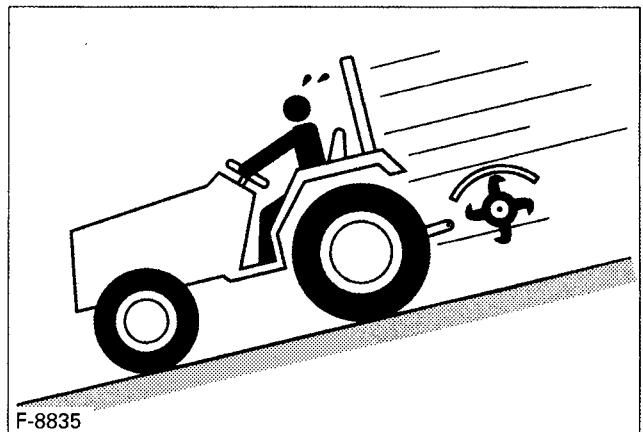


F-8834

(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。

高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき、クラッチを切ったり、変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。



F-8835

(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)

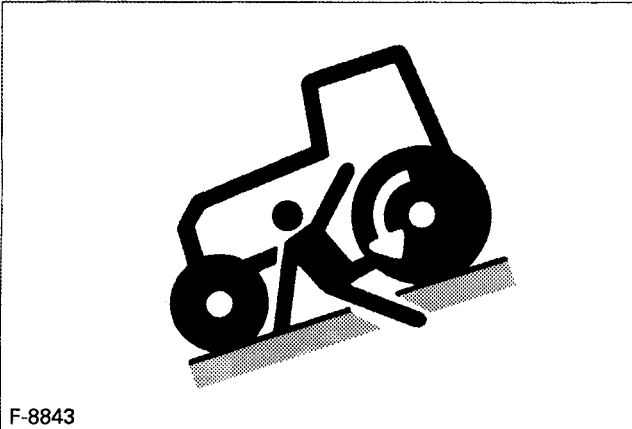
作業機を装着して走行すると、他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。

運転免許証は、必ず携行してください。

## 7. 駐車、格納時に

- (1) 駐車するときは、平坦でトラクタが安定する場所を選び、PTOを“切”，作業機を“下げ”，変速レバーを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。  
やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。

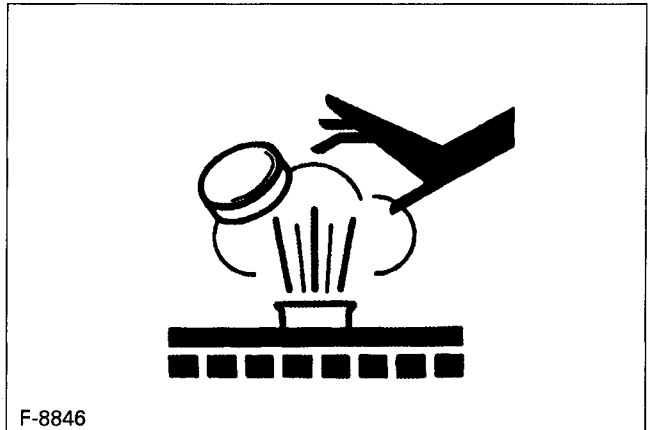


F-8843

- (2) 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。  
(3) 格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから行ってください。

## 8. 点検・給油・整備時に

- (1) 平坦な場所に駐車し、作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，変速レバーを“中立”にし、そしてエンジンを停止してください。  
(2) エンジン・マフラー・ラジエーターなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。



F-8846

- (3) 燃料を補給するときやバッテリーを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。  
バッテリーは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。



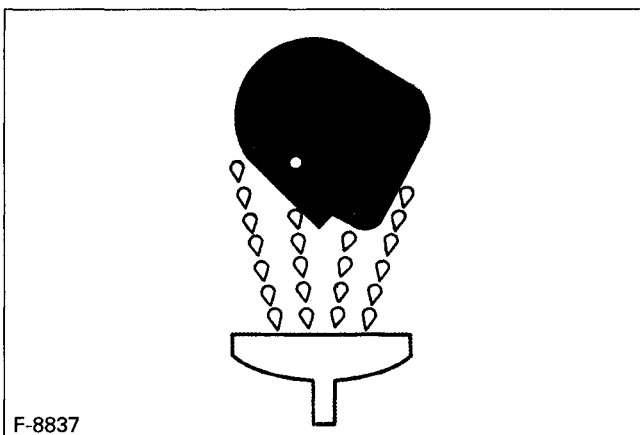
F-8836

- (4) 放電したバッテリーにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。  
(エンジンの運転の章“バッテリーあがりの処置”を参照)  
(5) バッテリーは液面がLOWER（最低液面線）以下になつたまま使用や充電をしないでください。  
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。  
すぐにUPPEER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリー）

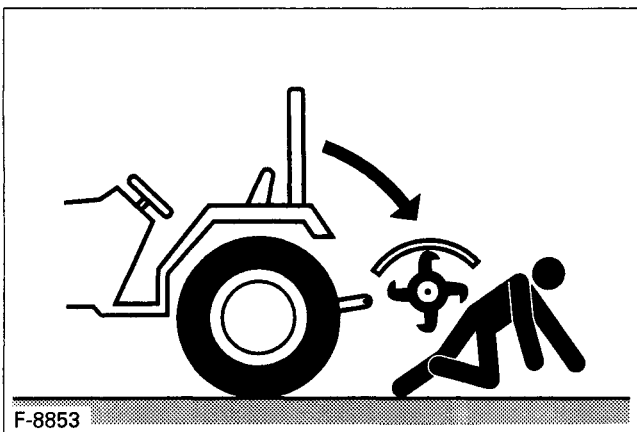


# 安全に作業するために

- (6) バッテリーをはずすときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリーのマイナスコードを外し、接続するときは最後に接続してください。
- (7) バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、すみやかに医師の診療を受けてください。

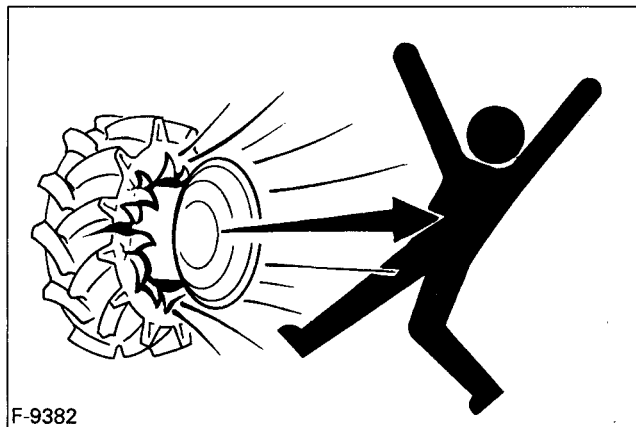


- (8) 3点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合、シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

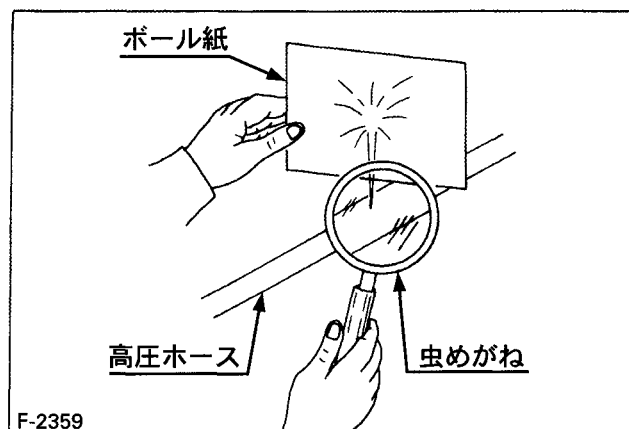
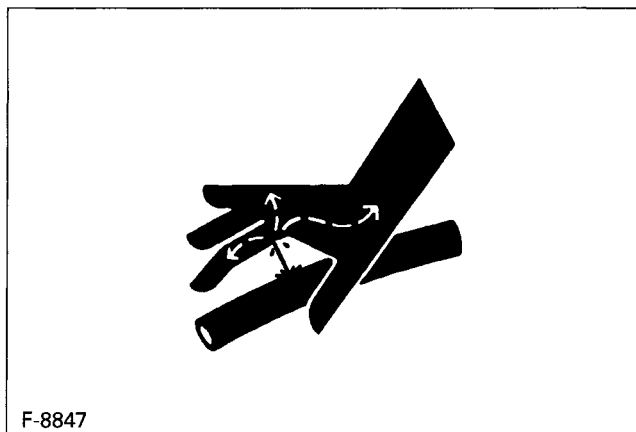


- (9) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。  
空気の入過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起す原因になります。
- (10) タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。  
タイヤ破裂のおそれがあります。

- (11) タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。  
(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)



- (12) 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。
- (13) 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。  
万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



9. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番 T0180-4954-1

**▲ 注意**



ヤケドの恐れがあるので  
エンジン停止直後、ラジ  
エータキャップを開けな  
いこと  
(30分おくこと)

②品番 T0180-4956-2

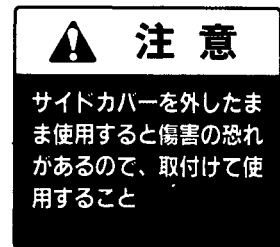
**▲ 注意**



・火気厳禁  
・クボタディーゼル重油ま  
たはディーゼル軽油を使  
用のこと

④品番 T0180-4955-1

**▲ 注意**



サイドカバーを外したま  
ま使用すると傷害の恐れ  
があるので、取付けて使  
用すること

⑤品番 T0180-4958-1

**▲ 注意**



ヤケドをするので  
マフラーに触れないこ  
と

③品番 T0180-4957-1

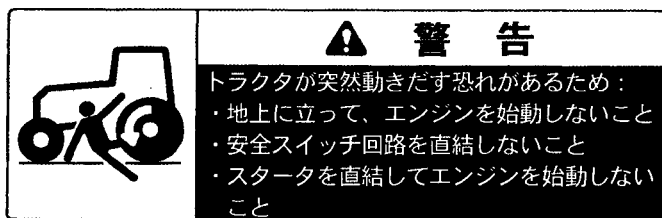
**▲ 注意**



指を切傷す  
るのでファン、ベルト  
に触れないこ  
と

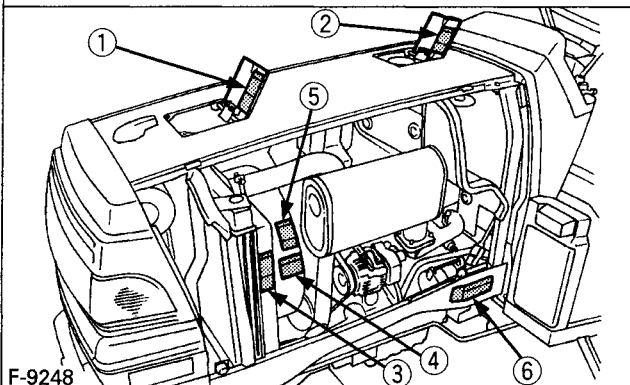
⑥品番 T0180-4965-2

**▲ 警告**

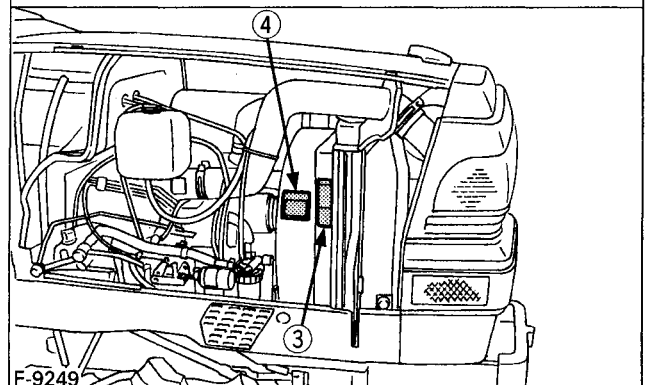


トラクタが突然動きだす恐れがあるため：  
・地上に立って、エンジンを始動しないこと  
・安全スイッチ回路を直結しないこと  
・スタータを直結してエンジンを始動しない  
こと

GL201・221・241・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



GL201・221・241・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



# ▲ 安全に作業するために

①品番 T0180-4954-1

**▲ 注意**



ヤケトの恐れがあるのでエンジン停止直後、ラジエータキャップを開けないこと  
(30分おくこと)

②品番 T0180-4956-2


**▲ 注意**



・火気厳禁  
・クホタディーゼル重油またはディーゼル軽油を使用のこと

④品番 T0180-4955-1

**▲ 注意**



サイドカバーを外したまま使用すると傷害の恐れがあるので、取付けて使用すること

③品番 T0180-4957-1

**▲ 注意**



指を切傷するのでファン、ベルトに触れないこと

⑤品番 T0180-4958-1


**▲ 注意**



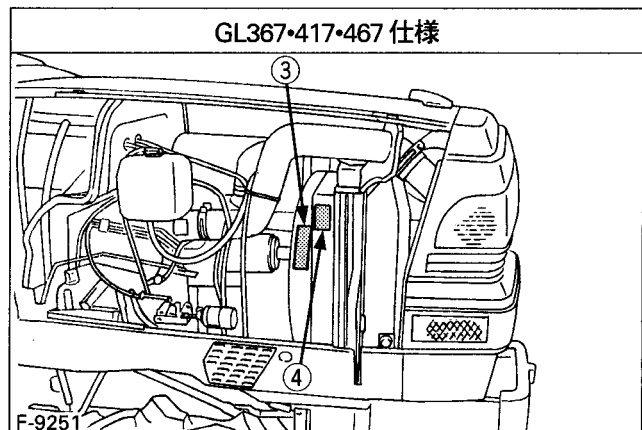
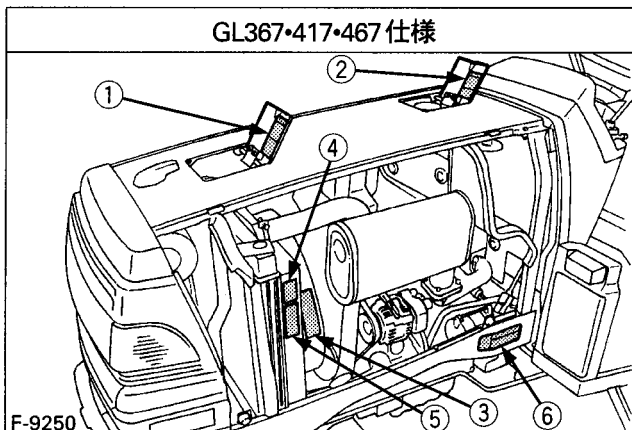
ヤケトをするのでマフラーに触れないこと

⑥品番 T0180-4965-2

**▲ 警告**

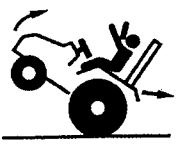


トラクタが突然動き出す恐れがあるため：  
・地上に立って、エンジンを始動しないこと  
・安全スイッチ回路を直結しないこと  
・スタータを直結してエンジンを始動しないこと



必ず読んで  
ください。


①品番 T0180-4904-1



**警告**

転倒による死傷事故をふせぐために  
けん引は、けん引ヒッチを使用し、  
車軸やトップリンクブラケット等で  
行わないこと

②品番 T0180-4959-1



**警告**

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために

- ・ PTO軸の回転中は近づかないこと
- ・ 使用しないときは、PTO軸キャップを装着すること

③品番 T0270-4968-2 【K仕様を除く】

**注意**

- ・ PTO軸カバーを回転させたまま運転しないこと。必ずもとの位置に戻すこと（回転は両手で左右に90°可能）
- ・ PTO軸カバーを取りはずさないこと
- ・ PTO軸カバーの上に乗らないこと

③品番 6A100-4772-1 【K仕様】

**注意**

- ・ PTO軸カバーを取りはずさないこと。
- ・ PTO軸カバーの上に乗らないこと。

④品番 T0270-1780-1 (BS仕様のみ)


**A/D 切換えレバーの取扱い**

① 切換え操作するときは、前輪を直進状態にして下さい  
② 「入」にするときは、倍速ターンも「入」にして下さい  
③ 下記変速レバー位置では、「入」にできません

	主変速	副変速	クリーブ
マニュアルシフト仕様	—	H	H
Uシフト仕様	5~8	—	H

**注意** あせ上がり時、道路走行時は必ず「切」にすること

⑤品番 T0180-4905-1

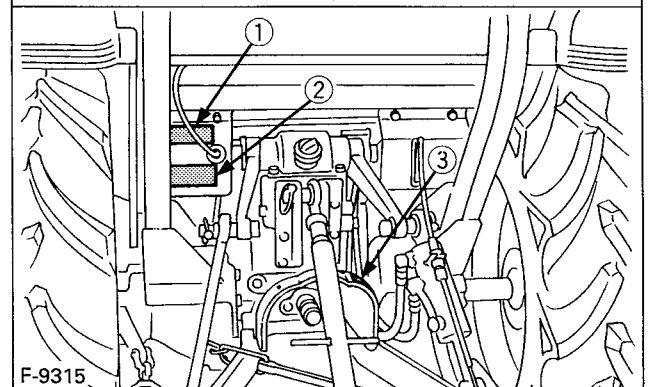


**警告**

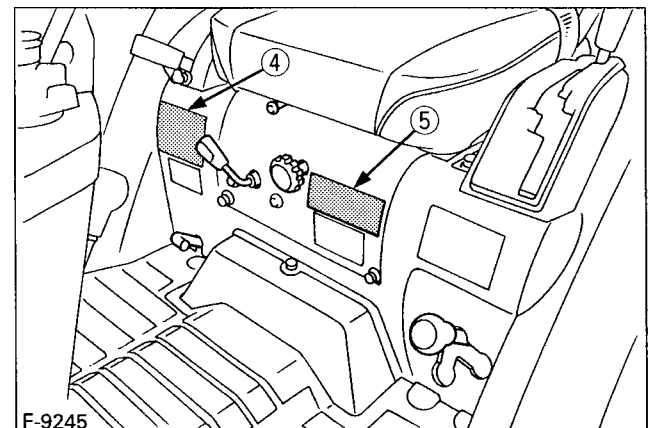
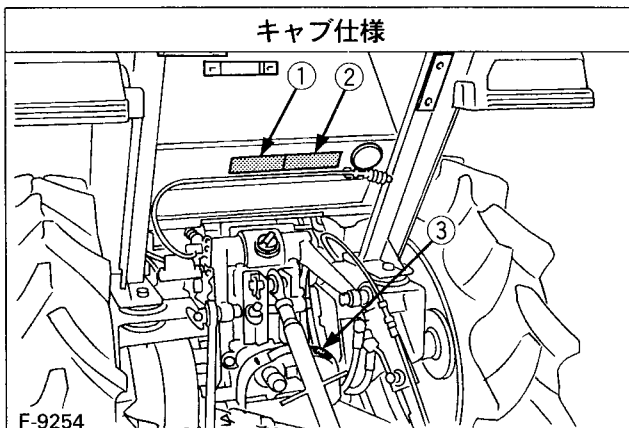
転倒による死傷事故を防ぐために：

- ・ 倍速ターンは圃場以外で使用しないこと
- ・ 高速で使用しないこと

安全フレーム仕様



キャブ仕様



# 安全に作業するために

①品番 T0180-4931-1

注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

**始動時**

- シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

**運転時**

- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

**運転時**

- 道路走行時はテフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

**駐車時**

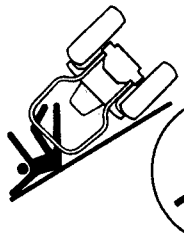

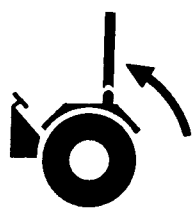
- PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

**点検、整備時**

- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

②品番 T0070-4901-2

**警告**

**転倒、転落による死傷事故 軽減のために:**

- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

③品番 34070-3009-1

**危険**

**DANGER** KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY. ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

火気禁止    メガネ着用    こども禁止    硫酸注意    説明書熟読    爆発注意

●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり

●工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う

●ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う

●バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり  
液がいたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける

●爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない

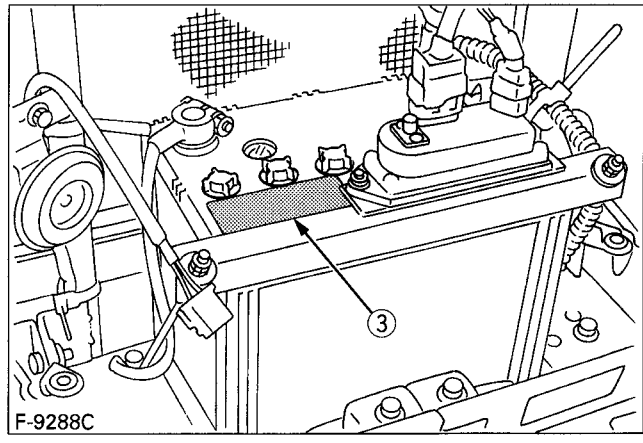
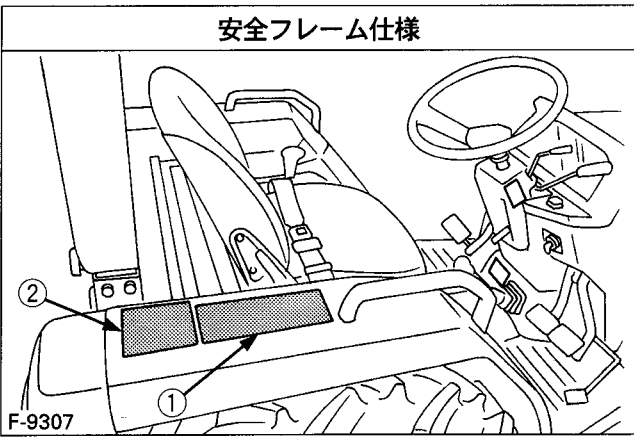
●液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない

インジケータサイン  
INDICATOR SIGN

○ 充電必要  
CHARGING  
NECESSARY

● 良好 O K

公称電圧12V. A576



必ず読んで  
ください。


①品番 T0273-6497-1 (Uシフト仕様のみ)

**▲ 注意**

低温始動時Uシフトでの発進遅れ  
 ・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと  
 遅れて動き出しキケンです  
 傾斜面でのUシフト変速  
 ・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れ  
 があるので、低速で走行し、途中変速しないこと

②品番 T0180-4906-1 (Uシフト仕様のみ)

**▲ 警告**



駐車後にトラクタが動く恐れがあるため  
 必ず駐車ブレーキをかけること  
 本機は変速キヤを入れていてもエンジンを  
 とめるとエンジンプレーキはききません

③品番 T0270-4902-1

**▲ 警告**



転倒、転落による死傷  
 事故軽減のために、  
 運転時は必ずシート  
 ヘルトを着用すること

④品番 T0180-4907-1

**▲ 注意**

傷害事故防止のため、取扱説明  
 書を読み理解して正しい取扱い  
 をしてください。

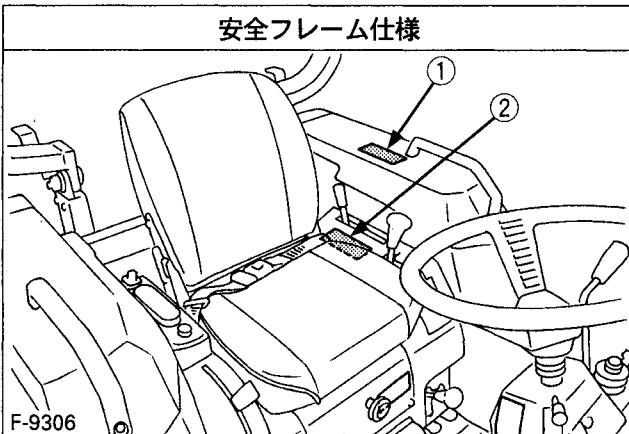
始動時  
 ・シートにすわり、PTO及び  
 各変速レバーを中立にすること  
 ・前後左右に人がいないことを  
 確認すること

運転時  
 ・運転者以外に人を乗せないこ  
 と  
 ・排気ガスによる一酸化炭素中  
 毒の恐れがあるので換気の不  
 十分な所で使用しないこと  
 ・溝や穴のちかく、路肩など重  
 みでくずれやすい所では運転  
 しないこと  
 ・急な坂道、積込み積降ろし、  
 圃場の出入り、畦の乗り越え等  
 では遅い車速で運転し、途中  
 で変速しないこと  
 ・道路走行時はデフロックを使  
 用しないこと  
 ・道路走行は道路運送車両の保  
 安基準に適合すること（詳細  
 は取扱説明書を参照）

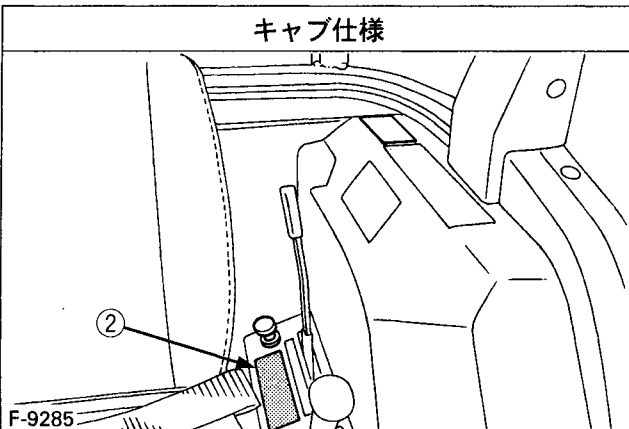
駐車時  
 ・PTO及び各変速レバーを中  
 立にし、作業機を地面に降ろ  
 し、駐車ブレーキを掛けエン  
 ジンをとめること

点検、整備時  
 ・エンジンをとめ、機械の各部  
 が停止してから行うこと  
 ・3点リンクで作業機持ち上げ  
 時は油圧ロックをすること

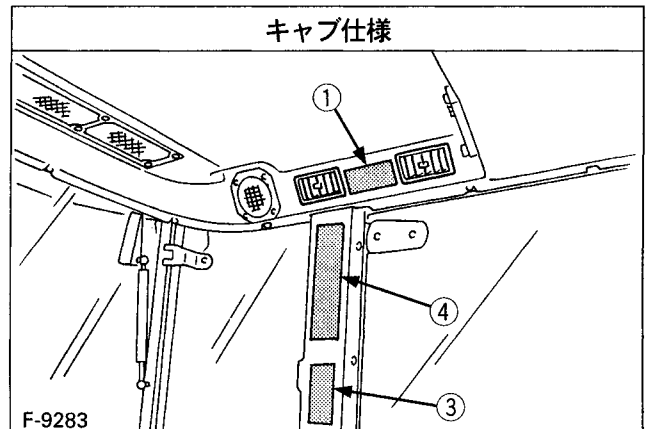
安全フレーム仕様



キャブ仕様



キャブ仕様





# 安全に作業するために

必ず読んで  
ください。

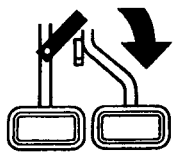
①品番 T0270-4964-1 【ポンパ付のみ】

## 注意

ポンパは、ほ場内作業にのみ使用すること。作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと。

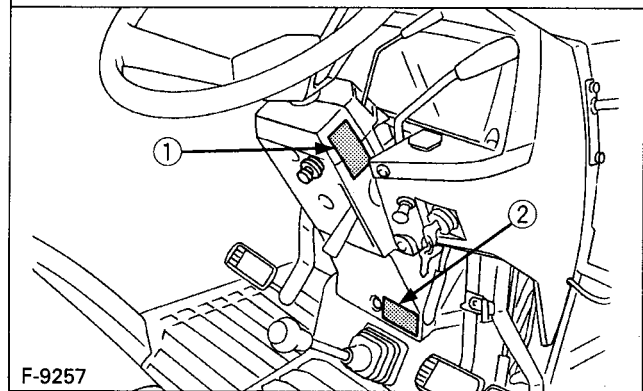
②品番 T0180-4903-2

## 警告

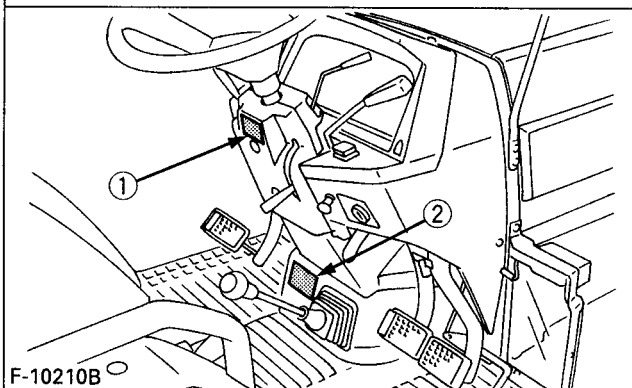


転倒や衝突による死傷事故をふせくために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

GL201Q・221Q・241Q キャブ仕様  
GL261(Q)・277(Q)・281(Q)・301(Q)・321(Q)・337(Q)  
・367(Q)・417(Q)・467(Q) 安全フレーム・キャブ仕様



GL201・221・241 安全フレーム仕様



## 10. 表示ラベルの手入れ

- (1) ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。  
もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- (2) 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- (3) 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- (5) ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

# サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してありますので使用前によくご覧ください。

## ■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際銘板に記載している

1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。

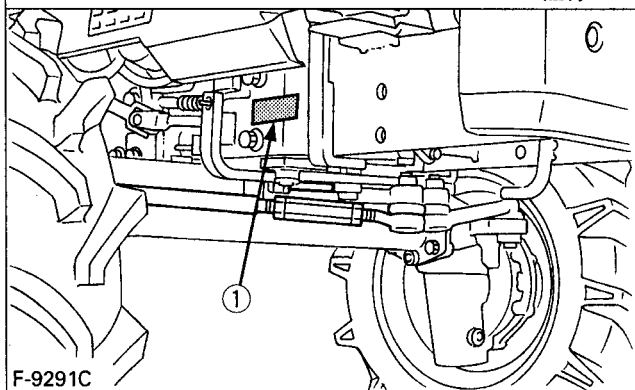
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらで相談ください。



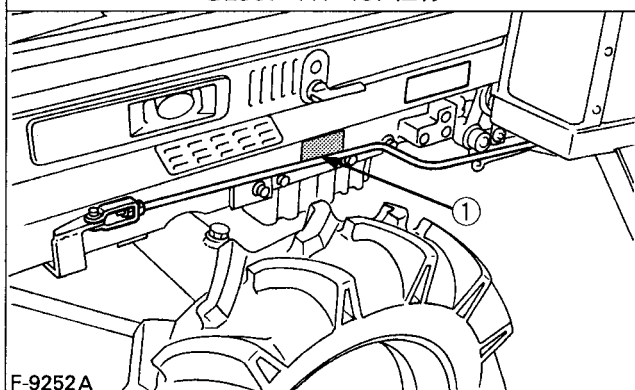
## 警告

\*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

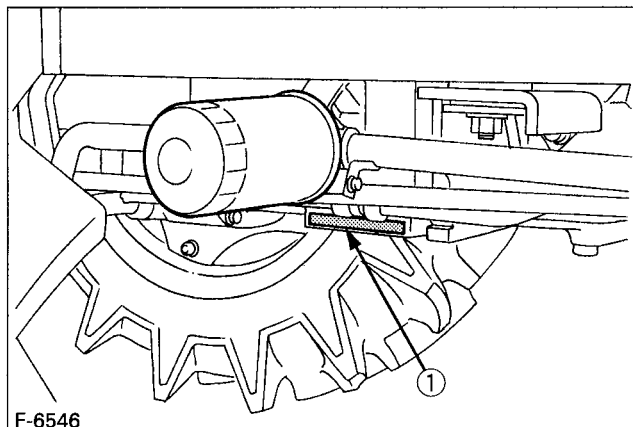
GL201・221・241・261・277・281・301・321・337仕様



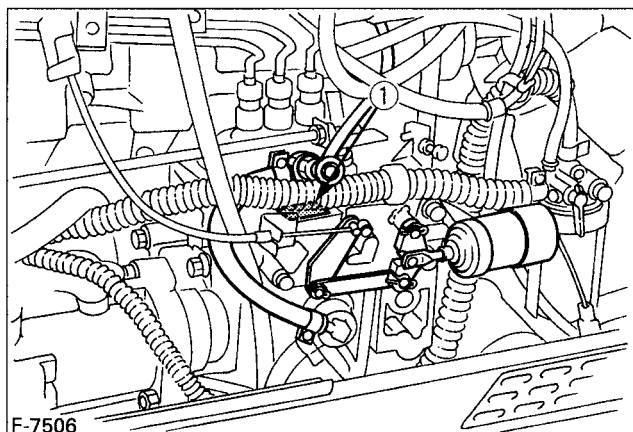
GL367・417・467仕様



①銘板



①車台番号



①エンジン番号



農機型式名	型式検査(国検)合格番号
クボタ GSF23(安全フレーム)	96024
クボタ GSF27(安全フレーム)	96025
クボタ GSF280(安全フレーム)	96026
クボタ GSF32(安全フレーム)	96027
クボタ GSF418(安全フレーム)	96088
クボタ GSQ241S(安全キャブ)	96016
クボタ GSQ261S(安全キャブ)	96017
クボタ GSQ277S(安全キャブ)	96018
クボタ GSQ321S(安全キャブ)	96019
クボタ GSQ337S(安全キャブ)	96020
クボタ GSQ417S(安全キャブ)	96087

農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタ GL201	21030	クボタ GLAD	農1828号, 改造型
クボタ GL221	21031	クボタ GLBD	農1829号, 改造型
クボタ GL301E	21041	クボタ GLDD	農1831号, 改造型
クボタ GL321E	21042	クボタ GLDD	農1831号, 改造型

農機型式名	型式検査(国検)合格番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタ GL241	96076	クボタ GLBD	農1829号, 改造型
クボタ GL261	96077	クボタ GLDD	農1831号, 改造型
クボタ GL281	96078	クボタ GLDD	農1831号, 改造型
クボタ GL281(キャブ付)	96078	クボタ GLID	農1918号, 改造型
クボタ GL301	96079	クボタ GLED	農1832号, 改造型
クボタ GL321	96080	クボタ GLED	農1832号, 改造型

農機型式名	型式検査(国検)合格番号	小型特殊自動車車両型式名	新型自動車登録番号
クボタ GL277	96081	クボタ GLHD	新型自動車第91741号
クボタ GL337	96082	クボタ GLJD	新型自動車第91742号
クボタ GL367	96083	クボタ GLHA	新型自動車第91984号
クボタ GL417	96084	クボタ GLHB	新型自動車第91985号
クボタ GL467	96085	クボタ GLHE	新型自動車第92139号

\* 検査成績表は114～134ページをご覧ください。

# 小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

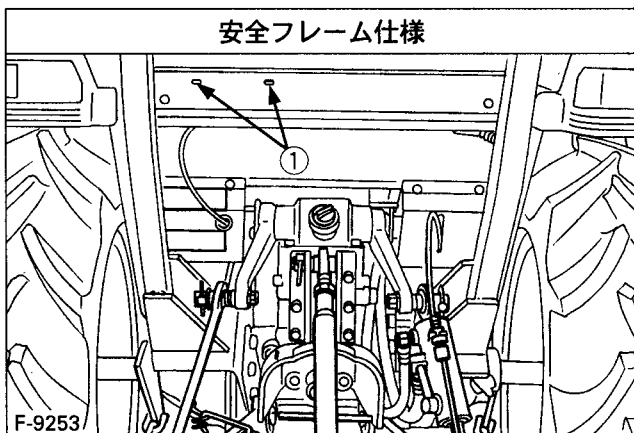
## ■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。

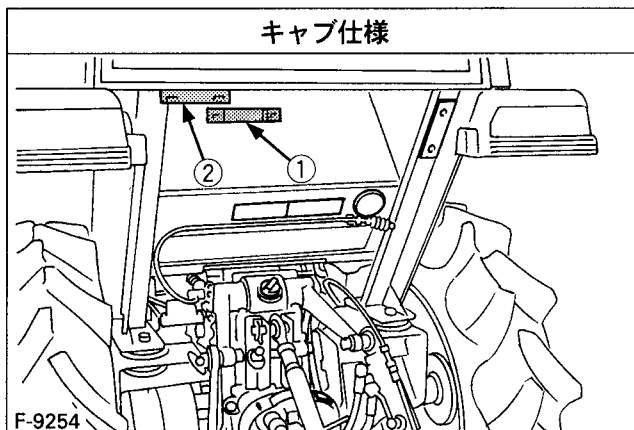
手続きは市町村により、多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

- ① 小型特殊自動車を購入したときは、販売証明書など(購入先で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
- ② 届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。
- ③ 標識(ナンバープレート)は、車体の取付け位置に取付けてください。

## ◆GL201・221・241・261・281・301(E)・321(E)仕様



① 標識(ナンバープレート)取付け位置



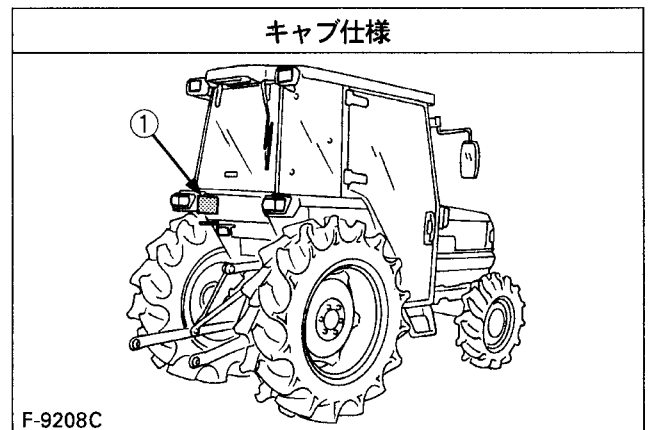
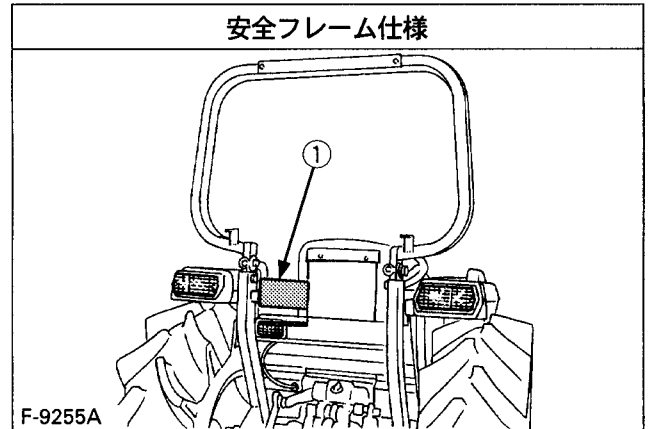
① 標識(ナンバープレート)取付け位置

【GL201Q・221Q・241Q仕様】

② 標識(ナンバープレート)取付け位置

【GL261Q・281Q・301Q・321Q仕様】

## ◆GL277・337・367(E)・417(E)・467(E)仕様



① 標識(ナンバープレート)取付け位置

## ■運転免許

公道を走行する場合は、次の運転免許証が必要です。  
必ず所持してください。

仕 様	免 許 証
GL201・221・241・261・ 281・301(E)・321(E)	小型特殊自動車を 運転できる免許証
GL277・337・367(E)・ 417(E)・467(E)	大型特殊自動車を 運転できる免許証

## ■重 要

\*GL277・337・367(E)・417(E)・467(E)仕様は道路運送車  
両法上の小型特殊自動車に該当しますが、  
**道路交通法** では、大型特殊自動車に該当しま  
す。従って、公道を走行する場合は、  
**大型特殊自動車の運転免許証**が必要です。

## ■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されるこ  
とをお勧めします。

## ■重 要

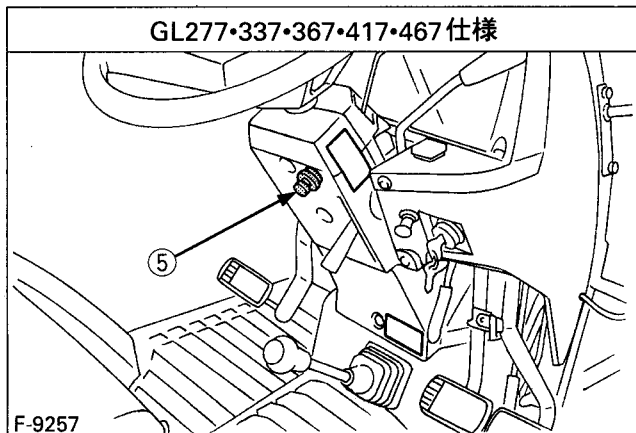
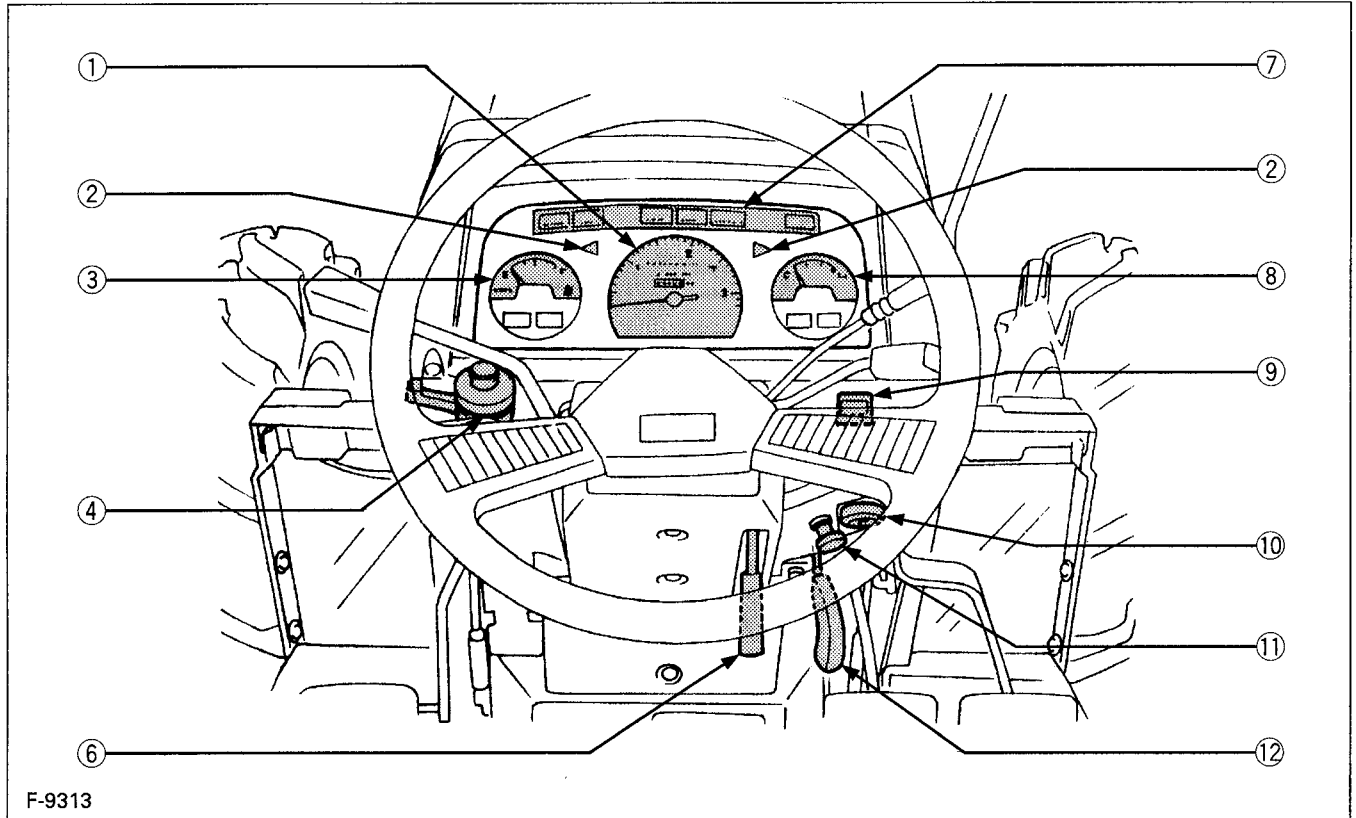
\*エンジンで封印されている所はさわらないでくださ  
い。(封印が外されたと認められる場合は、一切の保  
証は致しません。)

## ■補 足

- \*インプレメントを装着した状態では“道路運送車両  
法の保安基準”を満足しませんので、道路走行する  
ことはできません。
- \*作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の  
色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”  
とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両  
の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止され  
ております。

# 運転に必要な各部の名称

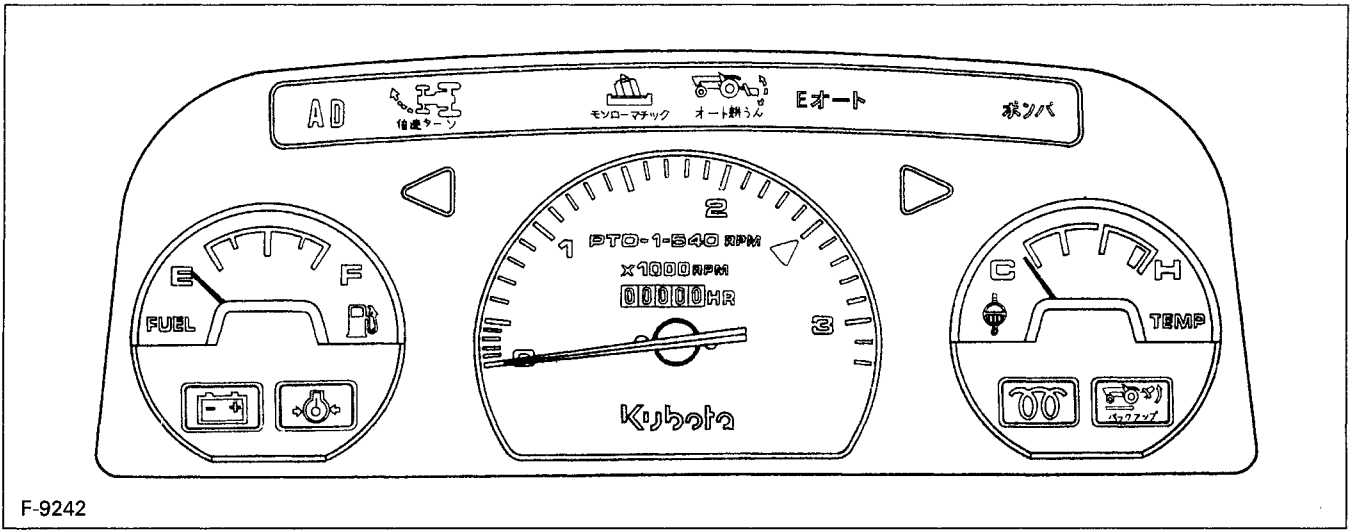
各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば、その名称に記してある参照ページをご覧ください。




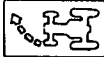
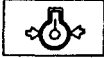



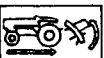
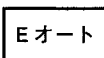

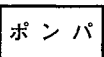
参照ページ

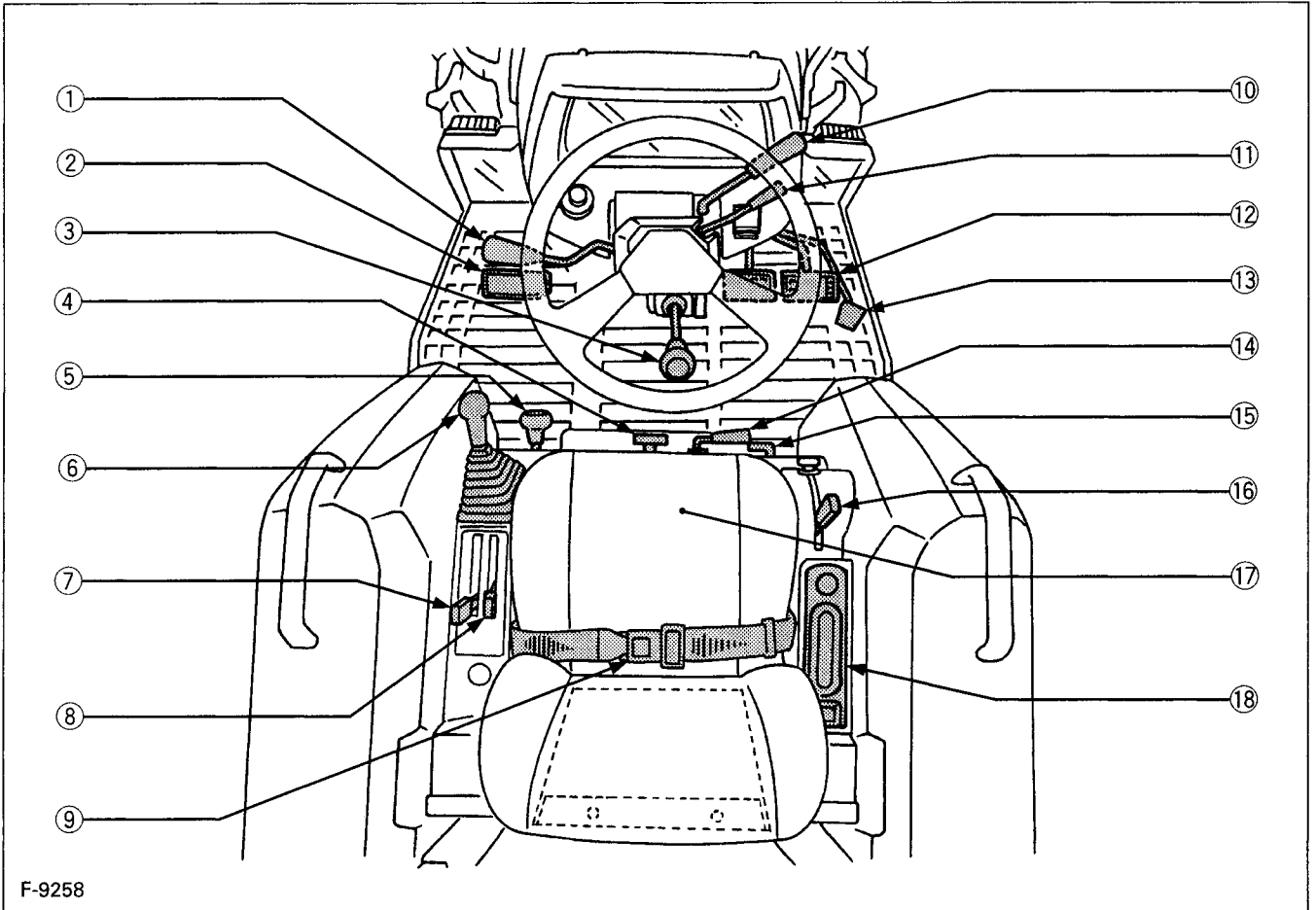
- |                           |          |
|---------------------------|----------|
| ①トラクタメータ                  | 30       |
| ②ウインカパイロットランプ             | 19       |
| ③燃料計                      | 29       |
| ④コンビネーションスイッチ             | 19       |
| ライティングスイッチ                |          |
| ウインカスイッチ                  |          |
| ホーンボタン                    |          |
| ⑤駐車灯スイッチ                  |          |
| 【GL277・337・367・417・467仕様】 | 19       |
| ⑥チルトレバー                   | 18       |
| ⑦イージーチェッカ                 | 29       |
| ⑧水温計                      | 30       |
| ⑨オートアップスイッチ【MA仕様】         | 37       |
| ⑩キースイッチ                   | 11,12,13 |
| ⑪エンジストップノブ                | 9,13     |
| ⑫駐車ブレーキレバー                | 26,28    |

## ■ イージーチェック

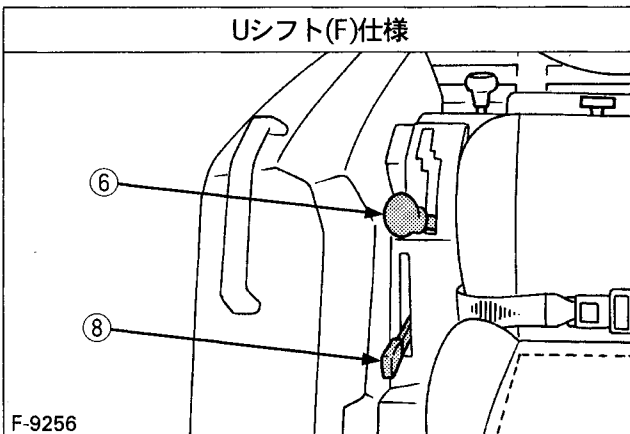


F-9242

	参照ページ		参照ページ		
	バッテリーチャージランプ (バッテリー充電警告灯)	..... 29		倍速ターンランプ 【B, BS仕様】	..... 23
	エンジンオイルランプ (エンジン油圧警告灯)	..... 29		モノローマチックランプ 【M・MA仕様】	..... 45
	グローランプ	..... 11		オート耕うんランプ 【MA仕様】	..... 46
	バックアップランプ 【MA仕様】	..... 48		Eオートランプ 【MA仕様】	..... 46
	ADランプ 【BS仕様】	..... 24		ポンパランプ 【MA仕様】	..... 36



F-9258



F-9256

## 参照ページ

①シャトルレバー	25,27
②クラッチペダル	21
③PTO変速レバー	42
④落下調整グリップ	38
⑤倍速ターンレバー	22
⑥主変速レバー	25,27
⑦副変速レバー【マニュアルシフト仕様】	25
⑧クリープレバー	21,25,27
⑨シートベルト	17
⑩アクセルレバー	25
⑪ポンパレバー	36
⑫ブレーキペダル	20
⑬アクセルペダル	25
⑭AD(オートディスクブレーキ)レバー	
【BS仕様】	24
⑮デフロックペダル	31
⑯油圧(ポジションコントロール)レバー	20,35
⑰シート	16
⑱M・MAスイッチ	44

# 運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。

〔点検方法の詳細は、“トラクタの簡単な手入れと処置”の項を参照。〕



## 注意

- \* 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- \* 点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
- \* 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
- \* 燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- \* 運転中及び停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
- \* エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。
  - ① エンジン停止後30分経過してから開ける。
  - ② 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドのおそれがないことを確認する。

## 重要

各部への給油と交換

- \* 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
- \* 使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、必ず指定“クボタ純オイル”を使用してください。

# エンジンの始動と停止



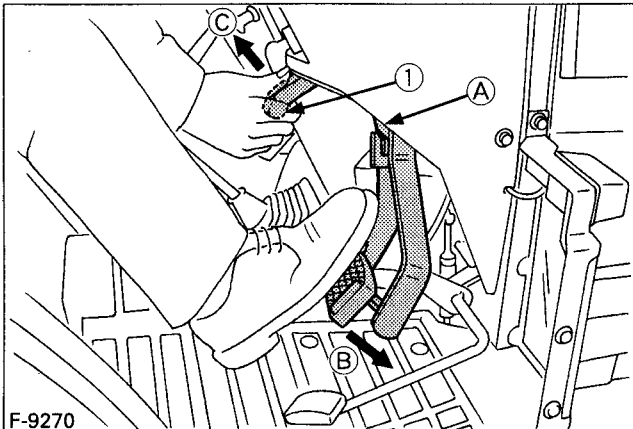
## 警告

- \*この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
- \*トラクタに貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。
- \*エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、主変速、シャトルレバーやPTO変速レバーが“中立”(N)かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- \*トラクタが突然動き出すおそれがあるため、地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
- \*室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気を十分に行なってください。  
換気が不十分であると排気ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

## 始動のしかた

### 1. 駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み、レバーを“上げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

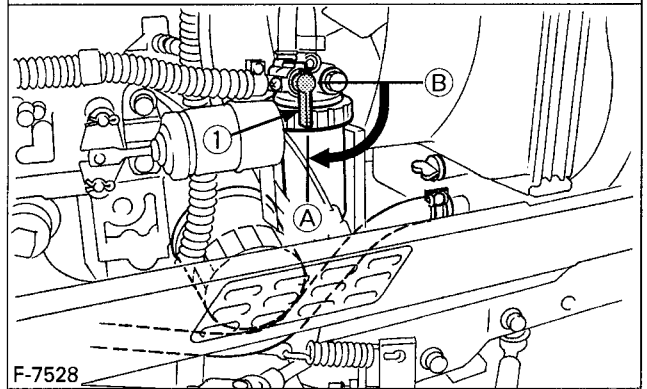


F-9270

- ① 駐車ブレーキレバー
- ▲ “連結金具を掛ける”
  - ▲ “踏込む”
  - ▲ “上げる”

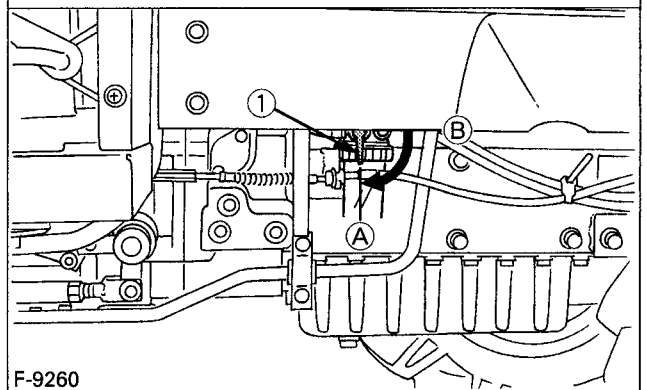
### 2. 燃料フィルタコックを“ON”にします。

GL201・221・241・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



F-7528

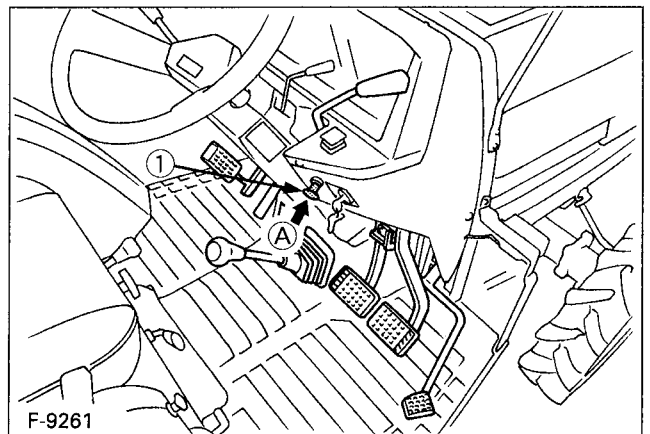
GL367・417・467仕様



F-9260

- ① 燃料フィルタコック
- ▲ “ON”
  - ▲ “OFF”

### 3. エンジンストップノブが戻っているか確認します。

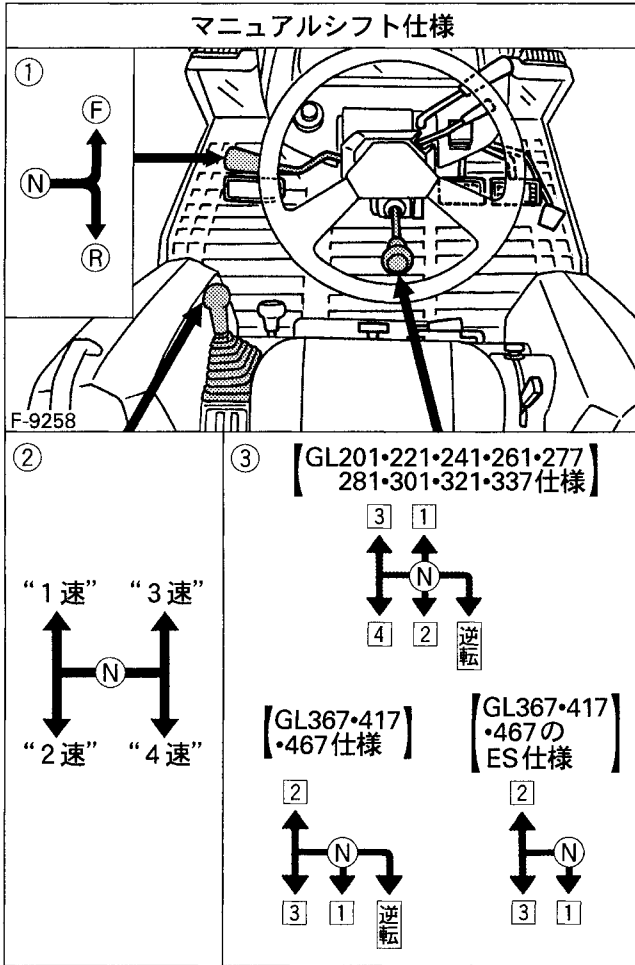


F-9261

- ① エンジンストップノブ
- ▲ “押込む”



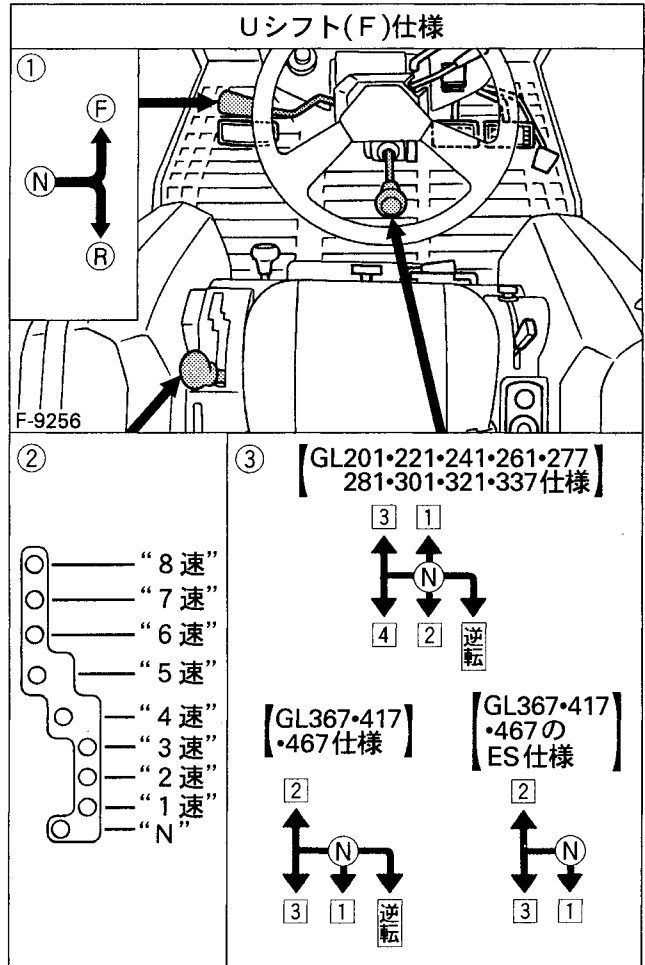
4.主変速レバー, シャトルレバー, PTO変速レバーを“中立”(N)にします。



- ① シャトルレバー
- ② 主変速レバー
- ③ PTO変速レバー
- F “前進”
- N “中立”
- R “後進”

**補足**

\*シャトルレバーとPTO変速レバーを“中立”(N)にしないと, 安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。



- ① シャトルレバー
- ② 主変速レバー
- ③ PTO変速レバー
- F “前進”
- N “中立”
- R “後進”

**補足**

\*シャトルレバーとPTO変速レバーを“中立”(N)にしないと, 安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

## 5. キースイッチにキーを差込み“入”位置にします。

### ■キースイッチ

切 …………… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

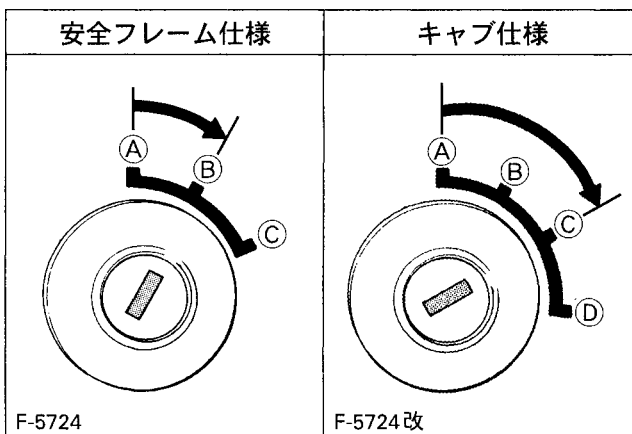
ACC …………… キャブ仕様のみエンジン停止中、ラジオ付きカセットプレーヤが使えます。

(この位置で、長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。)

入 …………… 燃焼室内を予熱する位置。

エンジン回転中の位置、すべての電気装置が使えます。

始動 …………… エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に“入”に戻ります。

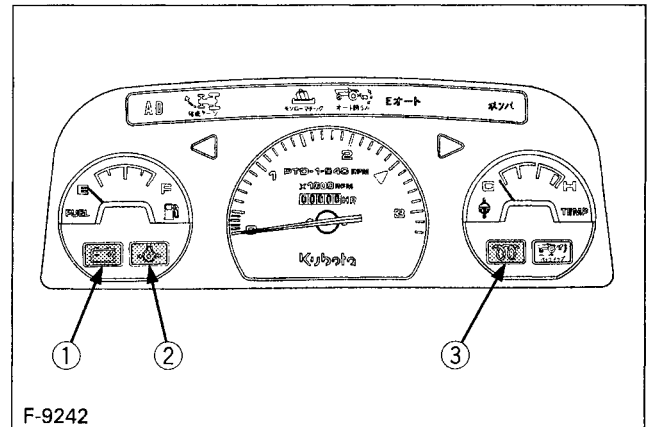


- ① “切”
- ② “入”
- ③ “始動”

- ① “切”
- ② “ACC”
- ③ “入”
- ④ “始動”

### ◆イージーチェッカランプ

- キースイッチを“入”位置にすると、①②③ランプが点灯します。
- 予熱が完了すると自動的にグローランプ③が消灯します。

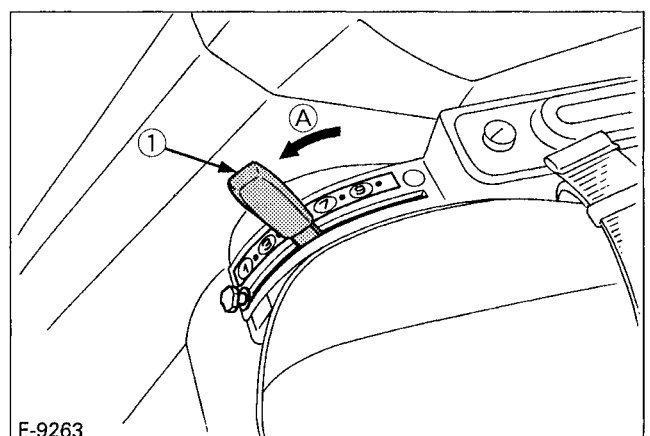


- ① バッテリーチャージランプ (バッテリー充電警告灯)
- ② エンジンオイルランプ (エンジン油圧警告灯)
- ③ グローランプ

### 補 足

\*各レバーやスイッチの位置により、イージーチェッカ内のランプが点灯又は点滅する場合があります。

## 6. 油圧レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。

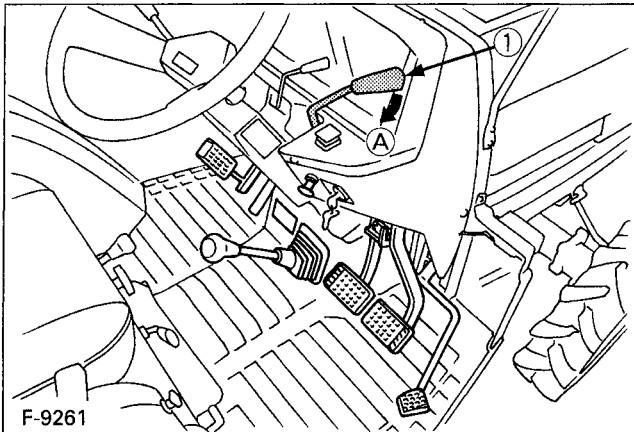


- ① 油圧レバー
- ② “下げる”

### 補 足

\*油圧ロックされている場合は上がりません。  
〔詳細は“油圧”の項を参照〕

## 7. アクセルレバーを“中程”まで引きます。



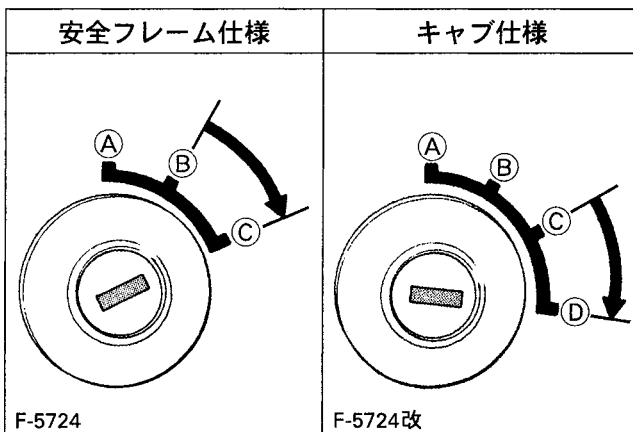
①アクセルレバー      ② “加速”

## 8. クラッチペダルを“踏込み”ます。

### 補足

\* エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが、安全確保のため踏込んでください。

## 9. キーを“始動”位置に回します。



① “切”  
② “入”  
③ “始動”

① “切”  
② “ACC”  
③ “入”  
④ “始動”

### 重要

\* セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は避けてください。

10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

## 10. エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。

自動的に“入”にもどります。

### 重要

\* エンジン回転中は、キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

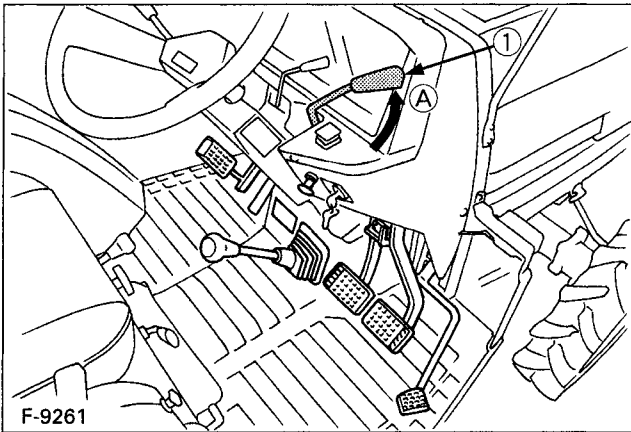
## 11. バッテリチャージランプ、エンジンオイルランプが“消灯”したか確認します。

もし、ランプが消灯しない場合は、エンジンを停止し、点検してください。

## 12. エンジン回転を下げ、クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま必ず暖機運転しましょう。

## 停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい前へ“押し”てアイドリング状態にします。

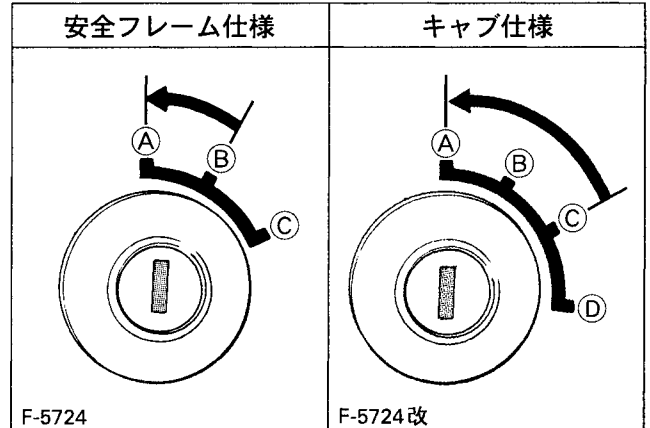


①アクセルレバー      ① “アイドリング”

2. キースイッチのキーを“切”の位置にすると、エンジンは停止します。

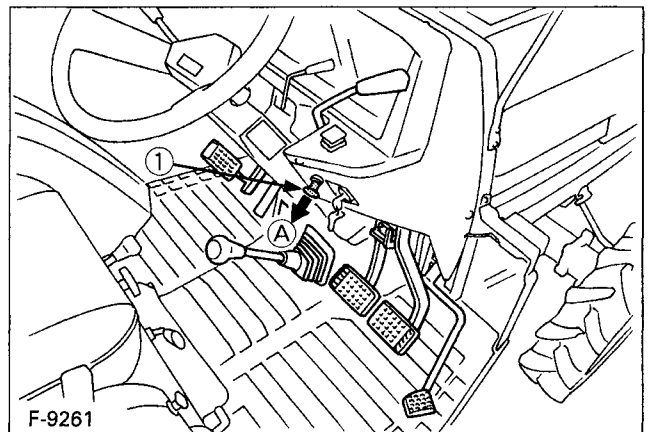
### 重要

\* 万一停止しないときは、エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。



① “切”  
② “入”  
③ “始動”

① “切”  
② “ACC”  
③ “入”  
④ “始動”



①エンジンストップノブ      ① “引張る”

### 補足

\* エンジンストップノブは、エンジンが完全に停止した後、元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では、エンジンは始動しません。

\* エンジンが停止して数秒後、カチツと音がしますが、これはエンジン停止装置が作動する音です。

3. キーは必ず“抜き”ましょう。

### 重要

\* キースイッチの切り忘れによるバッテリー上がり防止のため、必ずキーは抜いてください。

\* バッテリープラスカトリレーは、キースイッチ“切”の位置で機能するため、トラクタの停止中は必ずキースイッチを“切”とし、キーを抜いてください。

## 暖機運転



### 注意

\*換気が不十分な所では、暖機運転はしないでください。

換気が不十分であると排気ガスにより、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

始動後、約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆本トラクタはUシフトを装備しています。

Uシフトは油圧で作動し、その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない、トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと、満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気 温	暖機運転時間
0℃以上	少なくとも10分間
0～-10℃	10～20分間
-10～-20℃	20～30分間
-20℃以下	30分間以上

### 補 足

\*暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

## バッテリーあがりの処置

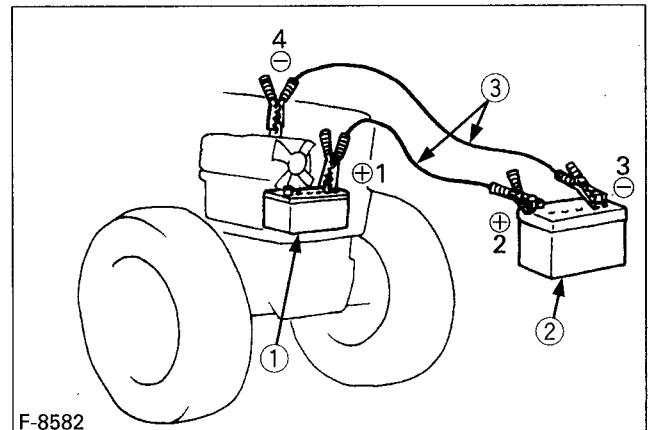
ブースタケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

①ブースタケーブルを図の番号順で接続します。

\*バッテリーの⊕端子同士を接続します

\*マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は、バッテリーから離れたエンジン本体に接続します。

(マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリーの⊖端子に接続すると、バッテリーから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)



F-8582

①放電したトラクタバッテリー

②救援車バッテリー

③ブースタケーブル

②救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めを保ちます。

③トラクタのエンジンを始動します。

(始動手順は“エンジンの始動と停止”の項を参照)

④ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

### 重 要

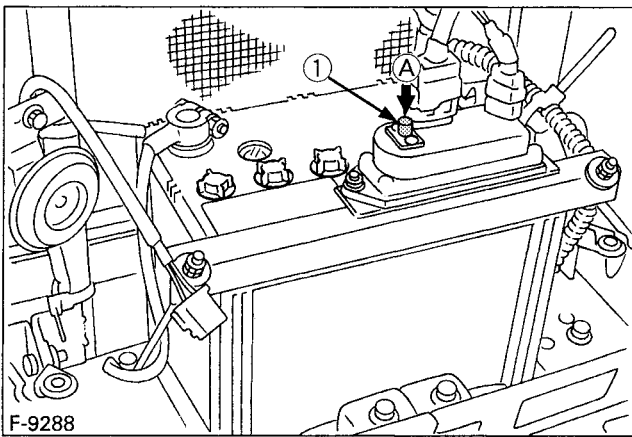
\*救援車は必ず12Vバッテリー車を使用してください。

\*ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。

\*ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

## バッテリープラスカトリレー

1. 格納時、配線のショートによる火災を防止する装置です。
2. キースイッチを“入”位置にしても、イージーチェックランプが全く点灯しないときは、プラスカトリレーがしゃ断されている場合があります。  
〔リセット方法は“トラクタの簡単な手入れと処置”の章の“必要に応じた点検・整備”の“プラスカトリレーのリセット方法”の項を参照〕



①リセットスイッチ

Ⓐ “押す”

### 重要

- \* バッテリーの性能が低下した場合は、プラスカトリレーが作動し、エンジンが始動しない場合があります。このときは、バッテリーの充電又は交換を行ない、リセットスイッチを押してください。
- \* プラスカトリレーは、キースイッチ“切”の位置で機能するため、トラクタの停止中は必ずキースイッチを“切”とし、キーを抜いてください。

# トラクタの運転



## 警告

- \*トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人(特に子供)を近づけないでください。また、キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
- \*子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。
- \*溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。  
転落事故のおそれがあります。
- \*急な坂道の登坂はバックで行なうか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心がけてください。
- \*下り坂は、エンジブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
- \*負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
- \*高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
- \*運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。

## ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は、特に次のことを厳守してください。

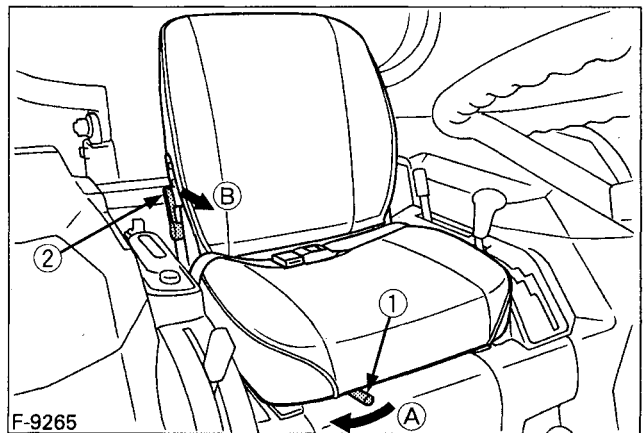
1. 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は、エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後、“定期点検箇所一覧表”に従い各部の点検、オイル交換などを行なってください。

## 運転席回りの調節

### ■シート

#### ◆GL241K・261K・281K仕様以外

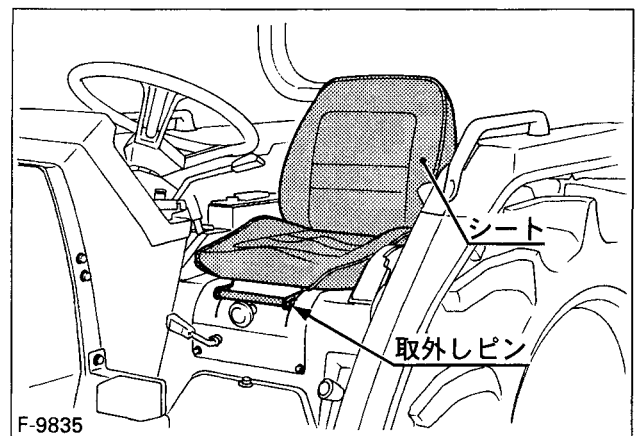
1. 前後調節レバーでロックを“解除”すると、前後5段階に調節できます。
2. リクライニング調節レバーを“前に倒す”と、背もたれの角度が調節できます。



- F-9265
- |               |           |
|---------------|-----------|
| ①前後調節レバー      | Ⓐ “ロック解除” |
| ②リクライニング調節レバー | Ⓑ “前に倒す”  |

#### ◆GL241K・261K・281K仕様

- (1)雨のときはシートを前に倒しておくと、ぬれる心配がありません。
- (2)運転席を更に低くしたいときは、シートを外してください。



F-9835

## ■安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて



### 警告

転倒・転落による死傷事故防止のため、下記のことを守ってください。

\*トラクタを使用するときは、安全フレームを外して運転しないでください。

\*納屋の出入りなど、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、必ずシートベルトを着用してください。

\*安全フレームを折りたたんだ状態では、シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

\*安全キャブ又は安全フレームの改造を絶対にしないでください。

また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。

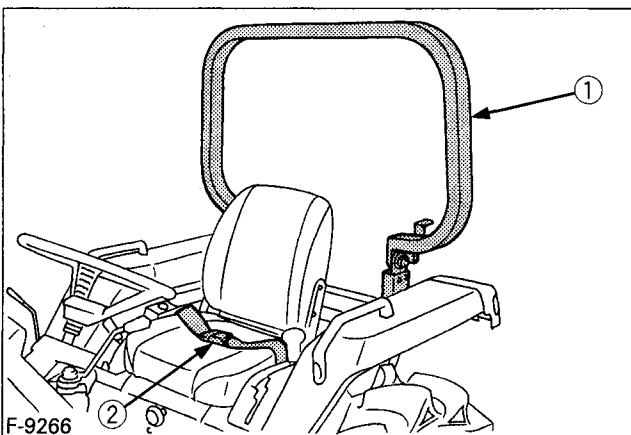
\*安全フレームを立てたときは、ストッパを入れてノブボルトで確実に固定してください。

また日常点検時、ノブボルトにゆがみがないか確認してください。

\*安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

\*シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

\*安全フレームを折りたたんだり、立てたりするときは、平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてから行なってください。



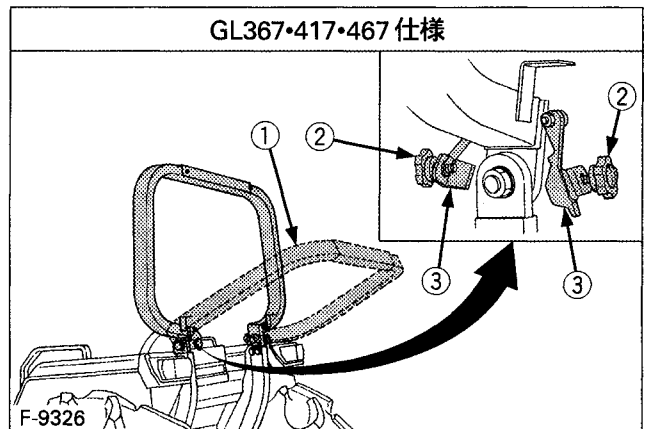
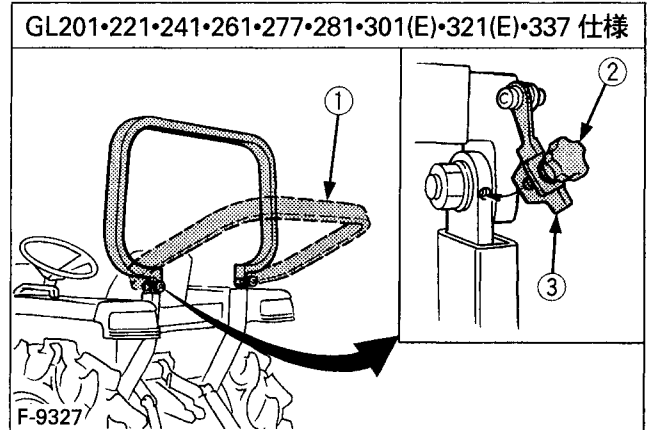
F-9266  
①安全フレーム  
②シートベルト

## ◆折りたたみ方法

ノブボルトをゆるめてストッパを後方へ回転させると、フレーム(ウエ)を後方に折りたためます。

### 補足

\*安全フレームを折りたたむと、作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。



①上フレーム  
②ノブボルト  
③ストッパ

## ◆組立て方法

フレーム(ウエ)を前方に起こし、ストッパを入れてノブボルトでしっかりと確実に固定してください。

[ノブボルトが締まっていないと、フレーム(ウエ)がガタつきノブボルトが折損することがあります。]



## ■ステアリングハンドル

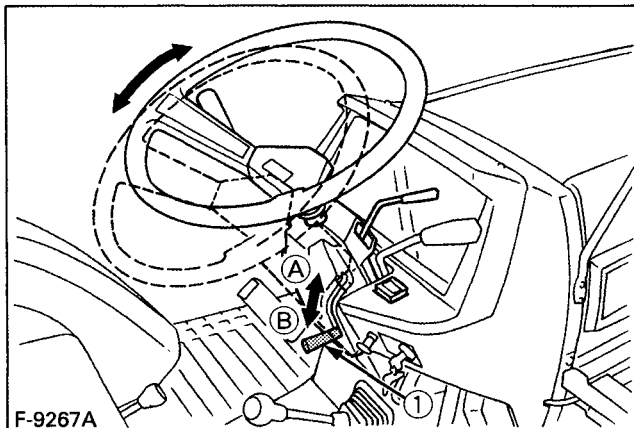


### 注意

\*調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください。

\*走行中の調節はしないでください。

チルトレバーでロックを“解除”すれば、ステアリングハンドルが任意の位置に調節できます。



F-9267A

①チルトレバー

Ⓐ “ロック解除”

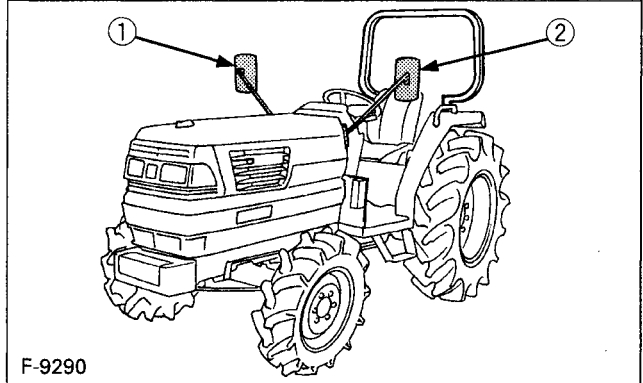
Ⓑ “ロック”

## ■バックミラー

1. バックミラーは、上下・左右に角度調節できますので、運転席に座って見やすい位置に調節してください。

2. バックミラーは、格納できますので狭い場所などで利用してください。【キャブ仕様】

### 安全フレーム仕様

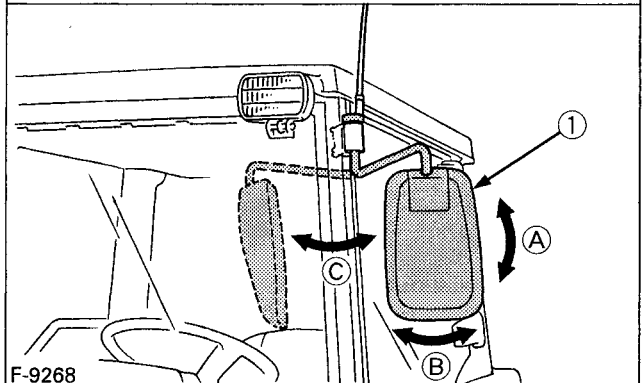


F-9290

①バックミラー (右)

②バックミラー (左) 【GL277・337・367・417・467仕様】

### キャブ仕様



F-9268

①バックミラー

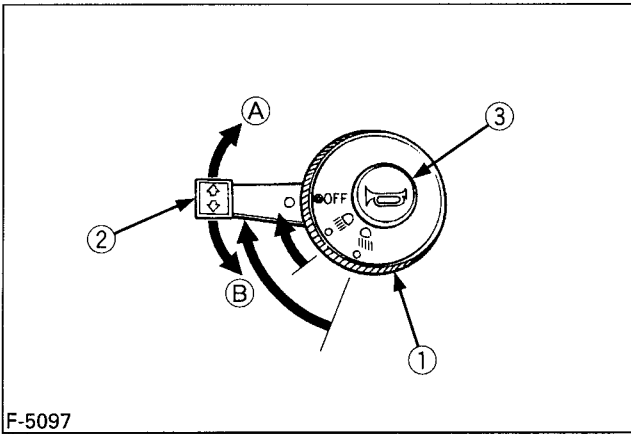
Ⓐ “上下”

Ⓑ “左右”

Ⓒ “格納”

## 灯火類の操作

### ■コンビネーションスイッチ



F-5097

- ①ライティングスイッチ                      ④ “右点滅”  
 ②ウインカスイッチ                        ⑤ “左点滅”  
 ③ホーンボタン

#### ◆ライティングスイッチ

OFF……ヘッドランプ消灯位置。

☺○……ヘッドランプ上向き照射位置。

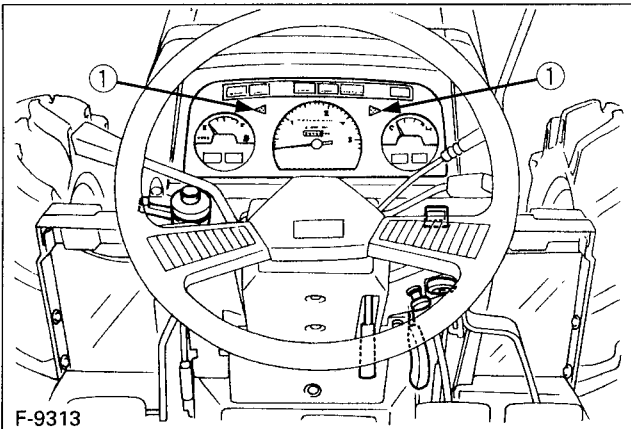
☹○……ヘッドランプ下向き照射位置。

#### 補 足

\*GL277・337・367・417・467仕様では、ライティングスイッチ “☺○” “☹○” 位置で、車幅灯、尾灯が点灯します。

#### ◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると、ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。



F-9313

- ①ウインカパイロットランプ

#### ◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

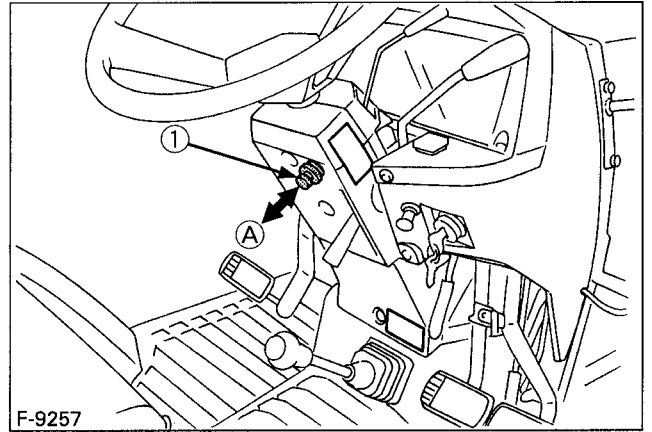
### ■駐車灯スイッチ

#### 【GL277・337・367・417・467仕様】

キースイッチを“切”にしてスイッチを

引く……駐車灯が点灯します。

押す……駐車灯が消灯します。



F-9257

- ①駐車灯スイッチ                      ④ “引く”

### ■バックランプ

#### 【GL277・337・367・417・467仕様】

シャトルレバーを“後進”の位置に入れると、バックランプが点灯します。

### ■ブレーキランプ

#### 【GL277・337・367・417・467仕様】

ブレーキペダル左右を連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

## 発進・走行

### 1. ブレーキペダルの確認

#### ■ブレーキペダル



#### 警告

\*道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は、ブレーキペダルの左右を連結金具で、必ず連結してください。

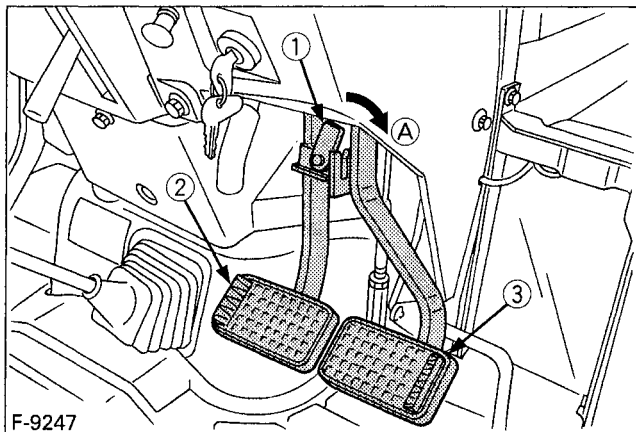
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置で、一般車両と異なり、左右それぞれ独立しており、後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

また連結金具でブレーキペダルをつなぐと、左右両輪のブレーキが同時に働きます。

連結金具をかけた状態……………道路走行時。

連結金具を外した状態……………農作業時。



①連結金具

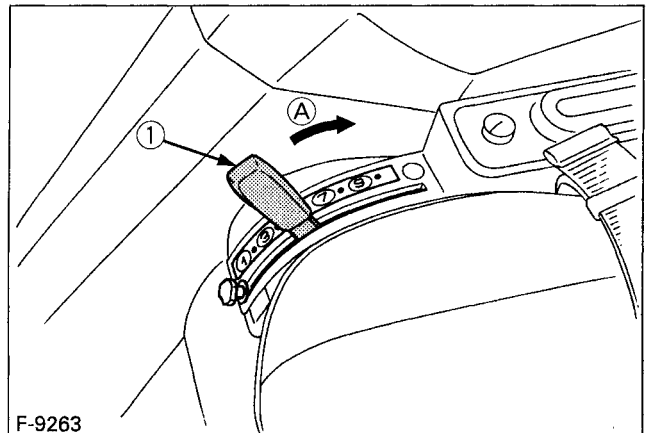
②ブレーキペダル(左)

③ブレーキペダル(右)

Ⓐ “道路走行時は必ずかける”

### 2. 油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は“油圧”の項を参照〕



F-9263

①油圧レバー

Ⓐ “上げる”

### 3. クラッチペダルを踏込みます。



#### 注意

\*急にクラッチを離すと、急に飛出すおそれがあります。  
ゆっくり行なってください。

#### ■クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

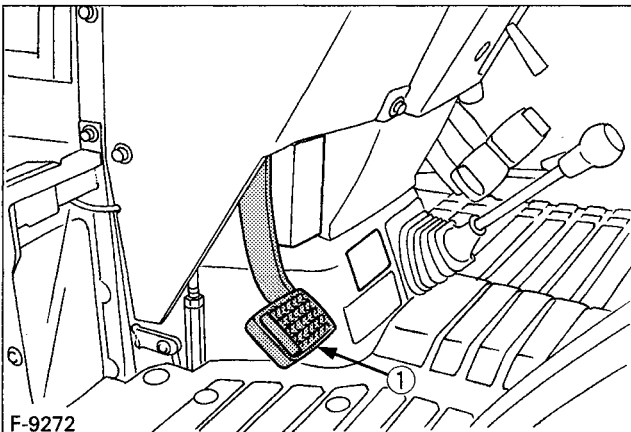
ペダルを踏込む……………クラッチが切れる。

ペダルから足を離す……………クラッチがつながる。

#### 補足

\*下記レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。

- ・主変速レバー 【マニュアルシフト仕様】
- ・シャトルレバー 【マニュアルシフト仕様】
- ・副変速レバー 【マニュアルシフト仕様】
- ・クリープレバー
- ・倍速ターンレバー
- ・PTO変速レバー



F-9272

①クラッチペダル

### 4. 作業に応じ必要なレバー類を操作します。

#### ■クリープレバー

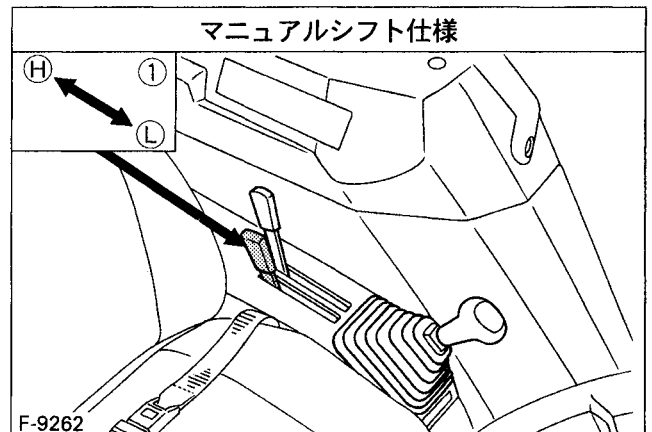
“L”位置で低速（クリープ速度），“H”位置で高速が得られます。

クラッチペダルを踏込み操作します。

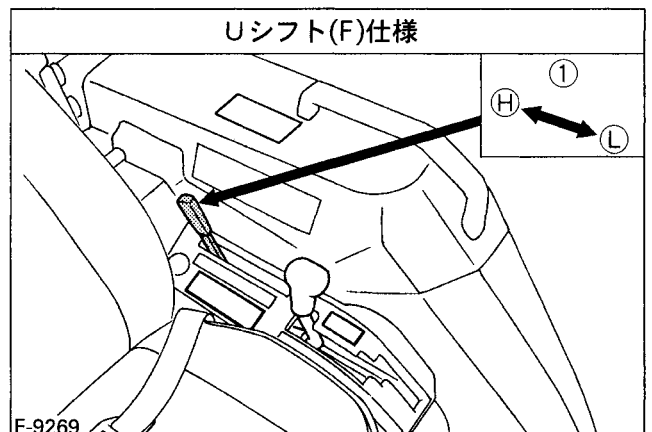
#### 重要

\*クリープレバーには、AD解除装置が組込まれていないので、正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。【BS仕様】

〔取扱いの詳細は、“AD（オートディスクブレーキ）レバー”の“重要”の項を参照〕



F-9262



F-9269

①クリープレバー

① “低速”  
② “高速”

クリーブ速度は、使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。

次のことに注意してお使いください。

#### 1. 使用できる作業

- \*ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- \*ロータリで、ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- \*プランタによる移植作業。
- \*農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
- \*車への積み・降ろしをするとき。

#### 2. 使用できない作業(故障の原因になります)

- \*湿田での沈没状態から脱出する作業。
- \*けん引・トレーラ作業。
- \*フロントローダ作業。
- \*フロントブレード作業(除雪作業)。
- \*土木作業。
- \*ほ場への出入り。

#### 3. クリーブ速度を使用するときは、必ず次のことを守ってください。

- \*変速は、クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- \*発進は、必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
- \*クリーブ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。  
停止は、必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

### 重要

- \*クリーブ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
- \*クリーブ速度では、けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

### 補足

- \*クリーブレバー操作時、レバー操作が重くなる場合があります。そのときは、クラッチペダルを踏み直し、再度クリーブレバーを操作してください。
- \*また、クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは、いったんシャトルレバーを“中立”(N)にしてから操作してください。

### ■倍速ターンレバー

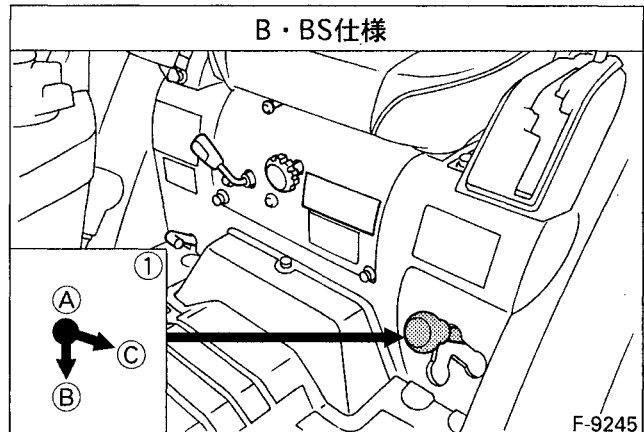
前輪駆動の断続に使用するレバーで、クラッチペダルを踏み操作します。

倍速ターン“入”(倍速ターンランプ点灯)

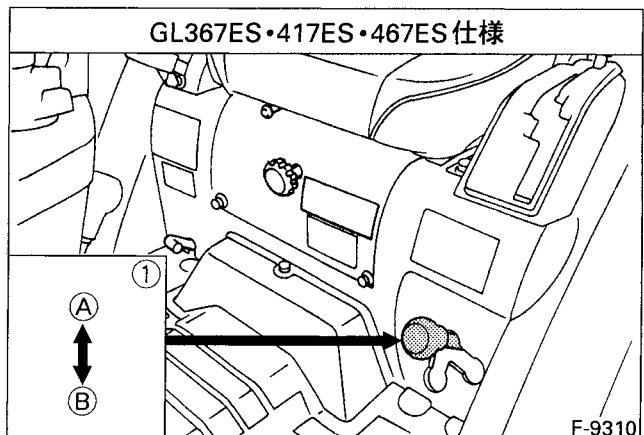
……………旋回時、倍速ターンが作動する。

前輪駆動“入”……………4輪が駆動される。

前輪駆動“切”……………前輪駆動が切れる。



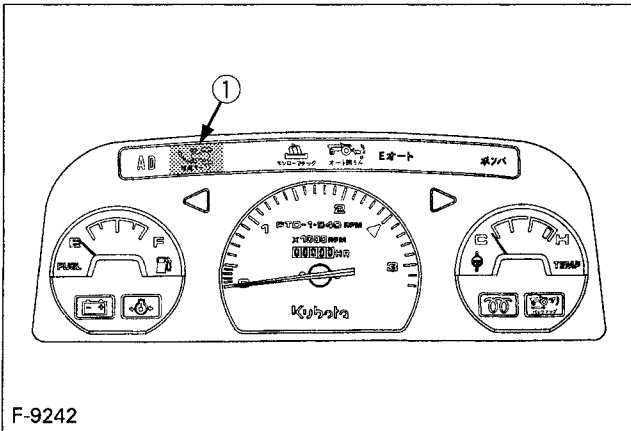
- ①倍速ターンレバー
- A前輪駆動“入”
  - B前輪駆動“切”
  - C倍速ターン“入”



- ①前輪駆動レバー
- A前輪駆動“入”
  - B前輪駆動“切”

**補 足**

\* 倍速ターンレバーを“入”にすると、イージーチェッカの倍速ターンランプが点灯します。



F-9242

①倍速ターンランプ

**◆前輪駆動の使い方**

前輪駆動は、次のような場合に使用してください。

1. 傾斜地、湿田、トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

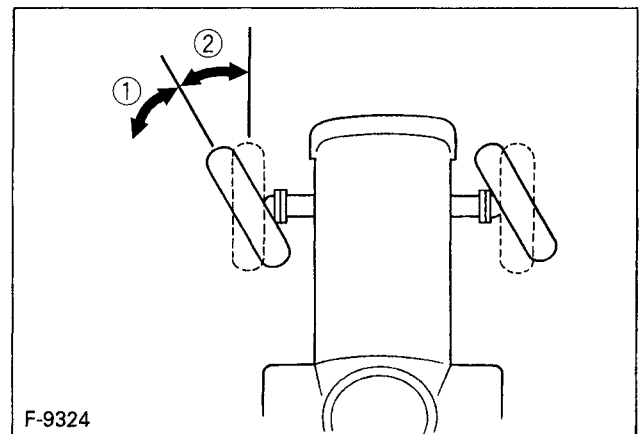
**◆倍速ターンの使い方****警告**

\* 倍速ターンに入れたままでは、ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを前輪駆動“入”又は前輪駆動“切”に切換えてください。

\* 倍速ターンは、畑、水田などのロータリ作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は次のようになっています。

旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪の切れ角が、直進状態から約30度になるまでは、通常の4輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切り約30度以上になると、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約2倍の回転数で駆動され、小さくスムーズな旋回が行なえます。



F-9324

- ①倍速ターン作動
- ②通常の4輪駆動(約30度)

**重 要**

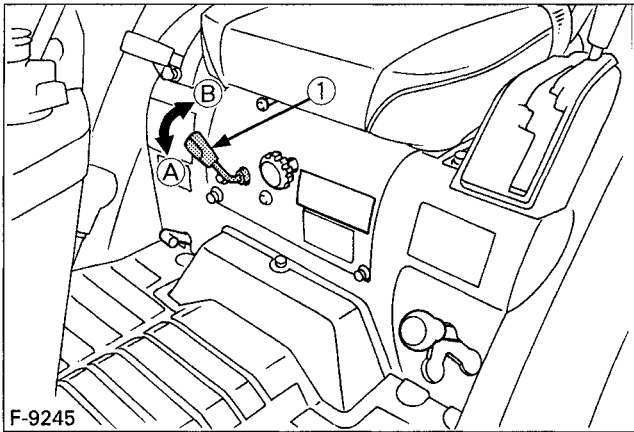
\* フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。

## ■ AD(オートディスクブレーキ)レバー 【BS仕様】

片ブレーキの自動作動をさせるレバーです。

AD “入” ……ステアリングハンドルを一杯に回すと、自動的に内側後輪に軽くブレーキがききます。

AD “切” ……片ブレーキの自動作動が切れます。



F-9245

- ①ADレバー
- Ⓐ “入”
- Ⓑ “切”

### 重要

\*ADレバー “入” で

下記変速位置（高速位置）にすると、自動的にADレバーを“切”にする装置（AD解除装置）を装備しています。他の変速位置から下記変速位置に変速するときは、必ず前輪を直進状態にして変速操作してください。前輪を切ったまま、無理に下記変速位置に変速させるとAD解除装置に負担がかかり故障の原因になります。

#### 【マニュアルシフト仕様】

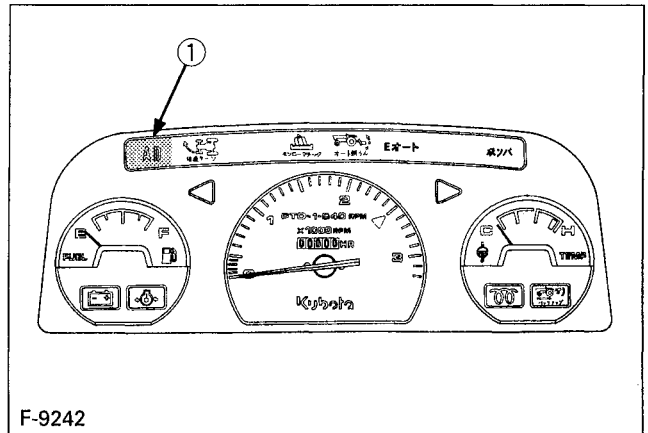
クリープレバー	副変速レバー
H	H

#### 【Uシフト(F)仕様】

クリープレバー	主変速レバー
H	5～8速

### 補足

\*ADレバーを“入”にするとイージーチェッカのADランプが点灯します。



F-9242

- ①ADランプ

### ◆ AD(オートディスクブレーキ)の使い方



#### 注意

\*AD “入” のままでは場以外を走行すると、旋回時急に回わり事故の原因になります。

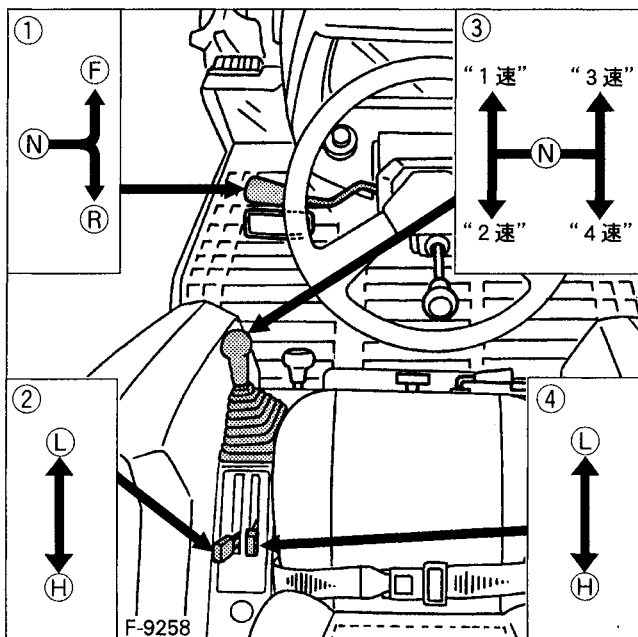
ほ場から出る前に必ずADレバーを“切”にしてください。

1. 隣接耕うん作業をする場合に、枕地で軽く片ブレーキを踏み、旋回を小さくする操作が行なわれますが、ADはこの操作を自動的に行なうものです。
2. ADの作動は次のようになっています。  
旋回動作に入り、ステアリングハンドルを一杯に切ると、ADが連動して内側後輪に軽くブレーキがかかり、小さく、スムーズな旋回が行なえます。
3. ADは、2輪駆動時、4輪駆動時にも作動しますが、倍速ターンと併用すると最も効果を発揮します。

以下，仕様により操作が異なります。

## マニュアルシフト仕様

### 5. 走行速度を選択します。



- |          |       |
|----------|-------|
| ①シャトルレバー | ⑥“前進” |
| ②副変速レバー  | ⑦“中立” |
| ③主変速レバー  | ⑧“後進” |
| ④クリープレバー | ⑨“低速” |
|          | ⑩“高速” |

4本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

#### 重要

\*操作はクラッチを切り，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

但し，GL367・417・467仕様の主変速はシンクロメッシュ付きですので，走行時クラッチを切るだけで変速できます。

#### ■シャトルレバー

レバーを持ち上げ，前に押して“前進”，手前(後)に引いて“後進”です。

#### ■主変速レバー

レバー1本で4段の車速が選択できます。

#### ■副変速レバー

“L”位置で低速，“H”位置で高速が得られます。

#### 重要

\*副変速レバーには，AD解除装置が組込まれていますので，正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。【BS仕様】

[取扱いの詳細は，“AD (オートディスクブレーキ) レバー”の“重要”の項を参照]

#### ■クリープレバー

“L”位置で低速(クリープ速度)，“H”位置で高速が得られます。

[取扱いの詳細は“4.作業に応じ必要なレバー類を操作します”の項を参照]

### 6. エンジンを加速します。

#### ■アクセルレバーとアクセルペダル

##### ◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。



……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。



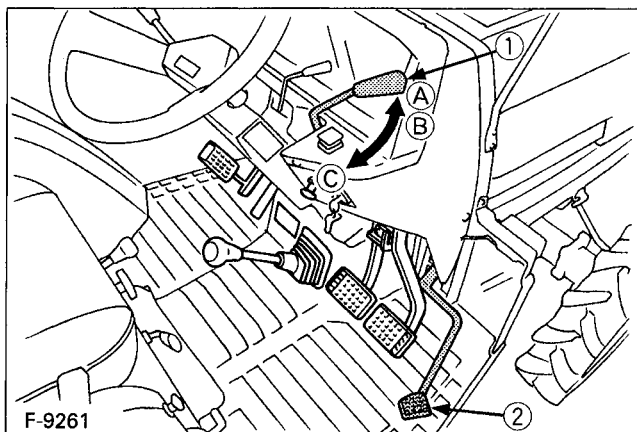
……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

##### ◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す……アイドルリング状態。



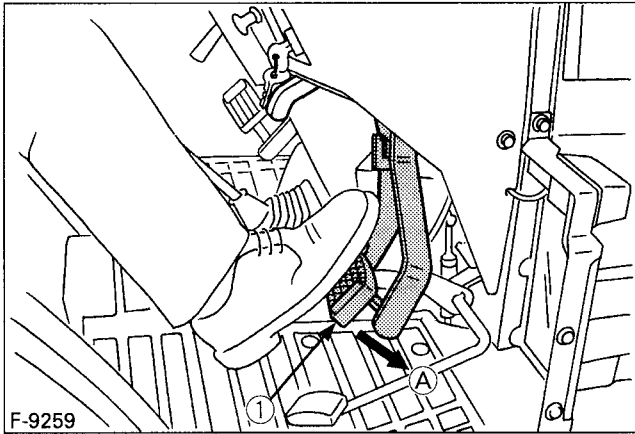
- |          |            |
|----------|------------|
| ①アクセルレバー | ④“アイドルリング” |
| ②アクセルペダル | ⑤“低速”      |
|          | ⑥“高速”      |



## 7. 駐車ブレーキを解除します。

### ■ 駐車ブレーキ

ブレーキペダルを“踏込む”と駐車ブレーキが解除されます。



①ブレーキペダル

① “踏込む”

## 8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

### 重要

\*クラッチの寿命を伸ばすため、半クラッチの使用時間・回数を少なくするように、次の点にご注意ください。

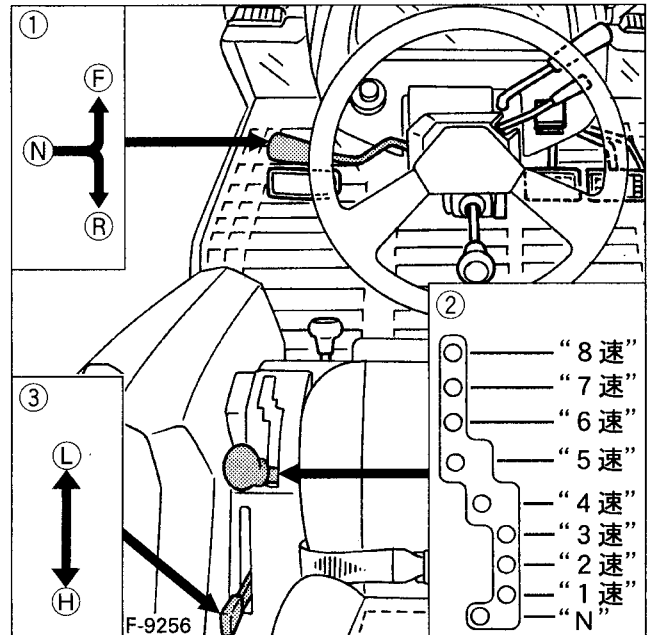
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

## Uシフト (F) 仕様

5. 主変速レバーを“1速”に入れます。

6. シャトルレバーを“前進”又は“後進”に入れると、トラクタが動き始めます。

7. 主変速レバーを1段ずつ変速したい位置まで変速してください。



①シャトルレバー

②主変速レバー

③クリーブレバー

F “前進”

N “中立”

R “後進”

L “低速”

H “高速”

3本のレバー操作を組合せることにより前進16段、後進16段の車速が得られます。

## ■主変速レバー



### 注意

- \*急発進はしないでください。
- \*安全のため、急激な変速は避けてください。変速は1段ずつ行なってください。
- \*緊急停止時や、作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には、クラッチを使用してください。
- \*走行中は、主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
- \*急な坂道、車両への積み・降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗り越えなどでは、途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
- \*低温始動時、ミッションオイルが暖まるまでは、主変速レバーで発進するとき、変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
  - ・十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は、シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。
  - ・低温時の発進遅れは異常ではないので、主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。

## ■重要

- \*主変速レバーには、AD解除装置が組込まれていますので、正しく操作してください。誤操作をすると故障の原因となります。【BS仕様】  
〔取扱いの詳細は、“AD（オートディスクブレーキ）レバー”の“重要”の項を参照〕
- \*油圧クラッチ・シンク口の寿命を保つため、次の点に注意してください。
  1. 作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
  2. 急激なシフトダウンは避けてください。
  3. トラクタの使い始めの変速時に、油圧クラッチのつながり音がある場合がありますが、油温が上がってくると正常になります。

## ■補足

- \*レバー1本で8段の車速が選択できます。  
停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。

## ■シャトルレバー



### 注意

- \*シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。
- \*“前進” ↔ “後進” のシフト操作は、いったん“中立”位置にして停止してから操作してください。

レバーを持ち上げ、前に押して“前進”，手前(後)に引いて“後進”です。レバー操作は、クラッチペダルを踏まなくても(ノンクラッチ)変速することができます。

## ■クリープレバー

- “L”位置で低速(クリープ速度)，“H”位置で高速が得られます。  
〔取扱いの詳細は“4.作業に応じ必要なレバー類を操作します”の項を参照〕

## 停車・駐車



### 警告

\* Uシフトは油圧ミッションのため、変速ギヤを入れてエンジンを止めても、エンジブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう、必ず駐車ブレーキをかけてください。



### 注意

\* 駐車するときは、平坦でトラクタが安定する場所を選び、各変速レバー（主変速・シャトル・PTO）を“中立”（N）、作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。

やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。

\* 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。

\* 格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分冷えてから行なってください。

\* 停車時、空吹きをししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火するおそれがあります。

\* トラクタから降りるときは、ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

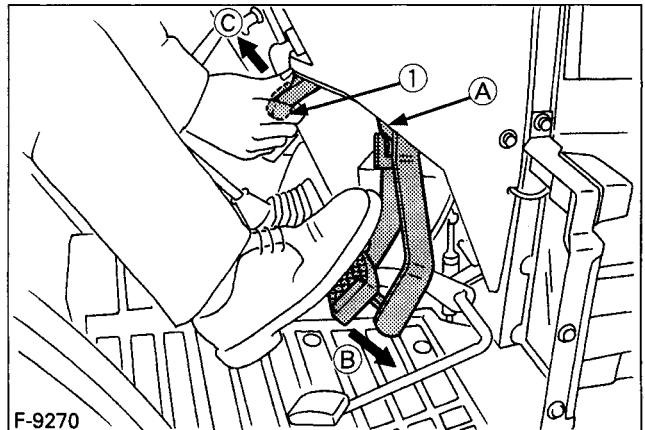
1. アクセルレバーを前方に押し、エンジン回転をアイドル状態にします。

2. クラッチ及びブレーキペダルを“踏込み”ます。

3. 完全に停止してから、シャトルレバー、主変速及びPTO変速レバーを“中立”（N）にします。

4. 作業機を取付けている場合は、油圧レバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。

5. 駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。



- F-9270
- ① 駐車ブレーキレバー      ④ “連結金具をかける”  
 ② “踏込む”  
 ③ “上げる”

6. キースイッチを“切”にして、エンジンを停止します。

## 運転中の作動確認

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、たえず注意してください。

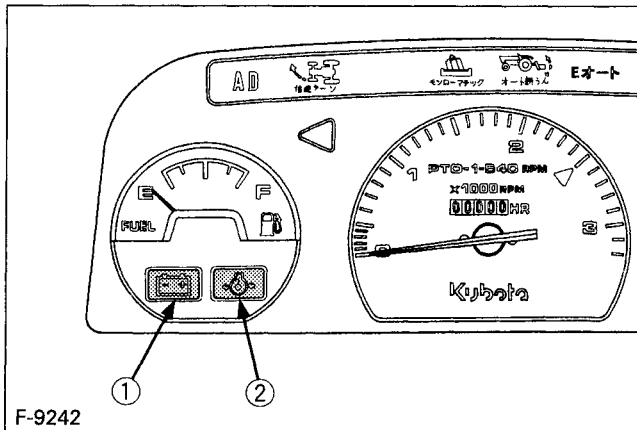
■ 次の場合には、直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然、異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中、メータ類に異常がないか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。

## ■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき、すみやかにエンジンを止め、点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは、購入先にご相談ください。



### ① バッテリチャージランプ

(バッテリー充電警告灯)

エンジン回転中、充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。

キースイッチを“入”にすると点灯し、始動すると消灯します。

### ② エンジンオイルランプ

(エンジン油圧警告灯)

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを“入”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

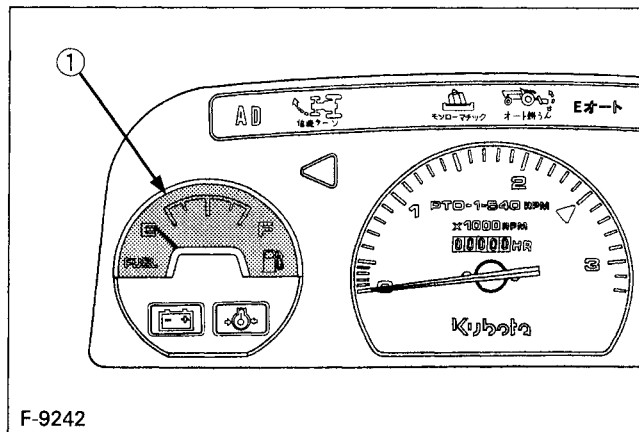
点灯したままのときは、エンジンオイル量を点検してください。

## ■燃料計

指針が“E”に近づいたら早めに燃料を補給してください。

からにすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。

〔“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”の項を参照〕



### ① 燃料計

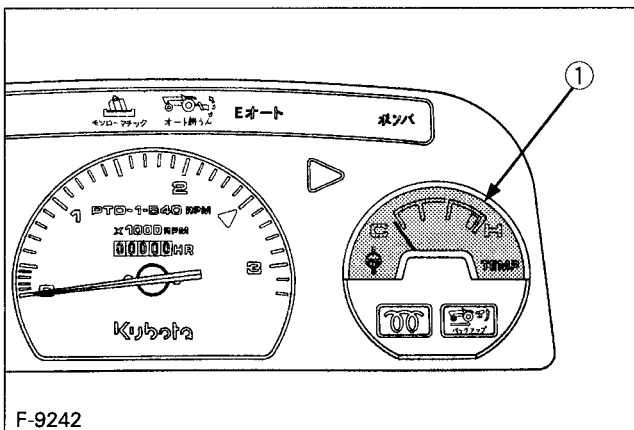
## ■水温計



### 注意

\*ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が“H” (レッドゾーン)を示すときは、オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計

### ◆オーバヒートしたときの処置

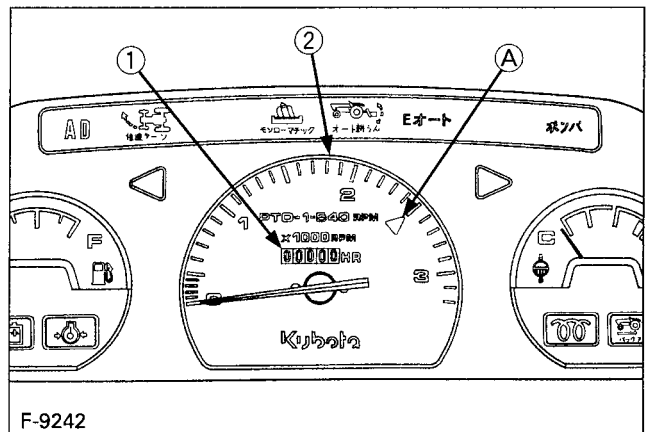
オーバヒート(水温計の針が“H”にあるとき)したときは、

- ①作業を中止し、
- ②エンジンを約5分間アイドリング回転してから、
- ③エンジンを停止し、停止後30分以上たって冷えてから、次の点検・整備をしてください。
  1. リザーブタンク、ラジエータの冷却水の量(不足)、及び水もれがないか。
  2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に、泥やゴミが付着していないか。
  3. ファンベルトのゆるみがないか。

### 重要

\*リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら、上記“◆オーバヒートしたときの処置”を行なってください。

## ■トラクタメータ



F-9242

- ①積算時間計  
②エンジン回転計

Ⓐ PTO - 1 : 540rpm

### ◆積算時間計

積算時間計は5桁になっており、初めの4桁は時間、最後の1桁は1/10時間(6倍すると“分”単位)を示します。

### ◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転速度を示します。

### ◆PTO 回転計

PTO “1速”時、エンジン回転計の指針を“PTO - 1 : 540rpm”位置に合わせると、PTOが540回転となります。

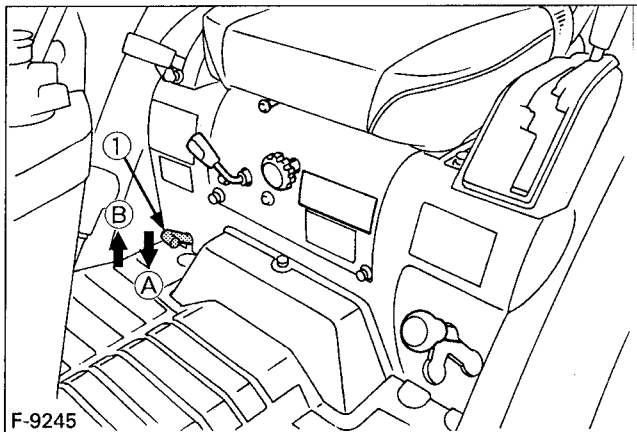
## デフロックの使い方

### ■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル

▲踏む“ロック”

▲離す“解除”

### ◆デフロックの使い方



#### 注意

\*デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。

\*道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは、下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。

#### 重要

\*デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。

\*抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

\*使用しないときは、足をペダルにのせないでください。

## 旋回のしかた



#### 注意

\*高速で回ると、横転するおそれがあります。

デフロックペダルの解除を確認して、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと回ってください。

## 坂道での運転



#### 警告

\*ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。

\*坂道では主変速を“中立”にしたり、クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。

\*急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

## ほ場への出入り時の注意



### 警告

- \*左右のブレーキペダルは、必ず“連結”しておいてください。
- \*ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
- \*ほ場への出入りは、あぜと直角に行なってください。
- \*ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。



### 注意

- \*倍速ターンレバーは“2輪又は4輪駆動”にしてください。
- \*AD(オートディスクブレーキ)レバーはAD“切”にしてください。

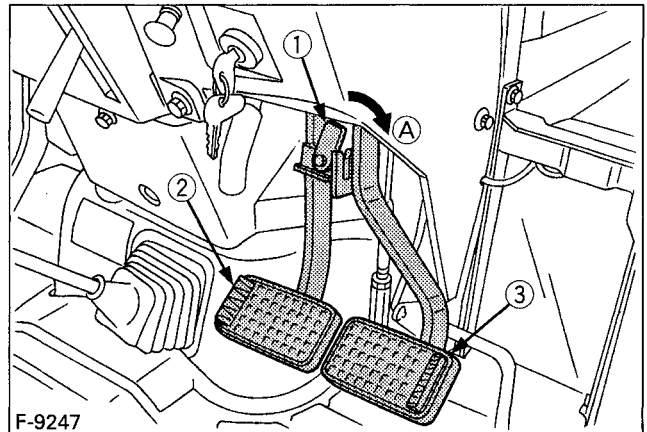
1. 作業機を下げに進むと、前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がる時、4輪駆動の特色を生かして、バックで上がると格段に上がる能力が増します。

## 道路走行中の注意



### 警告

- \*道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
- 連結しないと、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結金具

②ブレーキペダル(左)

③ブレーキペダル(右)

Ⓐ “道路走行時は必ずかける”



### 注意

- \*道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。
  - \*運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。
  - \*溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。
  - \*トラクタは、ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
- 【道路運送車両法の保安基準】  
(作業機を装着して道路を走行すると、他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて、事故の原因になります。)
- \*道路走行時にはモンロー切換えスイッチを必ず“切”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ヘッドランプを下向き照射し、対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。

#### 補 足

\*作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

## トラックへの積み・降ろし



### 注 意

- \*アユミ板は、十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し、トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- \*積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し、途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを“連結”しバックで行なってください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

## パワーステアリングの取扱い 【パワーステアリング仕様】



### 注 意

- \*パワーステアリングはエンジン運転中、ハンドル操作は大変軽くなりますので、道路走行は慎重に行なってください。

### 重 要

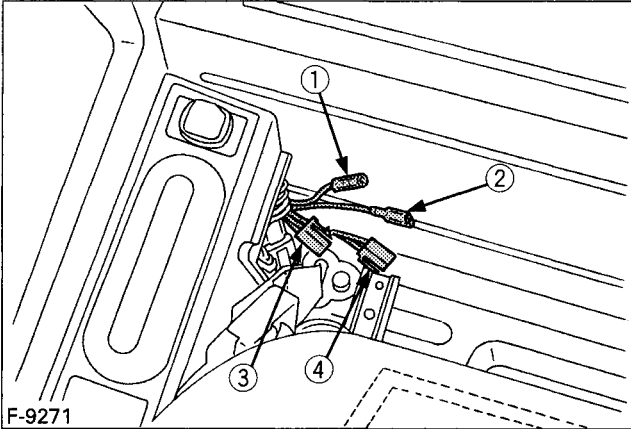
- \*パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。  
ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。  
なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。
- \*ローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
- \*ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音(リリース音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)  
また、ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけ避けてください。
- \*不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は、タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
- \*冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。



## 外部電源取出端子

### ■作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ， ローダ電源用カプラ，予備電源カプラ

作業灯，トレーラ尾灯，ローダ電源，予備電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。



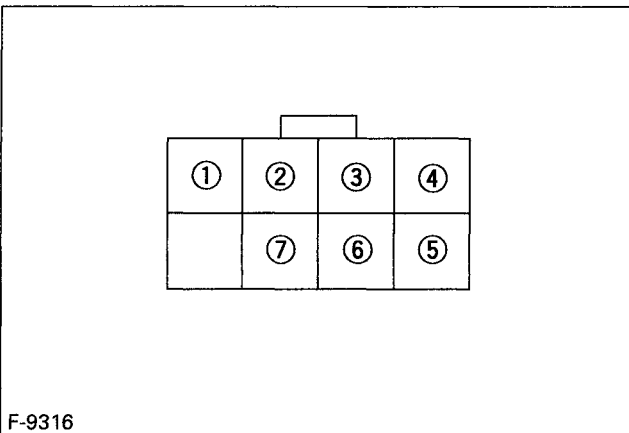
F-9271

- ①トレーラ尾灯用カプラ (青)
- ②作業灯用カプラ (黄)
- ③作業機(ローダ)用電源カプラ (黄赤，黒)
- ④予備電源カプラ (黄赤，黒)

#### 補足

- \*GL201・221・241キャブ仕様の作業灯用カプラは，ルーフの後ろにあります。
- \*キャブ仕様には，上図の作業灯用カプラ(黄)はありません。
- \*キャブ仕様の，上図予備電源カプラ(黄赤，黒)には，シガライタが接続されています。

#### ◆トレーラカプラ電源



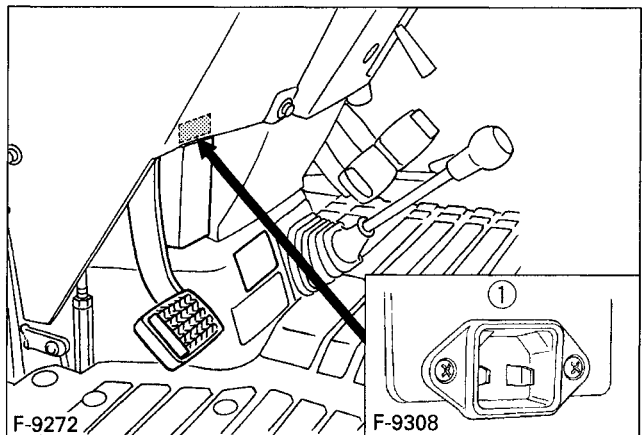
F-9316

機種	GL277・337・367 ・417・467 安全フレーム仕様
電源	
①アース (黒)	○
②駐車灯 (緑白)	○
③フラッシュ左 (緑青)	○
④ブレーキランプ (緑)	○
⑤フラッシュ右 (緑赤)	○
⑥テールランプ (緑白)	○
⑦バックランプ (緑黒)	○

機種	GL277Q・337Q・367Q ・417Q・467Q キャブ仕様
電源	
①アース (黒)	○
②駐車灯 (青白)	○
③フラッシュ左 (緑白)	○
④ブレーキランプ (緑)	○
⑤フラッシュ右 (赤白)	○
⑥テールランプ (青白)	○
⑦バックランプ (黄赤)	○

### ■燃料給油ポンプ専用電源コンセント

燃料給油ポンプを使用するときは，クラッチペダル上方に専用電源コンセントがあります。



F-9272

F-9308

#### ①燃料給油ポンプ専用電源コンセント

#### 重要

\*ローダ電源，予備電源，及び給油ポンプ電源は同時には使用できません。ヒューズ切れの原因となります。

# 油圧・三点リンク・PTO

## 油圧

油圧装置は、クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

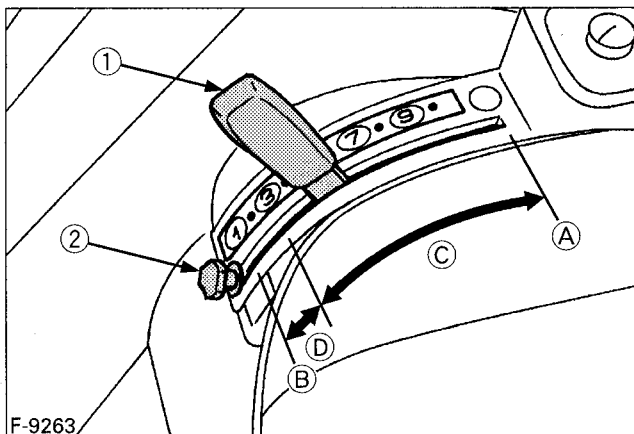
### ■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは、油圧によって作業機を上下させる装置で、

レバーを後方に引く……作業機が上昇する。

レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポ ジ シ ヨ ン 圏	下げ方向に 作動させる	下がる	この範囲では、作 業機を任意の位置 にセット・保持で きます。
	上げ方向に 移動させる	上がる	
フ ロ ー テ ィ ン グ 圏	下げ位置	下がる	この範囲では、作 業機はいつばいま で下がります。



①油圧レバー  
②レバーストッパ

① “上がる”  
② “下がる”  
③ ポジション範囲  
④ フローティング範囲

### ◆油圧レバー【MA仕様】

安全のため、次の取扱い特性があります。

1. エンジン始動後、油圧レバーを元の位置（エンジン停止時の位置）に操作しポンパランプの点滅を解除しないと作業機は昇降しません。  
ポンパランプ点滅解除時、ブザー音が2回鳴ります。
2. エンジン停止後、キースイッチを“入”にして上記1. の操作後、油圧レバーを“前方に倒す”と、作業機は下降します。

### ■補 足

\* 三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇高さを制限している時は、制限位置までしか上昇しません。  
〔詳細は“モンローマチックオート”の項を参照〕

### ■レバーストッパの使い方

- ① 油圧レバーで、希望する作業位置を決めます。
- ② その位置にレバーストッパを固定します。
- ③ その後は、油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより、同一の作業位置が得られます。

## ■ポンパレバー【MA仕様】



### 注意

- \* ほ場内作業以外では、ポンパを使用しないでください。
- \* ポンパアップ状態で道路走行しないでください。  
ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバー操作で作業機を自由に上下させる装置で、ほ場内での旋回操作が便利になります。

レバー上げる(ポンパランプ点灯)………作業機上昇

レバー下げる(ポンパランプ消灯)………作業機下降

ポンパレバーで作業機上昇後、油圧レバーを最上位置にすると、ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯）、ポジション制御になります。

### 補足

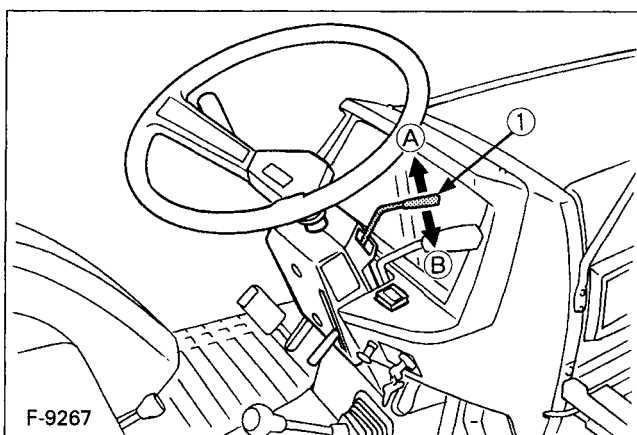
- \* ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
- \* 新しい作業機を装着したときは、ポンパレバーではなく、油圧レバーを使って作業機を上げて、作業機がフロアシートに当たらないことを確認してください。
- \* ポンパレバー操作時、ブザー音が1回鳴ります。

### ◆ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。

例えば代かきハローなど、作業機の位置を固定して昇降させる場合、油圧レバー位置をセットしたまま、ポンパレバーにより昇降させることができます。

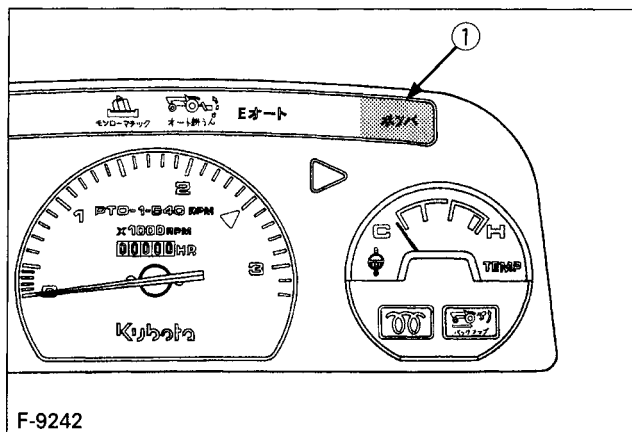
#### 【耕深位置制御】



①ポンパレバー

A “上げる”

B “下げる”



F-9242

①ポンパランプ

### 補足

- \* ポンパランプが点滅している場合、油圧レバー又はポンパレバーを操作し、ポンパランプの“点滅を解除”してから使用してください。

## ■ポンパランプについて【MA仕様】

油圧レバー位置及びポンパレバーの状態とロアーリンク位置が異なる状態でエンジンを始動した場合、ポンパランプが点滅するようになっています。このようなときは、油圧レバー又はポンパレバーを操作し、ポンパランプの点滅を解除して使用してください。解除時ブザーが2回鳴ります。

また、三点リンク高さ規制ダイヤルを“油圧取出”位置でエンジンを始動した場合も、ポンパランプが点滅するようになっています。

このようなときは、“油圧取出”位置から“高”に戻してください。このとき、さらにポンパランプが点滅しているときには、油圧レバー又はポンパレバーを操作して点滅を解除して使用してください。

点滅が解除され作業機が動き始めるとき、ブザーが2回鳴ります。

## ■オートアップスイッチ【MA仕様】

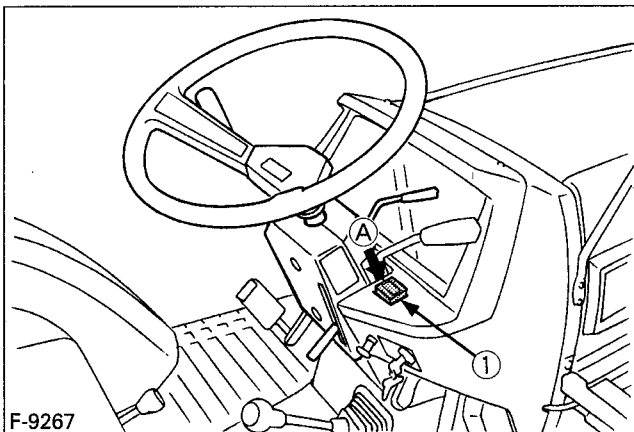


### 注意

- \*危険防止のため、オートアップスイッチの使用は、ほ場内作業のみにしてください。
- \*オートアップで作業する場合は、ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは、作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると、作業機を引きずり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### ◆オートアップの使い方

1. オート切換えスイッチを標準・敏感、Eオートの位置にします。
2. オートアップスイッチを押します。  
(スイッチランプ点灯)
3. 隣接耕うん作業での旋回時、前輪を約35度以上に切ると、作業機が自動で上昇し、ほ場内での旋回操作が簡単にできます。  
(上昇時ブザー音が1回鳴ります。)
4. 作業機を下げるときは、ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
5. オートアップスイッチを再度押すと、オートアップが“切”となります。  
(スイッチランプ消灯)



①オートアップスイッチ

Ⓐ “押す”

### 補足

- \*下記状態では、オートアップは作動しません。(スイッチランプ消灯) 正しく操作し、スイッチランプの点灯を確認してから作業をしてください。
  1. オート耕うん対応の作業機が正しく装着されていないとき。
  2. ポンパランプが点滅しているときやオート切換えスイッチが“切”のとき。
  3. オート切換えスイッチを、オート(標準・敏感) ↔ E オートに切換えたときや作業中エンストしたとき。(再度スイッチを押してください)
- \*隣接耕うん作業以外では、オートアップスイッチを“切”にしてください。

## ■作業機落下速度の調整

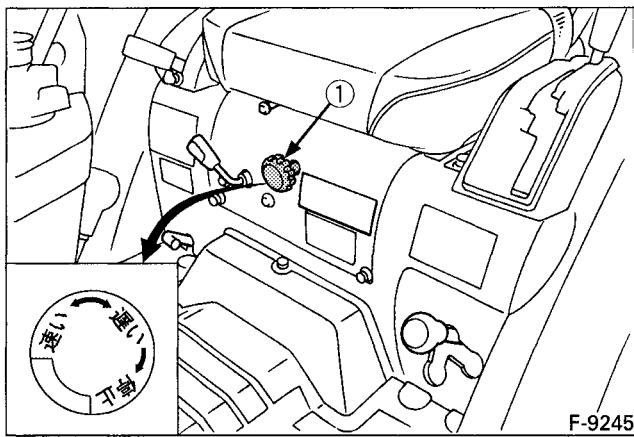


### 注意

\*ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下調整グリップで、作業機が落下しないようにロックしてください。

落下調整グリップでロックした後、油圧レバーを“前方に倒して”，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



①落下調整グリップ

“速い”方向に回す：

油圧回路が開き、作業機の落下速度が早くなります。

“遅い”方向に回す：

油圧回路が閉じ、作業機の落下速度が遅くなります。

(“停止”方向に軽く締込むと、油圧がロック(停止)します。)

ロータリの落下速度は、上昇位置から接地するまで2～3秒が適当です。

特にオート耕うん時、落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

### 重要

\*グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

## ◆油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は、作業機を降ろした状態にして保管してください。

作業機を上げた状態で長時間保管しますと、油圧ロックしていても下降することがあります。

2. 作業機を上げた状態で保管する場合は、次の要領で行なってください。

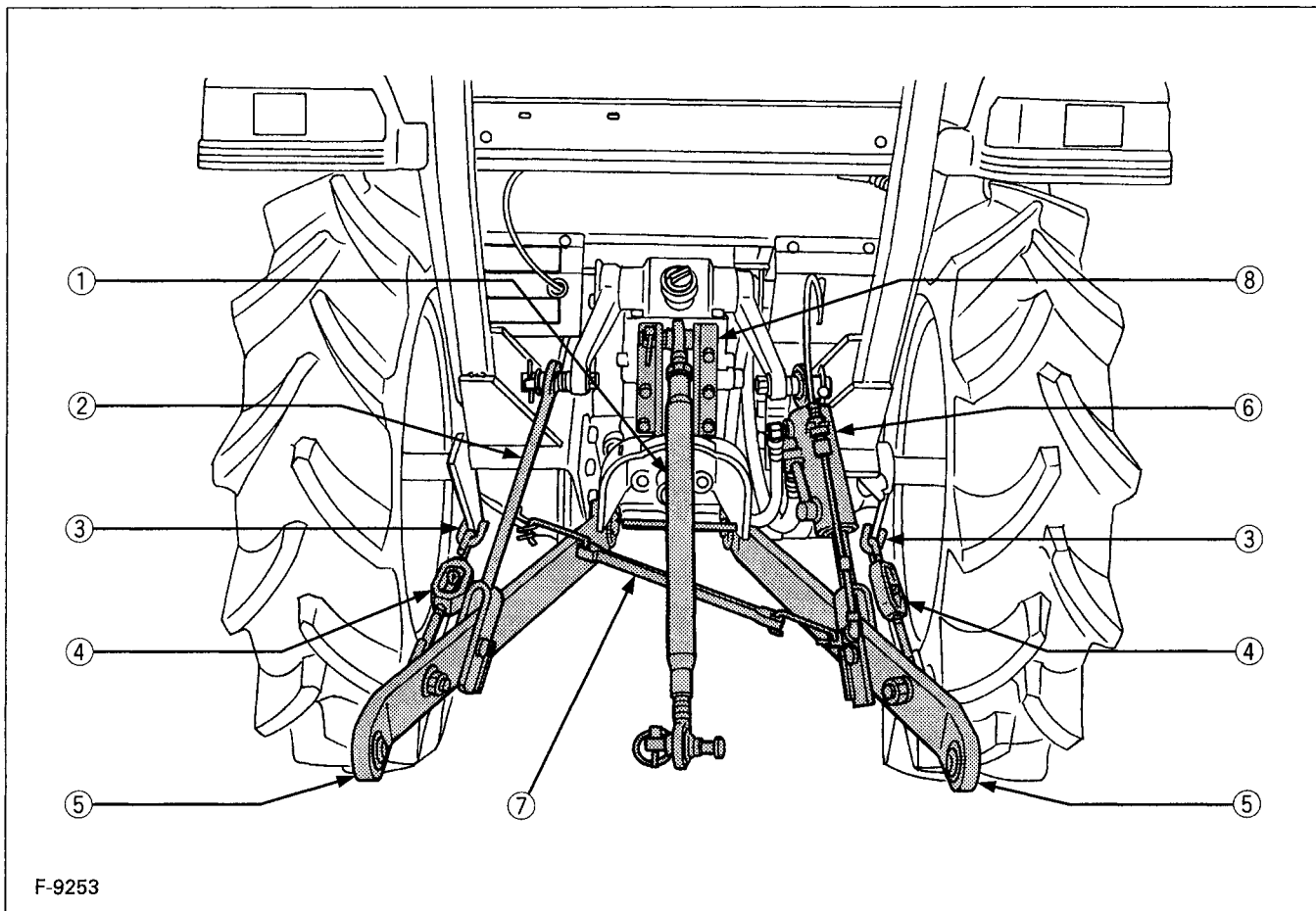
①エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して、軽く締込んでください。

②油圧レバーを“前方に倒して”ください。

(このとき、作業機が下がらないことを確認してください。)

③エンジンを停止してください。

## 三点リンク



- ① トップリンク
- ② リフトロッド左
- ③ チェックチェーン
- ④ ターンバックル
- ⑤ ロアーリンク
- ⑥ リフトシリンダ (リフトロッド右)
- ⑦ 振止めゴム
- ⑧ トップリンクブラケット

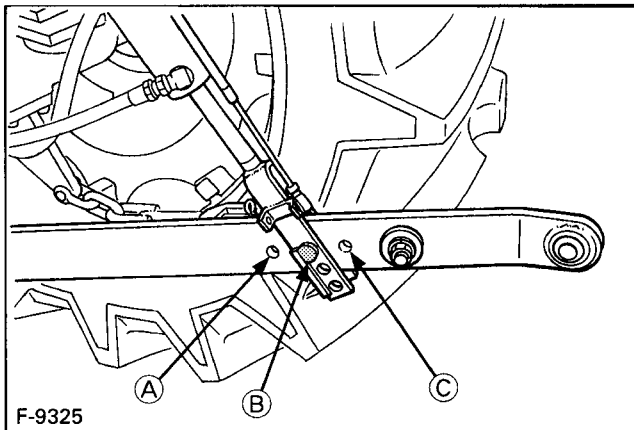
1. 三点リンクは、JIS1形です。
2. GL201・221・241仕様をご購入の方は、トップリンクアッシーを別途購入してください。
3. 三点リンク用作業機を装着するときは、後輪輪距を広げてください。〔詳細は“**輪距の調整**”の項を参照〕

	GL201・221・ 241仕様	GL241K・ 261K仕様	GL241J 仕様	GL261・277・ 281・301E・ 321E仕様	GL281K 仕様	GL301 仕様	GL281J・ 321・337 仕様	GL367(E)・ 417E・467E仕様	GL417・467 仕様
後輪輪距	1130mm	1140mm	1190mm	1145mm	1170mm	1260mm	1235mm	1201mm	1227mm

## 1. インPLEMENT取付け前の準備

### ■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 一般作業機を使うときは、ロアーリンクの“前穴”を使ってください。
2. 特殊三点リンクロータリを使うときは、ロアーリンクの“中穴”を使ってください。
3. 播種機を使うときは、ロアーリンクの“後穴”を使ってください。



- A “前穴”  
 B “中穴”  
 C “後穴”

### 補足

\*ロアーリンクのC穴を使用するときは、リフトロッドの上穴は使用できません。

## 2. 作業機の着脱



### 警告

- \*作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。又、ロータリなどのPTO作業機は完全に止まるまで待ってください。
- \*駐車ブレーキがかかっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。
- \*作業機を着脱は、固い平坦な場所で行なってください。
- \*作業機を取付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

### ■トップリンクの調整

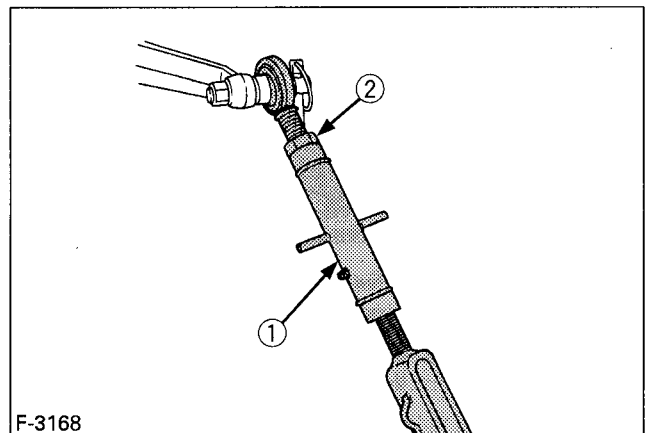
1. 伸縮させて、作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は、作業機の種類によって異なります。
3. 調整後はロックナットでロックしてください。

### ■リフトロッドの調整

〔M・MA仕様の調整方法は“モノローマチック・モノローマチックオートの取扱い”の項を参照〕

#### ◆GL201・221・241仕様

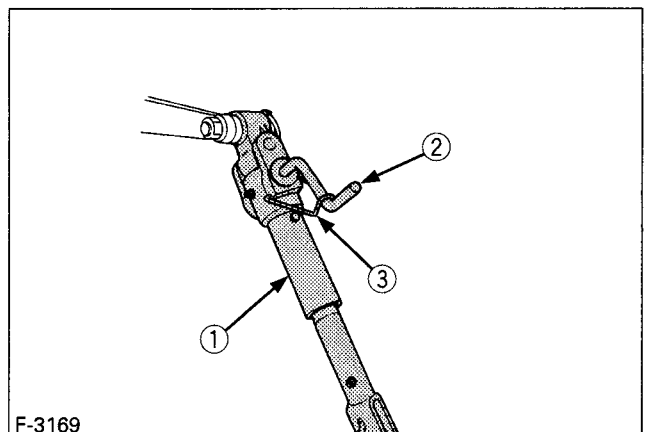
1. リフトロッド右を操作して、作業機の水平を合せてください。
2. 調整後は、リフトロッド右をナットで固定してください。



- ①リフトロッド右  
 ②ナット

#### ◆GL261・281・301・321・277・337・367・417・467仕様

1. 右側の調整ハンドルで、作業機の水平を合せてください。
2. 調整後は、ハンドルをストッパで必ず固定してください。そうしないと、Aフレーム(“ロータリ取扱説明書”参照)がハンドルにあたる可能性があります。



- ①リフトロッド右  
 ②調整ハンドル  
 ③ストッパ

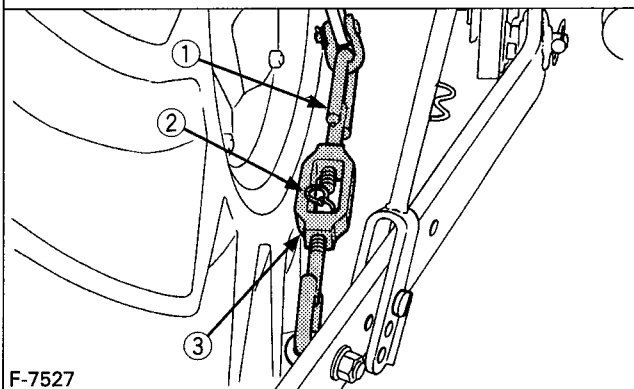
## ■チェックチェーン

ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限してください。

調整後はスナップピン又はロックナットで、ターンバックルを固定してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ、ハロー、サブソイラ、ディガー、	ゆるめる 作業機が横方向に 5～6cm動く程度
ロータリ、モアー、ヘイレーキ、テツダ、リッジャ、カルチベータ、	軽く締める

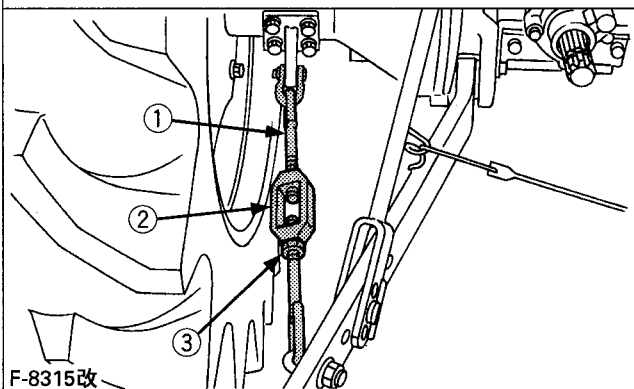
GL201・221・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



F-7527

- ①チェックチェーン
- ②スナップピン
- ③ターンバックル

GL367・417・467仕様

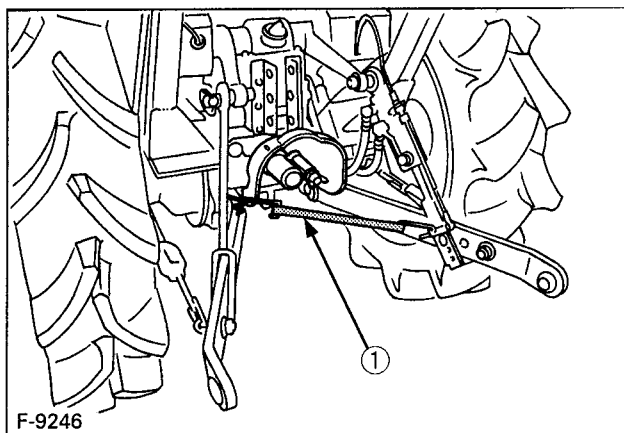


F-8315改

- ①チェックチェーン
- ②ターンバックル
- ③ロックナット

## ■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは、ローアリンクが後輪に当たらないように、左右振れ止めをしておいてください。



F-9246

- ①振止めゴム

## けん引ヒッチ (別売)



\*けん引作業をするときは、けん引ヒッチ(別売)を必ず使用し、トッリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。

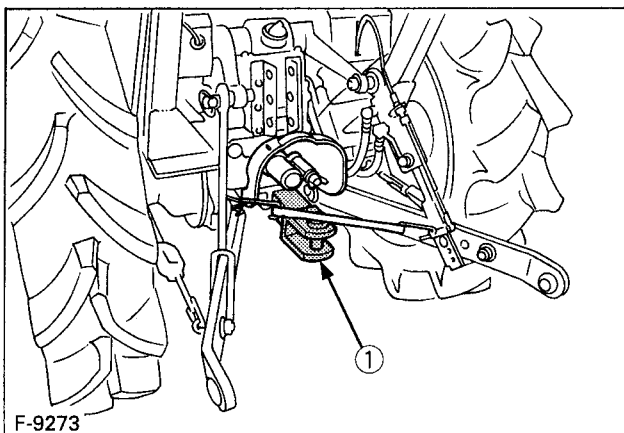
転倒事故を引起すおそれがあります。

\*三点リンクに取付け、PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ、ブロードキャストなど)を使用するときは、けん引ヒッチを外してください。

そうしないと、ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当たって破損し、事故を起すおそれがあります。

けん引は、このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。

他の物をけん引する場合は、必ず購入先にご相談ください。



F-9273

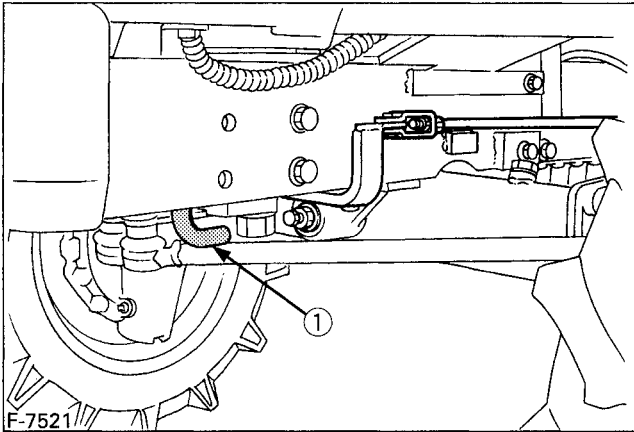
- ①けん引ヒッチ



■けん引フック



\*けん引フックは、横方向へは絶対に引かないようにしてください。  
横に引張ると、外れやすくフレームが曲るおそれがあります。



①けん引フック

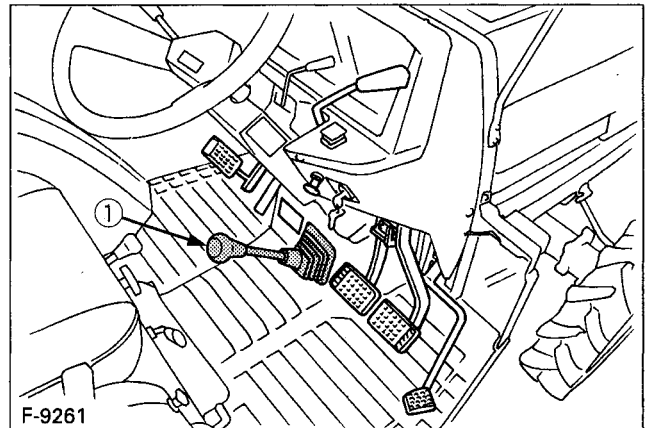
PTO

■PTO変速レバー



\*作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。  
低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用しないでください。

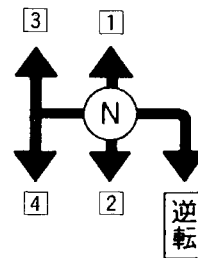
PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は、機種により下記のように変速できます。  
変速操作時は、必ず主クラッチを切ってから行なってください。



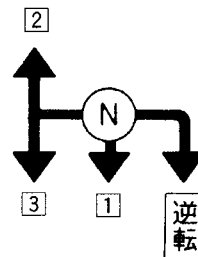
①PTO変速レバー

●変速シフトパターン

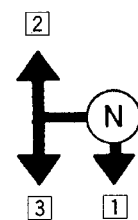
【GL201・221・241・261・277  
281・301・321・337仕様】



【GL367・417  
・467仕様】



【GL367・417  
・467の  
ES仕様】



## ◆PTO “逆転” の使い方

### 1. 使用できる作業機

- \* メーカー指定のロータリに限ります。

#### 重要

- \* メーカー指定以外のロータリを使用すると、作業機の故障の原因になります。

### 2. 使用できる作業

- \* 土寄せ作業
- \* 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

#### 重要

- \* オート切換えスイッチは“切”にして油圧（ポジション）レバーで作業してください。

[詳細は“モンローマチックオート”の項を参照]

**【MA仕様】**

### 3. 使用できない作業

- \* 未耕地での耕うん作業
- \* ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

## ■PTO軸カバー，PTO軸キャップ



### 注意

\* PTO軸を使わないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、PTO軸キャップを取付けておいてください。

そうしないと、巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。

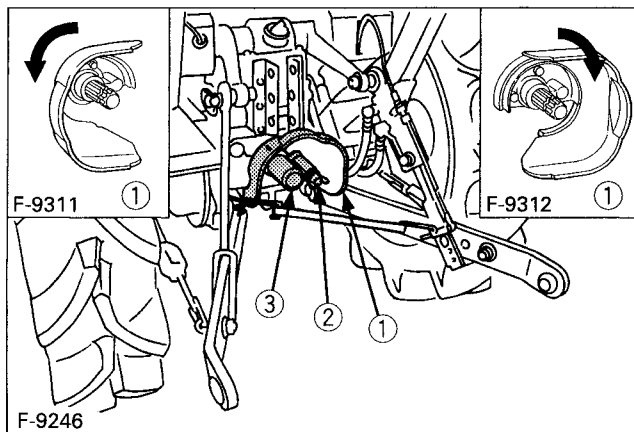
\* PTO軸キャップを使用しないときは、PTO軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。

\* PTO軸カバーは常に取付けておいてください。

\* PTO軸カバーの上に乗らないでください。

ユニバーサルジョイント着脱時は、PTO軸カバーを左右に回すと便利です。

着脱時以外は、必ず元の位置に戻しておいてください。(K仕様のPTO軸カバーは回転しません。)

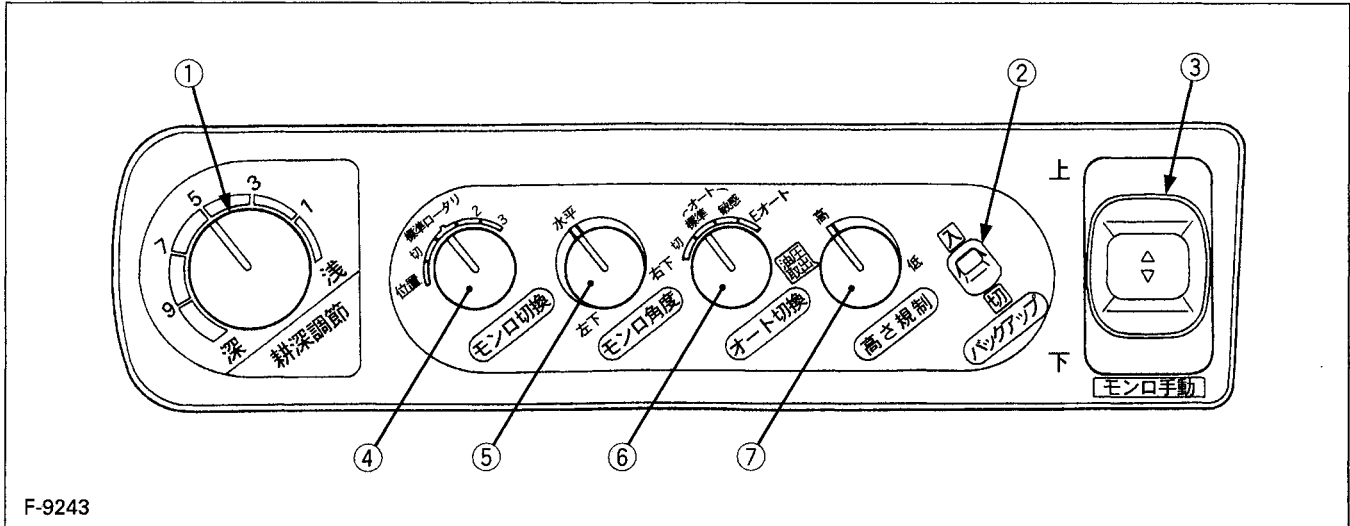


- ① PTO軸カバー
- ② 蝶ボルト
- ③ PTO軸キャップ

# モンローマチック・モンローマチックオートの取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは、マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

## ■スイッチの取扱い

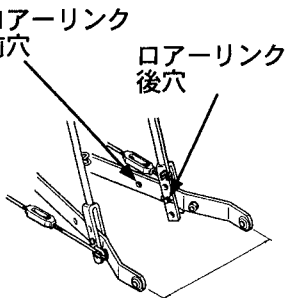
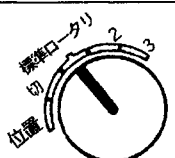

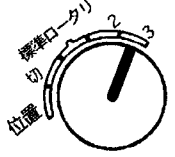
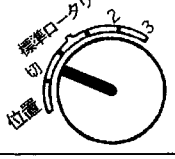
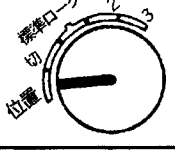


F-9243

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| ①耕深調節ダイヤル【MA仕様】   | ⑤モンローマチック角度調節ダイヤル    |
| ②バックアップスイッチ【MA仕様】 | ⑥オート切換えスイッチ【MA仕様】    |
| ③モンローマチック手動スイッチ   | ⑦三点リンク高さ規制ダイヤル【MA仕様】 |
| ④モンロー切換えスイッチ      |                      |

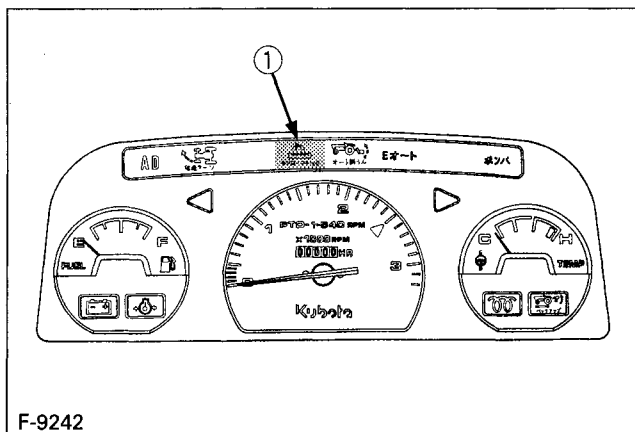
## ■モノロー切換えスイッチ

標準ロータリ，2，3，位置の切換えは，作業機によって定まる三点リンクの取付け状態（ローアリンク幅及びロアリンク穴）に応じて選択してください。

モノローマチック	切換えスイッチ	ロアリンク幅	ロアリンク穴位置	作業機例	 <p>ロアリンク 前穴      ロアリンク 後穴</p> <p>ロアリンクの幅 “広” …718mm (JIS) “狭” …590mm (参考)</p>
自動		広	中(後)	Aフレーム付ロータリ (特殊3P仕様) Aフレーム付代かきハロー	
		広	前	プラウ 代かきハロー，ロータリ (標準3P仕様)	
		狭	前	ロータリ (標準3P仕様)	
手動		モノローマチックの自動制御が解除され，“手動”になります。		F-7044	
位置制御		—	—	プラウ，サブソイラ あぜ塗り機，片培土	

## ◆モノローマチックランプ

モノロー切換えスイッチが“切”以外の位置で点灯します。



①モノローマチックランプ

### 補足

\*位置制御とは：

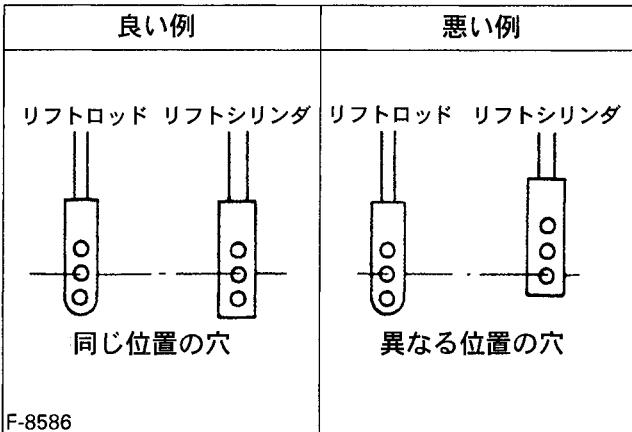
このモードは，プラウ作業などで，常にモノローフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。“モノロ切换”スイッチを“位置”にセット

すると，モノローフトシリンダの長さを“モノロ角度”ダイヤルで，設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。なお，“モノロ角度”ダイヤルの“水平”位置では，作業機が車体と平行になります。リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，モノローフトシリンダを“モノロ角度”ダイヤルで適当な長さに合わせて，耕起できます。通常に耕起する場合には，“モノロ角度”ダイヤルを“水平”位置に戻すだけで，常にプラウは車体と平行に保たれます。

### 重要

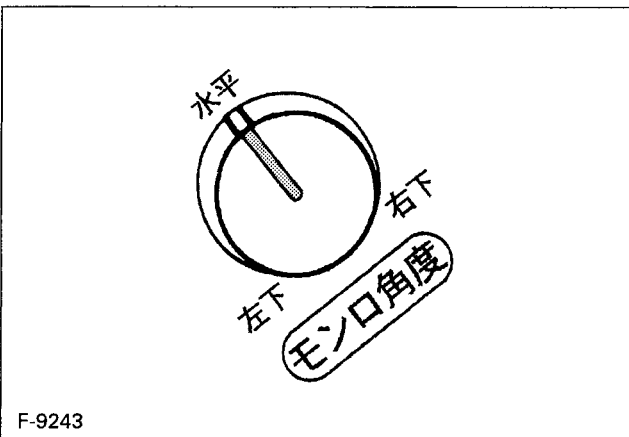
- \*ロアリンクにリフトロッド（リフトシリンダ）との接合穴が3コありますので，後の2コを使用する場合ロアリンク穴位置“後”として切換えスイッチを選択してください。
- \*“位置制御”及び“手動”では，作業機を上端付近まで上げて，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。従って，取付けている作業機を上げる時は注意してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は、左右対称になるようにしてください。



■モンロ角度ダイヤル

“モンロ切換”スイッチが標準ロータリ、2、3の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。



1. ダイヤルを“水平”位置にしますと、作業機は水平に保持されます。
  2. ダイヤルを“左下”方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
  3. ダイヤルを“右下”方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。
- なお、“モンロ切換”スイッチが“自動”の場合、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

■オート切換えスイッチ【MA仕様】

	オート 切換えスイッチ	作業例
オート 自動		浅起しから深起しまで、一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し、代かき作業、その他仕上がりに応じて使用します。
		ロータリカバーを上げたままで行なうオート作業に使用します。
切		オートの“自動”制御が解除されます。

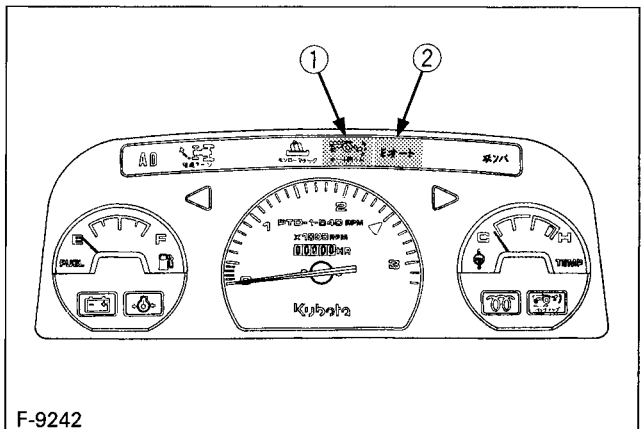
補 足

\* 畝立て作業などロータリカバーを上げて作業するときは、“Eオート”または、“切”にしてください。

◆オート耕うん/Eオートランプ

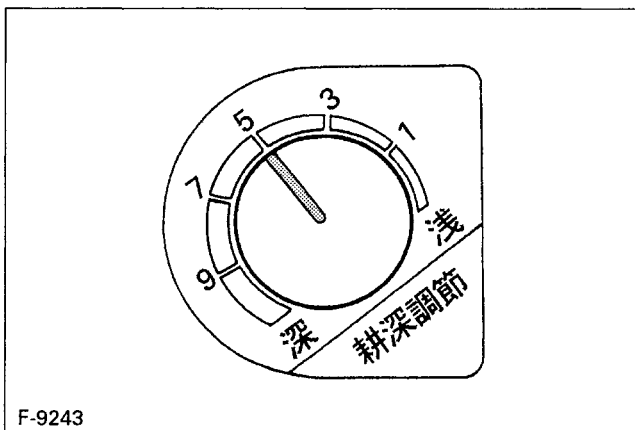
オート切換えスイッチの選択位置により、下記ランプが点灯します。

1. “オート”選択時 ……オート耕うんランプ点灯 (標準・敏感)
2. “Eオート”選択時 ……Eオートランプ点灯
3. “切”選択時 ……両ランプ消灯



- ①オート耕うんランプ
- ②Eオートランプ

## ■耕深調節ダイヤル【MA仕様】



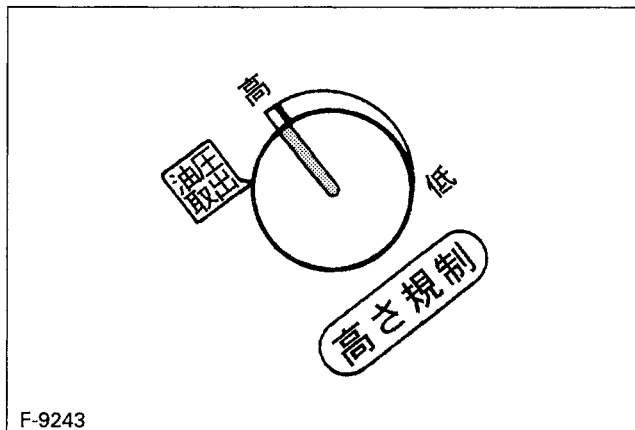
### ◆オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合

オート切換えスイッチが、“標準”“敏感”“Eオート”の場合、浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう、このダイヤルで設定してください。

#### 補足

- \* “浅”から“1”付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田での代かき作業に利用してください。
- \* ほ場内で、部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり、耕深が深くなる場合は、ダイヤルで調節してください。

## ■三点リンク高さ規制ダイヤル【MA仕様】



三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

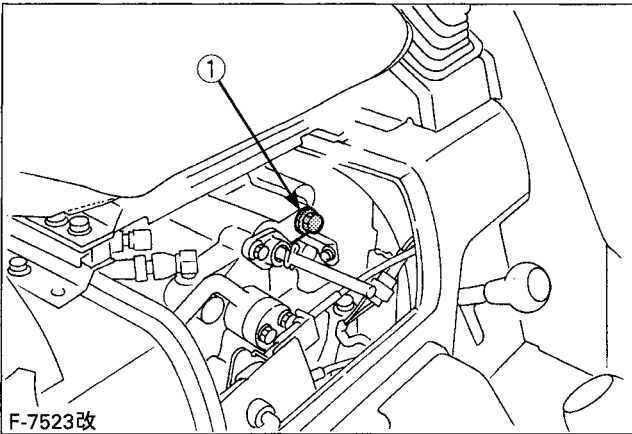
1. ダイヤルを“高”にすると、三点リンクの上昇高さが高くなります。
2. ダイヤルを“低”方向に回すと、三点リンクの上昇高さが低くなります。

#### 補足

- \* 三点リンク高さ規制ダイヤルにより、ポンパレバー及び油圧レバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

### ◆油圧取出しの使い方

油圧シリンダから油圧を取出すときに使用します。



F-7523改

#### ①油圧取出し口

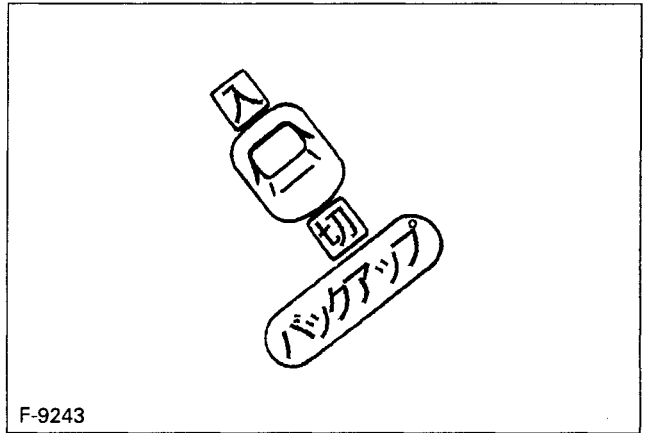
1. ポンパレバー又は、油圧レバーで三点リンクを最上位置にし、モンローマチックを“平行停止”させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを“油圧取出”位置にします。
3. 落下調整グリップを回し、油圧をロックします。
4. 油圧の取出し“上げ—中立—下げ”は、モンローマチック手動スイッチで行ないます。

### 補足

- \* 三点リンク高さ規制ダイヤルを“油圧取出”位置にすると、“モンローマチック”“オート耕うん”“Eオート”“ポンパ”“バックアップ”“オートアップ”の各ランプが消灯します。
- \* “油圧取出”位置では、油圧レバー、ポンパレバー、モンローマチックオートは作動しません。
- \* “油圧取出”位置でエンジンを停止し、再度“油圧取出”作業を行なう場合は、エンジン始動後、“油圧取出”を解除し(ダイヤルを“油圧取出”位置から“高”、“低”の方向へ回す),再度“油圧取出”位置にしてください。
- \* 油圧取出し作業の終了後は、“油圧取出”を解除してください。

### ■バックアップスイッチ【MA仕様】

シャトルレバーを“後進”に入れると、作業機が上昇する装置です。

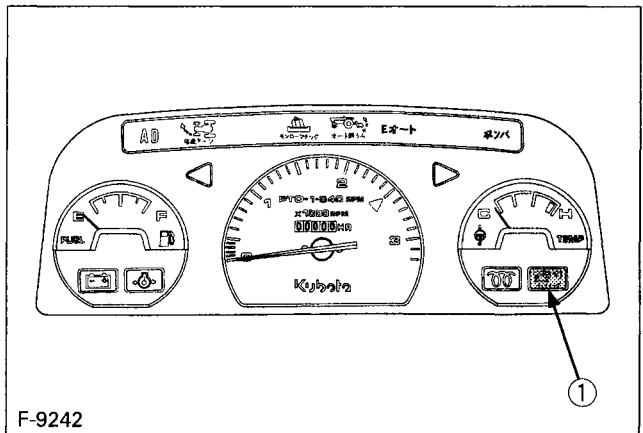


F-9243

1. 作業機を下げたままの“うっかりバック”から作業機を守ります。
2. バックアップで上昇した作業機下げるときは、油圧レバー又はポンパレバーを操作してください。

### ◆バックアップランプ

バックアップスイッチが“入”の位置で点灯します。

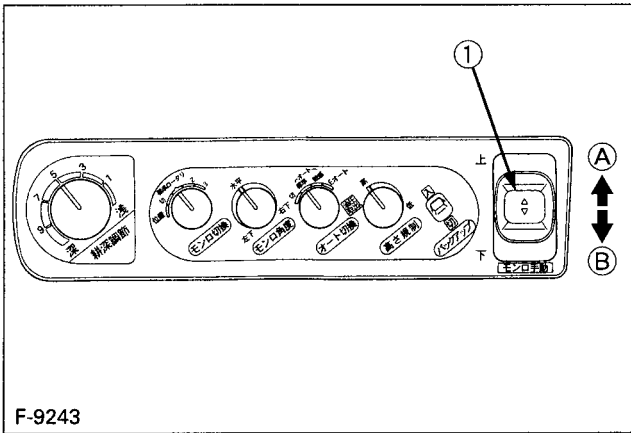


F-9242

#### ①バックアップランプ

### ■モンローマチック手動スイッチ

モンロー切換えスイッチが“切”の場合、作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



- ①モンローマチック手動スイッチ
- ▲ “上げ”
- ▼ “下げ”

1. “上げ”方向へレバーを押している間、作業機の右側が上がります。
2. “下げ”方向へレバーを押している間、作業機の右側が下がります。

### 重要

\*スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

### ◆モンローマチック“入”（自動）では次のような作業に効果があります。

トラクタ本体の傾きにかかわらず、作業機の傾斜が一定になります。

1. モンローマチック角度調節ダイヤルが“水平”位置の場合
  - \* 水田でのあぜ際耕うん、枕地、凸凹地での均平耕うん
  - \* 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
  - \* 畑での畝立て、畝崩し作業その他
2. モンローマチック角度調節ダイヤルが“水平”位置以外の場合
  - \* 広幅畝立て、その他

### ◆モンローマチック“切”（手動）では次のような作業に効果があります。

- \* メロンなどの高畝作り、その他
- \* 作業機の着脱

### 重要

\*モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には、“切”で作業してください。

\* “手動”で作業機を傾斜させるとき、作業機を上端に上げると、ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

\* チェックチェーンを張りすぎますと、モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

### ■作業機の取扱い

#### ◆リフトシリンダを取付け、取外しする場合

購入先にご相談ください。

- 取外す場合は、下記部品が必要となります。

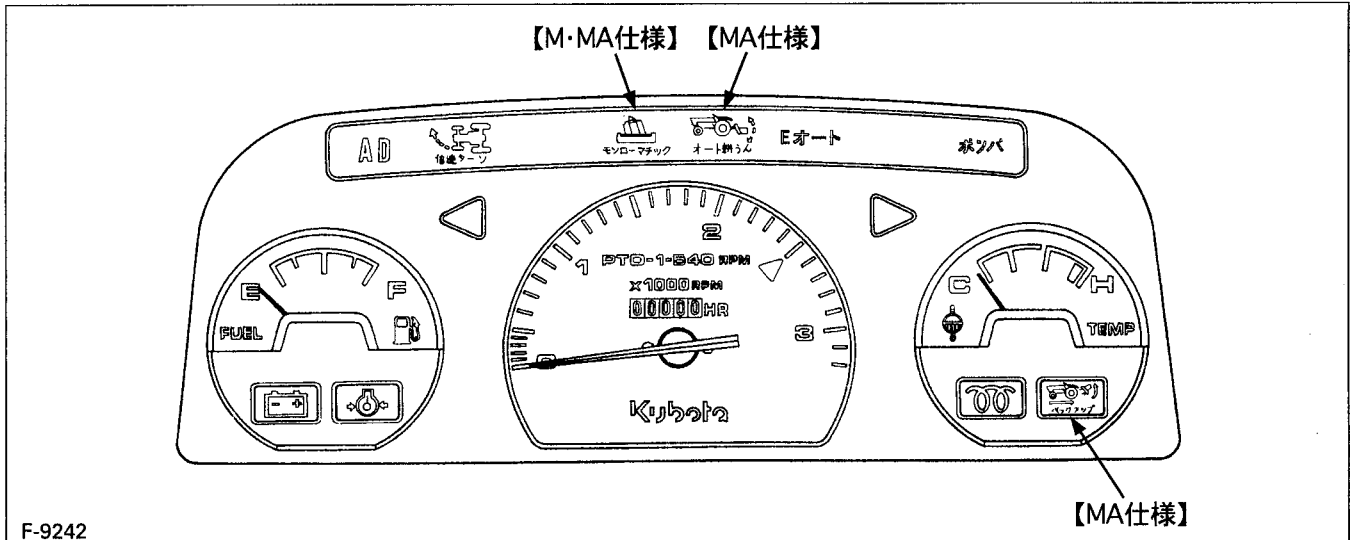
(別途購入品)

品番	品名	備考
99093-9800-1	キャップアッシ	キャップ及びプラグを含む



## ■故障・異常の表示

1. M・MA仕様は、下記のセンサを使用しています。
2. これらのセンサに異常が発生した場合には、オート耕うん、モノローマチック、Eオート、バックアップのランプで異常を表示します。（点検調整は購入先にご相談ください）
3. 異常の表示方法と対応方法を下に示します。



F-9242

【MA仕様】

センサ名称	警告方法	異常の現象	緊急の対応方法
①リフトアームセンサ	オート、モノローランプ点滅。	ポジション、オート、モノロー作動せず。	モノロー手動で平行にする。“油圧取出”位置で作業機昇降する。
②ポジションレバーセンサ	オート、モノローランプ点滅。	ポジション、オート、モノロー作動せず。	モノロー手動で平行にする。“油圧取出”位置で作業機昇降する。
③ストロークセンサ	モノローランプ点滅。	モノロー自動、位置制御作動せず。	モノロー手動で動かす。
④カバーセンサ	オートランプ点滅。	オート（標準,敏感）作動せず。	“Eオート”，油圧レバーで動かす。
⑤アクセルセンサ	Eオートランプ点滅。	Eオート作動せず。	“標準”，“敏感”では通常のMAとして作動する。
⑥エンジン回転センサ	Eオートランプ点滅。	Eオート作動せず。エンジン回転による制御を行なわない。	“標準”，“敏感”では通常のMAとして作動する。
⑦ローリングセンサ	—————	作業機が傾く。	手動又は位置制御で動かす。
⑧耕深調節	オート、Eオートランプ点滅。	オート、Eオート作動せず。	油圧レバーで動かす。
⑨モノロー切換え	モノローランプ点滅。	モノロー作動せず。	モノロー手動で動かす。
⑩モノロー角度調節	モノローランプ点滅。	モノロー作動せず。	モノロー手動で動かす。
⑪オート切換え	オート、Eオートランプ点滅。	オート、Eオート作動せず。	油圧レバーで動かす。
⑫高さ規制	オート、モノローランプ点滅。	ポジション、オート、モノロー作動せず。	モノロー手動で動かす。
⑬バックアップ切換え	バックアップランプ点滅。	バックアップ作動せず。	ポンパ、油圧レバーで上げる。

# タイヤ・ウエイト

## タイヤ

### ■タイヤの空気圧



#### 警告

\*タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

空気の入過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

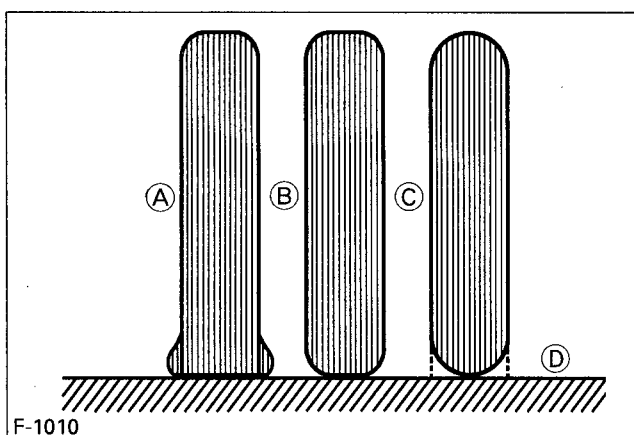
\*タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。

タイヤ破裂のおそれがあります。

\*タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。

（特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



- ①A 空気が不足  
 ②B 標準  
 ③C 空気が多い  
 ④D 接地面

### ◆標準空気圧

【 】内はフロントローダ装着時

	空気圧kPa(kgf/cm <sup>2</sup> )
前 輪	160 (1.6) 【200 (2.0)】
後 輪	100 (1.0), 120 (1.2)・・・12.4-28-4PRタイヤのみ

## ウエイト



### 注意

\*トラクタ後部作業機を装備したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。

装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。

前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。

\*フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

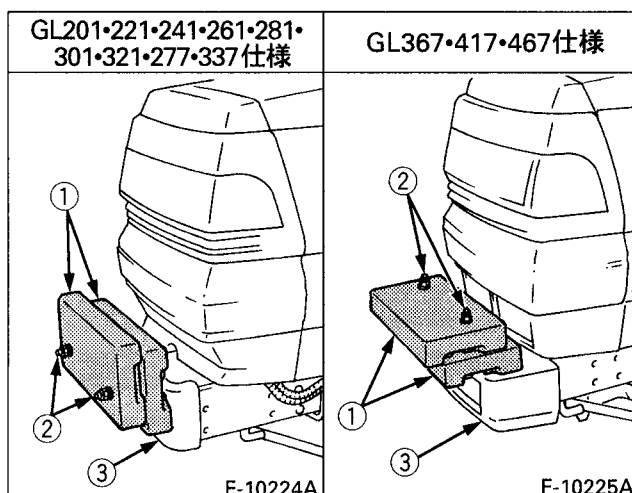
### ■ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプレメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

### ◆前部ウエイトの取付け方法

トラクタのフロントバンパにウエイトを付属のボルト、ナットで固定します。

ウエイト1枚の重量は28kgで1～3枚取付けできます。



- ①前部ウエイト  
 ②ボルト、ナット、ザガネ  
 ③フロントバンパ

## 輪距の調整



### 注意

\*けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は、左右の安定を良くするため、支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

### ■前輪

前輪の輪距は変更できません。

### ■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により、2～6段階に変えられます。(タイヤの仕様により異なります。)

### 重要

\*決められた輪距以外では使用しないでください。

### 補足

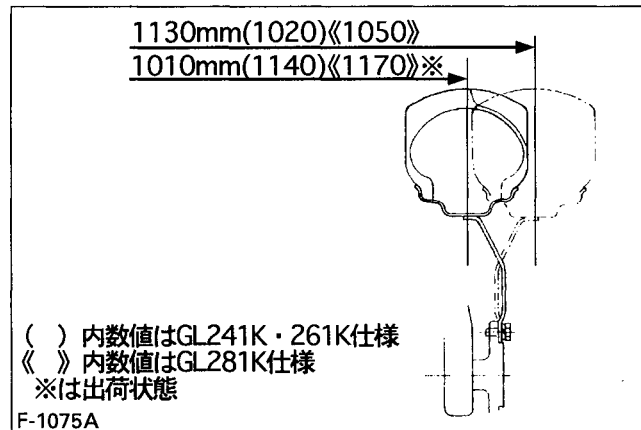
\*タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

\*ストレークは、最小輪距のときだけ取付けられます。

\*後輪ウエイトは、すべての輪距で取付けられます。

### ◆GL201・221・241・241K・261K・281K仕様

後輪の輪距は2段階に調節できます。



### ◆GL261・277・281・301(E)・321(E)・337・367(E)・417(E)・467(E)仕様

後輪の輪距は5段階又は6段階に調節できます。

### 補足

\*輪距によりディスクの組換えもあわせて行なってください。

\*安全キャブ仕様はGL281Qのみ輪距が異なります。

形式 (標準タイヤ)	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距
GL261・GL277 GL301E (11.2-24)	1050 mm (出荷状態)	1145 mm	1070 mm	1165 mm	1250 mm	1345 mm
GL281 GL321E (11.2-26)	——	1130 mm (出荷状態)	1145 mm	1245 mm	1320 mm	1420 mm
GL301 (12.4-26)	1090 mm (出荷状態)	1185 mm	1260 mm	1360 mm	1380 mm	1480 mm
GL321・GL337 (13.6-24)	1110 mm (出荷状態)	1205 mm	1235 mm	1330 mm	1480 mm	1575 mm
GL367(E) GL417E GL467E (12.4-28)	——	1180 mm (出荷状態)	1201 mm	1299 mm	1375 mm	1473 mm
GL417・GL467 (13.6-26)	——	1155 mm (出荷状態)	1227 mm	1325 mm	1349 mm	1447 mm
GL281Q (11.2-26)	1110 mm (出荷状態)	1210 mm	1230 mm	1330 mm	1405 mm	1500 mm
GL241J (9.5-26)	1080 mm (出荷状態)	1190 mm	1275 mm	1290 mm	1370 mm	——
GL281J (11.2-28)	1105 mm (出荷状態)	1205 mm	1235 mm	1335 mm	1400 mm	1495 mm

# キャブ装備品の取扱い

## ドア・窓の開閉とロック



### 注意

\*リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つおそれがあります。)

\*ガラスを破損させるおそれがありますのでキャブ内には物を載せないでください。

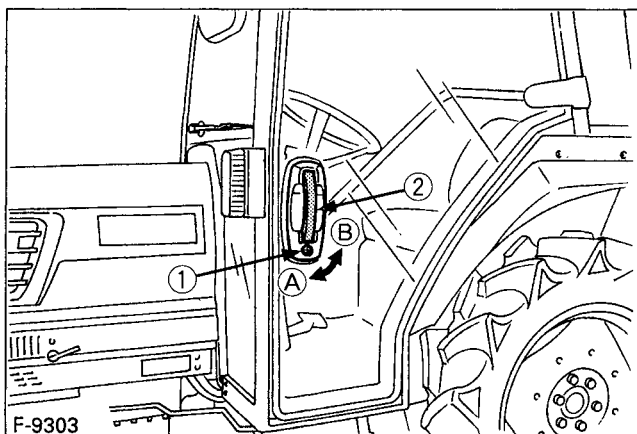
\*ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

### ■ドア

#### ◆ドアの開閉とロック

車外から……キーを回すと“施錠”“解錠”されます。

ドアアウトハンドルを引き、開けます。



①ドアキー

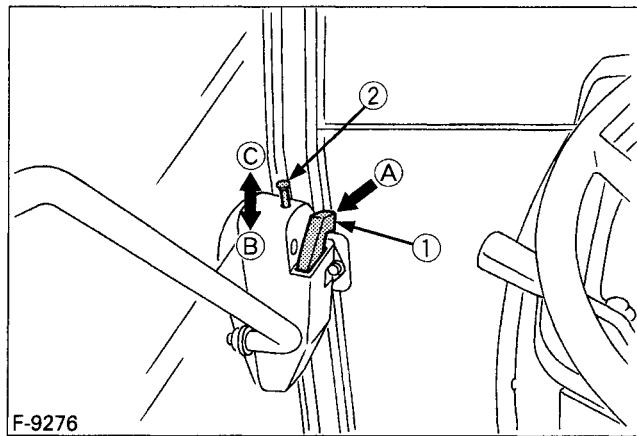
Ⓐ “施錠”

②ドアアウトハンドル

Ⓑ “解錠”

車内から……ロックノブを下げると“施錠”，上げると“解錠”されます。

インナハンドルを引き、開けます。



F-9276

①ドアインナーハンドル

Ⓐ “開く”

②ロックノブ

Ⓑ “施錠”

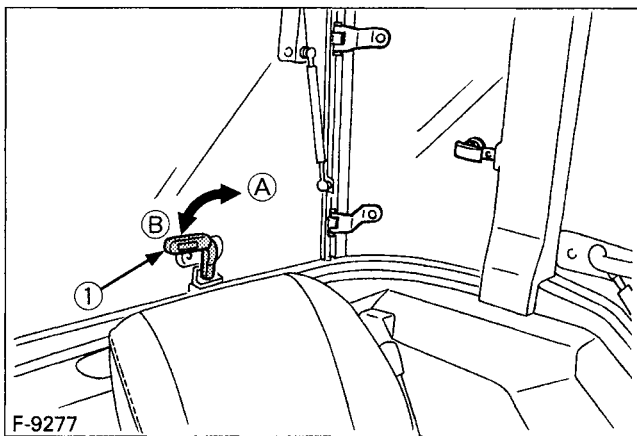
Ⓒ “解錠”

### 補足

\*ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

### ■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。



F-9277

①リヤウインドハンドル

Ⓐ “開”

Ⓑ “閉”

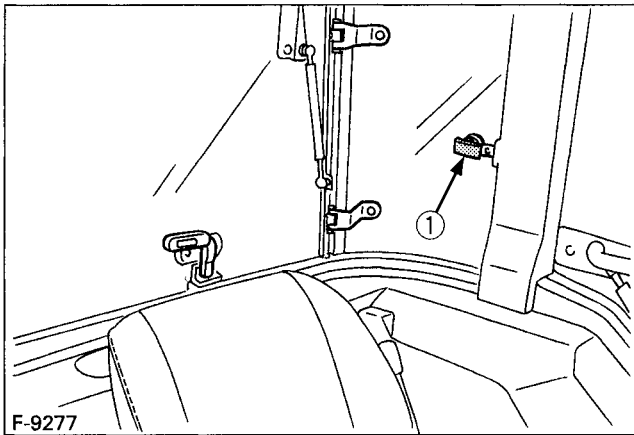
### 重要

\*作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。

\*リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

## ■クォータウインド

止め金具を手前に引き、ガラスと共に外側へ押すと開きます。



①止め金具

### 重要

\*クォータウインドを開放したままで、悪路走行をしないでください。

## ■ルームランプ

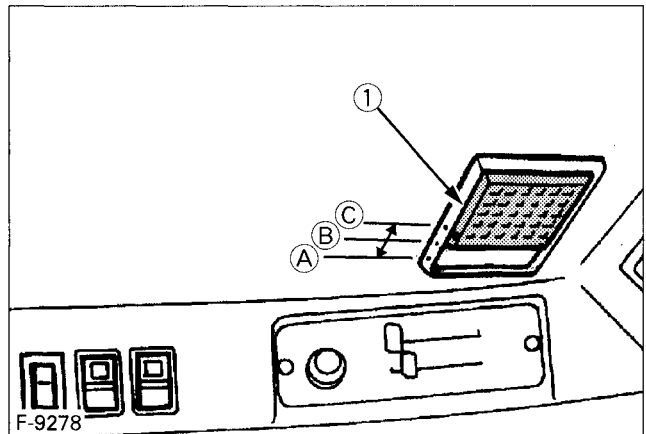
ルームランプカバーを前後方向にスライドさせることにより、スイッチが作動します。

“OFF” ……常時消灯。

ドアを開けてもランプは点灯しません。

“DOOR” ……ドアを開けるとランプが点灯し、閉めるとランプは消灯します。

“ON” ……ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



①ルームランプ

- ① “ON”
- ② “DOOR”
- ③ “OFF”

## ワイパ

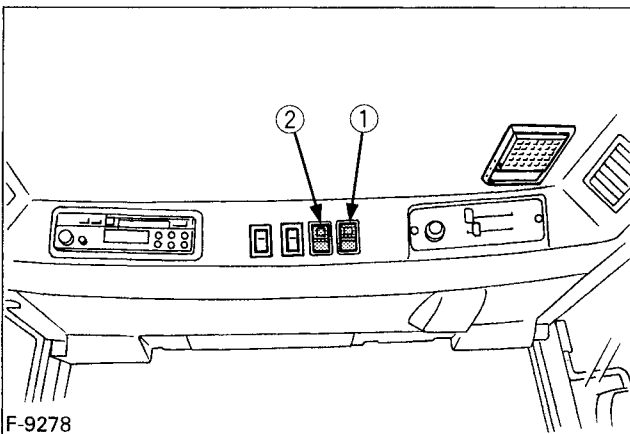
### ■フロントワイパ・ウォッシュスイッチ

### ■リヤワイパ・ウォッシュスイッチ

ウォッシュスイッチの上側を1段押すとワイパが作動します。さらに2段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシュ液が噴射します。また、ワイパが“OFF”の状態でもスイッチの下側を押すと、押している間ウォッシュ液が噴射します。ウォッシュスイッチはライト点灯時点灯します。

#### 補 足

\*からぶきはガラスを傷つけることがあります。  
必ずウォッシュ液を噴射してからワイパを作動させてください。



F-9278

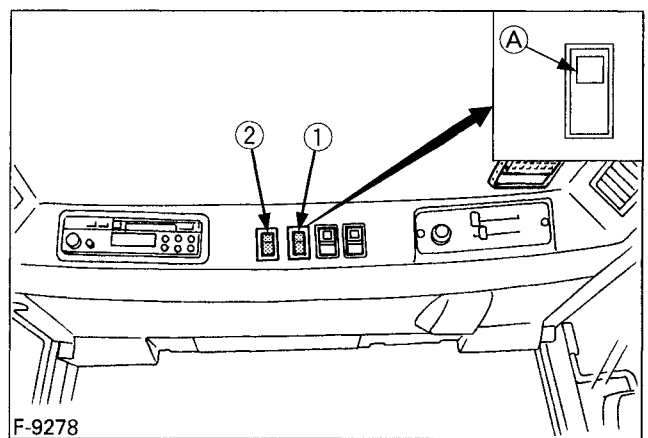
- ①フロントワイパ・ウォッシュスイッチ
- ②リヤワイパ・ウォッシュスイッチ

## 作業灯

GL201・221・241 仕様	前2灯
GL241J・261・281・301・321 277・337・367・417・467仕様	前後4灯

キースイッチ“入”位置にして、作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯します。このとき、スイッチのランプも点灯します。下側を押すと消灯します。

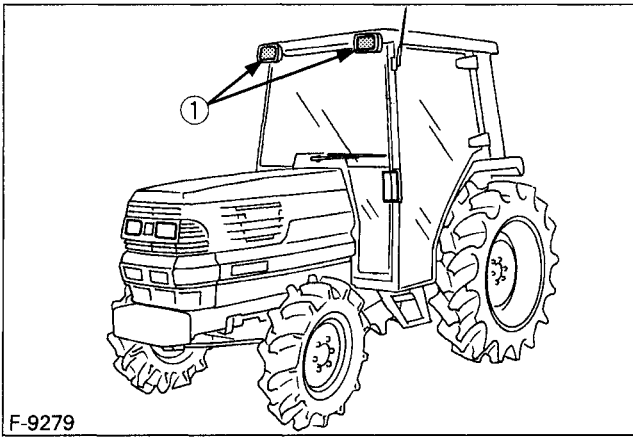
### ■作業灯スイッチ



F-9278

- ①作業灯（前）スイッチ
- ②作業灯（後）スイッチ
- Ⓐランプ

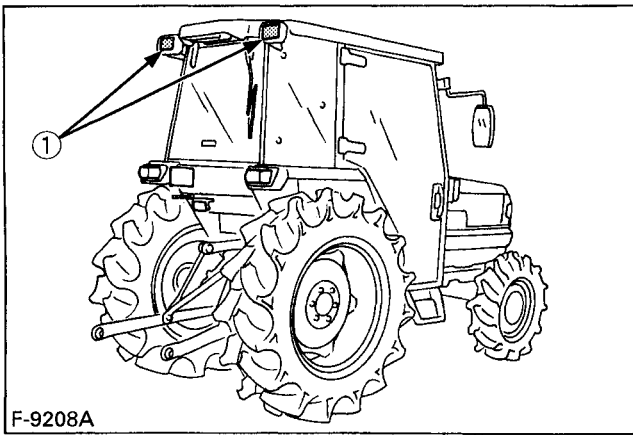
## ■作業灯（前）



F-9279

①作業灯（前）

## ■作業灯（後）



F-9208A

①作業灯（後）

### 重要

\*バッテリーがあがりますので、ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を $1600\text{min}^{-1}$  (rpm)以上にしてください。

### 補足

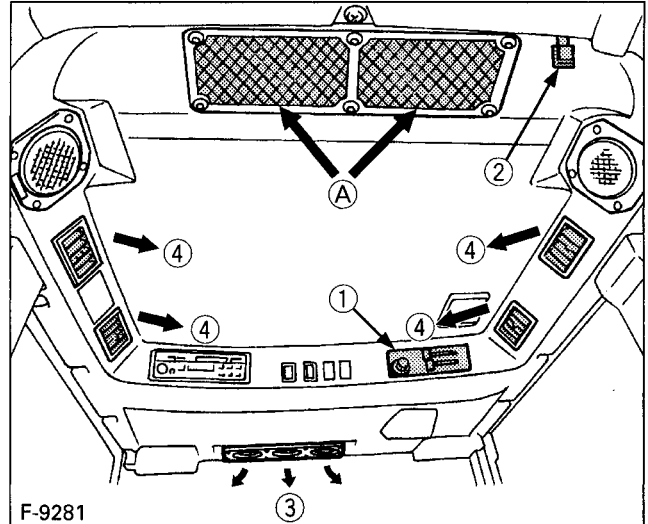
\*作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

## エアコン【Q仕様】

### ■空気の流れ

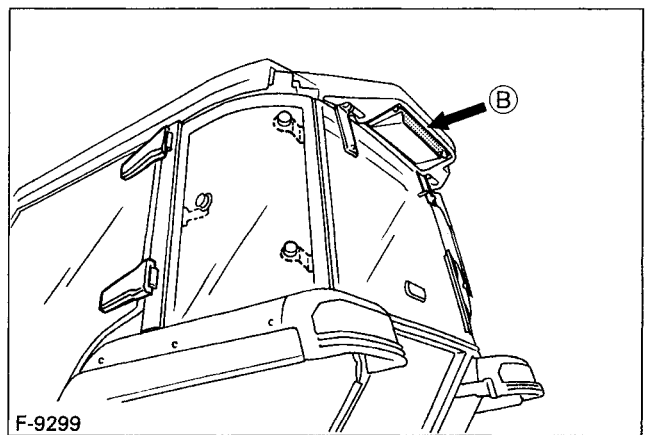
キャブ内の空気の流れは下図の通りです。

5カ所の吹出口の調節により、最適のコンディションが得られます。



F-9281

- ①パネルスイッチ
- ②内外気切換えレバー
- ③フロント吹出口  
(フロントガラス・足元)
- ④サイド吹出口(顔面・背面)
- ⑤内気循環導入口



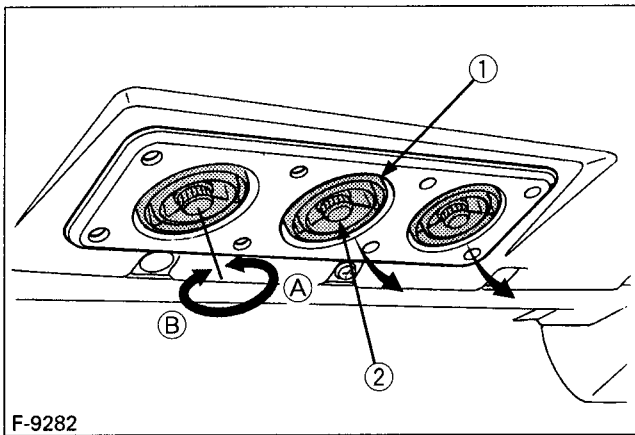
F-9299

⑥外気導入口

## ■風向調整

### ◆フロント吹出口

1. 風の方向は、吹出し口により自由に調整できます。  
デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する  
場合、吹出し口をフロントガラスの方向に向け  
てください。
2. 吹出口は、中央のつまみを回すことで吹出口の開閉  
ができます。



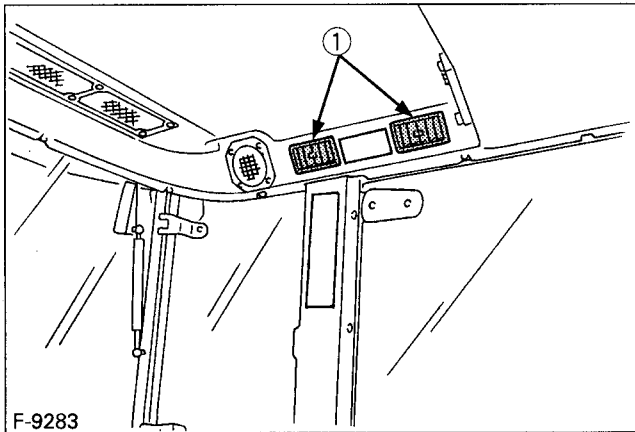
F-9282

①フロントグリル  
②つまみ

Ⓐ吹出口“開”  
Ⓑ吹出口“閉”

### ◆サイド吹出口

冷風の方向は、ルーバーの向きにより自由に調整でき  
ます。



F-9283

①サイドグリル

### ◆内外気切換えレバー

外気導入……レバーを“外気”位置にすると、キャブ  
室内に外気が入ってきます。

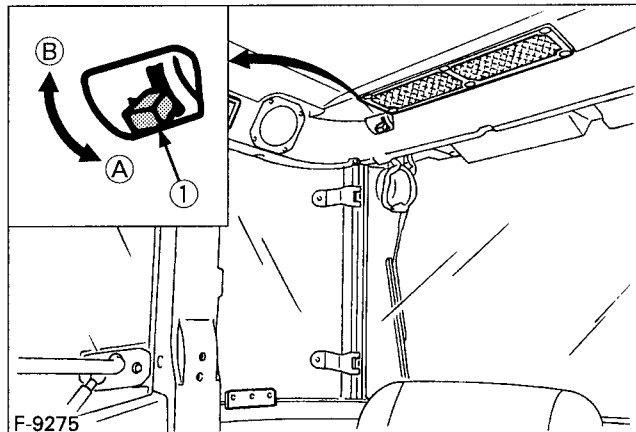


ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に  
使用します。

内気循環……レバーを“内気”位置にすると、外気は  
入りません。



早く冷暖房をきかせたいときや強くきか  
せたいときに使用します。



F-9275

①内外気切換えレバー

Ⓐ“外気”  
Ⓑ“内気”

### 補足

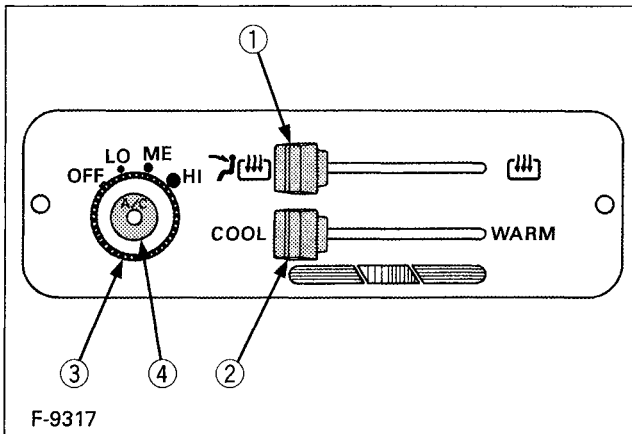
\*内気循環での長時間暖房は避けてください。

ガラスが曇りやすくなります。

\*ほこりが多い作業では、外気導入で使用してく  
ださい。外気を採り入れることにより室内の圧力が  
上昇し、キャブ室内にほこりが入りにくくなりま  
す。





## ■コントロールパネル



- ①モードレバー
- ②温度コントロールレバー
- ③ファンスイッチ
- ④エアコンスイッチ

### ◆モードレバー

 フロント吹出口及びサイド吹出口より風が出ます。

 フロント吹出口より風が出ます。

### ◆温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風、左に寄せると冷風が出ます。

### ◆LO・ME・HIファンスイッチ



風量が3段階に切換えられます。“HI”は最も風量の多い位置です。

### ◆ エアコンスイッチ

エアコンを使うときは、このスイッチを押して“ON”にします。“ON”のとき、インジケータランプが点灯します。

## ■取扱い操作方法


### ◆暖房

1. モードレバーを  又は  にします。
2. 内外気切換えレバーを外気導入にします。  
早く室温を上げたいときは内気循環にします。
3. ファンスイッチ(LO・ME・HI)と温度コントロールレバーを調整し、快適な温度にします。

### 補 足

\* 夏期ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、温度コントロールレバーをCOOL(左端)に寄せてください。

### ◆冷房・除湿暖房


1. モードレバーを  にします。
2. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し“ON”にします。
4. ファンスイッチ(LO・ME・HI)を作動させます。
5. 温度コントロールレバーをCOOL又は中間位置に調整し、快適な温度にします。

### ◆頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で、温度コントロールレバーを中間位置で使用すると、顔が涼しく足元が暖かい(頭寒足熱)快適な状態が得られます。

### ◆デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは、

1. フロント吹出口を開き、フロントガラスの方向に向けます。
2. モードレバーを  にします。
3. 内外気切換えレバーを外気導入にします。
4. ファンスイッチをHI、温度コントロールレバーをWARM(右端)にします。

## ■ヒータ使用上の注意

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。  
また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。  
(冷却水の排水のしかたは、“2年ごとの点検・整備”の“冷却水の交換”の項を参照してください。)
3. ウォータホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検  
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。  
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
  - \* ウォータホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ、
  - \* ウォータホースジョイント部の水漏れ
  - \* ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの  
外れ、破損
  - \* 本体取付けボルトの緩み、ブラケットの破損
5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

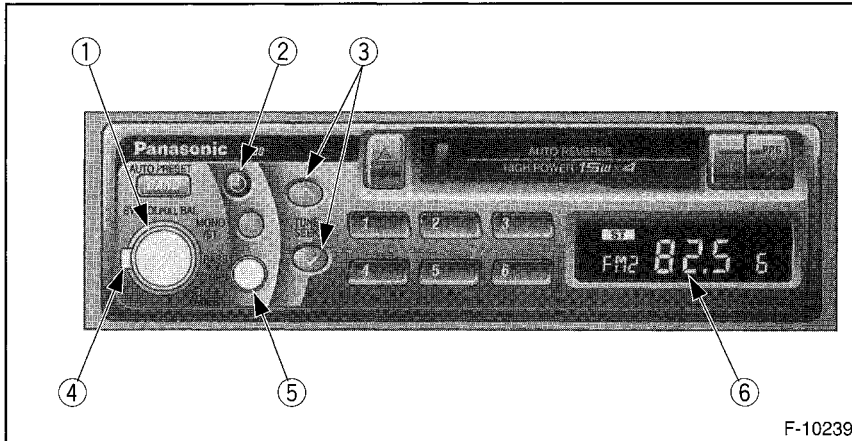
## AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い



### 注意

\*運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

### 共通部の操作のしかた



- ①電源/音量・左右のバランス調整ツマミ
- ②⌚ 時計ボタン
- ③⤴ / ⤵ 時計調整ボタン
- ④フェダー調整ツマミ
- ⑤低音/高音調整ツマミ
- ⑥ディスプレイ時計・周波数デジタル表示

F-10239

### ■電源の入/切のしかた, 音量・左右のバランス調整

#### ◆電源/音量調整ツマミ

ツマミを時計方向 (⌚) に回すと電源が“ON”になり, さらに回すと音量が増大します。

反時計方向 (⌚) に回すと音量が減衰し, さらに回すと電源が“OFF”になります。

#### ◆バランス調整ツマミ

ツマミを引きながら時計方向 (⌚) に回すと右側スピーカの音量が強調されます。

ツマミを引きながら反時計方向 (⌚) に回すと左側スピーカの音量が強調されます。

### ■フェダー調整

#### ◆フェダー調整ツマミ

2スピーカ方式のため, ツマミを反時計方向 (⌚) にいっぱい回してご使用ください。

#### 補足

\*ツマミを時計方向 (⌚) に回すと音が出なくなります。

### ■低音・高音の調整

#### ◆低音/高音調整ツマミ

ツマミを時計方向 (⌚) に回すと低音が強調され, 反時計方向 (⌚) に回すと低音が減衰されます。ツマミを引き時計方向 (⌚) に回すと高音が強調され, 反時計方向 (⌚) に回すと高音が減衰されます。

### ■時計表示のしかた

#### ◆⌚ 時計ボタン

電源が“ON”のとき, ⌚ ボタンを押すと, ディスプレイが時計表示になります。

時計表示は, ⌚ ボタンを再度押すか, 他のボタン操作により解除されます。

### ■時計の調整のしかた

#### ◆⤴ / ⤵ 時計調整ボタン

①電源を“ON”にし, ⌚ ボタンを押して時計表示にします。

初回調整時のみ Add が表示されます。

②再度, ⌚ ボタンを2秒以上押して時計調整モードにします。このとき“時”表示が点滅します。

③⤴ 又は ⤵ ボタンを押して“時”表示の調整をします。(“時”の数字が増減)

④⌚ ボタンをもう一度押すと“分”の調整モードになります。このとき“分”表示が点滅します。

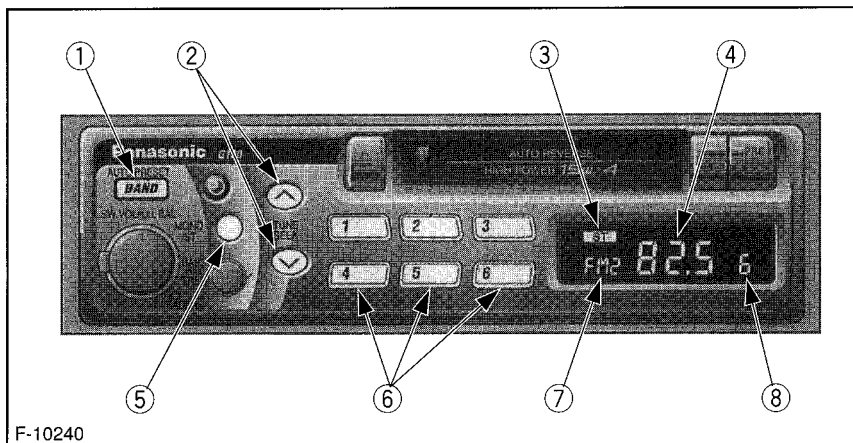
⑤⤴ 又は ⤵ ボタンを押して“分”表示の調整をします。(“分”の数字が増減)

⑥⌚ ボタンを再度押すと時計の調整が完了し, もとの表示に戻ります。

#### 補足

\*⤵ ボタン, ⤴ ボタンを押し続けると, 連続して“時”又は“分”が変わります。

## ラジオを聞くには



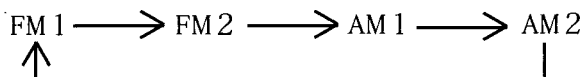
- ①AM/FMバンド切換えボタン／オートプリセットボタン
- ② $\wedge$  /  $\vee$  周波数同調ボタン
- ③ **ST** ステレオインジケータ
- ④受信周波数インジケータ
- ⑤モノ/ステレオ切換えボタン
- ⑥1～6(プリセット)ボタン
- ⑦バンドインジケータ
- ⑧プリセットインジケータ

### ■バンド切換え／オートプリセット

#### ◆AM/FMバンド切換えボタン

電源を“ON”にする。

バンド切換えボタンを一回押すごとにバンドが下記のように切り替わり、バンドインジケータも同時に表示されます。



#### 補足

\*カセットテープが挿入されている場合、 $\blacktriangle$  イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

#### ◆オートプリセットボタン

〔“オートプリセットのしかた”の項参照〕

### ■手動選局のしかた

#### ◆ $\wedge$ / $\vee$ 周波数同調ボタン

$\wedge$  ボタン (上側) を押すごとに、周波数のデジタル表示数が上がり、 $\vee$  ボタン (下側) を押すごとに表示数が下がりますので、ご希望の放送局のところに選局してください。

### ■自動(シーク)選局のしかた

#### ◆ $\wedge$ / $\vee$ 周波数同調ボタン

$\wedge$  ボタン (上側) 又は  $\vee$  ボタン (下側) を押す (約2秒) と、周波数が上又は下に移行し、放送局のあるところで自動的に停止し、周波数がデジタル表示されます。

### ■プリセットメモリ(放送局のメモリ)について

あらかじめ、プリセットボタンにご希望の放送局をプリセット (放送局メモリ) しておきますと、ワンタッチで選局することができます。

プリセットは、下記の通り最大24局まで行なえます。

FM 1	FM 2	AM 1	AM 2
最大6局	最大6局	最大6局	最大6局

#### ◆プリセットのしかた

- ①バンド切換えボタンを押し、ご希望のバンド (FM 1 → FM 2 → AM 1 → AM 2) に切換えます。
- ②  $\wedge$  ボタン又は  $\vee$  ボタンで、ご希望の放送局を手動選局又は、自動選局します。
- ③①②の操作で放送局を選局したら、メモリさせたいチャンネル (1～6) のプリセットボタンを押し続け、一度受信周波数インジケータが点滅したら離してください。  
これでプリセットボタンに放送局メモリは完了しました。
- ④同じように、別のプリセットしたい放送局は①～③の操作を繰り返してください。

#### 補足

\*一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作をすると、前にメモリされた放送局は解除されます。

## ■オートプリセットのしかた

- ①バンド切換えボタンを押し、ご希望のバンドに切換えます。
- ②オートプリセット(バンド切換え)ボタンを2秒以上押し、電波の強い順に6局まで現在のバンドのプリセットメモリに自動的にメモリし、その後プリセットスキャンします。

### 補 足

\*オートプリセットボタンを押すと、プリセットスキャンモードになり、あらかじめプリセットされている放送局を順番に呼び出し、5秒間ずつ受信します。

動作中はディスプレイ表示が点滅します。

\*オートプリセット、プリセットスキャンを解除する場合、再度オートプリセットボタンを押してください。

## ■ディスプレイ表示

### ◆バンドインジケータ

FM1, FM2, AM1, AM2バンドを表示します。

### ◆受信周波数インジケータ

受信周波数をデジタル表示します。

AM放送受信時はKHz単位で、FM放送受信時は、MHz単位で表示します。

### ◆プリセットインジケータ

プリセットボタン(1~6)を押すと、そのチャンネルを表示します。

### ◆ステレオインジケータ (FM放送)

ステレオ放送受信時に **ST** の文字を表示します。

## ■FM放送時のモノラル/ステレオ切換え

### ◆モノ/ステレオ切換えボタン

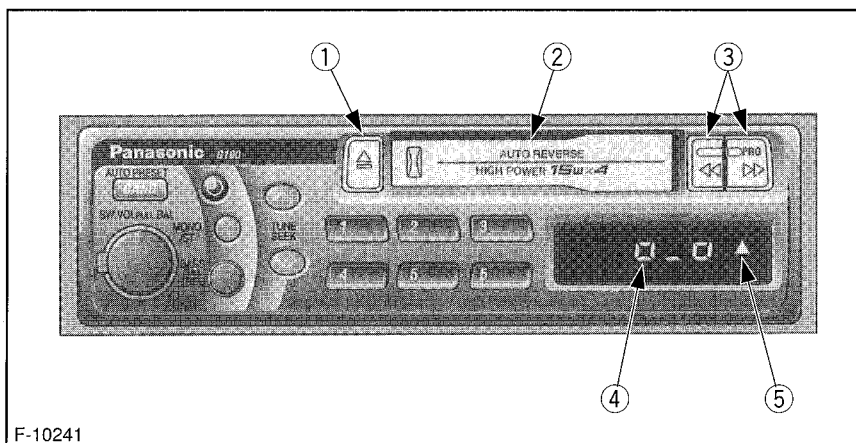
FM放送受信時に押し、モノラル受信モードに切りかわり、“MONO”表示が点灯します。

再度押し、ステレオ受信モードに切りかわります。

電波の状態によりノイズが発生し聞きとりにくい場合は、モノラル受信モードに設定してください。

■ラジオの放送は同一のプログラムが各地の放送局から送られていることがありますので、感度のよい放送局に合わせてください。

## テープを聞くには



F-10241

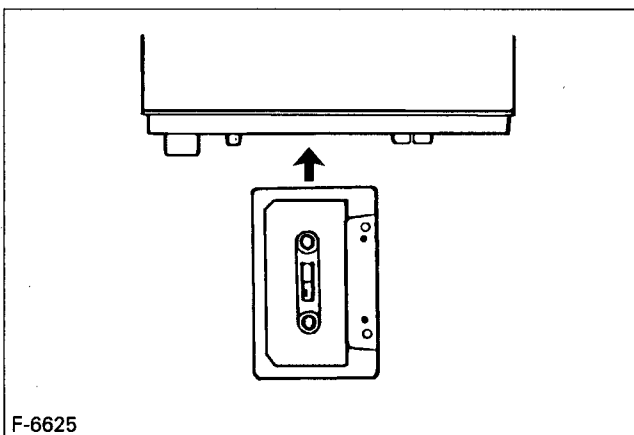
- ① イジェクトボタン
- ② カセットテープ挿入口
- ③ 早送り, 巻戻しボタン / プログラム切換えボタン (両押し)
- ④ テーププレイインジケータ
- ⑤ プログラムインジケータ

### ■カセットテープの挿入

電源を“ON”にする。

カセットテープのテープ面を右側にし、聞きたい面を上側にして挿入します。

挿入されると同時に演奏を開始します。このとき、テーププレイインジケータは または 、プログラムインジケータは または が点灯します。



F-6625

### ■演奏面の切換え

#### ◆プログラム切換えボタン

の両ボタンを同時に軽く押すと、演奏面が切り変わり、ディスプレイに表示されます。

: 上面を演奏しています。

: 下面を演奏しています。

テープが終端になると、このボタンを押さなくても自動的に演奏面が切り変わります。

### ■巻戻し, 早送り

#### ◆ 巻戻しボタン

巻戻しボタンを押すと、現在演奏している面のテープを巻戻します。巻戻しが完了すると自動的にテープの初めより演奏を開始します。

#### ◆ 早送りボタン

早送りボタンを押すと、現在演奏している面のテープを早送りします。早送りでテープが終端になると、自動的に演奏面が切り変わり演奏を開始します。

#### 補足

\*巻戻し又は早送りを途中で中止するときは ボタンを同時に押します。

\*巻戻し(早送り)の動作中はテーププレイインジケータおよびプログラムインジケータが点滅します。

\*下面演奏の場合( )、巻戻しと早送りの方向も切り変わります。

### ■カセットテープの取出し

#### ◆ イジェクトボタン

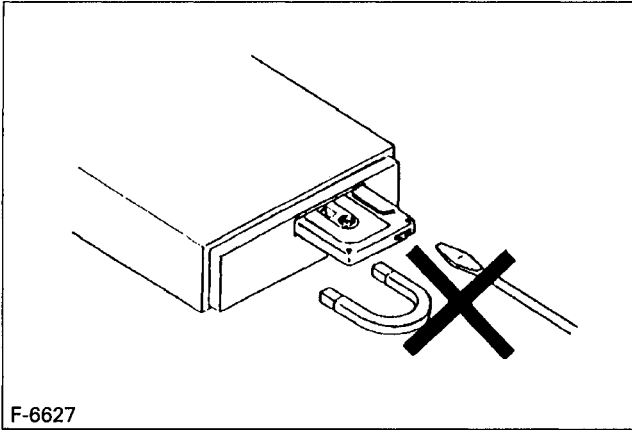
イジェクトボタンを押すと、カセットテープが取出され、ラジオ放送に切り変わります。

#### 補足

\*カセットテープを聞かないときは、必ず イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

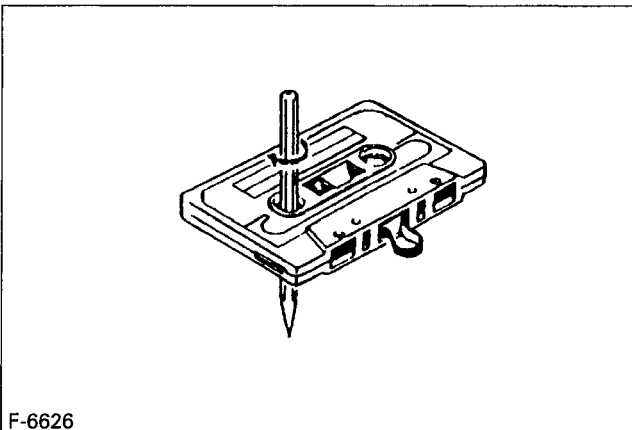
## 取扱い上の注意

1. 本機は、水分や高温、多湿を嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに、磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



F-6627

3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので、テープのゆるみを直してからご使用ください。



F-6626

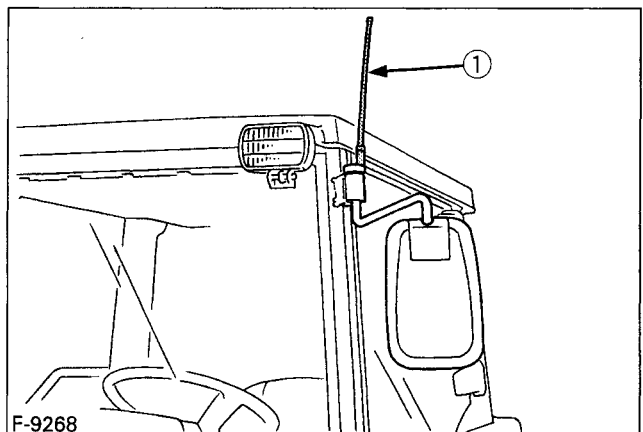
4. カセットテープは、水平にし、カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120タイプのカセットテープは、テープ自身が非常に薄く、伸びたり、切れたりしますので、ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ、またケースが変形しているカセットテープは、メカニズムの故障の原因となりますので、ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため、ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお、クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

8. 車内の温度に気をつけてください。

極寒や酷暑のとき、とくに夏期は車内の温度が大変高くなる場合がありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。また、車を降りられるときには、必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

9. 本機操作は、安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また、運転中の音量は事故防止のため、車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽く拭取ってください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音、多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

## ■アンテナ



F-9268

### ①アンテナ

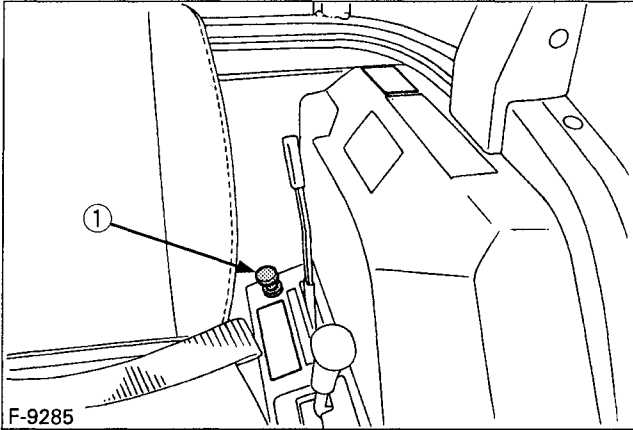
## ■重要

\* アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

## 灰皿

### ■シガライタ

シガライタはキースイッチが“入”のときに、使用できます。



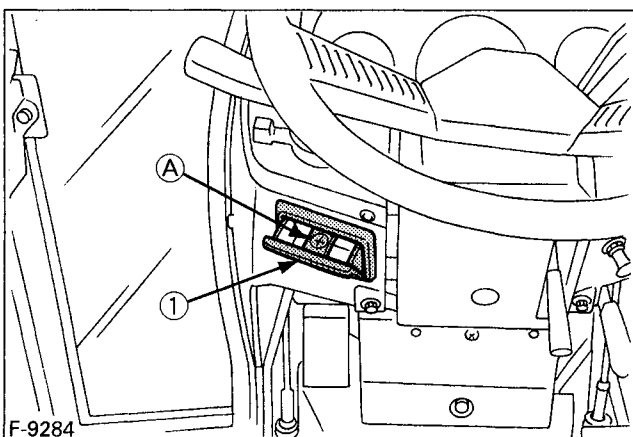
①シガライタ

### 補足

\*シガライタはシート右後部の“予備電源カプラ”に接続されています。“予備電源カプラ”を作業機などの電源として使用する場合は、このカプラ部で接続しなおしてください。

### ◆アッシュトレイ (灰皿)

1. 上部を手前に引出して使用します。
2. 清掃するときは、(A)部を押し下げて、手前に引出すと外れます。

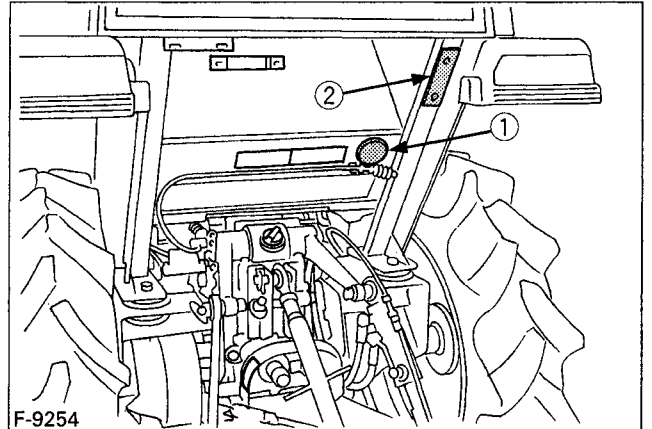


①灰皿

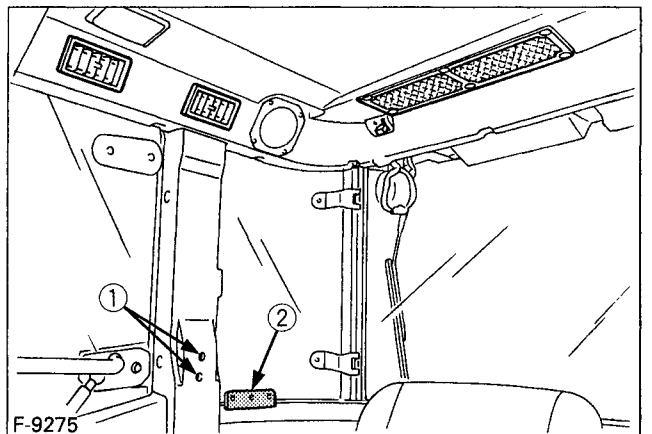
## インプレメントの装着

### ■インプレメント用操作ボックスの組付け

ゴムキャップに穴を開け、インプレメント用操作コード・油圧ホースなどをキャブ室内に導入してください。



- ①ゴムキャップ
- ②外部取出し油圧バルブ取付け位置



- ①ローダ用操作ボックス取付け位置
- ②ローダ用コントロールボックス取付け位置



# トラクタの簡単な手入れと処置

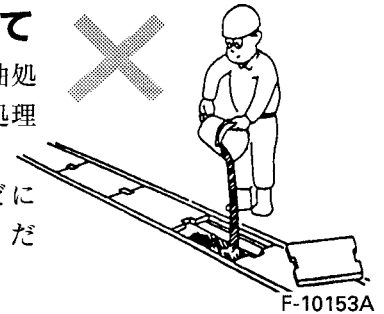


\* 給油及び点検整備するときは

- ① トラクタを平たんな広い場所に置き
- ② 作業機を降ろし
- ③ 駐車ブレーキをかけ
- ④ エンジンを止め
- ⑤ キーを抜き、安全を確認してから行なってください。  
そうしないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## 廃油処理について

- \* 抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し、処理してください。
- \* 廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



## 定期点検箇所一覧表 [専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。]

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施しましょう。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エンジンオイル	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	81
2	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	交換	◎			○				○						○			200時間ごと	85
3	油圧オイルフィルタ カートリッジ	交換		◎		○				○						○			200時間ごと	86
4	ミッションオイル	交換		◎						○								○	400時間ごと	90
5	ステアリングギヤ ボックスオイル 【マニュアルステアリング仕様】	点検								○								○	400時間ごと	90
6	前車軸ケースオイル	交換						○									○		300時間ごと	89
7	グリースの注入	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	77
8	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	78
9	けん制装置の点検	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	78
10	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	79
11	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	79
12	ワイヤハーネス、バッテリー ⊕コードの点検と交換	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	79
13	パワーステアリング ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	80
		交換																	2年ごと	93
14	燃料パイプ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	80
		交換																	2年ごと	93
15	バッテリー電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	81
16	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	83
		交換																	1年ごと	92
17	燃料フィルタエレメント	交換								○							○	400時間ごと	91	
18	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	83
19	クラッチペダル	調整	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	85
20	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	84
21	停止ソレノイドリンク	注油																	1年ごと	92
22	ラジエータホース	点検				○				○								○	200時間ごと	86
		交換																	2年ごと	93
23	トーイン、タイロッド	点検				○				○							○	200時間ごと	87	
24	エンジンバルブクリアランス	点検															○	800時間ごと	92	
25	前部デフケース前後遊び	調整															○	600時間ごと	91	

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

バッテリー電解液は年間使用時間が100時間以内の場合、1年ごとに点検を行なってください。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参 照 ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
26	ラジエータ (クーリングシステム)	洗浄																2年ごと	93	
27	冷却水	交換																2年ごと	92	
28	モンローシリンダホース	交換																2年ごと	93	
29	バッテリープラス カトリレー	リセ ット																必要に応じて	95	
30	燃料の空気抜きのかた	—																必要に応じて	94	
31	ヒューズ類	交換																必要に応じて	95	
32	ランプ類	交換																必要に応じて	95	

### 【キャブ仕様】

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参 照 ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○					○						○	200時間ごと	88	
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○					○						○	200時間ごと	88	
3	コンデンサの詰まり	清掃				○					○						○	200時間ごと	89	
4	エアコンベルトの張り	調節				○					○						○	200時間ごと	89	
5	ヒータ配管, ホース	点検																1年ごと	92	
6	エアコン配管, ホース	点検																1年ごと	92	
7	ウォッシュ液	補充																必要に応じて	96	
8	各部への注油	—																必要に応じて	96	
9	冷媒(ガス)量	点検																必要に応じて	97	

### 給油 (水) 一覧表

No.	給油(水)項目	容 量 (L)											備 考
		GL201	GL221	GL241	GL241K GL261K	GL281K	GL261 GL277 GL301E	GL281 GL321E	GL301	GL321 GL337	GL367(E) GL417(E) GL467(E)		
1	燃 料	27					35					クボタディーゼル重油又は ディーゼル軽油	
2	冷 却 水	6				7				6.9	清水(不凍液を入れた場合は、その量だけ 少なく清水を入れてください。)		
3	エンジンオイル	5.7 (オイルゲージ上限全量で)								8.2		クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 CC級又はCD級	
4	ミッションオイル (油圧オイル)	35	29	36	37	35	41					スーパーUDT	
5	ステアリングギヤ ボックスオイル 【マニュアルステアリング仕様】	0.2	—										
6	前車軸ケース	3.2	3.5	3.9									
7	各操作レバー ペダル支点	注 油											
8	三点リンク	注入・塗布											
9	バッテリーターミナル	塗 布											
10	倍速カム	塗 布											シャーシグリース
11	パワーステアリング シリンダ 【GL367・417・467仕様】	注 入											
12	ウォッシュ液 【キャブ仕様】	2											自動車用ウォッシュ液

## 推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

### ■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル ステアリングギヤボックスオイル
日 石 三 菱	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイルスーパーUDT
コ ス モ 石 油		
ジ ャ パ ン エ ナ ジ ー		
昭 和 シ ェ ル 石 油		
富 士 興 産		

### ■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日 石 三 菱	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コ ス モ 石 油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジ ャ パ ン エ ナ ジ ー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭 和 シ ェ ル 石 油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モ ー ビ ル 石 油	プレックス47, ラックスEP2	モービルグリースJL
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出 光 興 産	シャーシグリース	アポイルオートレックスA
ゼ ネ ラ ル 石 油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キ グ ナ ス 石 油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

## フロントグリル 及びサイドカバーの外し方



### 注意

- \*エンジン回転中は絶対にサイドカバーを開けないでください。
- \*マフラーが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

### ■フロントグリル及びサイドカバー



### 注意

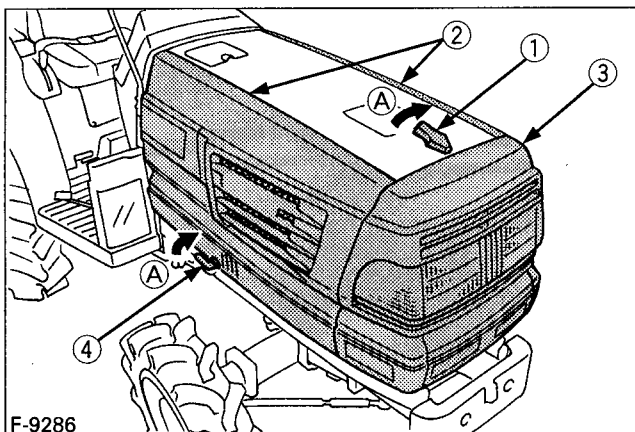
- \*ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

- ①フロントグリルはマスコットを回すと外れます。

#### 補足

- \*フロントグリルを外す場合、ヘッドライトの配線コネクタを外してください。

- ②サイドカバーはロックハンドルを回すと外れます。



- ①マスコット
- ②サイドカバー
- ③フロントグリル
- ④ロックハンドル

A "回す"

## 日常点検



### 注意

- \*火気厳禁
- \*点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
- \*燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- \*トラクタは常に清掃しておいてください。  
バッテリー、配線、マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因になります。
- \*運転中及び停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴き出してヤケドすることがあります。
- \*エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、内部が十分に冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

### 1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

### 2.トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか、点検してください。

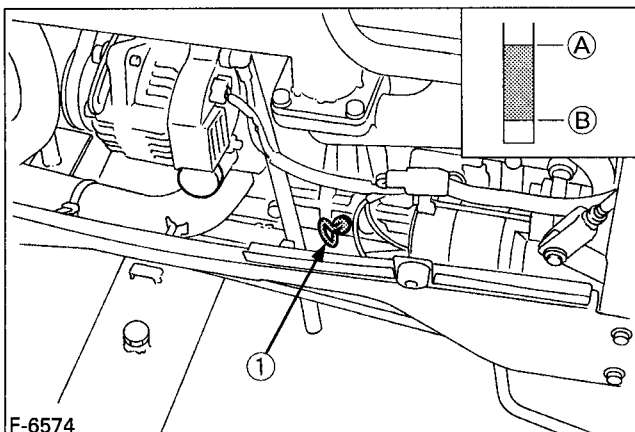
## ■エンジンオイルの量及び汚れ



### 注意

\*点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

- ① オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込から再び抜き“下限と上限の間”にオイルがあるかを調べます。
- ② “下限”以下の場合は補給してください。ただし、“上限”以上には入れないでください。



① オイルゲージ

Ⓐ “上限”  
Ⓑ “下限”

### 重要

- \*点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- \*オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。そうしないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

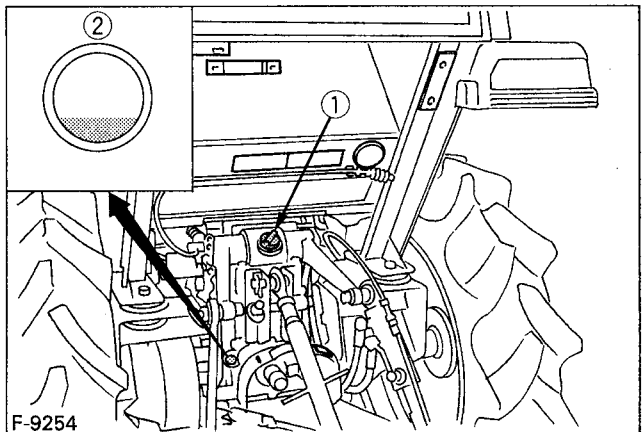
## ■ミッションオイルの量及び汚れ



### 注意

\*点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

- ① エンジン始動後、オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。ロータリ付の場合は、ロータリを下げて確認してください。
- ② 検油窓以下の場合には補給が必要ですが、検油窓以上には入れないでください。(油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。)



① 給油口

② 検油窓

## ■冷却水の量



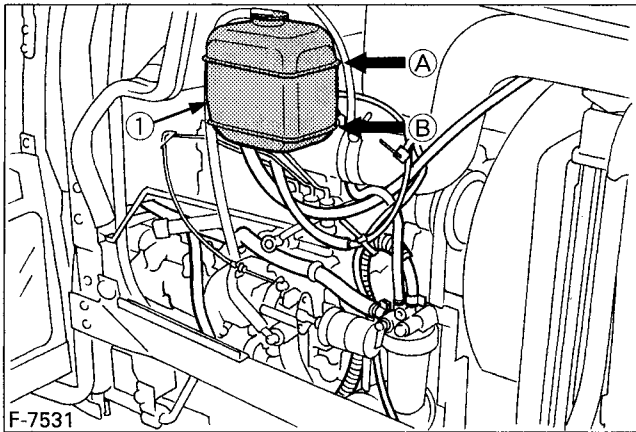
### 注意

\*ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。“FULLからLOWの範囲”であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は、FULLのレベルまで補給してください。

FULL以上は入れないでください。



①リザーブタンク

Ⓐ “FULL”

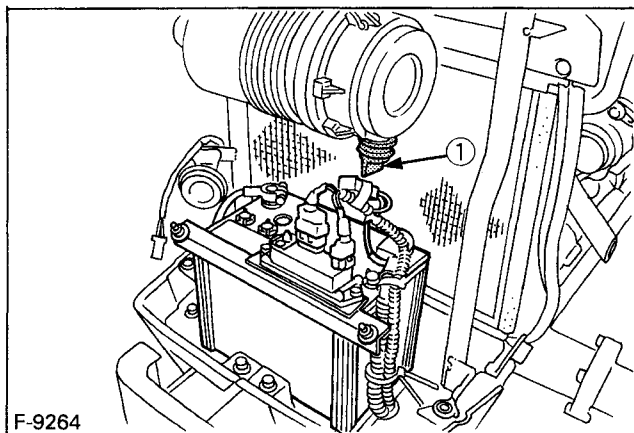
Ⓑ “LOW”

### 補足

\*ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

## ■バキューエータバルブの清掃

バキューエータバルブを開き、ゴミを取除いてください。水分があるときは、エアクリーナを掃除してください。



F-9264

①バキューエータバルブ

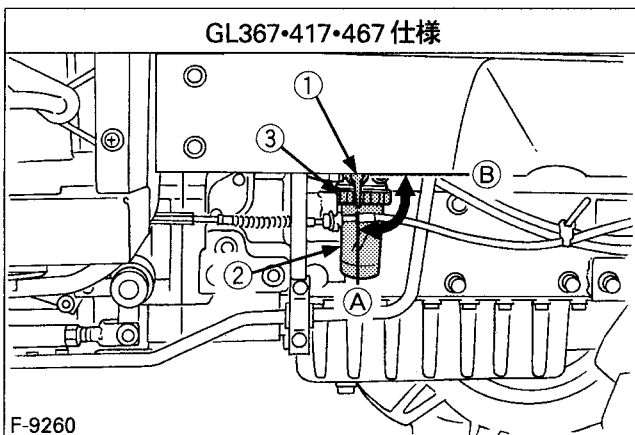
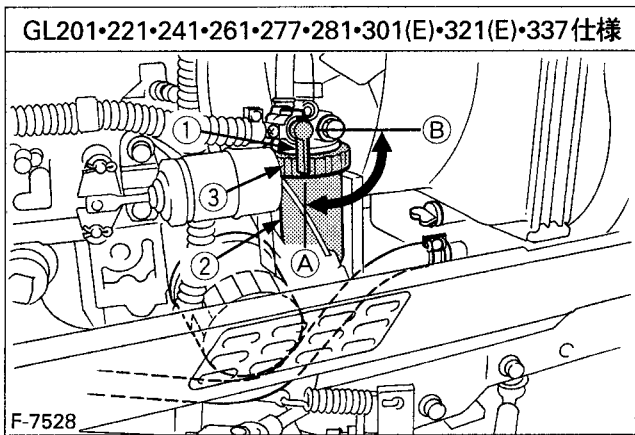
### ■燃料フィルタの水、沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら燃料フィルタコックを閉じ、フィルタを外し、水・ゴミを取除いてください。このときは、必ず空気抜きをする必要があります。

- ①燃料フィルタコックを“OFF”にしてください。
- ②カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し、内部を軽油で洗浄します。

### 重要

- \*組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
- \*エレメントを交換したのちは、必ず空気が抜けたことを確かめた後、運転してください。  
〔“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”の項を参照〕



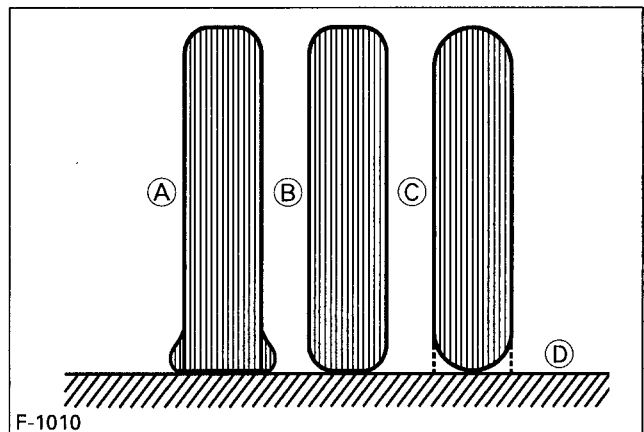
- ①燃料フィルタコック           A “ON”
- ②燃料フィルタ                B “OFF”
- ③リテーナリング

### ■タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷



- \*タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。  
空気の入過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起す原因になります。
- \*タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。  
タイヤ破裂のおそれがあります。
- \*タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。  
(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



- Ⓐ 空気が不足
- Ⓑ 標準
- Ⓒ 空気が多い
- Ⓓ 接地面

### ◆標準空気圧

【 】内はフロントローダ装着時

	空気圧kPa(kgf/cm <sup>2</sup> )	
前 輪	160 (1.6)	【200 (2.0)】
後 輪	100 (1.0), 120 (1.2)…12.4-28-4PRタイヤのみ	

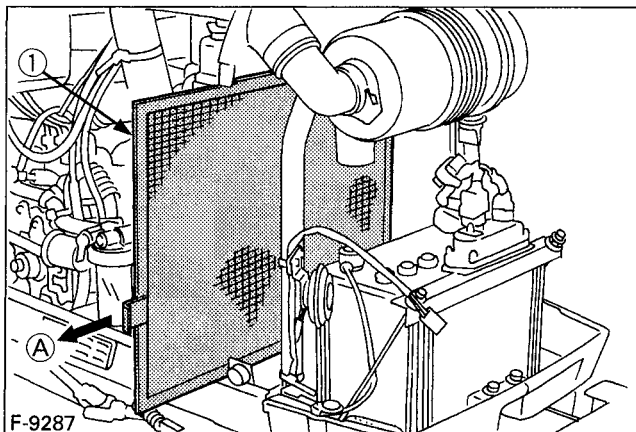
## ■防虫網の清掃



\*エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。

防虫網を引出して掃除します。



①防虫網

A "引出す"

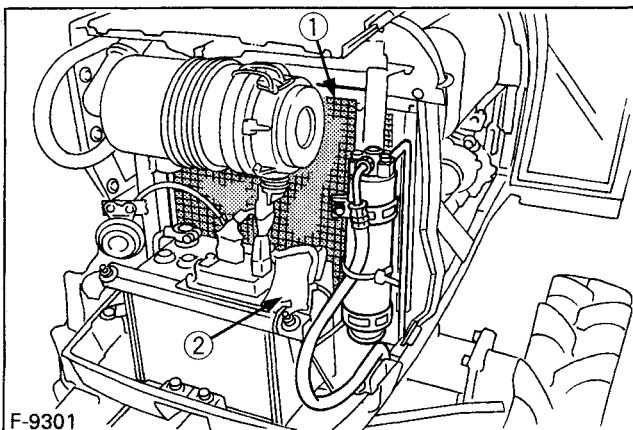
## ■防虫網の清掃（コンデンサ用）

エアコン仕様では、ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。

防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は、必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。

## ■重要

\*防虫網は金属性ですので、バッテリーの⊕端子に触れないように特に注意してください。



①防虫網

②⊕端子

## 3. 運転席に座って

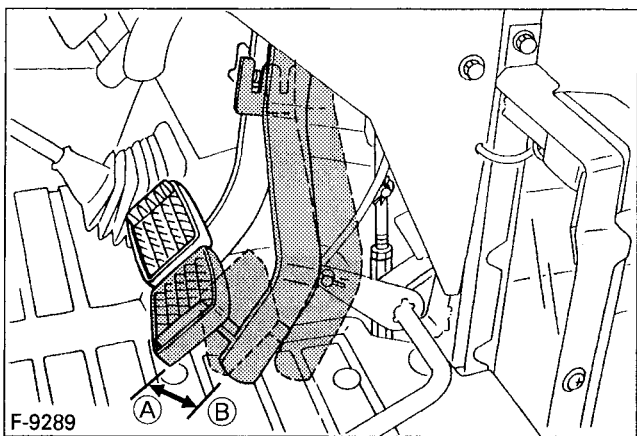
### ■ブレーキペダルの遊び・点検



\*ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ペダルを踏んで遊び量が“15～20mm”かどうか、また左右ブレーキの踏込み量の差が5mm以内かどうかを調べます。

[調整のしかたは“100時間ごとの点検・整備”の“ブレーキペダルの点検・調整”の項を参照]

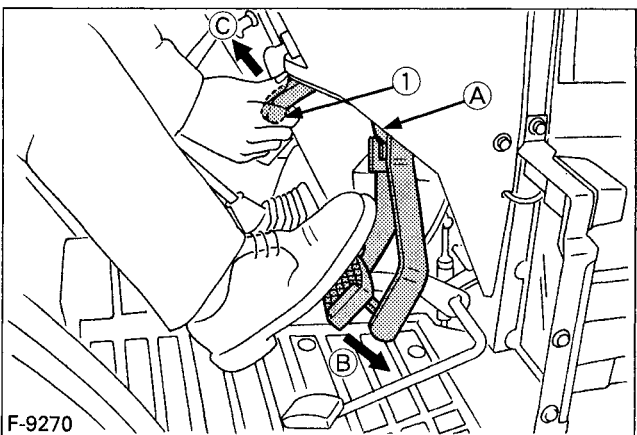


A遊び

Bこの位置での左右差  
5mm以内

### ■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み、レバーを“上げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。外すときは、ペダルを踏込めば外れます。



①駐車ブレーキ  
レバー

A “連結金具をかける”

B “踏込む”

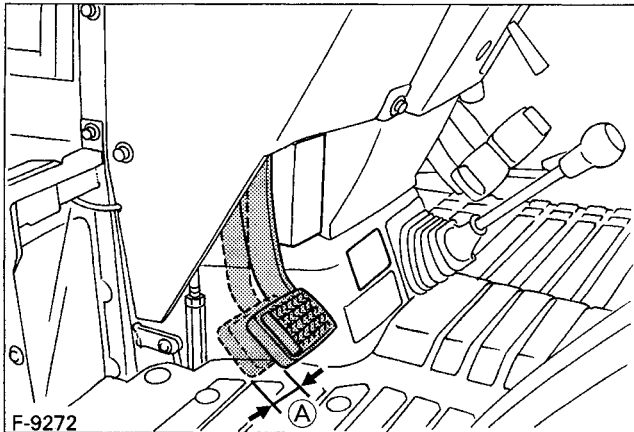
C “上げる”



## ■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が“20～30mm”あるか確認してください。

〔調整のしかたは“100時間ごとの点検・整備”の“クラッチペダルの点検・調整”の項を参照〕



F-9272

(A)遊び

### 重要

＊クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起し損傷につながります。

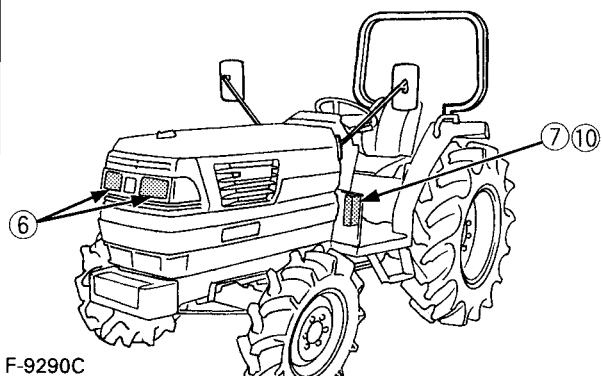
## 4.エンジンを始動して

### ■メータ・ランプ類の作動

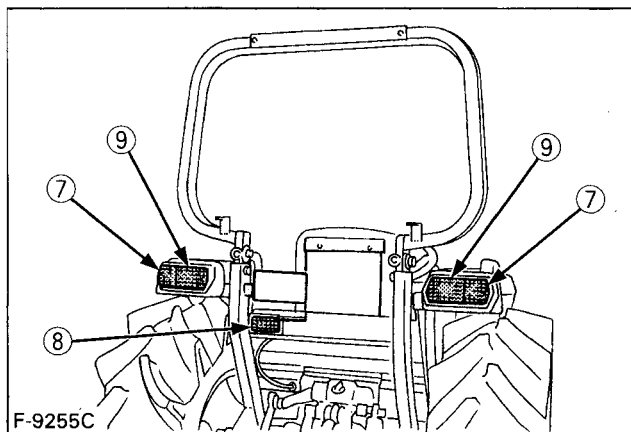
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

- ①燃料計
- ②水温計
- ③エンジン回転計
- ④ホーン
- ⑤イージーチェッカ
- ⑥ヘッドライト
- ⑦ウインカ(前・後)
- ⑧後退灯【GL277・337・367・417・467仕様】
- ⑨尾灯(駐車灯), 制動灯  
【GL277・337・367・417・467仕様】
- ⑩車幅灯(駐車灯前)【GL277・337・367・417・467仕様】
- ⑪作業灯

### 安全フレーム仕様

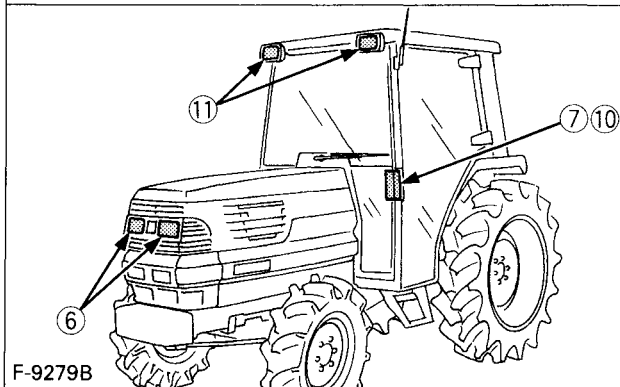


F-9290C



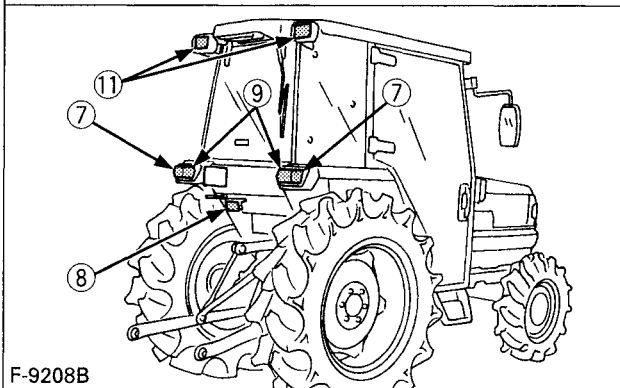
F-9255C

### キャブ仕様



F-9279B

### キャブ仕様



F-9208B

## 5. 燃料の補給



### 注意

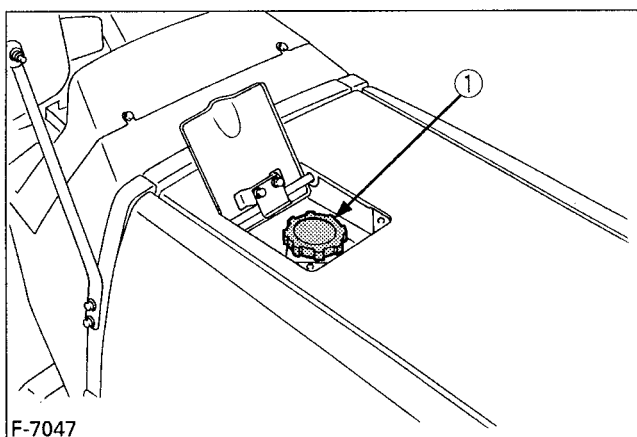
- \* 燃料を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。
- \* 火気厳禁。

燃料には、“クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油”を使用してください。

ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点(°C)
特 1 号	+5 以上
1 号	0 及び - 5
2 号	- 10
3 号	- 15 及び - 20
特 3 号	- 25 及び - 30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動が困難になります。



F-7047  
①燃料給油口

### 重要

- \* 燃料中にゴミや砂が混入していると、燃料噴射ポンプが作動不良になりますので、注意してください。
- \* 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
- \* 燃料キャップが締まっているか確認してください。

### 燃料給油ポンプの取扱い



### 警告

- \* 火気厳禁。
- \* ガソリンエンジン搭載車（田植機、バインダーなど）やベンジンなどには使用しないでください。火災のおそれがあります。
- \* 給油中は離れないでください。万一クランプが外れて軽油があふれるおそれがあります。

\* 使用後はスイッチを必ず“切”にしてください。

スイッチが“入”のままでは、電源プラグを差込むだけでポンプが作動します。



### 注意

- \* エンジンをかけながら給油しないでください。火災のおそれがあります。
- \* ポンプはポリタンクに差込んだままにしないでください。転倒時に軽油があふれるおそれがあります。
- \* ホース破れなど、もれたまま使用しないでください。噴出した軽油で目を痛めるおそれがあります。
- \* クランプが浮いたまま使用しないでください。また、クランプの位置をずらさないでください。軽油があふれるおそれがあります。
- \* 分解、改造をしないでください。
- \* センサや吸込み口を汚したり、傷をつけないでください。自動停止をせず軽油があふれたり、故障の原因になります。センサ部や吸込み口が汚れた場合は軽油で洗浄してください。
- \* 液もどし口より給油口が低いポリタンクは使用しないでください。軽油がもれるおそれがあります。
- \* 車体が傾いた状態では給油しないでください。吸込み不良やセンサの自動停止不良になるおそれがあります。
- \* クランプ部は取外したり、下側へスライドさせないでください。軽油があふれるおそれがあります。
- \* ゴミなどを吸込ませたり、水をかけないでください。自動停止せず軽油があふれたり、作動しなくなるおそれがあります。

- ① 使用時は、給油ポンプの吸込み口をポリタンクの底まで入れます。
- ② クランプを燃料給油口へ差込みます。
  - ① クランプを指で押えます。
  - ② 給油口の爪部に当たらない所にクランプを差込みます。
- ③ 電源コードをコンセントに差込みます。
- ④ トラクタのキースイッチを“入”位置にします。
- ⑤ スイッチを入れます。
  - “カチッ”と音がするまで押します。
  - 軽油が満タンになると自動停止します。
- ⑥ 給油が終わったら、ポンプのスイッチ、トラクタのキースイッチを切り、コンセントを抜いてポンプを取納してください。

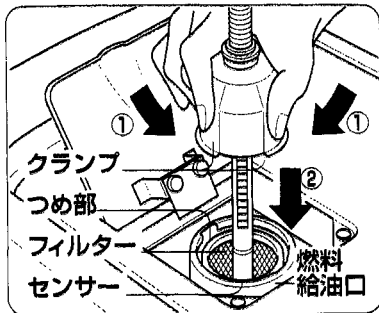
### 補足

- \* 必ず、吸込み口を軽油の中に入れてからスイッチを入れてください。スイッチを入れてから吸込み口を軽油の中に入れると空気がたまり吸上げません。

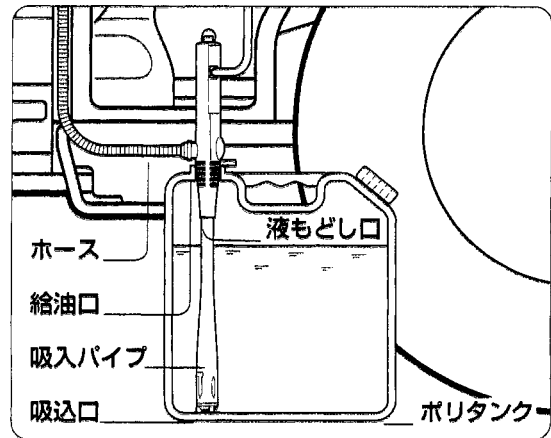
## ご使用方法

### 2 クランプを燃料給油口へ差し込む

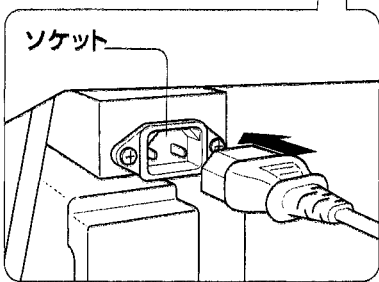
- ①クランプを指で押さえる。
- ②給油口のつめ部に当たらない所にクランプを差し込む。  
※つめ部に差し込むと、クランプがはずれて、油がもれる原因になります。  
※クランプ部を下側へスライドさせないでください。



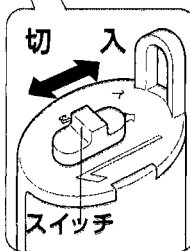
### 1 給油ポンプの吸込口をポリタンクの底まで入れる



### 3 電源コードをソケットに差し込む



### 4 スイッチを入れる



給油後は、必ずスイッチを「切」にしてください。

- 「カチッ」と音がするまで押す。
- 軽油が満タンになると自動停止します。
- ※必ず、吸込口を軽油の中に入れてからスイッチを入れてください。スイッチを入れてから吸込口を軽油の中に入れてると空気がたまり吸い上げません。
- ※水平な場所で給油してください。

### 補足

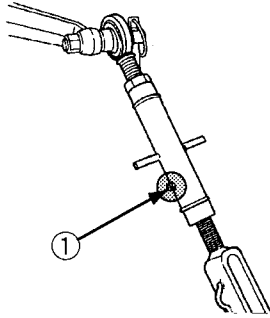
- \* 燃料給油口のフィルタや、ポリタンク内のゴミは洗浄（除去）してご使用ください。
- \* 自動停止後スイッチを切り、ホース内の残油を完全に流してからクランプを外し、油をよくきってください。
- \* ご使用後は、センサ部や吸込み口を布ぎれでふき取り、雨や直射日光の当たらない所に保管してください。
- \* コードは電源プラグを持って引抜いてください。また、電源プラグを改造したり、AC100V電源に使用しないでください。

## 50時間ごとの点検・整備

### ■グリースの注入

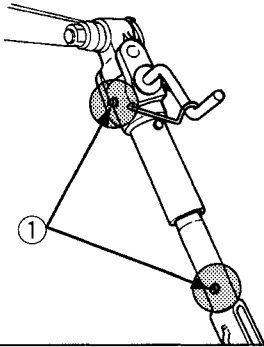
代かき作業などで泥水の中に入ったときは、1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは、“クボタ推奨グリース”を使用してください。

GL201・221・241仕様【M・MA仕様以外】



F-3168

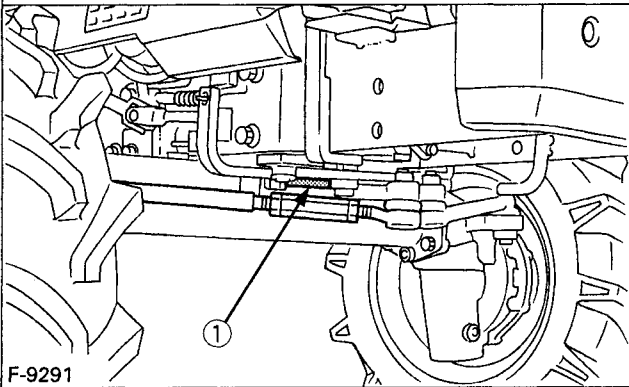
GL261・277・281・301(E)・321(E)・337・367・417・467仕様【M・MA仕様以外】



F-3169

①リフトロッド (右)

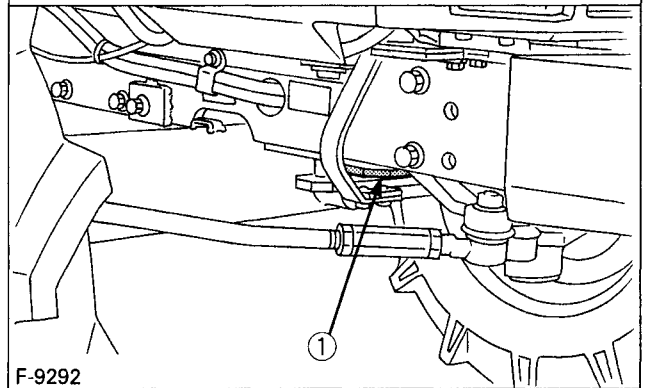
GL201・221・241・261・277・281・301・321・337仕様



F-9291

①倍速カム

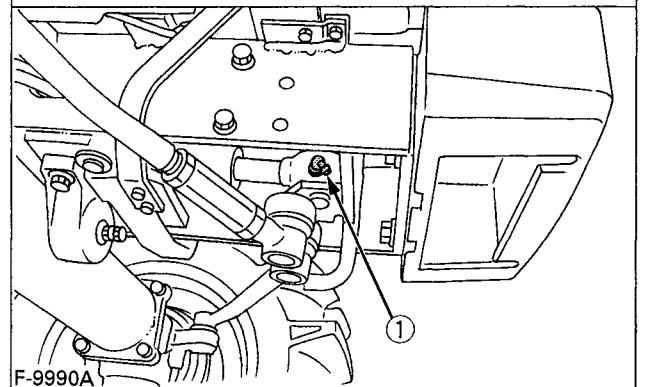
GL367・417・467仕様



F-9292

①倍速カム

GL367・417・467仕様



F-9990A

①パワーステアリングシリンダ

## ■エンジン始動システムの点検



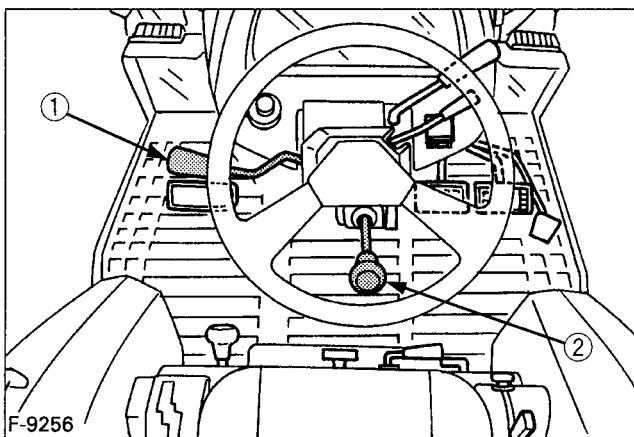
**注意**

\*点検中、トラクタに人を近づけないようにしてください。

\*装置に異常があれば必ず整備をした後、ご使用ください。

### ◆点検

- ①運転席に座り、主変速、シャトル及びPTO変速レバーを“中立”(N)にします。
- ②駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
- ③アクセルレバーを“最低速”位置にします。
- ④クラッチペダルを一杯踏込み、キースイッチを瞬時“始動”位置に回します。  
このとき、エンジンが回れば正常です。
- ⑤次に、クラッチペダルを一杯踏込んだままシャトルレバーを“前進”又は“後進”に、PTO変速レバーを“各変速段”〔一方が中立(N)の場合も含む〕に入れ、キースイッチを瞬時“始動”位置に回します。  
このとき、エンジンが回らなければ正常です。
- ⑥もし、不良の場合は、購入先へご相談ください。



- F-9256
- ①シャトルレバー
  - ②PTO変速レバー

## ■けん制装置の点検【BS仕様】

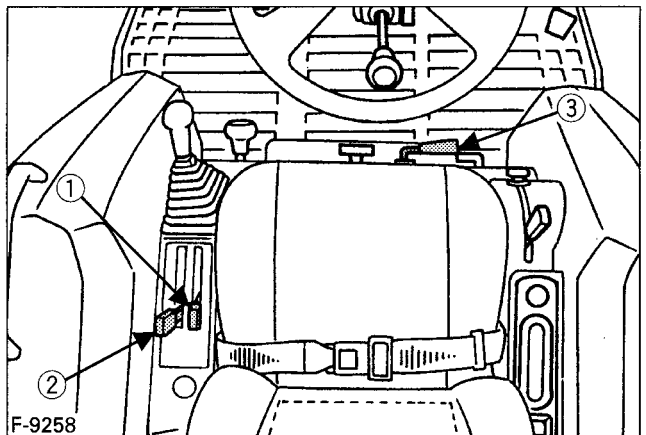


**注意**

\*装置に異常があれば必ず整備をした後、ご使用ください。

### ◆点検

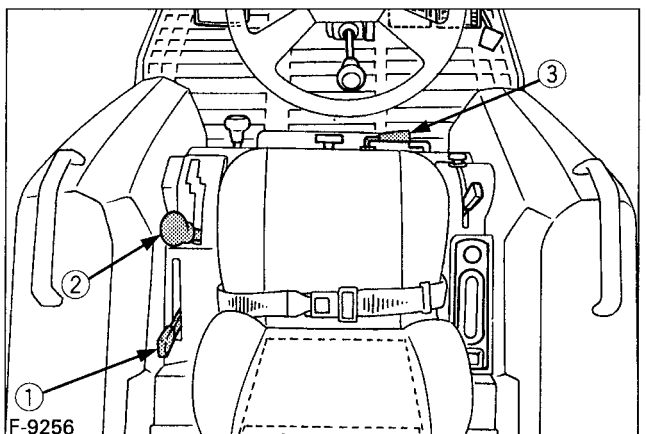
【マニュアルシフト仕様】



- F-9258
- ①クリープレバー
  - ②副変速レバー
  - ③ADレバー【BS仕様】

- ①運転席に座り、クリープレバーを“H”，副変速レバーを“L”，またADレバーを“入”にします。
- ②副変速レバーを“H”に入れます。  
このとき、けん制装置がはたらき、ADレバーが“切”になれば正常です。

【Uシフト(F)仕様】



- F-9256
- ①クリープレバー
  - ②主変速レバー
  - ③ADレバー【BS仕様】

- ①運転席に座り、クリープレバーを“H”，主変速レバーを“4速”，またADレバーを“入”にします。
- ②主変速レバーを“5速”に入れます。  
このとき、けん制装置がはたらきADレバーが“切”になれば正常です。

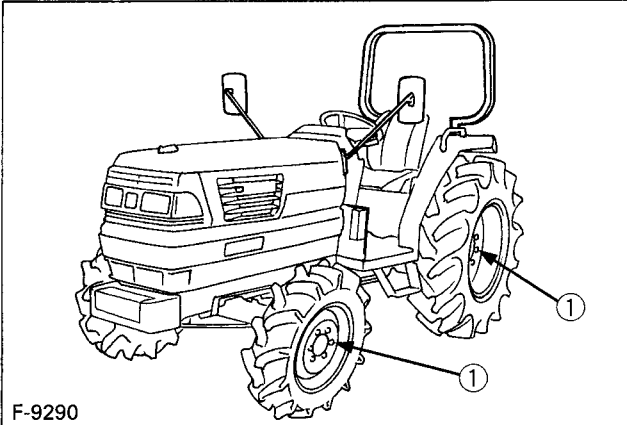
## ■タイヤ取付けボルトの点検



### 注意

\*タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。

ゆるんだまま走行すると、傷害事故を引起すおそれがあります。



F-9290

①ボルト／ナット

## ■ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの点検・交換



### 注意

\*ワイヤハーネス及びバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートを起すので必ず点検してください。

\*バッテリー、配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクス、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

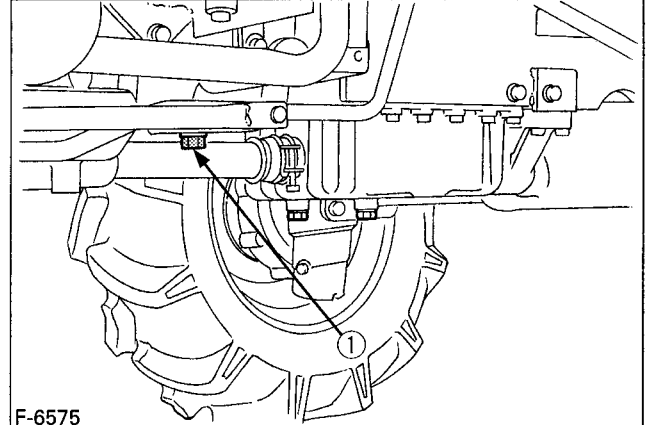
ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの被覆は各部の角に接触、ネズミのかじりなどにより、損傷したり自然劣化することがありますので、下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

## ■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで、クラッチハウジングに多量の水がかかった場合、又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水の侵入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥してください。



F-6575

①ドレーンプラグ

## ■パワーステアリングホースの点検

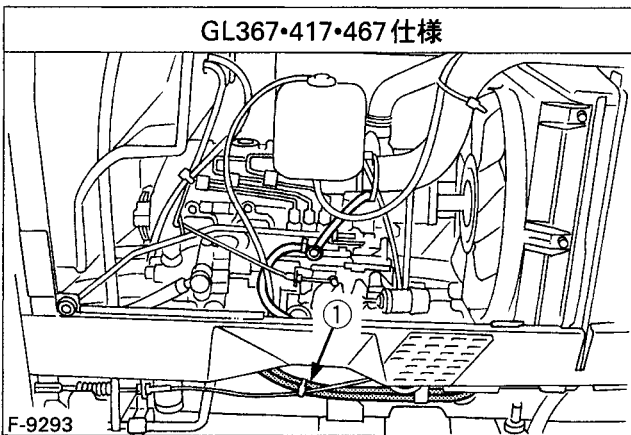
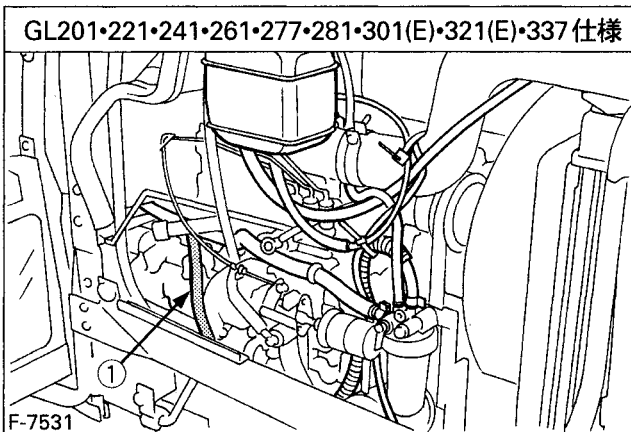


### 注意

- \*ホースの傷みは、必ず点検しましょう。
- ホースが破損しハンドル操作ができなくなり、傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは、使わなくても劣化する消耗品です。2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

### 重要

- \*交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

## ■燃料パイプの点検

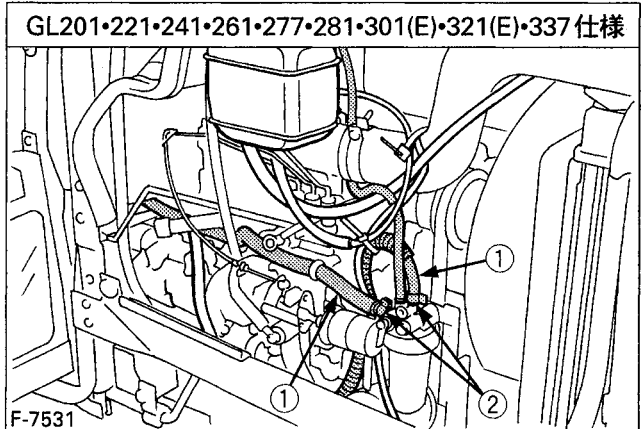


### 注意

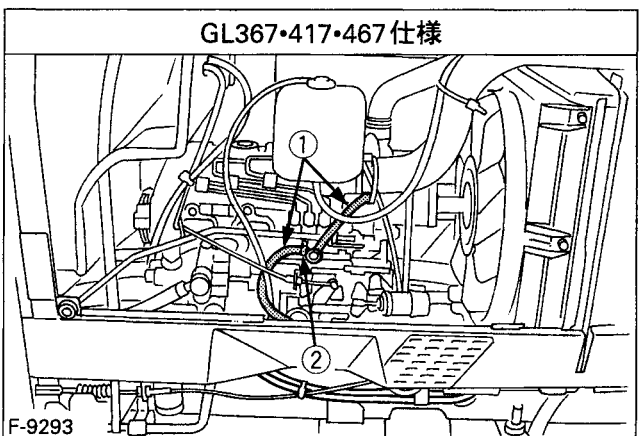
- \*パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
- 燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は、必ず空気抜きをする必要があります。  
〔“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”の項を参照〕



①燃料パイプ  
②締付けバンド



①燃料パイプ  
②締付けバンド

### 重要

- \*交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると、噴射ポンプの作動不良の原因になります。

## 100時間ごとの点検・整備

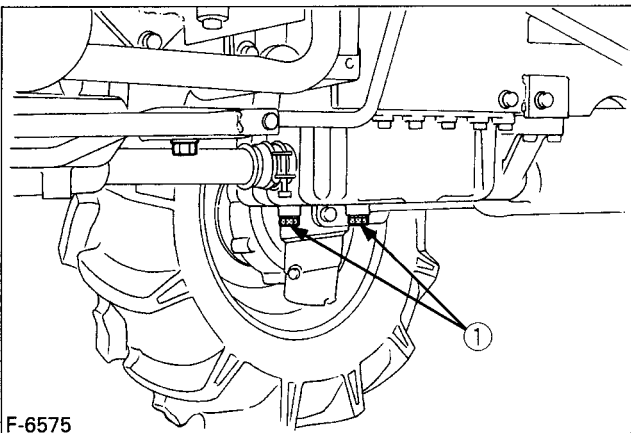
### ■エンジンオイルの交換



#### 注意

\*交換をするときは、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

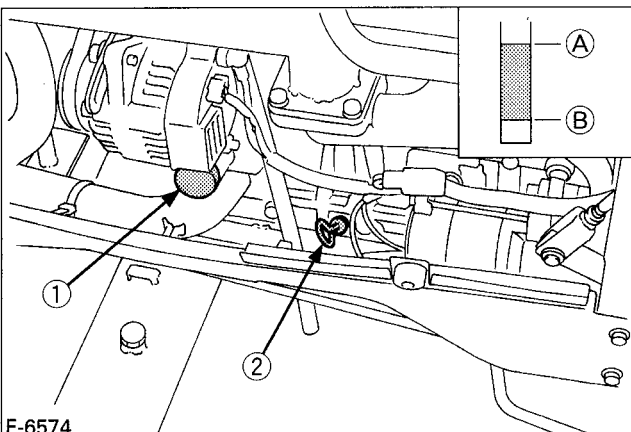
- ①ドレインプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



F-6575

- ①ドレインプラグ

- ②エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



F-6574

- ①エンジンオイル給油口
  - ②オイルゲージ
- (A) “上限”  
 (B) “下限”

### 重要

- \*今まで使用していたオイルと異なるメーカー、あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は、オイルを全部排出してから、新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
- \*気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30, 又はD10W30

- \*冬期は必ずD10W30を使用してください。

### ■バッテリー電解液の点検



#### 危険

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

- \*バッテリーは液面がLOWER(最低液面線)以下になったらままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LWVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。



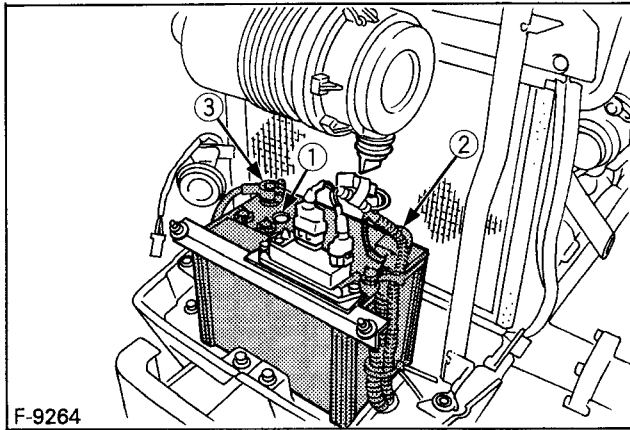
#### 警告

- \*バッテリー液は希硫酸なので扱いには十分注意し、身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
- \*バッテリーの点検及び取外し時は、エンジンを必ず停止してください。
- \*バッテリーを取外すときは、短絡(ショート)事故を防ぐため、最初にバッテリー⊖コードを外し、接続するときは、最後にバッテリー⊖コードを接続してください。
- \*バッテリーを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリーは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。



◆バッテリー液の点検

バッテリーはMF(メンテナンスフリー)バッテリーを使用していますので従来品に比べ、液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり、その表示状態によって蒸留水を補給、または補充電してください。



F-9264  
①インジケータ ②⊕コード ③⊖コード

◆インジケータの見方

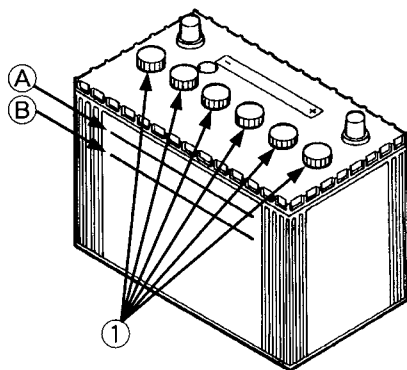
青…OKです。白…点検してください。

インジケータ表示状態	青	電解液比重 電解液量	共に良好です。
	白	要点検です。 (点検順序) 1. 液面が下がっている場合 蒸留水を補水し、青になればそのままご使用ください。白のままの場合は、6~7Aの普通充電電流で補充電してください。 2. 液面が正常な場合 6~7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。	

◆補水のしかた

- ①バッテリー上フタの補水キャップを外します。
- ②6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
- ③キャップを元の穴にねじ込みます。

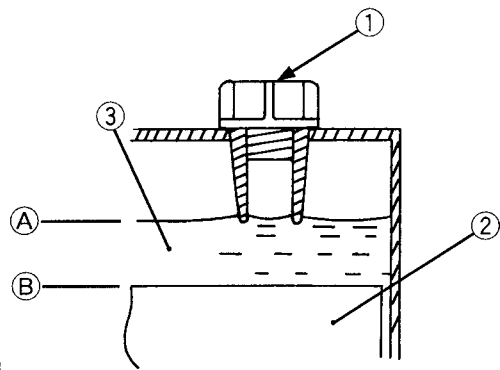
GL201・221・241・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



F-8589

①補水キャップ ②A “上限” ③B “下限”

GL367・417・467仕様



F-9294

①補水キャップ ②極板 ③電解液  
A “上限” B “下限”

◆バッテリーの取付け、取外し



**注意**

\*バッテリーを取外すときは、バッテリー⊖コードを最初に外し、次に⊕コードを外してください。

\*取付けるときは、必ず⊕側から取付けます。

逆にすると、工具が当たった場合にショートします。

**重要**

\*バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

\*新品のバッテリーと交換する場合には必ず指定した型式(75D26R-MF【GL367・417・467仕様以外】、75D31R-MF【GL367・417・467仕様】)のバッテリーを使用してください。

\*バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた



**警告**

\*バッテリーを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。

バッテリーは充電中可燃ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリーコードを接続するときは、⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリーと電気系統が故障します。
3. 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

## ■エアクリーナエレメントの清掃

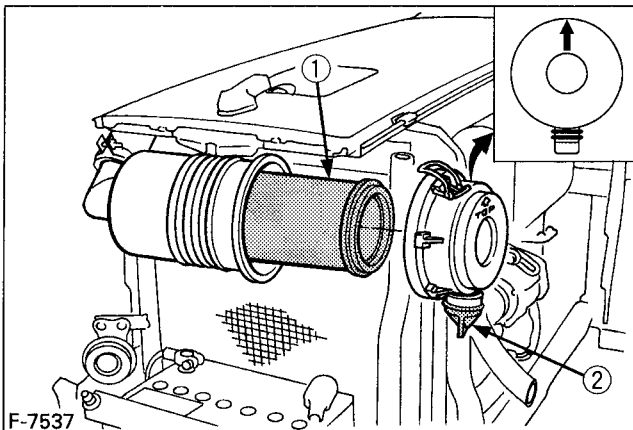
### ◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エアで吹き飛ばしてください。

[エアの圧力は0.69MPa(7kgf/cm<sup>2</sup>)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。]

### ◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後、又は6回掃除ごとに交換が必要です。



- ①エレメント  
②バキューータバルブ

### 重要

- \*エレメントは、清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
- \*乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- \*清掃時、エレメントをたたいて変形させないでください。  
変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。  
変形したときは、すぐに新しいエレメントと交換してください。
- \*ダストカップの(↑マーク)を必ず上向きになるように取付けてください。

### ◆バキューータバルブの清掃

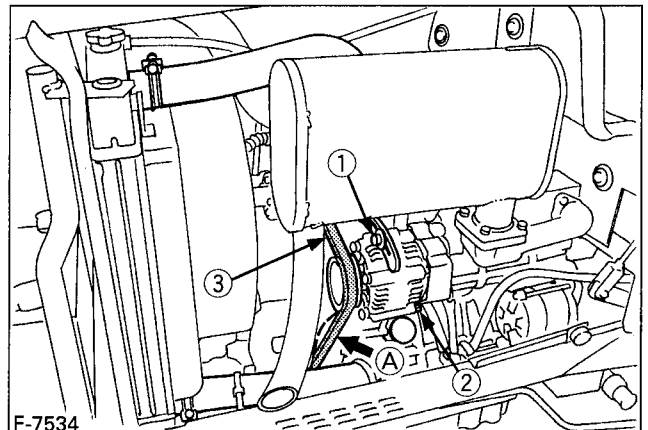
バキューータバルブを開き、大きなごみを取除いてください。

## ■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で押さえて、約7mmたわむ程度
--------	------------------------------------

### ◆調整方法

- ①ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて、ダイナモを動かして調整します。
- ②調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



- F-7534
- ①ボルト  
②ナット  
③ファンベルト

Ⓐ "押す"

### 重要

- \*ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。
- \*き裂やはがれがあれば交換してください。

## ■ブレーキペダルの点検・調整



### 警告

\*点検・調整をするときは、必ずエンジンを止めて行なってください。

\*ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。

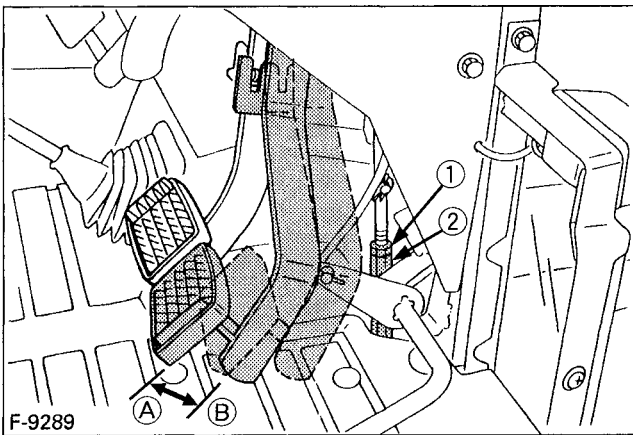
常に作動状態に注意してください。

\*調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“5 mm以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。

ブレーキが片ぎきになると、傷害事故を引起すおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで15~20 mm
-------	--------------

### ◆調整方法



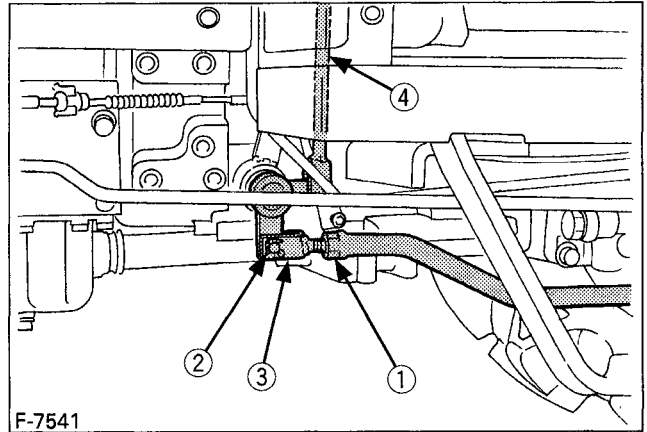
- F-9289
- ①ロックナット
  - ②ターンバックル
  - ③遊び
  - ④この位置でのペダルの左右差5 mm以内

### 【マニュアルステアリング仕様】

- ①駐車ブレーキを解除します。
- ②ロックナットをゆるめターンバックルを回して、ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
- ③ブレーキペダルを踏込んだとき、駐車ブレーキレバーが確実に作動するかを確認してください。

### 【AD(オートディスクブレーキ)BS仕様】

- ①駐車ブレーキを解除します。
- ②ステップ下のブレーキロッドのロックナット①をゆるめる。
- ③ピン②を外し、金具③を回してブレーキペダルの遊びを調整します。



F-7541

- ①ロックナット
- ②ピン
- ③金具
- ④ターンバックル

### 重要

\*BS仕様は、通常のブレーキにAD(オートディスクブレーキ)の機構が組込まれていますので、ペダルの遊び調整方法を守ってください。

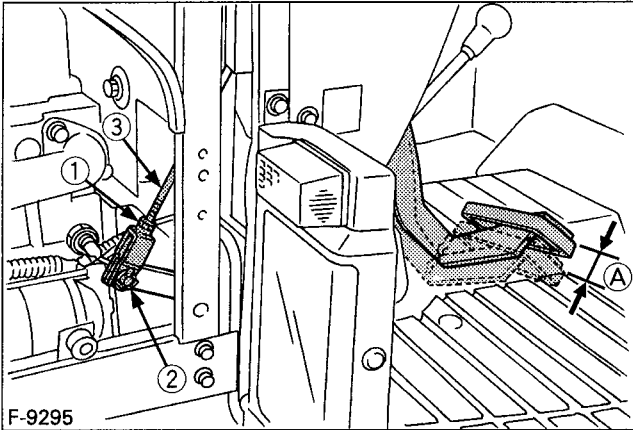
\*④のターンバックルはさわらないでください。ADの調整がくるいます。

## ■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20～30mm
-------	-------------

### ◆調整方法

- ① ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで、ペダルの遊びを調整します。
- ② 調整後はロックナットを確実に締付け、更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。



- ① ロックナット  
② 頭付きピン  
③ クラッチロッド

A "遊び"

### 重要

\*クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起し損傷につながります。

## 200時間ごとの点検・整備

### ■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

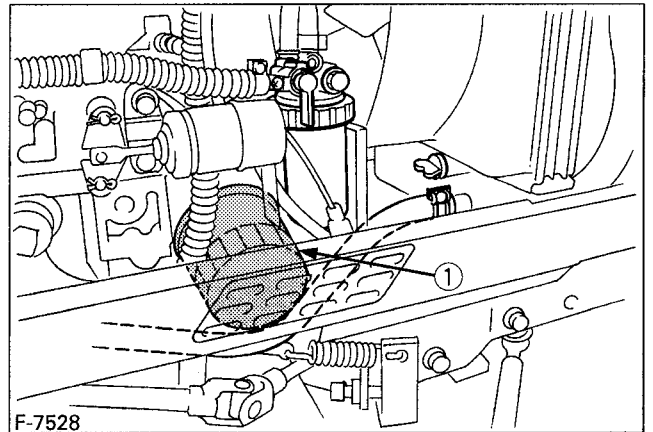


### 注意

\*交換をするときは、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは、カートリッジタイプです。

このオイルフィルタが詰まると、バイパスバルブが作動して、オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので、ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため、オイルフィルタの詰まりがないように、規定時間で、新しい純正部品のカートリッジと交換してください。



### ①エンジンオイルフィルタカートリッジ

- ① フィルタレンチでフィルタを取外します。
- ② 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
- ③ エンジンオイルを規定量まで補給します。
- ④ 約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか又、油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
- ⑤ 再びオイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給してください。

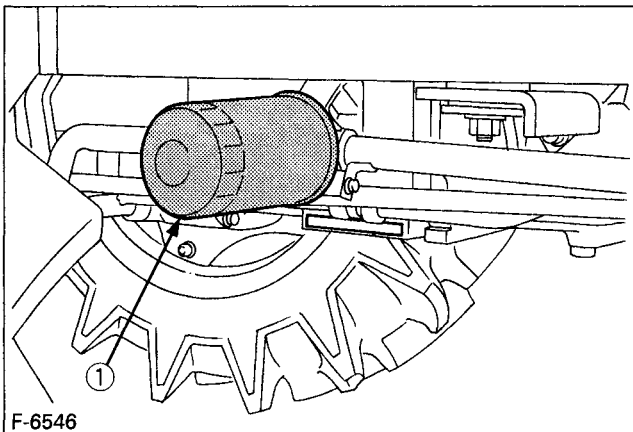
## ■油圧オイルフィルタカートリッジの交換



**注意**

\*交換をするときは、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



F-6546

①油圧オイルフィルタカートリッジ

- ① ミッションオイルを抜きます。
- ② フィルタレンチでフィルタを取外します。
- ③ 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
- ④ ミッションオイルを規定量まで補給します。
- ⑤ 約2分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
- ⑥ 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給してください。

〔ミッションオイルの抜き方、補給のしかたは“400時間ごとの点検・整備”の“ミッションオイルの交換”の項を参照〕

## ■ラジエータホースの点検

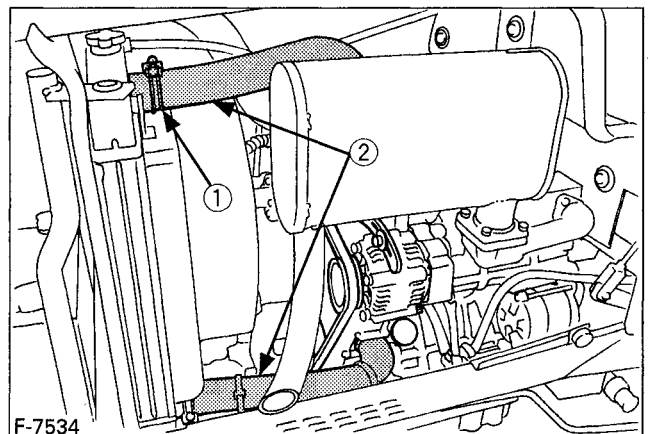


**注意**

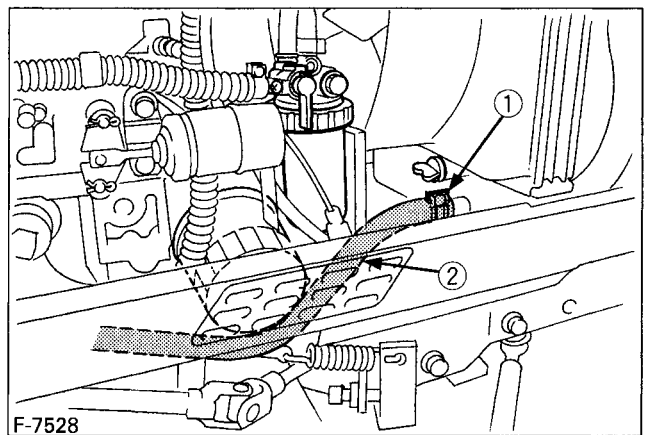
\*ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。

熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



F-7534



F-7528

- ① 締付けバンド
- ② ラジエータホース

## ■ トーイン調整・タイロッドの点検

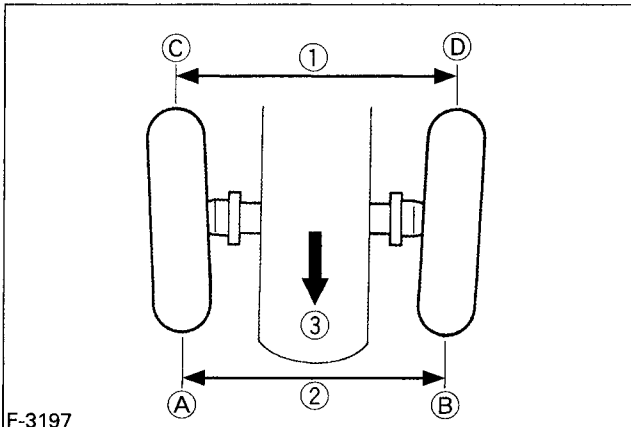


### 注意

\*トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

### ◆点検

前輪の前幅(AB)と後幅(CD)を測り、 $CD - AB = 2 \sim 8$  mmになっているかを調べます。

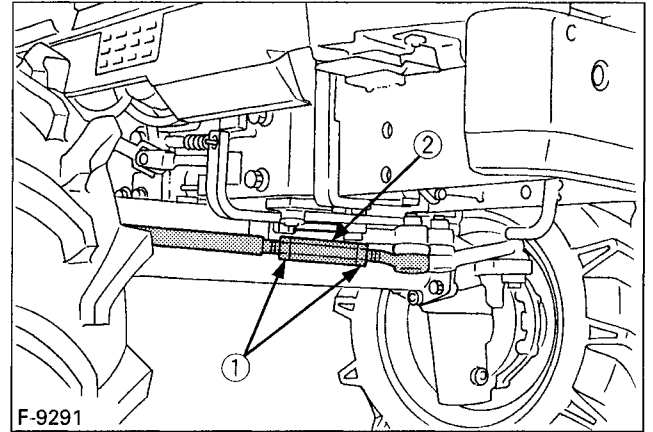


F-3197

- ①後幅
- ②前幅
- ③前

### ◆調整方法

- ①ロックナットをゆるめ、 $CD - AB = 2 \sim 8$  mmになるように調整します。
- ②調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



F-9291

- ①ロックナット
- ②ターンバックル

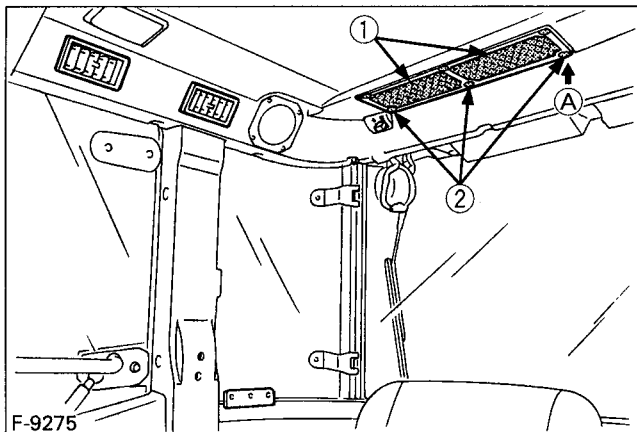
### 補足

\*トーインの点検・調整時、タイロッドエンド（関接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

以下はキャブ仕様のための点検項目です。

### ■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃してください。



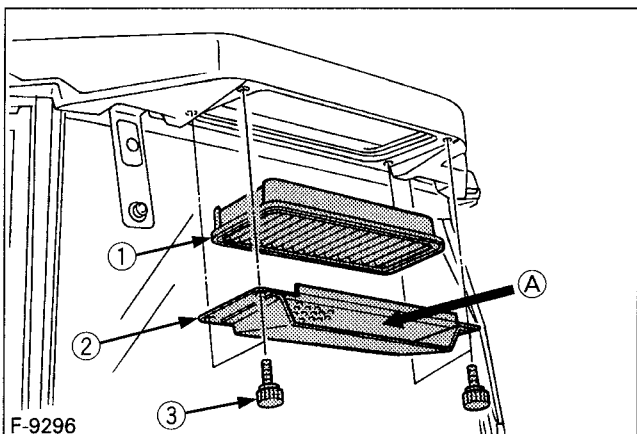
- ①室内エアフィルタ      ②プッシュリベット  
A “押す”

#### 補足

\*プッシュリベットの中央部を少し押しとリベットが外れます。

### ■外気フィルタ

ノブボルトを外し、カバーとフィルタをいっしょに外します。



- ①外気フィルタ      ②カバー      ③ノブボルト  
A “空気導入口”

#### 補足

\*カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

### ◆外気フィルタの清掃法

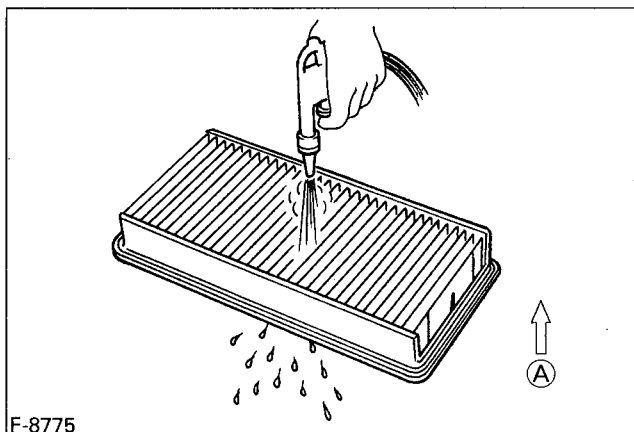
#### ●通常

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

#### 重要

\*エレメントをたたかないでください。

エレメントが変形すると、エアコンユニットにほこりが侵入し、エアコンを損傷する場合があります。



①風の流れ

#### ●汚れが著しいとき

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。

#### 重要

\*洗浄にガソリン、シンナーなどを使用しないでください。

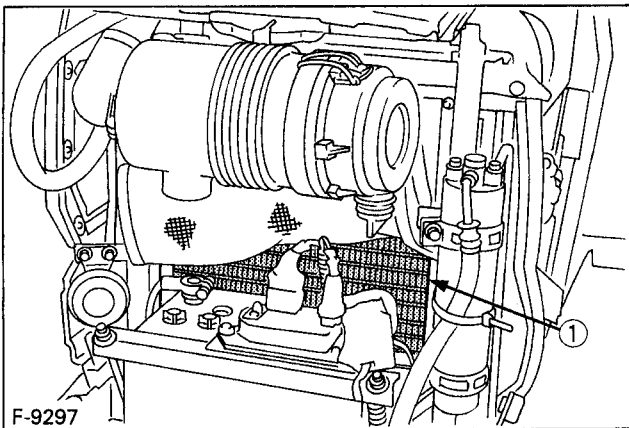
## ■エアコンコンデンサの詰まり



### 注意

\*点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

コンデンサフィンにゴミが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。



F-9297  
①コンデンサ

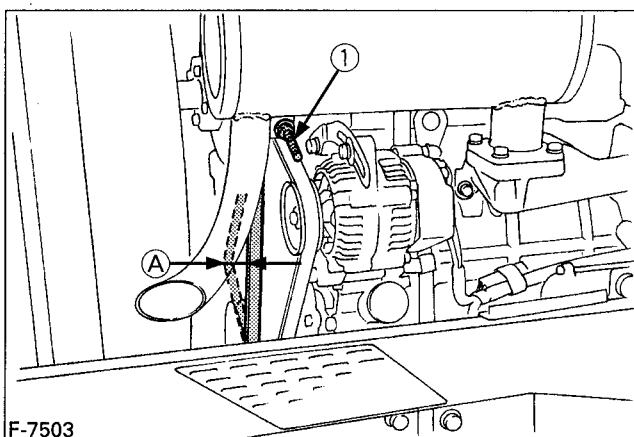
## ■エアコンベルトの張り



### 注意

\*点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

プーリー間のベルトを指で押し点検します。10kgfで“10～12mm”が適正です。



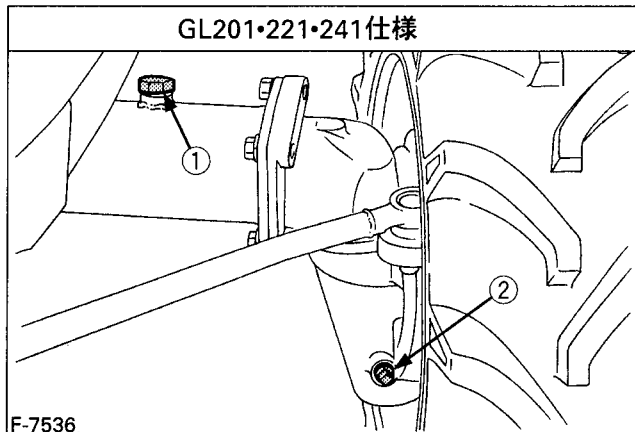
F-7503  
①調節ボルト

A “10～12mm”

## 300時間ごとの点検・整備

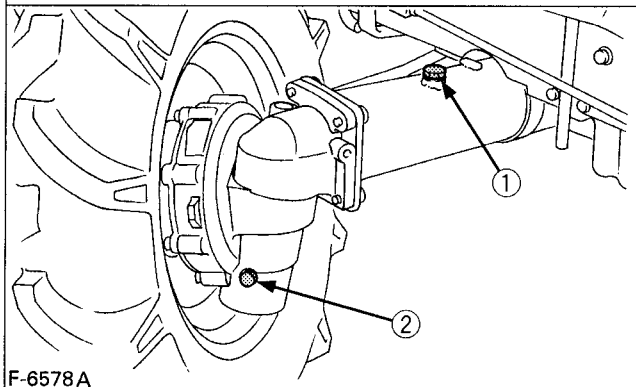
### ■前車軸ケースオイルの交換

①ドレインプラグを外してオイルを排出します。



F-7536

GL241J・261・277・281・301(E)・321(E)・337・367・417・467 仕様



F-6578A

①給油プラグ  
②ドレインプラグ

②ミッションオイルを給油口から、規定量入れてください。



## 400時間ごとの点検・整備

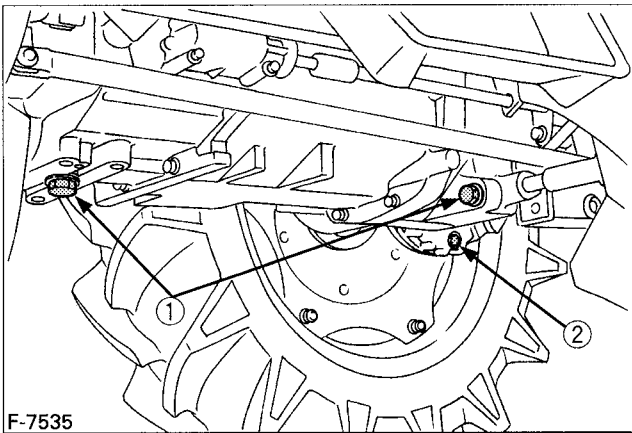
### ■ミッションオイルの交換



#### 注意

\*交換をするときは、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

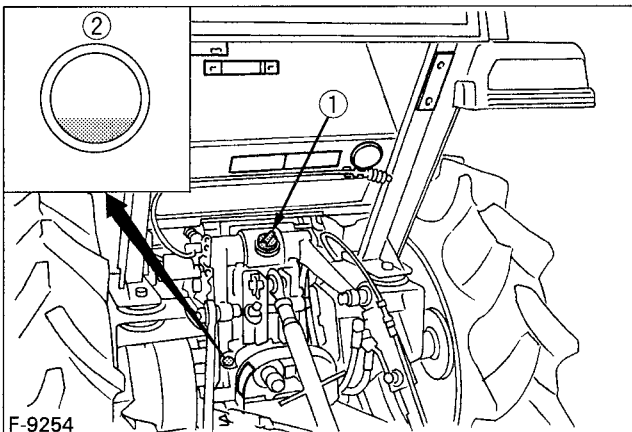
- ①ドレーンプラグを(4カ所)外してオイルを抜きます。



F-7535

- ①ドレーンプラグ  
②ドレーンプラグ(左右2カ所)

- ②ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。



F-9254

- ①給油口  
②検油窓

- ③エンジンを始動して2～3分運転してから止め、再度油量を点検して規定量まで補給してください。

#### 補足

- \*油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。  
\*ロータリ付の場合は、ロータリを下げて確認してください。

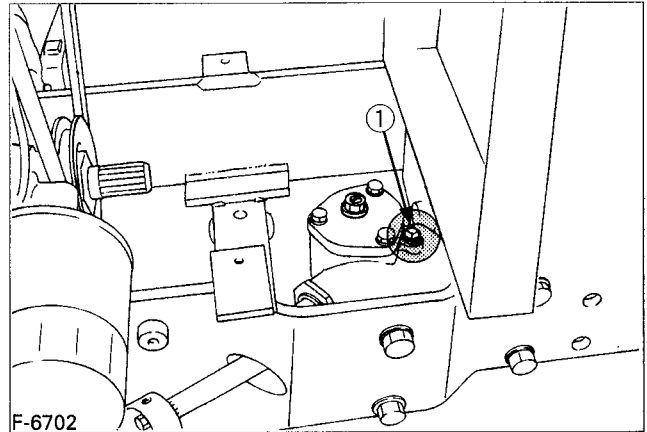
### ■ステアリングギヤボックスオイルの点検

#### 【マニュアルステアリング仕様】

(パワーステアリング仕様はオイルを補給する必要はありません。)

#### ◆点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。



F-6702

- ①給油口

#### ◆補給

不足している場合は、給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

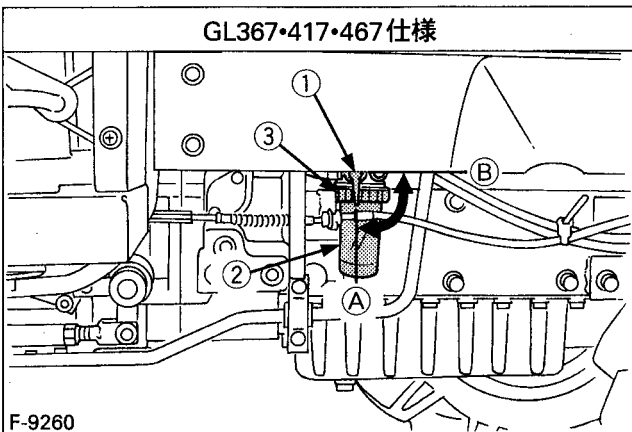
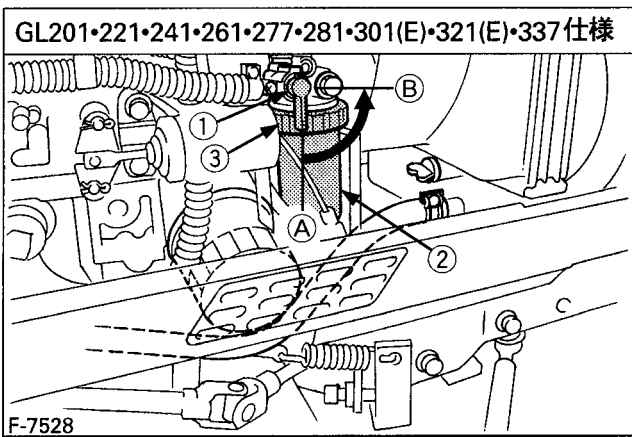
## ■燃料フィルタエレメントの清掃交換

- ①燃料フィルタコックを“OFF”にしてください。
- ②カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し、内部を軽油で洗浄します。
- ③新しいフィルタエレメントと交換します。

### 重要

\*組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

\*エレメント交換後は、必ず空気抜きをしてください。〔“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”の項参照〕



- |            |         |
|------------|---------|
| ①燃料フィルタコック | A “ON”  |
| ②燃料フィルタ    | B “OFF” |
| ③リテーナリング   |         |

## 600時間ごとの点検・整備

### ■前部デフケース前後遊びの調整

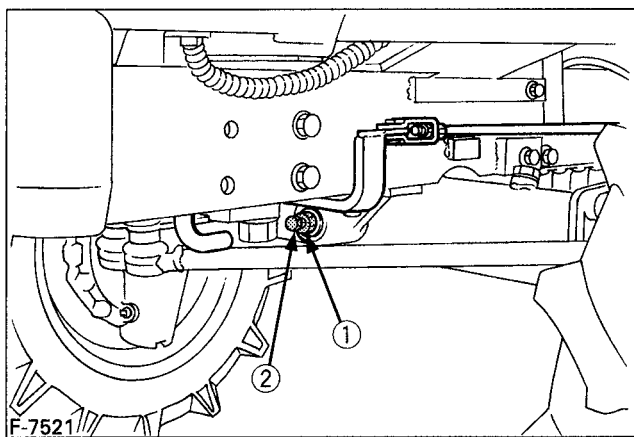
前部デフケース支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

#### ◆点検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

#### ◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて、ロックナットをゆるめ、調整ボルトを締込みガタを調整します。



- ①ロックナット
- ②調整ボルト

## 800時間ごとの点検・整備

### ■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

## 1年ごとの点検・整備

### ■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後、又は6回掃除ごとに交換が必要です。

〔“100時間ごとの点検・整備”の“エアクリーナエレメントの清掃”の項を参照。〕

### ■注油

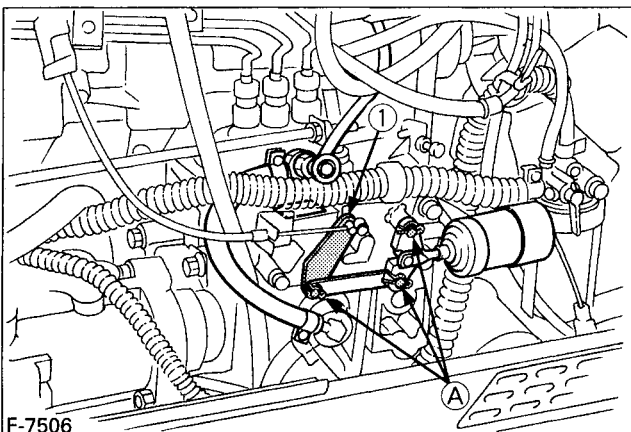
#### ◆停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は、1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。

注油後、アクセルレバーをアイドルの位置にして、エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し、更にエンジンを始動してキースイッチ“切”でエンジンが停止するか確認してください。

#### 重要

\*この部分は、キースイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので、水田などに入って泥などが侵入したときは、適宜清掃を行なってください。



①エンジンストップレバー ② “注油”

### ■ヒータ配管、ホースの点検

### ■エアコン配管、ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

## 2年ごとの点検・整備

### ■冷却水の交換

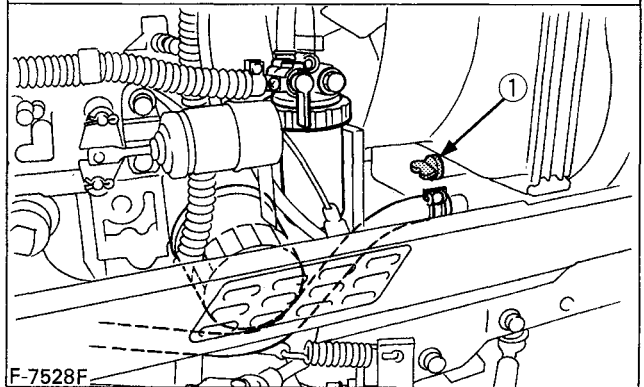


#### 注意

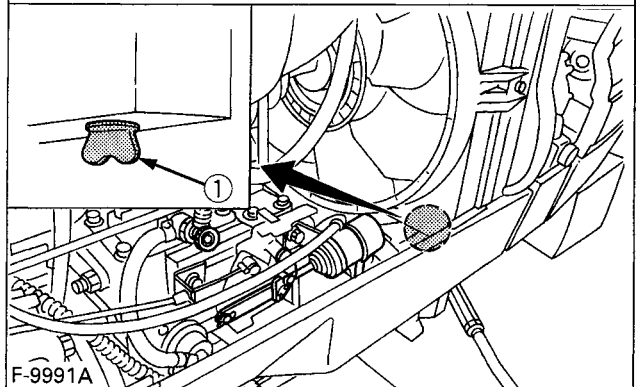
\*ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。

- ①ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き、冷却水を全部出します。リザーブタンクの排水は、ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。

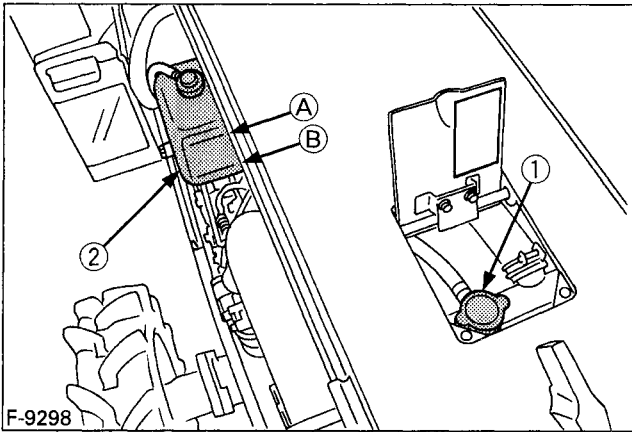
GL201・221・241・261・277・281・301(E)・321(E)・337仕様



GL367・417・467仕様



①排水コック



F-9298  
 ①ラジエータキャップ                      A "上限"  
 ②リザーブタンク                              B "下限"

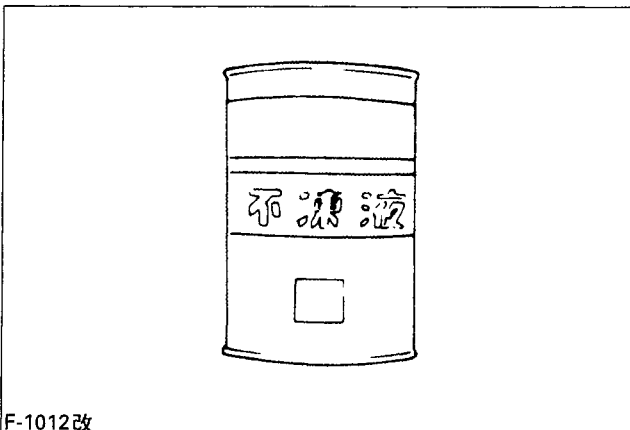
- ②水道の水でラジエータ内を洗浄し、排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。
- ③ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に締めてください。
- ④キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約1L多く必要となります。  
 冷却水を交換した場合、冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし、ヒータ"ON"（温度コントロールレバーをWARM(右端)に寄せる）にして、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖め、エンジンを止めてください。  
 冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸いこまれ、リザーブタンクの冷却水が適量になります。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は、冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



F-1012改

重要

- \*冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を50%入れ、よく水と混ぜ合せてからお使いください。
- \*不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。
- \*不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。
- \*クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。  
 必ず2年で交換してください。

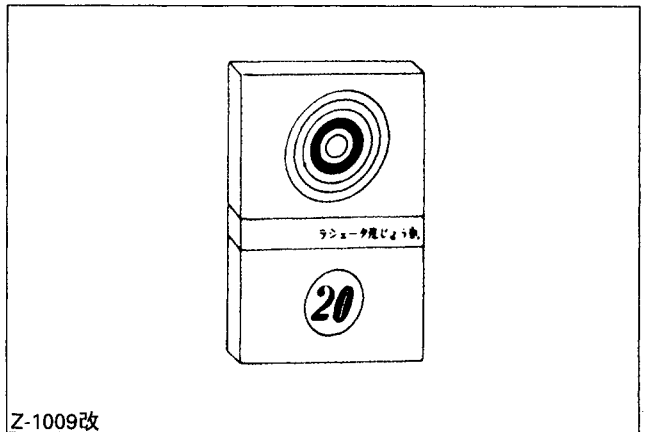
不凍液の保証不凍結温度

原液 混合比	%	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍 結温度	℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には、クボタラジエータ洗じょう剤No.20を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。

- \*2年使用ごと
- \*不凍液を混入するとき
- \*不凍液混入から水だけに変えるとき
- などに使用してください。



Z-1009改

- ラジエータホースの交換
- パワーステアリングホースの交換
- 燃料パイプの交換
- モンローシリンダホースの交換

【M・MA仕様】

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

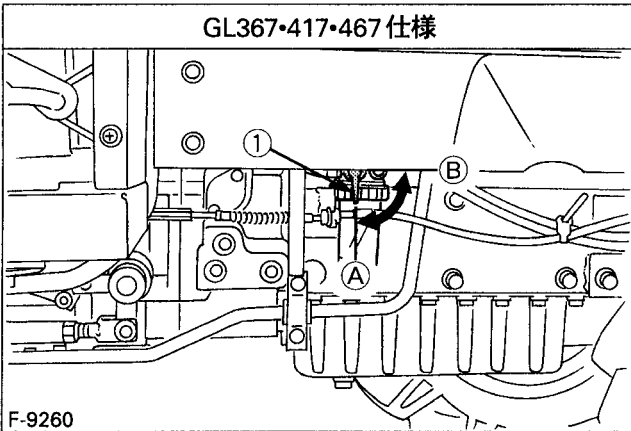
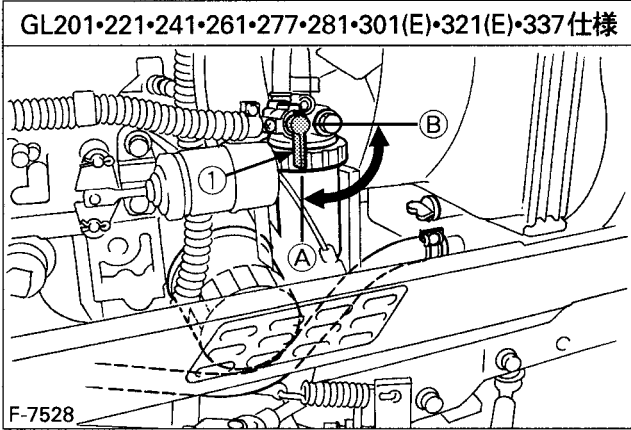
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは、次のようなときに行なう必要があります。

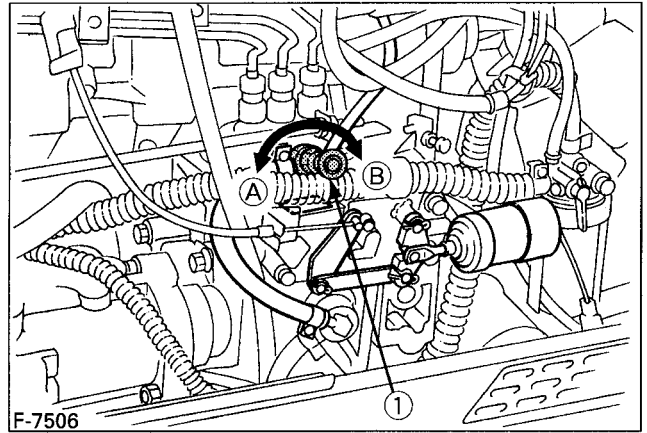
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

①燃料フィルタコックを“ON”にする。



- ①燃料フィルタコック
- A “ON”
  - B “OFF”

②燃料噴射ポンプ上のコックを開く。



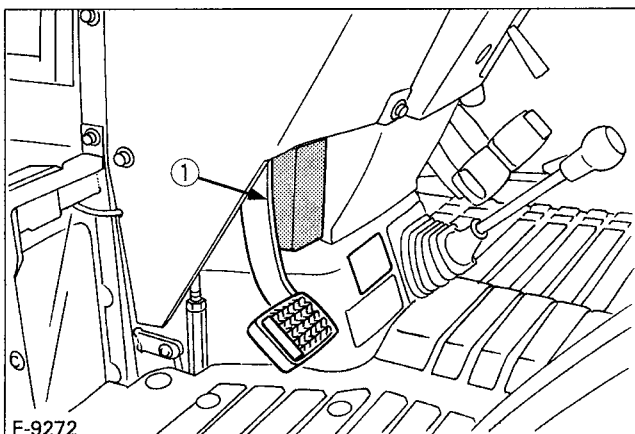
- ①エア抜きコック
- A “開”
  - B “閉”

- ③タンクに燃料を満たす。
- ④エンジンを始動し、約1分間運転後停止する。
- ⑤燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

補足

\* 空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは、必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

## ■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

- ①ヒューズボックスのふたを外す。
- ②ヒューズを外す。
- ③切れたものと同容量のヒューズと交換する。

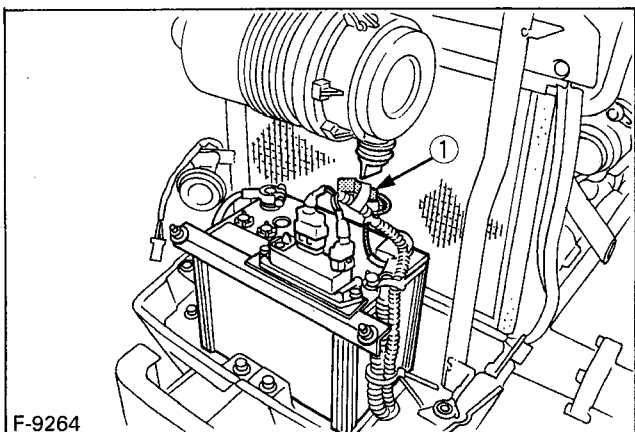
### 重要

\*ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先で点検、修理してください。

### 補足

\*トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは、購入先にご相談ください。

## ■スローブローヒューズの交換



①スローブローヒューズ

スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。

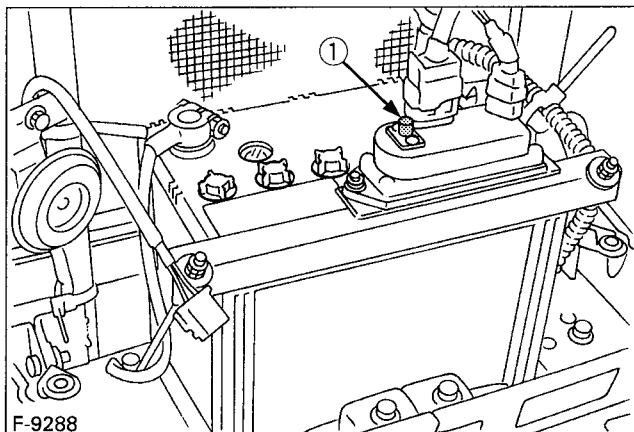
### 補足

\*GL201(Q)・221(Q)・241(Q)・261(Q)・281(Q)・301(E)(Q)・321(E)(Q)仕様 ..... 40A  
 \*GL277(Q)・337(Q)・367(Q)・417(Q)・467(Q)仕様 ... 50A

## ■ランプ類の交換

- 1.ヘッドランプとリヤコンビネーションランプは、ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
- 2.その他のランプ  
レンズを外し、バルブを交換します。

## ■プラスカットリレーのリセット方法



①リセットスイッチ

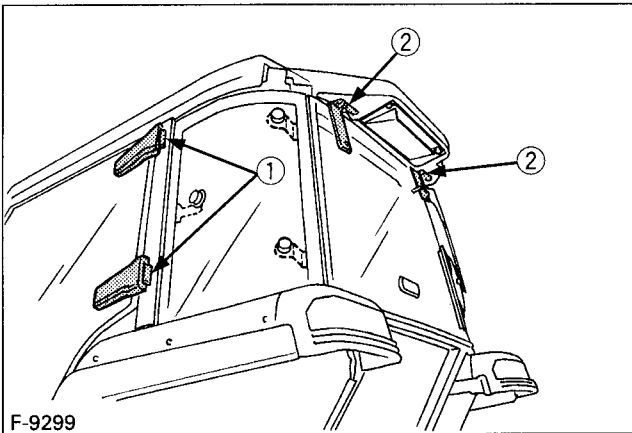
- ①キースイッチを“切”にする。
- ②リセットスイッチを押し、オレンジ色（安全フレーム仕様）又は黄色（キャブ仕様）のスイッチが下がったのを確認する。
- ③1分以上休止してから、再度キースイッチを“入”にして、イージーチェッカランプが点灯するかを確認する。

### 重要

\*リセットスイッチを押しても、すぐにスイッチが上がってしまう場合は、配線のショートのおそれがあるので、購入先に点検・整備を依頼してください。

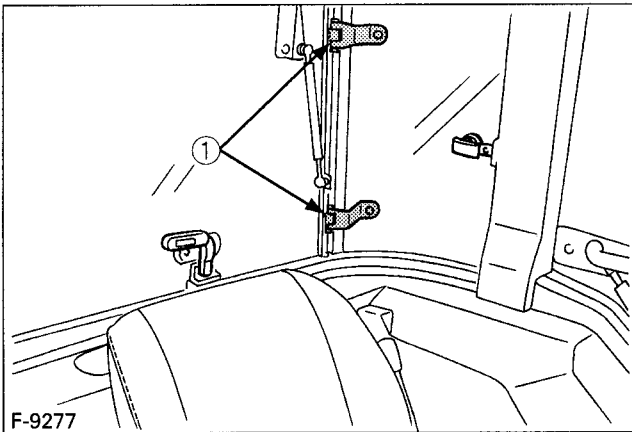
以下はキャブ仕様のための点検項目です。

## ■オイルの注油



F-9299

- ①ドアヒンジ部
- ②リアウインドヒンジ部

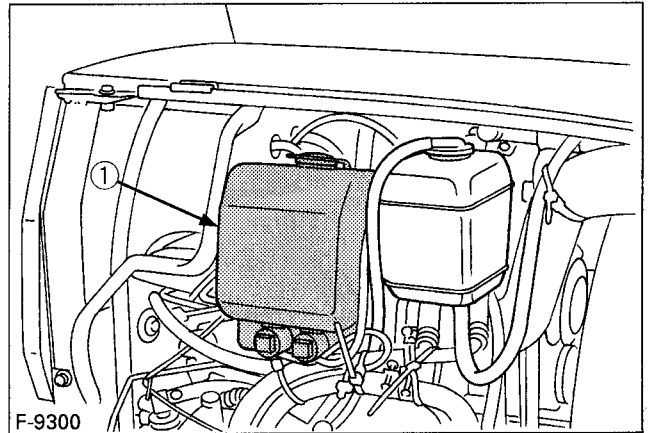


F-9277

- ①クォータウインドヒンジ部

## ■ウォッシュ液の補充

自動車用ウォッシュ液を適量補充してください。



F-9300

- ①ウォッシュタンク

## ■重要

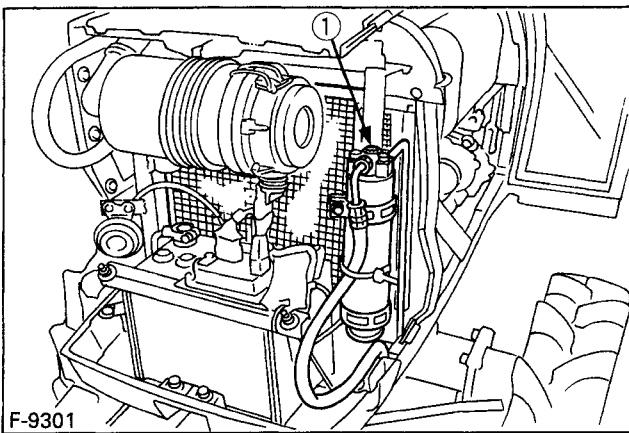
- \*凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。
- \*空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
- \*ウォッシュノズルの詰まりを防ぐために、ゴミが入らないようにしてください。

## ■冷媒(ガス)量の点検【Q仕様】

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。  
下記要領で点検し、冷媒が不足しているときは、購入  
先で点検及び充てんをしてもらってください。

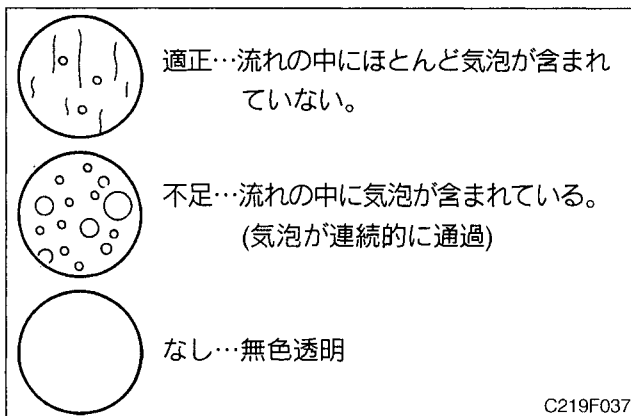
### ◆点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
  - エンジン回転数 : 約 $1500\text{min}^{-1}$ (rpm)
  - 温度コントロールレバー : 最強冷位置(左端)
  - ファンスイッチ : 最強風(HI)
  - エアコンスイッチ : ON
2. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。



F-9301

①サイトグラス



C219F037



# 格納

## 注意

- \*長期格納時は、クラッチ固着防止のため、クラッチ“切り”に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
- \*シートをかける場合は、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

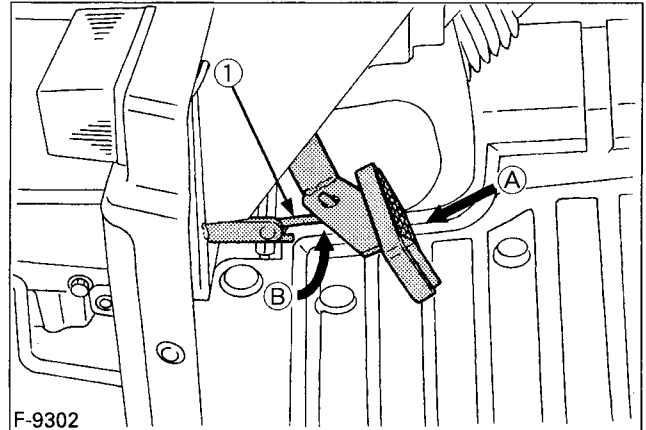
## 長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し、2000回転/分以上で10～15分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。  
その後も1～2カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 燃料フィルタコックを“OFF”にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し、オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチペダルは、クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので、クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

### ◆クラッチ“切”保持の方法

- ①クラッチペダルをいっぱい踏み込み、“ロック”します。
- ②ロックしたまま、クラッチペダルから足を離します。  
これでクラッチは、“切”の状態です。
- ③使用するときには、クラッチペダルをいっぱい踏み込めば、ロックが外れ、“切”保持の状態が解除されません。



- ①ロック金具                      ④ “踏む”  
② “穴に引掛けてロックする”

8. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が侵入していないことを確認してください。
9. タイヤの空気圧は、標準より少し多いめにしてください。
10. バッテリーを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
11. ウェイトは取外し、作業機は、外すか地面に降ろした状態にしてください。
12. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
13. 各部の配線・バッテリーコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
14. 格納中バッテリーは、1カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
15. 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。
16. 燃料は満タンにしてください。空にしておくくと水滴ができ、タンク内のサビの原因になります。

### 重要

- \*長期格納時、洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
- \*格納時は、必ず“切”の位置でキーを抜いておいてください。

# 付 表

## 主要諸元

### ■トラクタの主要諸元

型式名	GL201	GL221	GL241	GL261	GL277	GL281	GL301	GL301E	
駆動方式	4輪駆動								
機 体 寸 法	全長 mm	2950 [3005]			3050		3050 [3130]	3180	3050
	全幅 mm	1220	1245		1320		1400	1420	1320
	全高 mm	1955 [1980]		1980 [1995]	1950 [1995]	1950 [2110]	1995 [1980]	1980 [1990]	1950
	軸距 mm	1550 [1585]			1645		1645 [1700]	1750	1645
	輪 前輪 mm	950			1080		1130		1080
	距 後輪 mm	1010, 1130			1050~1345 (6段)		1130~1420 (5段)	1090~1480 (6段)	1050~1345 (6段)
最低地上高 mm	335		350	345		360		345	
質量 (重量) kg	1095 [1280]		1105 [1305]	1180 [1370]		1215 [1400]	1270 [1435]	1180	
エ ン ジ ン	機関型式	クボタ D1403-NN	クボタ D1463-LN	クボタ D1463-NN	クボタ D1503-LNN	クボタ D1503-LN	クボタ D1503-NN	クボタ D1503-HNN	
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
シ ン	総排気量 cm <sup>3</sup> (cc)	1393	1463		1499				
	出力/回転速度 kW/min <sup>-1</sup> (PS/rpm)	15.4/2600 (21/2600)	16.9/2500 (23/2500)	18.4/2600 (25/2600)	19.9/2600 (27/2600)		21.3/2700 (29/2700)	22.8/2700 (31/2700)	
シ ン	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油							
	燃料タンク容量 L	27						35	27
タ イ ヤ	始動方式	セルモータ式 (グロープラグ付)							
	バッテリー	75D26R MF (メンテナンスフリー)							
車 体	前輪	6-14-4PR			7-16-4PR		8-16-4PR		7-16-4PR
	後輪	8.3-24-4PR	9.5-22-4PR	9.5-24-4PR	11.2-24-4PR		11.2-26-4PR	12.4-26-4PR	11.2-24-4PR
車 体	クラッチ方式	乾式単板							
	制動装置	一系統左右独立 (連結装置付), 湿式ディスクブレーキ (機械式)							
	かじ取り方式	ボールスクリュ式 (インテグラルパワーステアリング又はマニュアルステアリング)				ボールスクリュ式 (インテグラルパワーステアリング)			
	差動方式	2ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)				4ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)			
変速方式	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト				Uシフト	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト		コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動	
変速段数 (段)	前進16, 後進16 (シャトル)								
走行速度 (km/h)	前進	0.23~14.67	0.22~14.65	0.23~14.78	0.22~14.80	0.32~23.73	0.22~14.93 (0.22-14.84)	0.22~14.48	0.22~14.70
	後進	0.21~13.17	0.19~13.19	0.21~13.28	0.19~13.32	0.30~21.91	0.20~13.41 (0.20-13.32)	0.20~13.03	0.20~12.29
最小旋回半径 (ブレーキ使用時) m	1.9			2.1			2.2	2.1	
P T O	回転/エンジン速度/回転速度 min <sup>-1</sup> (rpm)	正転 568,803/2600 985,1304/2600	546,772/2500 947,1254/2500	544,770/2600 944,1250/2600	568, 803/2600 985, 1304/2600		545,771/2700 945,1252/2700	537,759/2700 931,1233/2700	565,800/2700 980,1298/2700
	逆転	803/2600	772/2500	770/2600	803/2600		771/2700	759/2700	800/2700
	軸寸法 mm	JIS 35							
作 業 装 置	制御方式	ポジションコントロール							
	装置方式	3点リンク JIS 1形							

〔 〕はキャブ仕様

型式名		GL321	GL321 E	GL337	GL367(E)	GL417(E)	GL467(E)	
駆動方式		4輪駆動						
機 体 寸 法	全長	mm	3180	3050	3180	3325		
	全幅	mm	1455	1400	1455	1500	1490	
	全高	mm	1980 [1990]	1995	1980 [2110]	2175 [2155]		
	軸距	mm	1750	1645	1750	1830	1855	
	前輪	mm	1130					
	後輪	mm	1110~1575 (6段)	1130~1420 (5段)	1110~1575 (6段)	1180~1473 (5段)	1155~1447 (5段)	
最低地上高	mm	360						
質量 (重量)	kg	1280 [1445]	1215	1280 [1465]	1440 [1640]			
エ ン ジ ン	機関型式	クボタ D1503-HHNN		クボタ D1703-N	クボタ V1903	クボタ V2203	クボタ V2203-HNN	
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル			水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル			
	総排気量	cm <sup>3</sup> (cc)	1499	1647	1857	2197		
	出力/回転速度	kW/min <sup>-1</sup> (PS/rpm)	24.3/2800 (33/2800)	24.3/2700 (33/2700)	26.5/2600 (36/2600)	30.9/2600 (42/2600)	33.8/2800 (46/2800)	
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油						
	燃料タンク容量	L	35	27	35			
始動方式	セルモータ式 (グロープラグ付)							
	バッテリー	75D26R MF (メンテナンスフリー)			75D31R MF (メンテナンスフリー)			
タイ ヤ	前輪	8-16-4PR						
	後輪	13.6-24-4PR	11.2-26-4PR	13.6-24-4PR	12.4-28-4PR	13.6-26-4PR (ES仕様は12.4-28-4PR)		
車 体	クラッチ方式	乾式単板						
	制動装置	一系統左右独立 (連結装置付), 湿式ディスクブレーキ (機械式)						
	かじ取り方式	ボールスクリュー式 (インテグラルパワーステアリング)			全油圧式パワーステアリング			
	差動方式	4ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)						
変速方式	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト	コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動	Uシフト	シンクロ, コンスタントメッシュ, ギヤしゅう動/Uシフト				
変速段数 (段)	前進16, 後進16 (シャトル)							
走行速度 (km/h)	前進	0.22~14.90	0.22~14.74	0.32~23.21	0.17~25.13		0.17~26.0	
	後進	0.20~13.41	0.21~13.43	0.29~21.18	0.15~23.04		0.17~24.9	
最小旋回半径 (ブレーキ使用時)	m	2.2	2.1	2.2	2.3			
P T O	回転/エンジン 速度/回転速度 min <sup>-1</sup> (rpm)	正転	557, 788 966, 1279/2800	586, 829 1016, 1346/2800	565, 800 980, 1298/2700	544, 806, 1252/2600		549, 814, 1263/2800
		逆転	788/2800	829/2800	800/2700	544/2600 (ES仕様はなし)		549/2800
軸寸法	mm	JIS 35						
作 業 機 置	制御方式	ポジションコントロール						
	装置方式	3点リンク JIS 1形						

〔 〕はキャブ仕様

型式名		GL241K	GL261K	GL281K	GL241J	GL281J	
駆動方式		4輪駆動					
機 体 寸 法	全長	mm	2955	3005	3050	3180	
	全幅	mm	1255	1280	1475	1520	
	全高	mm	1295 (ハンドル)		1255 (ハンドル)	1475 (ハンドル)	1485 (ハンドル)
	軸距	mm	1545	1625	1645	1750	
	輪 距	前輪	mm	1050	1090	1130	1170
		後輪	mm	1020, 1140	1050, 1170	1080~1370(5段)	1105~1495(6段)
最低地上高	mm	270	230	360	390		
質量 (重量)	kg	1050	1075	1150	1220		
エ ン ジ ン	機関型式	クボタD1463-NN	クボタD1503-LN	クボタD1503-NN	クボタD1463-NN	クボタD1503-NN	
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
	総排気量	cm <sup>3</sup> (cc)	1463	1499	1463	1499	
	出力/回転速度	kW/min <sup>-1</sup> (PS/rpm)	18.4/2600 (25/2600)	19.9/2600 (27/2600)	21.3/2700 (29/2700)	18.4/2600 (25/2600)	21.3/2700 (29/2700)
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油					
	燃料タンク容量	L	27			35	
	始動方式	セルモータ式 (グロープラグ付)					
	バッテリー	75D26R MF (メンテナンスフリー)					
タイ ヤ	前輪	6-14-4PR		6-12-4PR	8-16 Hi	8-18 Hi	
	後輪	9.5-24-4PR			9.5-26-4PR	11.2-28-4PR	
車 体	クラッチ方式	乾式単板					
	制動装置	一系統左右独立 (連結装置付), 湿式ディスクブレーキ (機械式)					
	かじ取り方式	ボールスクリュ式 (インテグラルパワーステアリング)					
	差動方式	2ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)					
	変速方式	コンスタントメツ シュ, ギヤしゅう動	Uシフト	コンスタントメツ シュ, ギヤしゅう動	Uシフト		
変速段数 (段)	前進16, 後進16 (シャトル)						
走行速度 (km/h)	前進	0.23~14.55		0.23~14.78	0.21~13.99	0.21~14.16	
	後進	0.22~12.72		0.20~13.25	0.19~12.56	0.19~12.72	
最小旋回半径 (ブレーキ使用時)	m	2.0			2.3	2.4	
P T O	回転/エンジン 速度/回転速度 min <sup>-1</sup> (rpm)	正転	568, 803, 985, 1304/2600		545, 771, 945, 1252 /2700	544, 770, 944, 1250 /2600	537, 759, 931, 1233 /2700
		逆転	803/2600		771/2700	770/2600	759/2700
軸寸法	mm	JIS 35					
昇 降 機 置	制御方式	ポジションコントロール					
	装置方式	3点リンク JIS 1形					

### ■ 走行速度表

(km/h)

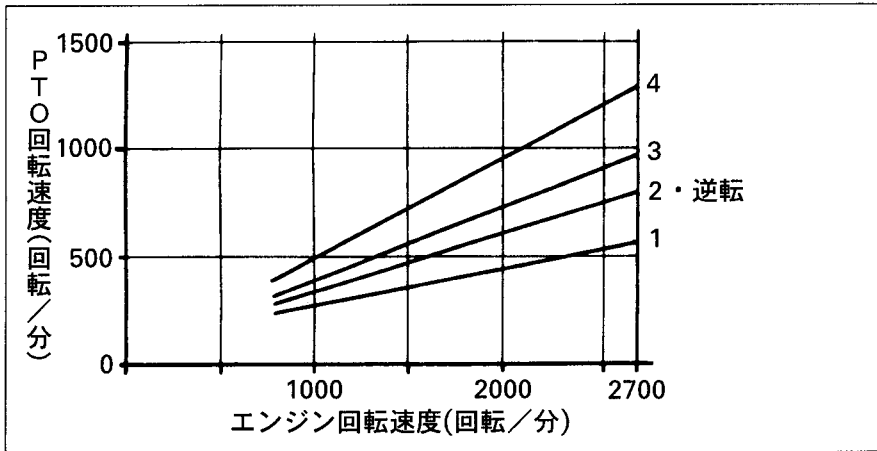
マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		GL201		GL221		GL241		GL261		GL281		GL281Q			
主変速レバー	副変速レバー	クリーブレバー	主変速レバー	クリーブレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進		
1	L	L	1	L	0.23	0.21	0.22	0.19	0.23	0.21	0.22	0.19	0.22	0.20	0.22	0.20		
2			0.32		0.29	0.31	0.28	0.33	0.29	0.31	0.28	0.31	0.28	0.31	0.28	0.32	0.28	
3			0.40		0.36	0.38	0.34	0.40	0.36	0.38	0.34	0.40	0.36	0.38	0.34	0.39	0.35	0.39
4			0.53		0.47	0.50	0.45	0.53	0.48	0.50	0.45	0.51	0.46	0.51	0.46	0.51	0.46	
1	H		5	L	0.74	0.66	0.73	0.65	0.74	0.67	0.74	0.66	0.75	0.67	0.75	0.67		
2			1.04		0.93	1.03	0.93	1.05	0.94	1.05	0.94	1.06	0.95	1.06	0.95	1.06	0.95	
3			1.28		1.15	1.27	1.14	1.29	1.16	1.28	1.15	1.30	1.17	1.29	1.16	1.29	1.16	
4			1.69		1.52	1.68	1.51	1.70	1.53	1.70	1.53	1.72	1.55	1.71	1.54	1.71	1.54	
1	L	H	1	H	1.84	1.66	1.77	1.59	1.86	1.67	1.77	1.59	1.79	1.61	1.81	1.62		
2			2.61		2.34	2.51	2.25	2.63	2.36	2.51	2.25	2.54	2.28	2.56	2.29			
3			3.20		2.87	3.07	2.76	3.22	2.90	3.07	2.76	3.11	2.79	3.13	2.81			
4			4.24		3.80	4.07	3.66	4.27	3.83	4.07	3.66	4.12	3.70	4.15	3.72			
1	H		5	H	5.93	5.33	5.90	5.31	5.98	5.37	5.98	5.38	6.05	5.43	6.02	5.40		
2			8.39		7.53	8.35	7.52	8.46	7.59	8.47	7.62	8.56	7.69	8.51	7.64			
3			10.29		9.24	10.24	9.22	10.37	9.31	10.38	9.34	10.50	9.43	10.43	9.37			
4			14.67		13.17	14.65	13.19	14.78	13.28	14.80	13.32	14.93	13.41	14.84	13.32			

マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		GL301		GL301E		GL321		GL321E		GL367(E)・417(E)		GL467(E)		
主変速レバー	副変速レバー	クリーブレバー	主変速レバー	クリーブレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	
1	L	L	1	L	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.21	0.17	0.15	0.17	0.17	
2			0.31		0.28	0.31	0.28	0.31	0.28	0.31	0.28	0.31	0.30	0.24	0.22	0.24	0.23
3			0.37		0.33	0.38	0.34	0.38	0.34	0.38	0.34	0.38	0.37	0.35	0.32	0.36	0.35
4			0.50		0.45	0.50	0.45	0.51	0.46	0.51	0.49	0.54	0.50	0.56	0.54		
1	H		5	L	0.73	0.65	0.74	0.66	0.75	0.67	0.74	0.73	0.80	0.74	0.83	0.80	
2			1.03		0.93	1.05	0.94	1.06	0.96	1.05	1.03	1.14	1.04	1.18	1.13		
3			1.26		1.13	1.28	1.15	1.31	1.17	1.29	1.26	1.68	1.54	1.74	1.67		
4			1.67		1.50	1.70	1.52	1.73	1.56	1.71	1.67	2.62	2.40	2.71	2.60		
1	L	H	1	H	1.74	1.56	1.77	1.59	1.80	1.62	1.77	1.73	1.49	1.37	1.54	1.48	
2			2.46		2.21	2.50	2.24	2.55	2.29	2.51	2.45	2.11	1.93	2.18	2.09		
3			3.02		2.71	3.06	2.75	3.12	2.80	3.08	3.01	3.12	2.86	3.23	3.10		
4			3.99		3.58	4.05	3.64	4.14	3.72	4.08	3.98	4.85	4.45	5.02	4.81		
1	H		5	H	5.87	5.28	5.96	5.35	6.08	5.47	5.99	5.85	7.17	6.57	7.42	7.11	
2			8.31		7.48	8.43	7.57	8.61	7.75	8.47	8.27	10.14	9.30	10.50	10.06		
3			10.18		9.17	10.34	9.28	10.55	9.50	10.39	10.14	15.03	13.78	15.56	14.91		
4			14.48		13.03	14.70	12.29	14.90	13.41	14.74	13.43	25.13	23.04	26.00	24.90		

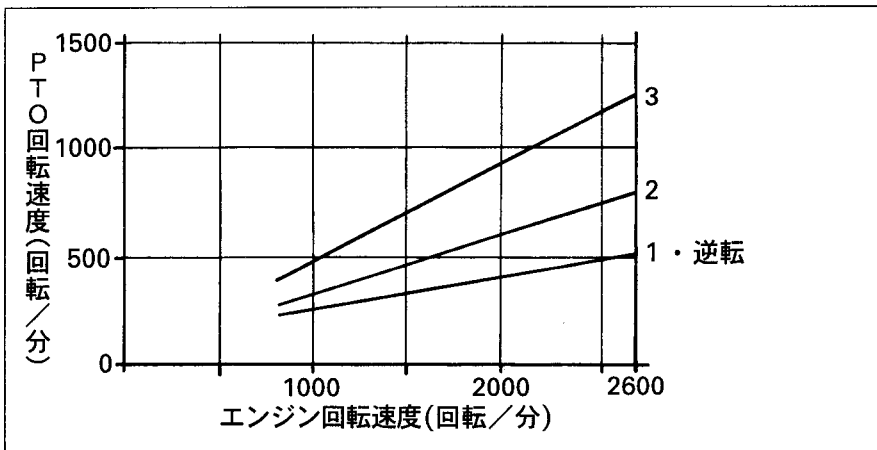
Uシフト仕様		GL277		GL337		GL241K・261K		GL281K		GL241J		GL281J	
主変速レバー	クリーブレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	0.32	0.30	0.32	0.29	0.23	0.22	0.23	0.20	0.21	0.19	0.21	0.19
2		0.46	0.42	0.45	0.41	0.33	0.31	0.38	0.22	0.30	0.27	0.30	0.27
3		0.56	0.51	0.55	0.50	0.40	0.38	0.40	0.36	0.37	0.33	0.37	0.33
4		0.74	0.68	0.73	0.66	0.53	0.50	0.53	0.48	0.48	0.44	0.49	0.44
5		1.08	0.98	1.05	0.96	0.73	0.69	0.74	0.67	0.71	0.64	0.72	0.65
6		1.52	1.39	1.48	1.36	1.03	0.97	1.05	0.94	1.01	0.90	1.02	0.92
7		1.87	1.71	1.83	1.67	1.27	1.19	1.28	1.16	1.23	1.11	1.25	1.12
8		2.48	2.26	2.42	2.21	1.68	1.58	1.71	1.53	1.64	1.47	1.66	1.49
1	H	2.88	2.63	2.83	2.58	1.87	1.76	1.86	1.67	1.70	1.53	1.72	1.55
2		4.08	3.73	4.00	3.65	2.65	2.50	2.64	2.37	2.41	2.16	2.44	2.19
3		5.00	4.57	4.90	4.47	3.25	3.06	3.23	2.90	2.95	2.65	2.99	2.69
4		6.62	6.05	6.48	5.92	4.30	4.05	4.28	3.84	3.90	3.51	3.96	3.56
5		9.61	8.78	9.41	8.59	5.88	5.54	5.99	5.38	5.74	5.15	5.82	5.23
6		13.60	12.42	13.31	12.15	8.32	7.83	8.48	7.61	8.12	7.29	8.24	7.39
7		16.64	15.23	16.32	14.90	10.20	9.60	10.39	9.33	9.95	8.94	10.10	9.07
8		23.73	21.91	23.21	21.18	14.55	12.72	14.78	12.35	13.99	12.56	14.16	12.72

## ■PTO回転速度表

◆GL201・221・241・261・277・281・281Q・301(E)・321(E)・337仕様



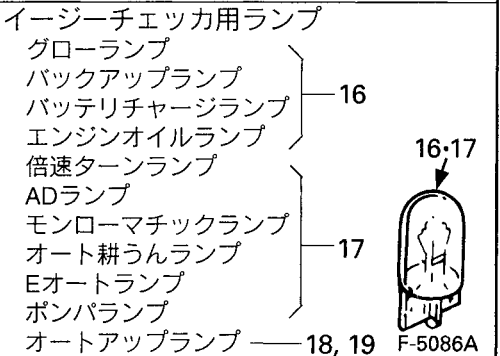
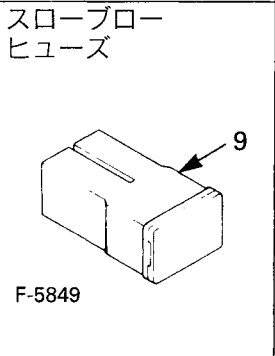
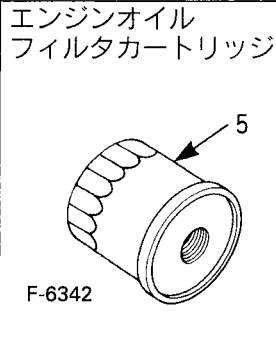
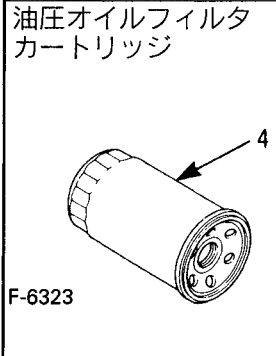
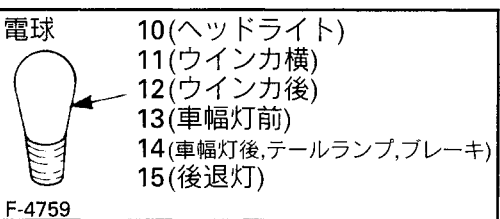
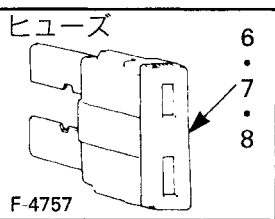
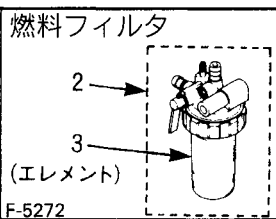
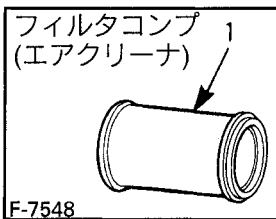
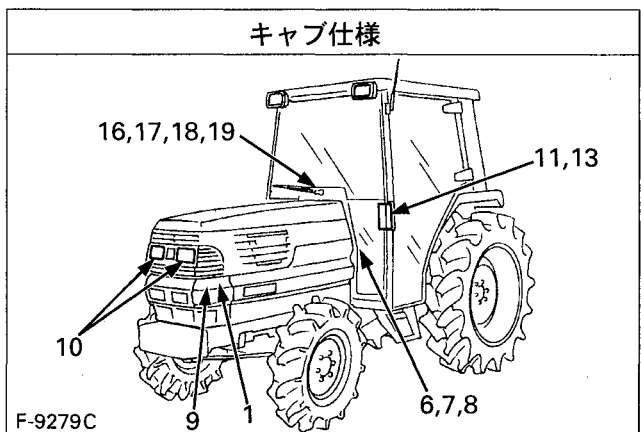
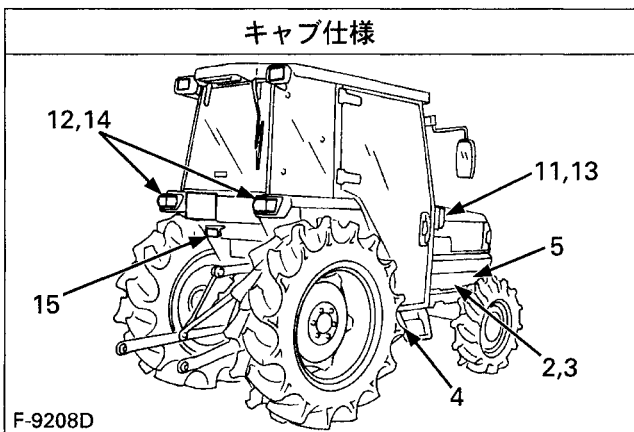
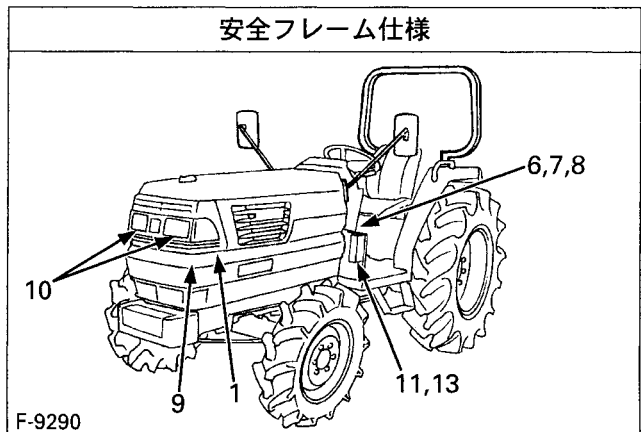
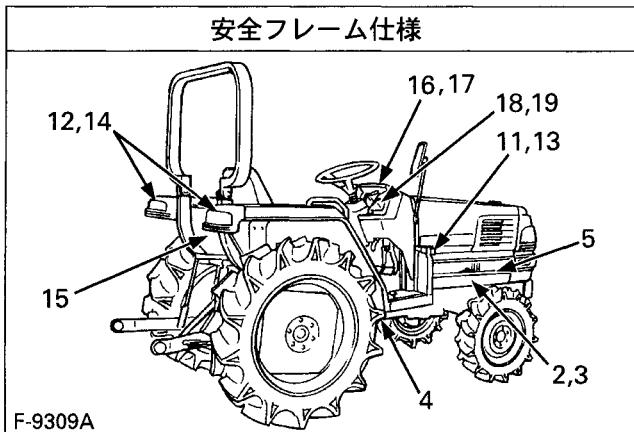
◆GL367(E)・417(E)・467(E)仕様



## 標準付属品

品名	数量 / 台	備考	品名	数量 / 台	備考
ドライバー	1	+ , - 差換え式	取扱説明書	1	
10-12 スパナ	1		サービスブック	1	
14-17 スパナ	1		PTO軸キャップ	1	
19-22 スパナ	1		ボルト	1	} PTO軸キャップ用
24-27 スパナ	1		平座金	1	
17-24 メガネレンチ	1		バネ座金	1	
プライヤ	1		燃料給油ポンプ	1	
スローブローヒューズ	1				
メインスイッチキーアッシ	1	キー2コ			

### 主な消耗部品一覧表



図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	フィルタコンブ(エアクリーナ)	T0270-1632-0	11	デンキユウ	38450-3421-0
2	フューエルフィルタアツシ	16271-4301-3	11	デンキユウ【GL201Q~467Qキャブ仕様全型式とGL277・337・367・417・467の標準仕様】	38150-3384-0
3	フィルタエレメント	16271-4356-0			
4	オイルフィルタカートリッジ	T0070-3771-0	12	デンキユウ	34070-9911-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	12	デンキユウ【GL277・337・367・417・467仕様】	31391-3436-0
6	ヒューズ10A	36730-7555-0			
7	ヒューズ15A	35820-7556-0	13	デンキユウ【GL277・337・367・417・467仕様】	38150-3385-0
8	ヒューズ20A	36919-5665-0	14	デンキユウ【GL277・337・367・417・467仕様】	31301-3437-0
9	スローブローヒューズ	34670-3453-0	15	デンキユウ【GL277・337・367・417・467仕様】	36530-7598-0
	スローブローヒューズ 【GL277・337・367・417・467仕様】	35080-3453-0	16	ランプ	38240-3147-0
10	デンキユウ	34070-9901-0	17	ランプ	38070-3147-0
	デンキユウ【GL277・337・367・417・467仕様】	38450-3387-0	18	ランプ	T0270-3148-0
			19	シール	T0270-3149-0

## アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車	997422-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL201	●片側にストレーク 5 枚取付け用 ●8.3-24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997522-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL221	●片側にストレーク 5 枚取付け用 ●9.5-22用	P200, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997622-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL241 GL241K GL261K GL281K	●片側にストレーク 6 枚取付け用 ●9.5-24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 6組/台
	997722-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL261 GL277 GL301E	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●11.2-24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	992122-1001	ストレーク 取付台アッシ	GL281 GL321E	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●11.2-26用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	998222-1002	水田車輪 取付台アッシ	GL301 GL367	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●12.4-26用 ●12.4-28用	G20, G35の何れか 反転ストレーク アッシ 7組/台
	990722-2001	ストレーク 取付台アッシ	GL321 GL337	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●13.6-24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	990422-1000	ストレーク 取付台アッシ	GL241J	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●9.5-26用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	990622-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL281J	●片側にストレーク 7 枚取付け用 ●11.2-28用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	997122-5001	折りたたみ ストレークアッシ	GL367(E) GL417E GL467E	●12.4-28用	ストレークダイ ボルトキット (99072-21001)
998322-3001	GL417 GL467		●13.6-26用		
輪	990362-5001	P200反転 ストレークアッシ	GL201 GL221 GL241	シュー幅 20cm ピン式 構成はR, L各 1 個	上記の水田車輪取 付台アッシ
	995762-6902	P25反転 ストレークアッシ	GL261 GL281 GL301E	シュー幅 25cm プレート式 構成はR, L各 1 個	
	995162-7902	P30反転 ストレークアッシ	GL321 GL321E GL337 GL241K	シュー幅 30cm プレート式 構成はR, L各 1 個	
	995162-8902	P38反転 ストレークアッシ	GL261K GL281K	シュー幅 38cm プレート式 構成はR, L各 1 個	
	995563-1001	G20反転 ストレークアッシ	GL301 GL367(E)	シュー幅 20cm 左右 7組/台	
	995563-2001	G35反転 ストレークアッシ		シュー幅 35cm 左右 7組/台	



分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
3 点 リ ン ク	T0030-3910-1	トップリンク アッシ	GL201 GL221 GL241	一般作業機用	
	T0050-3910-1		GL261 GL281 GL301E GL321E		
	T0070-3910-1		GL281Q GL301 GL321 GL337 GL367(E) GL417(E) GL467(E)		
	992512-5001		GL201 GL221		
ウ  エ  イ  ト	992211-2001	前部ウエイトアッシ	GL201 GL221 GL241 GL261 GL277 GL281 GL301 GL321 GL337 GL367(E) GL417(E) GL467(E)	28 kg 前車軸フレームの前部に取付け	
	992611-5001	後輪ウエイトアッシ		28 kg × 6 個	
	992611-5111	後輪ウエイト	GL201 GL221 GL241	28 kg 992611-5001に必要なに応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0 kgf/cm <sup>2</sup> )	
	997711-5001	後輪ウエイトアッシ		28 kg × 6 個	
	997711-5111	後輪ウエイト	GL261 GL277 GL301E	28 kg 997711-5001に必要なに応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0 kgf/cm <sup>2</sup> )	01173-51680... 3 コ (ボルト) 04512-50160... 3 コ (バネ座金)
	998311-5001	後輪ウエイトアッシ		33 kg × 6 個	
	998311-5111	後輪ウエイト	GL281 GL301 GL321E	33 kg 998311-5001に必要なに応じて追加	
	992811-5002	後輪ウエイトアッシ		27.5 kg × 6 個	
	992811-5112	後輪ウエイト	GL321 GL337	992811-5002に必要なに応じて追加	
	994111-5001	後輪ウエイトアッシ	GL241J (9.5-26付) GL281J (11.2-28付) GL367(E) GL417(E) GL467(E)	35 kg × 6 個 12.4 - 28用 13.6 - 26用	
	994111-5113	後輪ウエイト	GL241J (9.5-26付) GL281J (11.2-28付) GL367(E) GL417(E) GL467(E)	35 kg 994111-5001に必要なに応じて追加	
	34070-49772	バンパ(15)		15 kg, 20 kg, 30 kg バンパ(鋳物製5 kg)を外して装着 するバンパ型ウエイトです。	34070-49731... 2 コ (ボルト) 02174-50120... 2 コ (ナット)
34070-49782	バンパ(20)	GL201 GL221 GL241 GL261 GL277 GL281			
34070-49793	バンパ(30)	GL301(E) GL321(E) GL337			

分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
その他	99233-87001	キャノピ(簡易型)	GL201 GL221 GL241 GL261 GL277 GL281 GL301(E) GL321(E) GL337 GL367(E) GL417(E) GL467(E)	ホロ製日よけ。	
	99243-86001	キャノピアッシ(アカ)		樹脂製日よけ。	
	99243-87501	キャノピアッシ(オリ タタミカンイ, アカ)		樹脂製折りたたみ簡易。	
	990641-4001	サンバイザアッシ		上記キャノピに追加装着できません。	
	990619-1001	作業灯アッシ		12V27W 1個口 キャブ仕様には装着できません。	
	T0270-99301	作業灯アッシ		12V27W 2個口 キャブ仕様用	
	963971-5101	洗車ポンプ		後部PTO軸に取付け スーパージョイント付には取付けできません。	
	99021-94001	洗車ダッシュポンプ		スーパージョイントに装着しません。	
	992337-5002	ヒッチアッシ		けん引作業時に使用	
	99263-7500-0	エンチョウヒッチ アッシ	GL241K GL261K GL281K	けん引作業時に使用	

## インプレメント一覧表



### 注意

\*三点リンク用作業機を使用するときは、必要に応じてトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。

前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。

\*フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。〔詳細は購入先にご相談ください。〕

品番	品名	適用形式															
		GL 201	GL 221	GL 241K	GL 241	GL 261K	GL 261	GL 277	GL 281	GL 301 301E	GL 321 321E	GL 337	GL 367 367E	GL 417 417E	GL 467 467E		
7C604-02010	RL140G	○	○		○												
7C604-00010	RL140G-B	○	○		○												
7C604-02020	RL140G-V	○	○		○												
7C604-00020	RL140G-VB	○	○		○												
7C604-02620	RL140FG-V	○	○		○												
7C604-00620	RL140FG-VB	○	○		○												
7C604-02110	RL140BOG	○	○		○												
7C604-00110	RL140BOG-B	○	○		○												
7C604-02120	RL140BOG-V	○	○		○												
7C604-00120	RL140BOG-VB	○	○		○												
7C634-02080	RL140G-SC	○	○		○												
7C634-00080	RL140G-SCB	○	○		○												
7C634-02050	RL140G-SCV	○	○		○												
7C634-00050	RL140G-SCVB	○	○		○												
7C634-02650	RL140FG-SCV	○	○		○												
7C634-00650	RL140FG-SCVB	○	○		○												
7C634-02180	RL140BOG-SC	○	○		○												
7C634-00180	RL140BOG-SCB	○	○		○												
7C634-02150	RL140BOG-SCV	○	○		○												
7C634-00150	RL140BOG-SCVB	○	○		○												
7C605-02010	RL150G	○	○	○	○	○	○	○	○								
7C605-00010	RL150G-B	○	○		○		○	○	○								
7C605-02020	RL150G-V	○	○	○	○	○	○	○	○								
7C605-00020	RL150G-VB	○	○		○		○	○	○								
7C605-02620	RL150FG-V	○	○		○		○	○	○								
7C605-00620	RL150FG-VB	○	○		○		○	○	○								
7C605-02110	RL150BOG	○	○		○		○	○	○								
7C605-00110	RL150BOG-B	○	○		○		○	○	○								
7C605-02120	RL150BOG-V	○	○		○		○	○	○								
7C605-00120	RL150BOG-VB	○	○		○		○	○	○								
7C635-02080	RL150G-SC	○	○	○	○	○	○	○	○								
7C635-00080	RL150G-SCB	○	○		○		○	○	○								
7C635-02050	RL150G-SCV	○	○	○	○	○	○	○	○								
7C635-00050	RL150G-SCVB	○	○		○		○	○	○								
7C635-02650	RL150FG-SCV	○	○		○		○	○	○								
7C635-00650	RL150FG-SCVB	○	○		○		○	○	○								
7C635-02180	RL150BOG-SC	○	○		○		○	○	○								
7C635-00180	RL150BOG-SCB	○	○		○		○	○	○								
7C635-02150	RL150BOG-SCV	○	○		○		○	○	○								
7C635-00150	RL150BOG-SCVB	○	○		○		○	○	○								

### 補足

\*B：後2輪付，V：Vカットカバー付，F：福岡向，BO：爪ワンタッチ，SC：マッドレスカバー  
 SCV：マッドレスカバーVカット付，W：300延長付，W2：200延長付，R：センタドライブ  
 RL：サイドドライブ，RM：サイドドライブ，X：正逆転ロータリ

品番	品名	適用形式															
		GL 201	GL 221	GL 241K	GL 241	GL 261K	GL 261	GL 277	GL 281K	GL 241J	GL 281J	GL 281	GL 301 301E	GL 321 321E	GL 337	GL 367 367E	GL 417 417E
7C606-02010	RL160G	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○			
7C606-00010	RL160G-B	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-02020	RL160G-V	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○			
7C606-00020	RL160G-VB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-02620	RL160FG-V	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-00620	RL160FG-VB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-02110	RL160BOG	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-00110	RL160BOG-B	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-02120	RL160BOG-V	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C606-00120	RL160BOG-VB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-02080	RL160G-SC	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○			
7C636-00080	RL160G-SCB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-02050	RL160G-SCV	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C636-00050	RL160G-SCVB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-02650	RL160FG-SCV	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-00650	RL160FG-SCVB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-02180	RL160BOG-SC	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-00180	RL160BOG-SCB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-02150	RL160BOG-SCV	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C636-00150	RL160BOG-SCVB	○	○		○		○	○			○	○	○	○			
7C602-02010	RL160G-E											(○)	(○)				
7C602-00010	RL160G-EB											(○)	(○)				
7C607-02010	RL170G						○	○		○	○	○	○	○			
7C607-00010	RL170G-B						○	○			○	○	○	○			
7C607-02020	RL170G-V						○	○		○	○	○	○	○			
7C607-00020	RL170G-VB						○	○			○	○	○	○			
7C607-02110	RL170BOG						○	○			○	○	○	○			
7C607-00110	RL170BOG-B						○	○			○	○	○	○			
7C607-02120	RL170BOG-V						○	○			○	○	○	○			
7C607-00120	RL170BOG-VB						○	○			○	○	○	○			
7C637-02080	RL170G-SC						○	○			○	○	○	○			
7C637-00080	RL170G-SCB						○	○			○	○	○	○			
7C637-02050	RL170G-SCV						○	○		○	○	○	○	○			
7C637-00050	RL170G-SCVB						○	○			○	○	○	○			
7C637-02180	RL170BOG-SC						○	○			○	○	○	○			
7C637-00180	RL170BOG-SCB						○	○			○	○	○	○			
7C637-02150	RL170BOG-SCV						○	○			○	○	○	○			
7C637-00150	RL170BOG-SCVB						○	○			○	○	○	○			
7C603-02010	RL170G-E											(○)	(○)				
7C603-00010	RL170G-EB											(○)	(○)				
7C682-02010	R120WG	○	○		○		○	○									
7C682-00010	R120WG-B	○	○		○		○	○									
7C682-02020	R120WG-V	○	○		○		○	○									
7C682-00020	R120WG-VB	○	○		○		○	○									
7C683-02010	R130W2G	○	○	○	○	○	○	○	○								
7C683-00010	R130W2G-B	○	○		○		○	○									
7C683-02020	R130W2G-V	○	○		○		○	○									
7C683-00020	R130W2G-VB	○	○		○		○	○									

( ) : E仕様

**補 足**

\*B : 後2輪付, V : Vカットカバー付, F : 福岡向, BO : 爪ワンタッチ, SC : マッドレスカバー  
 SCV : マッドレスカバーVカット付, W : 300延長付, W2 : 200延長付, R : センタドライブ  
 RL : サイドドライブ, RM : サイドドライブ, X : 正逆転ロータリ

品番	品名	適用形式															
		GL 201	GL 221	GL 241	GL 261	GL 277	GL 281K	GL 241J	GL 281J	GL 281	GL 301 301E	GL 321 321E	GL 337	GL 367 367E	GL 417 417E	GL 467 467E	
7C685-02010	R150G	○	○	○	○	○	○	○									
7C685-00010	R150G-B	○	○	○	○	○											
7C685-02020	R150G-V	○	○	○	○	○	○	○									
7C685-00020	R150G-VB	○	○	○	○	○											
7C685-02014	R150G-W	○	○	○	○	○		○									
7C685-00014	R150G-WB	○	○	○	○	○			○								
7C685-02024	R150G-VW	○	○	○	○	○			○								
7C685-00024	R150G-VWB	○	○	○	○	○											
7C685-02017	R150G-W2	○	○	○	○	○			○								
7C685-00017	R150G-W2B	○	○	○	○	○											
7C685-02027	R150G-VW2	○	○	○	○	○			○								
7C685-00027	R150G-VW2B	○	○	○	○	○											
7C675-02080	R150G-SC	○	○	○	○	○											
7C675-00080	R150G-SCB	○	○	○	○	○											
7C675-02050	R150G-SCV	○	○	○	○	○											
7C675-00050	R150G-SCVB	○	○	○	○	○											
7C686-02010	R160G				○	○	○		○	○	○	○	○				
7C686-00010	R160G-B				○	○				○	○	○	○				
7C686-02020	R160G-V				○	○	○		○	○	○	○	○				
7C686-00020	R160G-VB				○	○				○	○	○	○				
7C686-02014	R160G-W				○	○			○	○	○	○	○				
7C686-00014	R160G-WB				○	○				○	○	○	○				
7C686-02024	R160G-VW				○	○			○	○	○	○	○				
7C686-00024	R160G-VWB				○	○				○	○	○	○				
7C686-02017	R160G-W2				○	○			○	○	○	○	○				
7C686-00017	R160G-W2B				○	○				○	○	○	○				
7C686-02027	R160G-VW2				○	○			○	○	○	○	○				
7C686-00027	R160G-VW2B				○	○				○	○	○	○				
7C676-02080	R160G-SC				○	○				○	○	○	○				
7C676-00080	R160G-SCB				○	○				○	○	○	○				
7C676-02050	R160G-SCV				○	○				○	○	○	○				
7C676-00050	R160G-SCVB				○	○				○	○	○	○				
7C664-02010	RL140XG	○	○														
7C664-00010	RL140XG-B	○	○														
7C664-02020	RL140XG-V	○	○														
7C664-00020	RL140XG-VB	○	○														
7C665-02010	RL150XG	○	○	○	○	○				○							
7C665-00010	RL150XG-B	○	○	○	○	○				○							
7C665-02020	RL150XG-V	○	○	○	○	○				○							
7C665-00020	RL150XG-VB	○	○	○	○	○				○							
7C665-02620	RL150XFG-V	○	○	○	○	○				○							
7C665-00620	RL150XFG-VB	○	○	○	○	○				○							
7C666-02010	RL160XG				○	○				○	○	○	○				
7C666-00010	RL160XG-B				○	○				○	○	○	○				
7C666-02020	RL160XG-V				○	○				○	○	○	○				
7C666-00020	RL160XG-VB				○	○				○	○	○	○				
7C666-02620	RL160XFG-V				○	○				○	○	○	○				
7C666-00620	RL160XFG-VB				○	○				○	○	○	○				
7C667-02010	RL170XG									○	○	○	○				
7C667-00010	RL170XG-B									○	○	○	○				
7C667-02020	RL170XG-V									○	○	○	○				
7C667-00020	RL170XG-VB									○	○	○	○				

補 足
-----

\*B：後2輪付，V：Vカットカバー付，F：福岡向，BO：爪ワンタッチ，SC：マッドレスカバー  
 SCV：マッドレスカバーVカット付，W：300延長付，W2：200延長付，R：センタドライブ  
 RL：サイドドライブ，RM：サイドドライブ，X：正逆転ロータリ

品番	品名	適用形式															
		GL 201 221	GL 241 K	GL 261 K	GL 281 K	GL 241 J	GL 281 J	GL 241	GL 261 301E	GL 277	GL 281 321E	GL 301 281Q	GL 321	GL 337	GL 367 (E)	GL 417 (E)	GL 467 (E)
7E601-00010	RM170G-E														(○)	(○)	(○)
7E607-02010	RM170G														○	○	○
7E607-00010	RM170G-B														○	○	○
7E637-02080	RM170G-SC														○	○	○
7E637-00080	RM170G-SCB														○	○	○
7E602-00010	RM180G-E														(○)	(○)	(○)
7E608-02010	RM180G														○	○	○
7E608-00010	RM180G-B														○	○	○
7E638-02080	RM180G-SC														○	○	○
7E638-00080	RM180G-SCB														○	○	○
7E609-02010	RM190G																○
7E609-00010	RM190G-B																○
7E639-02080	RM190G-SC																○
7E639-00080	RM190G-SCB																○
7C600-01000	UL195-7RF補助ユニット(スパージョイントなし)	○						○									
7C600-02000	U205Q-7RF補助ユニット(スパージョイント付)	○						○									
7C600-07000	U261K-7RF補助ユニット(スパージョイントなし)		○	○													
7C600-08000	U261KQ-7RF補助ユニット(スパージョイント付)		○	○													
70883-00000	U235K-5RF補助ユニット(スパージョイントなし)				○												
7C600-03000	U255-7RF補助ユニット(スパージョイントなし)					○		○	○	○							
7C600-04000	U265Q-7RF補助ユニット(スパージョイント付)					○		○	○	○							
7C600-05000	U295-7RF補助ユニット(スパージョイントなし)						○					○	○	○			
7C600-06000	U305Q-7RF補助ユニット(スパージョイント付)						○					○	○	○			
7E600-01000	U360-7RF補助ユニット(スパージョイントなし)														○	○	○
7E600-02000	U360Q-7RF補助ユニット(スパージョイント付)														○	○	○
75831-08300	GLH240グレイタスローダ	★	★	★	★			★									
75831-08310	GLH240-PSLグレイタスローダ	☆						☆									
75832-08900	GLH320グレイタスローダ					★	★		★	※★	★	★	★	※★			
75832-08910	GLH320-PSLグレイタスローダ					☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆			
75833-08180	GLH420グレイタスローダ														★	★	★
75833-08190	GLH420-PSLグレイタスローダ														☆	☆	☆
74242-18070	SD403Dスーパディスク	○				○		○	○	○							
74251-18010	SD423Dスーパディスク	○				○		○	○	○							
74243-18060	SD603Dスーパディスク					○		○	○	○	○	○	○				
74252-18010	SD623Dスーパディスク	○				○	○	○	○	○	○	○	○				
74311-48000	全面マルチ土壤消毒機	○						○	○	○							
L1901-00000	GL-プラス1油圧取出しキット	★	★	★	★	★	★	★	△	★	△	△	△	★	★	★	★
L1902-00000	GL-プラス1油圧取出しキット(キャブ用)	☆				☆	☆	☆	△	☆	△	△	△	☆	☆	☆	☆
78485-00000	RT-2D2軸マルチロータリ	○						○	○	○							
78475-00000	RT-11(M1)小うね(ロールなし)マルチロータリ	○						○									
78476-00000	RT-11(M2)小うね(ロール3本)マルチロータリ	○						○									
78477-00000	RT-11(M3)高うねマルチロータリ	○						○									
78478-00000	RT-11(M4)平高うねマルチロータリ	○						○									
78479-00000	RT-11(M5)小うね2うねマルチロータリ	○						○									
78480-00000	RT-11(GL)取付けキット	○						○									
78481-00000	RT-11(M6)高うねマルチロータリ	○						○									
99071-17001	GL368ウエイトトリツケダイアッソ														○	○	○

## 補 足

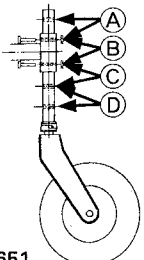
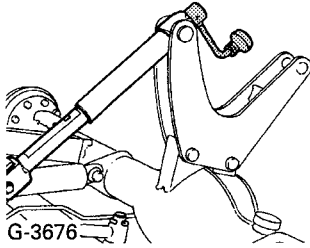
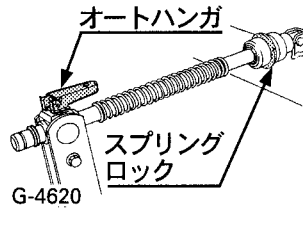
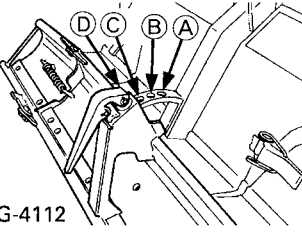
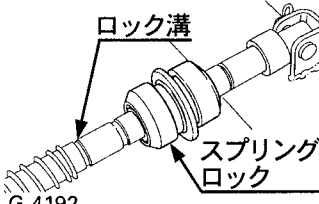
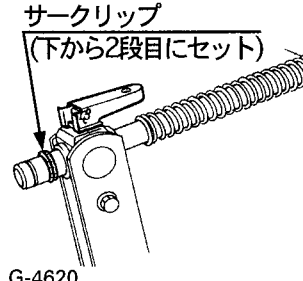
( ) : E仕様

- B : 後2輪付, V : Vカットカバー付, F : 福岡向, BO : 爪ワンタッチ, SC : マッドレスカバー  
SCV : マッドレスカバーVカット付, W : 300延長付, W2 : 200延長付, R : センタドライブ  
RL : サイドドライブ, RM : サイドドライブ, X : 正逆転ロータリ
- ★ : 安全フレーム仕様トラクタ, ☆ : キャブ仕様トラクタに適用します。
- △ : マイエアコン仕様トラクタ(GL261C, 281C, 301C, 321C)には適用していません。
- GLH320ローダを※印トラクタ(GL277,337)に装着する場合は, 別途, 大特キット[DK320(75999-08150)]が必要です。

# 作業ごとの一般的な調整要領

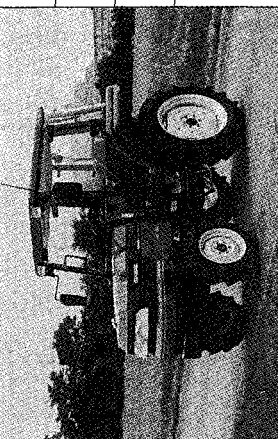
作業内容		操作調整箇所		
		オート耕深調節ダイヤル	オート切換えスイッチ	油圧レバー
操作方法		<p>オート耕深調節ダイヤル</p> <p>オート切換えスイッチ</p> <p>F-9243P</p>		<p>F-9263</p>
浅起し (5~8cm)	オート 【MA仕様】			<p>“最下位置”</p>
	ポジション コントロール	—		
一般耕うん (8~15cm)	オート 【MA仕様】			
	ポジション コントロール	—		
深起し (15cm以上)	オート 【MA仕様】			
	ポジション コントロール	—		
代かき (10~12cm)	一般 ほ場			
	湿田 ほ場			
	一般 湿田	—		
畝立て	Eオート ポジション コントロール	—		

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。  
土質など作業条件に合わせて適宜調整してください。

操 作 調 整 箇 所			
 <p>F-3651</p>	 <p>G-3676</p>	 <p>オートハンガ スプリング ロック G-4620</p>	 <p>G-4112</p>
後2輪上下調節	後2輪ハンドル	スプリングロック,オートハンガ	フラップカバー
後2輪を外します	—		Ⓑ又はⒸの位置
Ⓐ又はⒷの位置	希望耕深になるよう調整	●スプリングロック 接地圧条件に合わせて セット	
後2輪を外します	—		Ⓑの位置
Ⓑの位置 (必要に応じて Ⓑ又はⒸの位置)	希望耕深になるよう調整	 <p>ロック溝 スプリング ロック G-4192</p>	
後2輪を外します	—		●荒起し Ⓒの位置 ●細土耕うん Ⓐ又はⒷの位置
Ⓓの位置	希望耕深になるよう調整	●マッドレスロータリ使用時 ●ロングカット爪使用時	
後2輪を外します	—		Ⓒ又はⒹの位置
Ⓐの位置	希望耕深になるよう調整	 <p>サークリップ (下から2段目にセット) G-4620</p>	Ⓓの位置
後2輪を外します	—	●カバーを上げオートハンガでセット	フラップカバーを外します



# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

		型式名: <b>クボタ GSO241S</b>
		合格番号: <b>96016</b>
種類: <b>安全キャブ</b>		依頼者名: <b>株式会社 クボタ</b>
住所: <b>大阪府大阪市浪速区難津東1丁目 2番47号</b>		住所: <b>大阪府大阪市浪速区難津東1丁目 2番47号</b>

平成8年8月15日  
 国土交通省  
 農林水産省  
 建設省  
 国土院  
 建設省  
 国土院  
 建設省  
 国土院

4. 主要材料
- 主フレーム: STKR 400, STKW 11A, SS 400, SPHC, SPCC相当
  - 装着ブラケット: SS 400, SPHC
  - 組立・装着ボルト: S40~45C

## III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。
- 基準質量: 1300 kg
  - 所要エネルギー: 後部負荷 2.09 kJ (213 kgf\*m)  
側部負荷 2.92 kJ (298 kgf\*m)
  - 圧壊力: 19.12 kN (1950 kgf)
- 2) 試験後のキャブの永久変位
- 後部(前方へ): 右側 0.5 cm 左側 4.5 cm
  - 側部(後方へ): 右側 -3.0 cm 左側 -5.5 cm
  - 側部(左側方へ): 前側 8.5 cm 後側 8.0 cm
  - 上部(下方へ): 前部 右側 -1.0 cm 左側 -1.0 cm  
後部 右側 0.0 cm 左側 -1.0 cm
- 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差: 10.5 cm
2. 騒音
- 83 dBA (クボタ GL241) 83 dBA (クボタ GL201)
- ※ 7.5m/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

## I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ GL241	クボタ GL221	クボタ GL201
主要諸元(最大及び最小トラクター)	クボタ GL241	クボタ GL201	クボタ GL201
■型式	: 4輪駆動	: 4輪駆動	: 4輪駆動
■質量(キャブ付き)	kg: 1292	kg: 1284	kg: 1585
■軸距	mm: 1585	mm: 1585	mm: 1585
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm: 18.4(25)/2600	kW(PS)/rpm: 15.4(21)/2000	kW(PS)/rpm: 15.4(21)/2000

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法
- 供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央軌材をボルト締めにより組立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、ブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
- ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。
2. 主な装備
- シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)
3. 主要寸法
- 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ: 91.0 cm
  - フロントプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ: 133.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅: 86.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅: 90.0 cm
  - 戸口の幅(上部): 74.0 cm
  - 戸口の幅(中部): 86.0 cm
  - 戸口の幅(フロントプレートから): 32.5 cm
  - 最低ステップの高さ: 124.0 cm
  - キャブ装着時のトラクターの全高(フェンダーを含む): 36.0 cm
  - キャブの全幅: 199.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離: 120.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離: 25.5 cm

※ 1. クボタ GL241 (タイヤサイズ: 前輪 6-14 後輪 9.5-24) に装着時。  
 2. トラクタシートの特許形式: しげる工業, T0270-4770  
 3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に調整。

**農用トラクター(乗用型)用安全キャブ  
及び安全フレーム検査成績表**

型式名: クボタ GS0261S

合格番号: 96017

種類: 安全キャブ

依頼者名: 株式会社 クボタ  
住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目  
2番47号

平成8年8月18日  
検査済  
検査機関  
日野自動車株式会社



### I 装着可能トラクター

1. 型式名  
クボタ GL261

2. 主要諸元

- 型式 : クボタ GL261
- 種類 : 4輪駆動
- 質量 (キャブ付き) : 1361 kg
- 軸距 : 1645 mm
- 機関出力 / 回転数 : 19.9(27)/2600 kW (PS)/rpm

### II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央横材をボルト締めにより組み立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、ブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主な装備  
ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。

シートベルト(2点式)、暖冷房装置、電動ワイパー(前・後)

3. 主要寸法 ※

- 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ : 91.0 cm
- フートプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ : 133.5 cm
- 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅 : 86.0 cm
- ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅 : 91.5 cm
- 戸口の幅 (上部) : 74.5 cm
- (中部) : 86.5 cm
- (下部) : 32.5 cm
- (フートプレートから) : 124.0 cm
- 戸口の高さ : 36.0 cm
- 最低ステップの高さ (キャブ上端まで) : 199.5 cm
- キャブ装着時のトラクターの全高 (フェンダーを含む) : 120.0 cm
- キャブの全幅 : 26.0 cm
- 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 26.0 cm

※1. クボタ GL261 (タイヤサイズ : 前輪 7-16 後輪 11.2-24) に装着時。  
2. トラクターシート形状型式 : しげる工業、T0270-4770  
3. ステアリングホイールの中心高は中央位置に調整。

4. 主要材料  
■ フレーム : STKR 400, STKW 11A, SS 400, SPHC, SPCC相当  
■ 装着ブラケット : SS 400, SPHC  
■ 組立・装着ボルト : S40-45C

### III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

- 基準質量 : 1365 kg
- 所要吸収エネルギー : 後部負荷 2.20 kJ (224 kgf·m)  
側部負荷 3.01 kJ (307 kgf·m)

2) 圧壊後のキャブの永久変位

- 後部(前方へ) : 右側 1.0 cm 左側 5.0 cm
- 前部(後方へ) : 右側 -3.5 cm 左側 -7.0 cm
- 側部(左側方へ) : 前側 7.5 cm 後側 10.0 cm
- 上部(下方へ) : 前部 右側 -0.5 cm 左側 -0.5 cm
- 後部 右側 0.5 cm 左側 1.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 : 10.5 cm

2. 騒音 ※

■ 83 dBA (クボタ GL261)

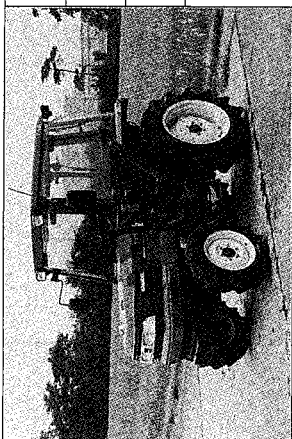
※ 7.5m/sに近しい速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

### IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

	
型式名: クボタ GSQ277S	
合格番号: 96018	
種	類: 安全キャブ
依頼者名:	株式会社 クボタ
住	所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目 2番47号



## I 装着可能トラクター

1. 型式名  
クボタ GL277

2. 主要諸元  
 ■ 型式 : クボタ GL277  
 ■ 種類 : 4輪駆動  
 ■ 質量 (キャブ付き) : 1393 kg  
 ■ 軸距 : 1645 mm  
 ■ 機関出力 / 回転数 : 19.9 (27) / 2600 kW (PS) / rpm

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
 供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央部材をボルト締めにより組立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、ブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主な装備  
 ウィンドスクリーン、ドア (両側)、側窓、後窓を装備。

3. 主要寸法 ※  
 シートベルト (2点式)、暖房装置、電動ワイパー (前・後)

- 座席基準点から屋根部材 (内張下面) までの高さ : 101.0 cm
- フートプレートから屋根部材 (内張下面) までの高さ : 144.0 cm
- 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅 : 87.5 cm
- ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅 : 94.0 cm
- 戸口の幅 (上部) : 73.0 cm
- (中部) : 87.0 cm
- (下部) : 92.0 cm
- (フートプレートから) : 134.5 cm
- 最低ステッピングの高さ (キャブ上端まで) : 36.0 cm
- キャブ装着時のトラクターの全高 (フェンダーを含む) : 210.5 cm
- キャブの全幅 : 121.0 cm
- 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 28.0 cm

※ 1. クボタ GL277 (クワイヤサイズ: 前輪 7-16 後輪 11.2-24) に装着時。

2. トラクターシートの新形式: しげる工業, T0270-4770

3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に拠る。

4. 主要材料  
 ■ 主フレーム: STKR 400, STKR 11A, SS 400, SPHC, SPC相当  
 ■ 装着プラットフォーム: SS 400, SPHC  
 ■ 組立・装着ボルト: S40~45C

## III 検査成績

1. 強度試験  
 1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。  
 ■ 基準質量 : 1395 kg  
 ■ 所要吸収エネルギー : 後部負荷 2.25 kJ (229 kgf·m)  
 側部負荷 3.05 kJ (311 kgf·m)  
 ■ 圧壊力 : 20.52 kN (2092 kgf)
- 2) 試験後のキャブの永久変位  
 ■ 後部 (前方へ) : 右側 1.5 cm 左側 5.0 cm  
 ■ 前部 (後方へ) : 右側 -4.0 cm 左側 -7.0 cm  
 ■ 側部 (左側方へ) : 前側 10.0 cm 後側 12.0 cm  
 ■ 上部 (下方へ) : 前部 右側 -1.0 cm 左側 -1.0 cm  
 後部 右側 0.5 cm 左側 0.5 cm
- 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 : 11.0 cm

2. 騒音 ※

■ 81 dBA (クボタ GL277)

※ 7.5m/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

**農用トラクター(乗用型)用安全キャブ  
及び安全フレーム検査成績表**

平成8年8月16日  
油物系特産農業技術  
研究所 検査課 検査



型式名: **クボタ GSQ321S**

合格番号: **96019**

種類: **安全キャブ**

依頼者名: 株式会社 クボタ  
住所: 大阪府大阪市浪速区難波東1丁目  
2番47号

4. 主要材料
- フレーム: STKR 400, STKM 11A, SS 400, SPIC, SPC相当
  - 装着ブラケット: SS 400, SPIC
  - 組立・装着ボルト: S40~45C

### III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。
- 基準質量: 1440 kg
  - 所要吸収エネルギー: 後部負荷 2.32 kJ (236 kgf·m)  
側部負荷 3.11 kJ (318 kgf·m)
  - 圧壊力: 21.18 kN (2160 kgf)
- 2) 試験後のキャブの永久変位
- 後部(前方へ): 右側 2.0 cm 左側 5.0 cm
  - 前部(後方へ): 右側 -4.5 cm 左側 -6.5 cm
  - 側部(左側方へ): 前側 10.5 cm 後側 9.0 cm
  - 上部(下方へ): 前部 右側 -1.0 cm 左側 -1.5 cm  
後部 右側 -1.5 cm 左側 -1.0 cm
- 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差: 10.5 cm

2. 騒音
- 88 dBA (クボタ GL321) 88 dBA (クボタ GL281)

※ 1.5m/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音、運転者の耳もと

### IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

## I 装着可能トラクター

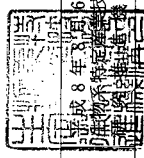
型式名	クボタ GL321	クボタ GL301	クボタ GL281
主要諸元(最大及び最小トラクター)			クボタ GL281
■型式			クボタ GL321
■種類			4輪駆動
■質量(キャブ付き)	kg: 1432	kg: 1410	1410
■軸距	mm: 1750	mm: 1700	1700
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm: 24.3(33)/2800		21.3(29)/2700

## II 構造の概要

1. 構造及び装法
- 供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央構材をボルト締めにより組立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、ブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
2. 主な装備
- ウインドスクリーン、ドア(両側)、刺窓、後窓を装備。
- シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)
3. 主要寸法
- 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ: 91.0 cm
  - フロントプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ: 133.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅: 86.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅: 91.5 cm
  - 戸口の幅(上部): 74.0 cm
  - (中部): 86.5 cm
  - (下部): 32.5 cm
  - (フロントプレートから): 124.5 cm
  - 戸口の高さ: 87.0 cm
  - 最低位ステップの高さ(キャブ上端まで): 199.5 cm
  - キャブ装着時のトラクターの全高(フェンダーを含む): 120.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離: 26.5 cm
- ※ 1. クボタ GL321 (クボタサイズ: 前輪φ16 後輪φ13.6-24) に装着時。  
2. トラクターシートの後部型式: しゃり工機、T0270-4770  
3. ステアリングホイールの中心高は中央位置に調整。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ  
及び安全フレーム検査成績表

	型式名: クボタ GSQ337S
	合格番号: 96020
種類: 安全キャブ	依頼者名: 株式会社 クボタ
	住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目 2番47号



I 装着可能トラクター

1. 型式名  
クボタ GL337

2. 主要諸元
- 型式 : クボタ GL337
  - 種類 : 4輪駆動
  - 質量(キャブ付き) : 1469 kg
  - 軸距 : 1750 mm
  - 機関出力/回転数 : 24.3(33)/2700 kW(PS)/rpm

II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央横材をボルト締めにより組立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、ブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
2. 主な装備  
ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓、後窓を装備。  
シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)
3. 主要寸法 ※
- 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ : 101.0 cm
  - フロントプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ : 143.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅 : 88.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅 : 94.0 cm
  - 戸口の幅 : 53.0 cm
  - 戸口の高さ : 86.5 cm
  - 最低ステップの高さ : 32.0 cm
  - キャブ装着時のトラクターの全高(キャブ上端まで) : 134.0 cm
  - キャブの全幅(フェンダーを含む) : 37.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 121.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 29.0 cm

※1. クボタ GL337 (タイヤサイズ : 前輪 8-16 後輪 13.6-24) に装着時。  
※2. トラクターステアの銘柄型式 : しげる工業、T0270-4770  
※3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に両側。

4. 主要材料
- フレーム : S17C
  - 支柱 : SS 400, SPC
  - 組立・装着ボルト : S40~45C

III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平荷重試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。
    - 基準質量 : 1470 kg
    - 必要吸取エネルギー : 後部負荷 2.37 kJ (241 kgf·m)
    - 側部負荷 3.16 kJ (322 kgf·m)
    - 圧壊力 : 21.62 kN (2205 kgf)
  - 2) 試験後のキャブの永久変位
    - 後部(前方へ) : 右側 1.5 cm 左側 5.5 cm
    - 前部(後方へ) : 右側 -5.5 cm 左側 -8.5 cm
    - 側部(左側方へ) : 前側 13.5 cm 後側 16.5 cm
    - 上部(下方へ) : 前部 右側 -0.5 cm 左側 0.0 cm
    - 後部 右側 1.0 cm 左側 1.0 cm
  - 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 : 6.0 cm


2. 騒音 ※
- 81 dBA (クボタ GL337)

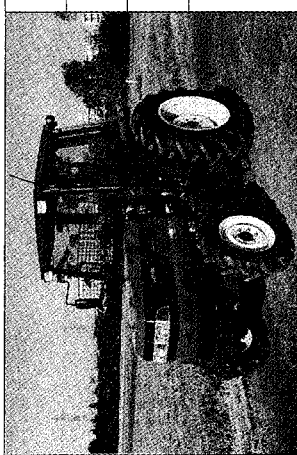
※ 7.5m/1hに近い速度段で、けん引荷重をかけた際のキャブ内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

	
型式名： <b>クボタ GS0417S</b>	検査日：平成29年12月14日 検査場所：株式会社クボタ 住所：大阪府大阪市東淀川区津東1丁目2番47号
合格番号： <b>96087</b>	種類： <b>安全キャブ</b>
依頼者名：株式会社 クボタ 住所：大阪府大阪市東淀川区津東1丁目2番47号	



## III 検査成績

4. 主要材料
- 主フレーム：STKR 400, STKM 11A, SS 400, SPHC, SPCC相当
  - 装着ブラケット：SS 400, SPHC
  - 組立・装着ボルト：S40~45C

### 1. 強度試験

1) 水平荷重試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

- 基準質量：1640 kg
  - 所要吸収エネルギー：後部負荷 2.64 kJ (269 kgf・m)  
側部負荷 3.39 kJ (346 kgf・m)
  - 圧縮力：24.12 kN (2460 kgf)
- 2) 試験後のキャブの永久変位
- 後部(前方へ)：右側 0.5 cm 左側 6.0 cm
  - 前部(後方へ)：右側 -3.0 cm 左側 -7.5 cm
  - 側部(左側方へ)：前側 10.0 cm 後側 11.5 cm
  - 上部(下方へ)：前部 右側 -1.5 cm 左側 -2.0 cm  
後部 右側 -1.0 cm 左側 0.5 cm
- 3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：9.5 cm

### 2. 騒音※

- 83 dBA (クボタ GL467) 82 dBA (クボタ GL367)

※7.5m付近に設置して、けん引負荷をかけた際のキャブ内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

本キャブは、既合格機(合格番号 96021)であり、装着トラクター1型式(クボタ GL467)の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。  
強度試験、分解調査

## I 装着可能トラクター

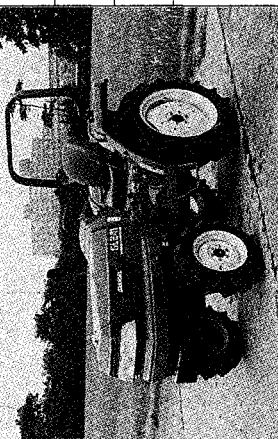
1. 型式名	クボタ GL467	クボタ GL417	クボタ GL367
2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)	クボタ GL467	クボタ GL367	クボタ GL367
■ 型式	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■ 質量(キャブ付き)	1632 kg	1633	1633
■ 質量	1855 kg	1830	1830
■ 軸距	1855 mm	1830	1830
■ 機関出力/回転数	kW(PS)/rpm : 33.8(46)/2800	26.5(36)/2600	26.5(36)/2600

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とし、上部中央構材をボルト締めにより組立てる他は溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
2. 主な装備  
ウインドスクリーン、ドア(両側)、側窓を装備。  
シートベルト(2点式)、暖房装置、電動ワイパー(前・後)
3. 主要寸法※
- 座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ : 101.5 cm
  - フートプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ : 144.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅 : 88.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅 : 93.5 cm
  - 戸口の幅(上部) : 72.5 cm
  - (中部) : 86.5 cm
  - (下部) : 32.5 cm
  - フートプレートから(フートプレートから) : 134.5 cm
  - 最低ステップの高さ : 38.5 cm
  - キャブ装着時のトラクターの全高(キャブ上端まで) : 213.5 cm
  - キャブの全高(フエントを含む) : 121.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離 : 27.0 cm
- ※1. クボタ GL467 (タイヤサイズ：前輪 8-16 後輪 13.6-26) に装着時。  
2. トラクターシートの新規型式：しげる工業、T0270-4770  
3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に調整。

# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成8年8月16日  
技術  
検査  
合格  
検査  
番号  
10270-4770



型式名: **クボタ GSF23**  
合格番号: **96024**  
種類: **安全フレーム (2柱式)**  
依頼者名: 株式会社 クボタ  
住所: 大阪府大阪市浪速区難津東1丁目  
2番47号

## I 装着可能トラクター

型式名	クボタ GL241	クボタ GL240	クボタ GL-23	クボタ GL221
クボタ GL220	クボタ GL201	クボタ GL200	クボタ GL-21	クボタ GL-19
クボタ GL-19				
主要諸元 (最大及び最小トラクター)	クボタ GL241			
■型式	4輪駆動			
■種類	クボタ GL-19			
■質量 (フレーム付き)	1099 kg			
■軸距	1550 mm			
■機関出力 / 回転数	kW(PS)/rpm : 18.4(25)/2600			

## II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介してフレキシブルジョイント部及び後車軸ケース部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができ。
- 主な装備  
シートベルト (2点式)
- 主要寸法 ※  
  - 座席基準点から屋根部材 (下面) までの高さ : 87.5 cm
  - フロントから屋根部材 (下面) までの高さ : 130.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅 : 94.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅 (上部) : - cm
  - 戸口の幅 (中部) : - cm
  - 戸口の幅 (下部) : - cm
  - 戸口の幅 (フロントから) : - cm
  - 最低ステップの高さ : 40.5 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高 (屋根部材上面まで) : 197.0 cm
  - フレームの全高 : 108.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : 32.0 cm

※ 1. クボタ GL241 (タイプサイズ : 前輪 6-14 後輪 8.5-24) に装着時。  
2. トラクターシートの詳細型式 : しげる工業、T10270-4770  
3. ステアリングホイールの中心位置は中央位置に調整。

4. 主要材料
  - 主フレーム : STKR 400, SS 400
  - 装着ブラケット : SS 400
  - 組立・装着ボルト : S40~45C, SS 400

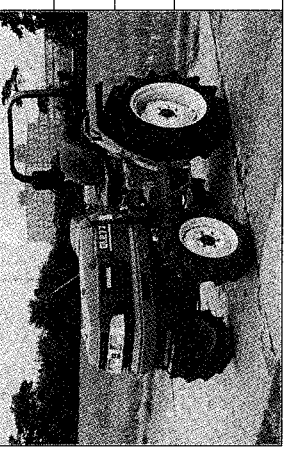
## III 検査成績

1. 強度試験
  - 1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。
    - 基準質量 : 1120 kg
    - 所要吸収エネルギー : 後部負荷 1.80 kJ (184 kgf・m)
    - 側部負荷 2.67 kJ (273 kgf・m)
    - 圧壊力 : 16.48 kN (1680 kgf)
  - 2) 試験後のフレームの永久変位
    - 後部 (前方へ) : 右側 14.0 cm 左側 11.5 cm
    - 側部 (左側方へ) : 16.0 cm
    - 上部 (下方へ) : 右側 -2.5 cm 左側 4.5 cm
  - 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 : 11.0 cm
2. 騒音 ※
  - 82 dBA (クボタ GL-23) 82 dBA (クボタ GL-19)
  - ※ 7.5m/hに近い速度で、無負荷走行時のフレーム内騒音、運転者の耳もと
  - 86 dBA (クボタ GL241) 84.5 dBA (クボタ GL200)
  - ※ 7.5m/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

本フレームは、既合格機 (合格番号 99010) であり、装着トラクター 3 型式 (クボタ GL241、クボタ GL221、クボタ GL201) の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。  
強度試験、分解調査

# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



平成8年8月8日  
農林省特許産業技術  
検査推進機構

型式名: **クボタ GSF27**

合格番号: **96025**

種 類: **安全フレーム (2柱式)**

依頼者名: 株式会社 クボタ  
住 所: 大阪府大阪市浪速区歌津東1丁目  
2番47号

## I 装着可能トラクター

型式名	クボタ GL277	クボタ GL-27	クボタ GL-26	クボタ GL301E
	クボタ GL300E	クボタ GL261	クボタ GL260	クボタ GL268
クボタ GL-25				

2. 主要諸元 (最大及び最小トラクター)

■ 型 式	クボタ GL277	クボタ GL-25
■ 種 類	4 輪駆動	4 輪駆動
■ 質量 (フレーム付き)	kg : 1207	1175
■ 軸 距	mm : 1645	1645
■ 機関出力 / 回転数	kW (PS) / rpm : 19.9 (27) / 2600	18.4 (25) / 2600

## II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介してアレーキハウジング及び後車軸ケース部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。
- 主な装備  
シートベルト (2点式)
- 主要寸法 ※  
  - 座席基準点から屋根部材 (下面) までの高さ : 84.5 cm
  - フートプレートから屋根部材 (下面) までの高さ : 127.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅 : 92.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅 (上部) : - cm
  - 戸口の幅 (中部) : - cm
  - (下部) : - cm
  - フートプレートから (下部) : - cm
  - 戸口の高さ : - cm
  - 最低ステップの高さ : 40.5 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高 (屋根部材上面まで) : 194.5 cm
  - フレームの全幅 : 107.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : 32.0 cm

※ 1. クボタ GL277 (タイヤサイズ : 前輪 T-16 後輪 11.2-24) に装着時。  
2. トラクターシートは後向き : しげる工業 T0270-4170  
3. ステアリングホイールの中心は中央位置に調整。

4. 主要材料
- 主 フ レ ー ム : STKR 400, SS 400
  - 装着ブラケット : SS 400
  - 組立・装着ボルト : S40~45C, SS 400

## III 検査成績

- 強度試験  
1) 水平荷重試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。  
  - 基準 質 量 : 1235 kg
  - 所要吸収エネルギー : 後部負荷 1.99 kJ ( 203 kgf・m)
  - 側部負荷 2.83 kJ ( 289 kgf・m)
  - 圧 壊 力 : 18.17 kN ( 1852 kgf)
- 試験後のフレームの永久変位  
  - 後 部 (前 方 へ) : 右側 15.0 cm 左側 9.0 cm
  - 側 部 (左 側 方 へ) : 16.5 cm
  - 上 部 (下 方 へ) : 右側 -2.0 cm 左側 5.0 cm
- 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 : 10.0 cm

## IV 付 記

- 音 ※  
    - 85 dBA (クボタ GL277) 85 dBA (クボタ GL-25)

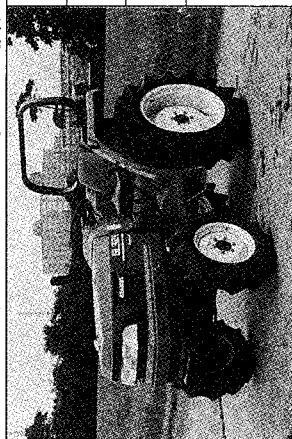
※ 1.5km/hに近い速度で、けん引荷重をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと
- 本フレームは、既合格機 (合格番号 94082) であり、装着トラクター3型式 (クボタ GL277, クボタ GL301E, クボタ GL261) の追加に伴って受検したものである。従って上記の試験成績を転用した。
- 強度試験、分解調査



# 農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成 8 年 8 月 8 日  
生物系特定産業技術  
研究開発機構  
附属標準検査機構

型式名: クボタ GSF280
合格番号: 96026
種類: 安全フレーム (2柱式)
依頼者名: 株式会社 クボタ
住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目 2番47号



4. 主要材料
- 主フレーム: STKR 400, SS 400
  - 装着ブラケット: SS 400
  - 組立・装着ボルト: S40~45C, SS 400

## III 検査成績

1. 強度試験
- 1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。
- 基準質量: 1250 kg
  - 所要吸収エネルギー: 後部負荷 2.01 kJ (205 kgf·m)  
側部負荷 2.85 kJ (291 kgf·m)
  - 圧壊力: 18.39 kN (1875 kgf)
- 2) 試験後のフレームの永久変位
- 後部(前方へ): 右側 13.0 cm 左側 10.0 cm
  - 側部(左側方へ): 13.5 cm
  - 上部(下方へ): 右側 -1.5 cm 左側 5.0 cm
- 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差: 10.0 cm

2. 騒音
- 87 dBA (クボタ GL321E) 86 dBA (クボタ GL280)
- ※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

## IV 付記

本フレームは、既合格機(合格番号 94083)であり、装着トラクター2型式(クボタ GL321E、クボタ GL281)の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。  
強度試験、分解調査

## I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ GL321E	クボタ GL320E	クボタ GL281	クボタ GL280
主要諸元(最大及び最小トラクター)				
■型式	クボタ GL321E	クボタ GL321E	クボタ GL281	クボタ GL280
■種類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg: 1187	kg: 1187	1222	1222
■轴距	mm: 1645	mm: 1645	1645	1645
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm: 24.8(33)/2800	kW(PS)/rpm: 24.8(33)/2800	20.6(28)/2600	20.6(28)/2600

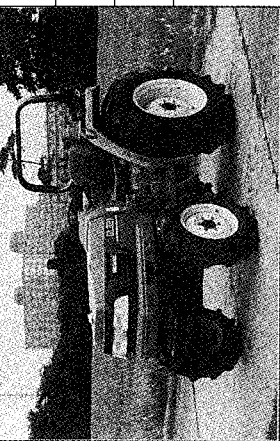
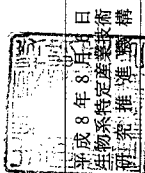
## II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介してブレーキハウジング及び後車軸ケーシング部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2. 主な装備  
シートベルト (2点式)
3. 主要寸法
- 座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ: 84.0 cm
  - フロントプレートから屋根部材(下面)までの高さ: 128.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅: 92.5 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅(上部): - cm
  - 戸口の幅(中部): - cm
  - 戸口の幅(下部): - cm
  - 戸口の幅(フロントプレートから): - cm
  - 最低ステップの高さ: 43.0 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高(屋根部材上面まで): 198.0 cm
  - フレームの全幅: 107.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離: 38.0 cm

※1. クボタ GL321E (タイヤサイズ: 前輪 8-16 後輪 11.2-26) に装着時。  
※2. トラクターシート銘柄型式: 類似プレス工業 N94850  
※3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に腐部。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ  
及び安全フレーム検査成績表



型式名：クボタ GSF32

合格番号：96027

種類：安全フレーム (2柱式)

依頼者名：株式会社 クボタ  
住所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目  
2番47号

I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ GL321	クボタ GL320	クボタ GL-33
	クボタ GL337	クボタ GL301	クボタ GL300
クボタ GL-29			
2. 主要諸元 (最大及び最小トラクター)	クボタ GL-32	クボタ GL-29	
■ 型式	4輪駆動	4輪駆動	
■ 質量 (フレーム付き)	kg : 1295	kg : 1265	
■ 軸距	mm : 1750	mm : 1750	
■ 機関出力 / 回転数	kW(PS)/rpm : 23.5(32)/2800	kW(PS)/rpm : 21.3(29)/2700	

II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介してブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2. 主な装備

シートベルト (2点式)

3. 主要寸法 ※
- 座席基準点から屋根部材 (下面) までの高さ : 87.5 cm
  - フートプレートから屋根部材 (下面) までの高さ : 130.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅 : 94.0 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅 (上部) : - cm
  - 戸口の幅 (中部) : - cm
  - (フートプレートから) (下部) : - cm
  - 戸口の高さ : - cm
  - 最低ステップの高さ : 41.5 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高 (屋根部材上面まで) : 198.0 cm
  - フレームの全高 : 106.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : 35.0 cm

※ 1. クボタ GL-32 (クボタキャブ) : 前輪 8-16 後輪 13.6-24 に装着時。  
2. トラクターシートは型式 : 鋼管プレス工業 N94850  
3. ステアリングホイールのチャートは中央位置に調整。

4. 主要材料

- フレーム : STKR 400, SS 400
- 装着ブラケット : SS 400
- 組立・装着ボルト : S40~45C, SS 400

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平荷試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。

- 基準質量 : 1300 kg
- 所要吸気エネルギー : 後部負荷 2.09 kJ ( 213 kgf・m)
- 側部負荷 2.92 kJ ( 298 kgf・m)

■ 圧縮力 : 19.12 kN ( 1950 kgf)

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部 (前方へ) : 右側 24.0 cm 左側 21.5 cm
- 側部 (左側方へ) : 14.0 cm
- 上部 (下方へ) : 右側 3.0 cm 左側 5.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 : 9.0 cm

2. 騒音 ※

- 86 dBA [クボタ GL-32] 86 dBA [クボタ GL-29]

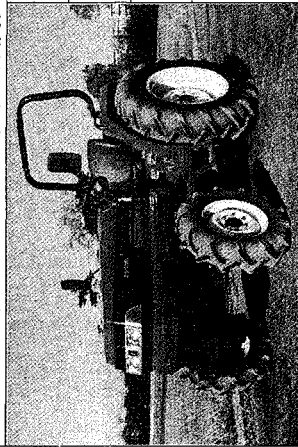
※ 1. 5km/hに低い速度で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

本フレームは、既合格機 (合格番号 99045) であり、装着トラクター 3 型式 (クボタ GL321, クボタ GL337, クボタ GL301) の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。

強度試験、分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ  
及び安全フレーム検査成績表



型式名: クボタ GSF418

合格番号: 96088

種類: 安全フレーム(2柱式)

依頼者名: 株式会社 クボタ

住所: 大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目  
2番47号



I 装着可能トラクター

型式名	クボタ GL417	クボタ GL418	クボタ GL367
主要諸元(最大及び最小トラクター)			
■型式	クボタ GL467	クボタ GL368	クボタ GL368
■種類	4輪駆動	4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg : 1453	kg : 1431	kg : 1431
■軸距	mm : 1855	mm : 1830	mm : 1830
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm : 33.8(46)/2800	kW(PS)/rpm : 26.5(36)/2600	kW(PS)/rpm : 26.5(36)/2600

II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。
- 主な装備  
シートベルト(2点式)
- 主要寸法 ※  
  - 座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ : 103.0 cm
  - フートプレートから屋根部材(下面)までの高さ : 146.0 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅 : 96.5 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅 : — cm
  - 戸口の幅 (上部) : — cm
  - (中部) : — cm
  - (下部) : — cm
  - フートの高さ (フートプレートから) : — cm
  - 最低ステップの高さ : 43.5 cm
  - フレーム装着時のトラクターの高さ (屋根部材上面まで) : 217.0 cm
  - フレームの全幅 : 109.5 cm
  - 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離 : 31.5 cm

※1. クボタ GL467 (タイヤサイズ: 前輪 8-16 後輪 13.6-26) に装着時。  
2. トラクターシーートの取付型式: しける工業 T070-470  
3. ステアリングホイールのチャルトは中央位置に取付。

- 主要材料  
  - 主フレーム: STRK 400, SS 400
  - 装着ブラケット: SS 400
  - 組立・装着ボルト: S40~45C, SS 400

III 検査成績

- 強度試験  
  - 1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、側部右側に対して実施。  
    - 基準質量: 1440 kg
    - 所要取収エネルギー: 後部負荷 2.32 kJ (236 kgf·m)
    - 側部負荷 3.11 kJ (318 kgf·m)
    - 圧壊力: 21.18 kN (2160 kgf)
  - 2) 試験後のフレームの永久変位  
    - 後部(前方へ): 右側 21.5 cm 左側 19.5 cm
    - 側部(左側方へ): 右側 2.0 cm 左側 8.0 cm
    - 上部(下方へ): 右側 2.0 cm 左側 8.0 cm
  - 3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差: 15.5 cm
2. 騒音 ※  
  - 90 dBA (クボタ GL467) 89 dBA (クボタ GL368)

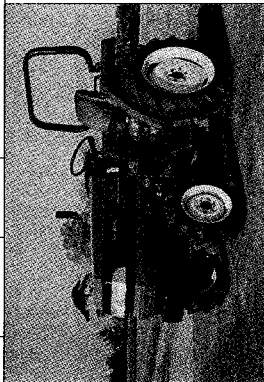
※1. 5m/sに近しい速度で、せり負荷をかけた時のフレーム内騒音。運転者の耳もと

IV 付記

本フレームは、既合格機(合格番号 96028)であり、装着トラクター1型式(クボタ GL467)の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。  
強度試験、分解調査

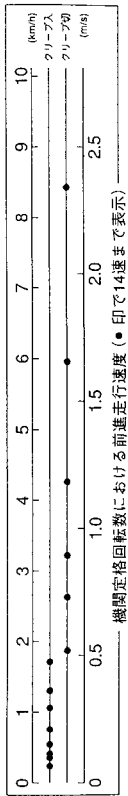
# 農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	96076	型式名	クボタ GL241	日付	平成9年11月14日
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区数津東1丁目2番47号	検査機関	生物系特定産業技術研究機関 推進機構 神戸市
機名	クボタ GL241	型式名	クボタ GSF23 (合格番号: 96024)	検査項目	4 輪駆動 ■ 機関呼称出力: 18.4kW (25PS)/2600rpm ■ 走行速度段数: 前進16段 後進16段 (シヤトル変速) ■ クリープ変速付き ■ PTO変速段数: 正4段 逆1段 ■ パワーステアリング付き ■ 旋回時前輪増速機構付き ■ 水平・耕深制御装置付き ■ 安全キヤパ付きもあり ■ 装着安全フレーム: 型式名



## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
  - 全長: 2.95m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅: 1.25m (後輪最外側)
  - 試験時の前輪軸距: 0.95m
  - 試験時の後輪軸距: 1.01m
  - 全高: 1.98m (安全フレーム上端)
  - 質量: 1102kg
  - 前輪: 520kg
  - 軸距: 1.55m
  - 輪距: 前輪 0.95m (固定)
  - 後輪 1.01, 1.13m (2段階)
  - タイヤ: 前輪 6-14-4PR
  - 後輪 9.5-24-4PR
  - PTO軸高さ: 0.55m
  - PTO軸端〜下部リンク後端: 0.58m
- 機関**
  - 種類: 水冷4サイクル3気筒ディーゼル
  - 呼称出力: 18.4kW (25PS)/2600rpm
  - 総行程容積: 1.463 l
  - 燃焼室形式: 渦流室式
  - 過給機: なし
- 伝動装置**
  - 主クラッチ形式: 乾式単板
  - 主変速: 4段
  - 副変速: 2段
- PTO**
  - クラッチ形式: 普通型
  - 規格: 6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機関定格回転数のとき): 正転 544, 770, 944, 1,250rpm
  - 逆転 770rpm
- けん引装置**
  - 形式: 固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置**
  - 制御方式: ポジションコントロール
  - 油圧外部取出口: PFI/4 1個
  - 作業機装着装置: 3点リンク1形
- かじ取装置**
  - 形式: 油圧式 (インテグラル式)
- 装着安全フレーム**
  - 型式名: クボタ GSF23 (合格番号: 96024)



## II 検査成績

### 1. PTO性能

- トルクバックアップ比: 1.33
- 弾性値: 2.17
- 最大出力時:

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
17.7kW {24.1PS}	290g/kW・h {213g/PS}	544rpm	10%

### ■ 機関定格回転数時:

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
17.7kW {24.1PS}	290g/kW・h {213g/PS}	544rpm	10%

### 2. けん引性能 (コンクリート上)

条件	けん引出力	けん引速度
最大けん引出力	9.88kN {1007kgf}	6.24km/h {3.88PS}
7.5km/hに最も近い速度段	14.3kN {1460kgf}	7.61km/h {4.72PS}
最大けん引出力	5.44kN {555kgf}	14.3km/h {9.46PS}

### 3. 作業機昇降装置性能

- リーフ弁設定圧力: 16.4MPa {167kgf/cm<sup>2</sup>}
- 油圧ポンプ性能:

条件	流量	圧力	出力
最大出力	23.2 l/min	14.7MPa {150kgf/cm <sup>2</sup> }	5.69kW {7.73PS}
リーフ弁設定圧力の90%	23.2 l/min	14.7MPa {150kgf/cm <sup>2</sup> }	5.69kW {7.73PS}

### ■ 揚力:

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	10.98kN {1120kgf}
フレーム上	8.19kN {835kgf}

トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値: (最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
 最大けん引出力: コンクリート上のスリップ率15%時のけん引出力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引出力のどちらか小さい方の値を最大けん引出力としている。  
 揚力: 最大揚力を実際のリーフ弁設定圧力の90%の圧力で換算した実用的揚力値。  
 騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

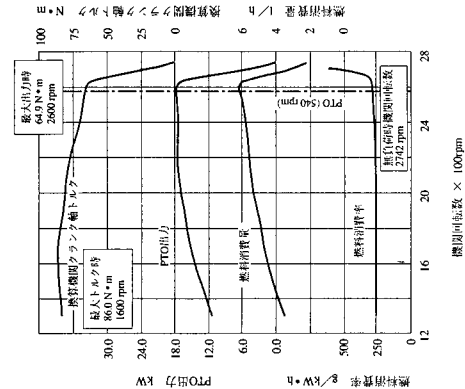


図 PTOの性能曲線  
 ※ 調整レベル位置  
 実線: 全開位置  
 標準PTO回転数で最大出力の得られる位置は全開と同じ

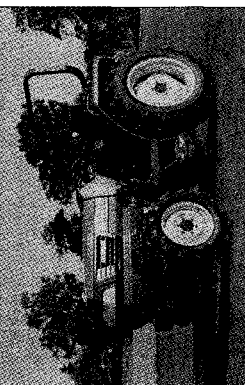
- 騒音 (運転者の耳もと): 86dB(A)
- 静的横転角: 35°
- 最小旋回半径 (コンクリート上)  
ブレーキ使用時: 1.95m
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置  
御装置は田滑に作動した。
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は田滑に作動した。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第I類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

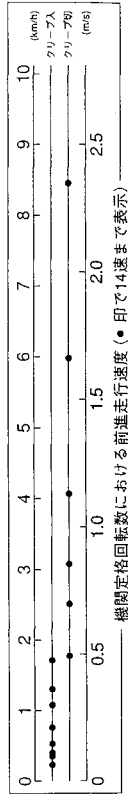
合格番号	96077	依頼者名	株式会社クボタ
型式名	クボタ GL261	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
日付	平成9年1月	検査機関	生物系特定産業技術研究推進機構 検査推進機構 主任 佐藤 隆夫



- 4 輪駆動
- 機内呼称出力：19.9kW (27PS)/2600rpm
- 走行速度段数：前進16段 後進16段 (シヤトル変速)
- クロープ変速付き
- PTO変速段数：正4段 逆1段
- パワーステアアアシリンギンギン付
- 旋回時前輪増速機構付
- 水平・耕架制御装置付
- 安全キヤブ付
- 装着安全フレイム：型式名 クボタGSF27 (合格番号：96025)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ
  - 全長：3.05m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅：1.35m (前輪最外側)
  - 試験時の前輪輪距1.08m
  - 試験時の後輪輪距1.05m
  - 全高：1.95m (安全フレイム上端)
  - 質量：1170kg  
前輪552kg 後輪618kg
  - 軸距：1.65m
  - 輪距：前輪 1.08m (固定)  
後輪 1.05, 1.07, 1.15, 1.17, 1.25, 1.35m (6段階)
  - タイヤ：前輪 7-16-4PR  
後輪 11.2-24-4PR
  - PTO軸高：0.54m
  - PTO軸端〜下部リンク後端：0.63m
- 機関
  - 種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
  - 呼称出力：19.9kW (27PS)/2600rpm
  - 総行程容積：1.499 l
  - 燃焼室形式：渦流室式
  - 過給機：なし
- 伝動装置
  - 主クラッチ形式：乾式単板
  - 主変速：4段
- PTO
  - クラッチ形式：普通型
  - 規格：6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機内定格回転数のとき)：正転 568, 803, 985, 1304rpm 逆転 803rpm
- けん引装置
  - 形式：固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置
  - 制御方式：ボジションコントロール
  - 油圧外部取出口：PF1/4 1個
  - 作業機装着装置：3点リンク1形
- かじ取装置
  - 形式：油圧式 (インテグラル式)
- 装置安全フレイム
  - 型式名：クボタ GSF27 (合格番号：96025)



## II 検査成績

### 1. PTO性能

- トルクバックアップ比：1.19
- 弾性値：1.90
- 最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
19.5kW (26.5PS)	269g/kW・h (198g/PSh)	524rpm	8%
19.2kW (26.1PS)	283g/kW・h (208g/PSh)	568rpm	8%

### ■機内定格回転数時：

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
19.2kW (26.1PS)	283g/kW・h (208g/PSh)	568rpm	8%

### 2. けん引性能 (コンクリート上)

条件	けん引	けん引出力	速度
最大けん引	10.53kN (1074kgf)	6.42kW (8.73PS)	2.20km/h (10速)
7.5km/hに最も近い速度段	7.95kN (811kgf)	15.6kW (21.2PS)	6.93km/h (14速)
最大けん引	6.26kN (638kgf)	15.7kW (21.3PS)	9.03km/h (15速)

### 3. 作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力：16.4MPa (167kgf/cm<sup>2</sup>)
- 油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	23.2 l/min (150kgf/cm <sup>2</sup> )	14.7MPa (150kgf/cm <sup>2</sup> )	5.69kW (7.73PS)
リリーフ弁設定圧力の90%	23.2 l/min (150kgf/cm <sup>2</sup> )	14.7MPa (150kgf/cm <sup>2</sup> )	5.69kW (7.73PS)

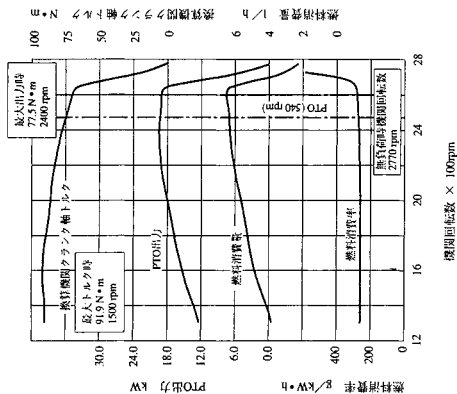
### ■揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.18kN (1140kgf)
フレイム上	9.27kN (945kgf)

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
弾性値：(最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少なく、大きい方が黒煙が多い。  
最大けん引：コンクリート上のスリップ率15%時のけん引又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のうち小さい方の値を最大けん引として示す。

揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。

騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。



※ 調整レバー位置  
標準PTO回転数で最大出力の  
得られる位置は全周位置と同じ

図 PTOの性能曲線

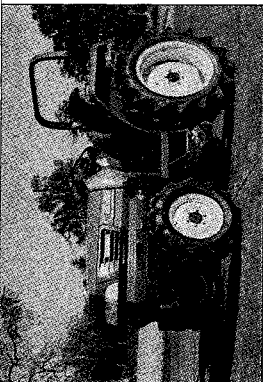
- 騒音 (運転者の耳もと)：86.5dB(A)
- 静的横転角：37°
- 最小旋回半径 (コンクリート上) プレーキ使用時：2.13m
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕架制御装置は円滑に作動した。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

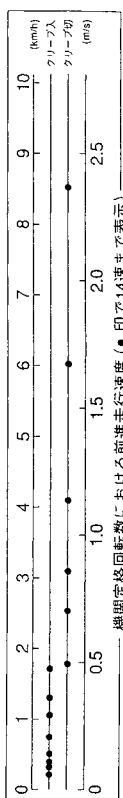
合格番号	96078	型式名	クボタ GL281	日	平成9年1月7日
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	検査技術	生物系特定産業技術
住	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	検査標準	検査標準	検査機関	検査機関



- 4. 輪駆動
- 機関呼称出力: 21.3kW (29PS) / 2700rpm
- 走行速度段数: 前進16段 (後進16段)
- クラッチ変速付き (シヤトル変速)
- PTO変速段数: 正4段 逆1段
- パワーステアリング付き
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・耕深制御装置付き
- 安全キャッチアップ機構あり
- 装着安全フレーム: 型式名 クボタ GSF280 (合格番号: 96026)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ
  - 全長: 3.05m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅: 1.42m (前輪最外側)
  - 試験時の前輪軸距: 1.13m
  - 試験時の後輪軸距: 1.13m
  - 全高: 2.00m (安全フレーム上端)
  - 質量: 1211kg
  - 前輪: 561kg 後輪: 650kg
  - 軸距: 1.13m (固定)
  - 輪距: 前輪 1.13, 1.15, 1.25, 1.32 後輪 1.13, 1.15, 1.25, 1.32 1.42m (5段階)
  - タイヤ: 前輪 8-16-4PR 後輪 11.2-26-4PR
  - PTO軸高: 0.58m
  - PTO軸端〜下部リンク後端: 0.63m
- 機関
  - 種類: 水冷4サイクル3気筒ディーゼル
  - 呼称出力: 21.3kW (29PS) / 2700rpm
  - 総行程容積: 1.499l
  - 燃焼室形式: 渦流室式
  - 過給機: なし
- 伝動装置
  - 主クラッチ形式: 乾式単板
  - 主変速: 4段
- PTO
  - クラッチ形式: 普通型
  - 規格: 6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機定定格回転数のとき): 正転 545, 771, 945, 1252rpm 逆転 771rpm
- けん引装置
  - 形式: 固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置
  - 制御方式: ボジションコントロール
  - 油圧外部取出口: PF1/4 1個
  - 作業機装着装置: 3点リンク1形
- かじ取装置
  - 形式: 油圧式 (インテグラル式)
- 着葎安全フレーム
  - 型式名: クボタ GSF280 (合格番号: 96026)



## II 検査成績

- PTO性能
  - トルクバックアップ比: 1.15
  - 弾性値: 1.62
  - 最大出力時:

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
20.6kW {28.0PS}	268g/kW・h {197g/PSh}	484rpm	9%

機関定格回転数時:			
出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
20.4kW {27.7PS}	286g/kW・h {210g/PSH}	545rpm	5%

### 2. けん引性能 (コンクリート上)

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	9.80kN {999kgf}	5.80kW {7.89PS}	2.13m/h (10速)
7.5km/hに最も近い速度段	8.49kN {866kgf}	15.8kW {21.5PS}	6.69m/h (14速)
最大けん引力	6.98kN {712kgf}	16.4kW {22.3PS}	8.46m/h (15速)

### 3. 作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力: 16.3MPa (166kgf/cm<sup>2</sup>)
- 油圧ポンプ性能:

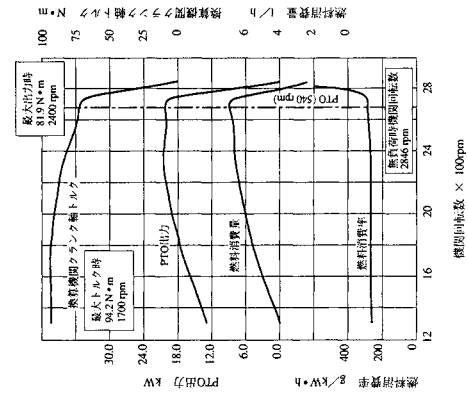
条件	流量	圧力	出力
最大出力	22.3l/min {149kgf/cm <sup>2</sup> }	14.6MPa {149kgf/cm <sup>2</sup> }	5.43kW {7.38PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	22.3l/min {149kgf/cm <sup>2</sup> }	14.6MPa {149kgf/cm <sup>2</sup> }	5.43kW {7.38PS}

### ■揚力:

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	10.64kN {1085kgf}
フレーム上	8.53kN {870kgf}

トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値: (最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
 最大けん引力: コンクリート上のスリッパ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力として示す。

揚力: 最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力。  
 騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。



※ 調整レバ位置  
 実線: 全開位置  
 虚線: PTO回転数で最大出力の  
 得られる位置は全開位置と同じ

図 PTOの性能曲線

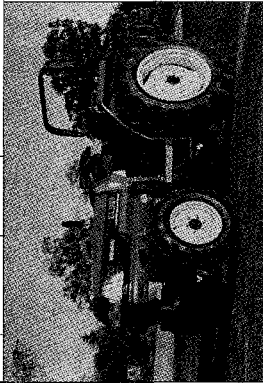
- 騒音 (運転者の耳もと): 87dB(A)
- 静的横転角: 38°  
ブレーキ使用時: 2.15m
- 最小旋回半径 (コンクリート上)
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置  
御装置は円滑に作動した。
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第I類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

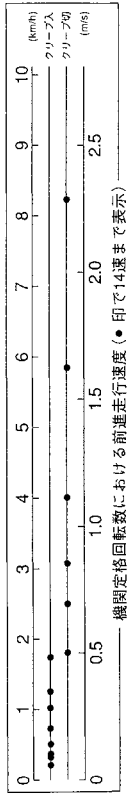
合格番号	96079	型式名	クボタ GL301	日	平成9年1月
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	検査機関	生物系特定産業技術研究機関 推進機構



■ 4輪駆動  
 ■ 機関呼称出力：22.8kW (31PS)/2700rpm  
 ■ 走行速度段数：前進16段 後進16段 (シャトル変速)  
 ■ クリープ変速付き 正4段 逆1段  
 ■ PTO変速段数：正4段 逆1段  
 ■ バックアップブレーキ付き  
 ■ 旋回時前輪増速機構付き  
 ■ 水平・耕深制御装置付き  
 ■ 安全キャッチアップ付きもあり  
 ■ 装着安全フレーム：型式名 クボタGSF32 (合格番号：96027)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ
  - 全長：3.18m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅：1.42m (前輪最外側)
  - 試験時の前輪輪距：1.13m
  - 試験時の後輪輪距：1.09m
  - 全高：1.98m (安全フレーム上端)
  - 質量：1264kg
  - 軸距：1.75m
  - 前輪：1.13m (固定)
  - 後輪：1.09, 1.19, 1.26, 1.36 (6段階)
  - タイヤ：前輪 8-16-4PR 後輪 12.4-26-4PR
  - PTO軸高さ：0.55m
  - PTO軸端〜下部リンク後端：0.63m
- 機関
  - 種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
  - 呼称出力：22.8kW (31PS)/2700rpm
  - 総行程容積：1.499l
  - 燃焼室形式：渦流室式
  - 過給機：なし
- 伝動装置
  - 主クラッチ形式：乾式単板
  - 主変速：4段
- PTO
  - クラッチ形式：普通型
  - 規格：6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機関定格回転数のとき)：正転 537, 759, 931, 1233rpm 逆転 759rpm
- けん引装置
  - 形式：固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置
  - 制御方式：ポジションコントロール
  - 油圧外部取出口：PFI/4 1個
  - 作業機装着装置：3ポイント1形
- かじ取装置
  - 形式：油圧式 (インテグラル式)
- 装着安全フレーム
  - 型式名：クボタ GSF32 (合格番号：96027)



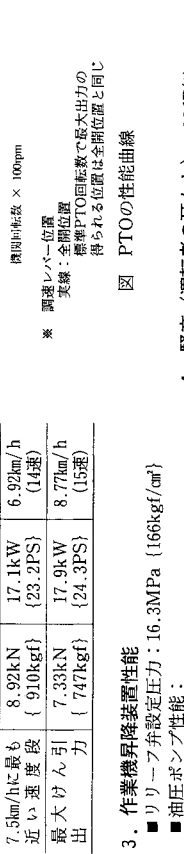
## II 検査成績

- PTO性能
  - トルクバックアップ比：1.15
  - 弾性値：1.69
  - 最大出力時：
 

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
21.7kW {29.5PS}	277g/kW・h {204g/PS}	497rpm	11%
- 機関定格回転数時：
 

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
21.1kW {28.7PS}	288g/kW・h {212g/PS}	537rpm	8%
- けん引性能 (コンクリート上)
 

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	9.90kN {1010kgf}	6.00kW {8.16PS}	2.18km/h (10速)
7.5km/hに最も近い速度段	8.92kN {910kgf}	17.1kW {23.2PS}	6.92km/h (14速)
最大けん引出力	7.33kN {747kgf}	17.9kW {24.3PS}	8.77km/h (15速)



- 作業機昇降装置性能
  - リーフ弁設定圧力：16.3MPa (166kgf/cm<sup>2</sup>)
  - 油圧ポンプ性能：
 

条件	流量	圧力	出力
最大出力	22.3l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> )	14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> )	5.43kW (7.38PS)
リーフ弁設定圧力の90%	22.3l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> )	14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> )	5.43kW (7.38PS)
- 揚力：
 

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.18kN (1140kgf)
フレーム上	8.88kN (905kgf)
- 騒音 (運転者の耳もと)：86dB(A)
- 静的横転角：38°
- 最小旋回半径 (コンクリート上)：ブレーキ使用時：2.24m
- 安全装置：可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他：旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

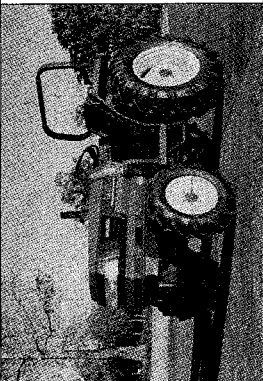
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値：(最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度：排気ガスの濃度を0〜100%の範囲で示す。小さい方が濃度が少ない。  
 最大けん引力：コンクリート上のスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。  
 揚力：最大揚力を実際のリーフ弁設定圧力の90%の圧力で換算した実用的揚力値。  
 騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

# 農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	96080	型式名	クボタ GL321	日	平成9年1月16日
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区数津東1丁目2番47号	検査種別	乗用型
検査種別	乗用型	検査機関	生物系特定産業技術研究センター	検査場所	大阪市東淀川区



- 4輪駆動
- 機関呼称出力：24.3kW (33PS)/2800rpm
- 走行速度段階：前進16段 後進16段 (シャトル変速)
- クリープ変速付き
- PTO変速段階：正4段 逆1段
- パワーステアリング付き
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・耕深制御装置付き
- 安全キャッチ付きもあり
- 装着安全フレーム：型式名 クボタGSF32 (合格番号：96027)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
    - 全長：3.18m (バンパー～下部リンク後端)
    - 全幅：1.46m (後輪最外側)
    - 試験時の前輪輪距1.13m
    - 試験時の後輪輪距1.11m
    - 全高：1.98m (安全フレーム上端)
    - 質量：1255kg
      - 前輪575kg 後輪680kg
    - 軸距：1.75m
    - 輪距：前輪 1.13m (固定)
    - 後輪 1.11, 1.21, 1.24, 1.33 (6段階)
  - タイヤ**：前輪 8-16-4PR 後輪 13.6-24-4PR
  - PTO軸高：0.54m
  - PTO軸端～下部リンク後端：0.63m
- 機関**
    - 種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
    - 呼称出力：24.3kW (33PS)/2800rpm
    - 総行程容積：1.499 l
    - 燃焼室形式：渦流室式
    - 過給機：なし
  - けん引装置**
    - 形式：固定ヒッチ (オプション)
  - 作業機昇降装置**
    - 制御方式：ポジションコントロール
    - 油圧外部取出口：PFI/4 1個
    - 作業機装着装置：3点リンク1形
  - かじ取装置**
    - 形式：油圧式 (インテグラル式)
  - 装着安全フレーム**
    - 型式名：クボタ GSF32 (合格番号：96027)



## II 検査成績

### 1. PTO性能

- トルクバックアップ比：1.25
- 弾性値：1.75
- 最大出力時：

出力	22.1kW (30.0PS)	燃料消費率	287g/kW・h (211g/PSH)	PTO軸回転数	557rpm	排気煙濃度	6%
----	-----------------	-------	----------------------	---------	--------	-------	----

### ■ 機関定格回転数時：

出力	22.1kW (30.0PS)	燃料消費率	287g/kW・h (211g/PSH)	PTO軸回転数	557rpm	排気煙濃度	6%
----	-----------------	-------	----------------------	---------	--------	-------	----

### 2. けん引性能 (コンクリート上)

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	11.66kN (1189kgf)	7.22kW (9.82PS)	2.23km/h (10速)
7.5km/hに最も近い速度段	7.95kN (811kgf)	17.8kW (24.2PS)	8.07km/h (14速)
最大けん引出力	6.62kN (675kgf)	18.1kW (24.6PS)	9.84km/h (15速)

### 3. 作業機昇降装置性能

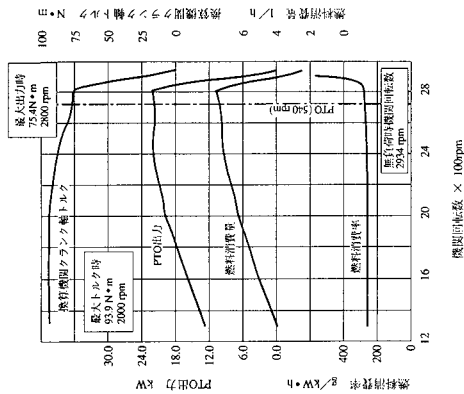
- リーフ弁設定圧力：16.3MPa (166kgf/cm<sup>2</sup>)
- 油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	23.9 l/min (145kgf/cm <sup>2</sup> )	14.2MPa (145kgf/cm <sup>2</sup> )	5.66kW (7.70PS)
リーフ弁設定圧力の90%	21.4 l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> )	14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> )	5.21kW (7.09PS)

### ■ 揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.18kN (1140kgf)
フレーム上	8.88kN (905kgf)

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値：(最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比)×(トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少しい。  
 最大けん引力：コンクリート上のスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力として示している。  
 揚力：最大揚力を実際のリーフ弁設定圧力の90%の圧力で計算した実用的揚力。  
 騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。



※ 調整レバー位置  
 実線：空回位置  
 破線：PTO回転数で最大出力の  
 得られる位置は空回位置と同じ

図 PTOの性能曲線

- 騒音 (運転者の耳もと)：86dB(A)
- 静的横転角：38°  
ブレーキ使用時：2.27m
- 最小旋回半径 (コンクリート上)
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置  
御装置は円滑に作動した。
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

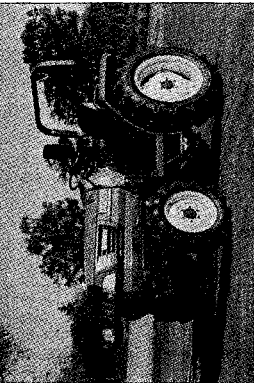
## III 記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。



# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

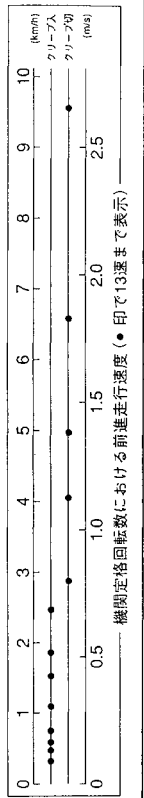
合格番号	96081
型式名	クボタGL277
依頼者名	株式会社クボタ
住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
検査日	平成5年5月13日
検査場所	株式会社クボタ 検査センター
検査員	田中 隆夫



■ 4輪駆動  
 ■ 機関呼称出力: 19.9kW (27PS)/2600rpm  
 ■ 走行速度段数: 前進16段 後進16段 (シヤトル変速)  
 ■ クリーブ変速付き  
 ■ PTO変速段数: 正4段 逆1段  
 ■ ハワーステアアリアリング付き  
 ■ 旋回時前輪増速機構付き  
 ■ 水平・耕深制御装置付き  
 ■ 安全キャブ付きもあり  
 ■ 装着安全フレーム: 型式名 クボタGSF27 (合格番号: 96025)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
  - 全長: 3.09m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅: 1.35m (後輪最外側)
  - 試験時の後輪軸距: 1.08m
  - 試験時の前輪軸距: 1.05m
  - 全高: 1.95m (安全フレーム上端)
  - 質量: 1200kg
  - 前輪566kg 後輪634kg
  - 軸距: 1.65m
  - 軸距: 前輪 1.08m (固定)
  - 後輪 1.05, 1.07, 1.15, 1.17, 1.25, 1.35m (6段階)
- 機 関**
  - 種類: 水冷4サイクル3気筒ディーゼル
  - 呼称出力: 19.9kW (27PS)/2600rpm
  - 総行程容積: 1.499 l
  - 燃焼室形式: 渦流室式
  - 過給機: なし
- 伝動装置**
  - 主クラッチ形式: 乾式単板
  - 主変速: 8段
- PTO**
  - クラッチ形式: 普通型
  - 規格: 6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機関定格回転数のとき): 正転 568, 803, 985, 1304rpm 逆転 803rpm
- けん引装置**
  - 形式: 固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置**
  - 制御方式: ポジションコントロール
  - 油圧外部取出口: PFI/4 1個
  - 作業機装着装置: 3点リンク1形
- かじ取装置**
  - 形式: 油圧式 (インテグラル式)
- 装着安全フレーム**
  - 型式名: クボタ GSF27 (合格番号: 96025)



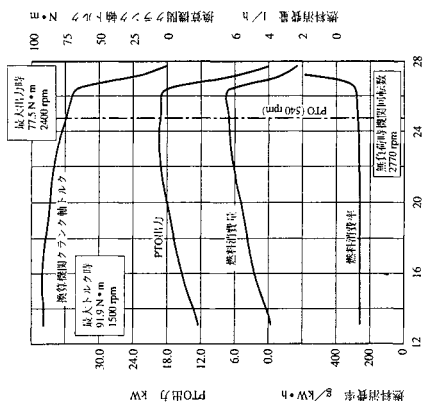
## II 検査成績

- PTO性能**
  - トルクバックアップ比: 1.19
  - 弾性値: 1.90
  - 最大出力時:
 

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
19.5kW {26.5PS}	269g/kW・h {198g/PSH}	524rpm	8%
19.2kW {26.1PS}	283g/kW・h {208g/PSH}	568rpm	8%
- けん引性能 (コングリート上)**

条 件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	10.80kN {1101kgf}	7.55kW {10.3PS}	2.53km/h (9速)
7.5km/hに最も近い速度段	9.87kN {1006kgf}	14.8kW {20.1PS}	5.38km/h (12速)
最大けん引出力	6.85kN {699kgf}	15.4kW {20.9PS}	8.07km/h (13速)
- 作業機昇降装置性能**
  - リリーフ弁設定圧力: 16.4MPa (167kgf/cm<sup>2</sup>)
  - 油圧ポンプ性能:
 

条 件	流量	圧 力	出 力
最大出力	23.2 l/min {150kgf/cm <sup>2</sup> }	14.7MPa {150kgf/cm <sup>2</sup> }	5.69kW {7.73PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	23.2 l/min {150kgf/cm <sup>2</sup> }	14.7MPa {150kgf/cm <sup>2</sup> }	5.69kW {7.73PS}



- 騒音 (運転者の耳もと): 84.5dB(A)**
- 静的横転角: 37°**
- 最小旋回半径 (コングリート上)**  
ブレーキ使用時: 2.13m
- 安全装置** 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他** 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

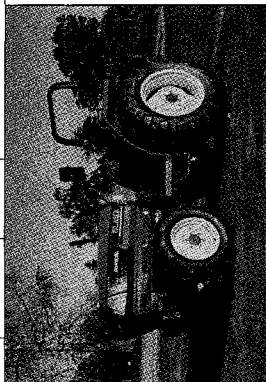
図 PTOの性能曲線

## III 付 記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

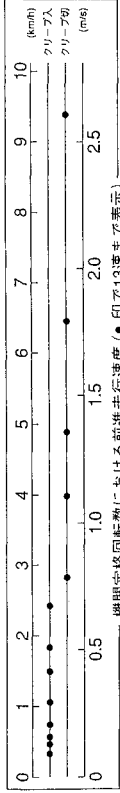
合格番号	96082	型式名	クボタ GL337	日	平成9年1月7日
依頼者名	株式会社クボタ	生物系特定産業技術研究開発機構		月	7
住所	大阪府大阪市浪速区数津東1丁目2番47号	別冊記載事項		年	9



- 4. 輪駆動
- 機関呼称出力: 24.3kW (33PS)/2700rpm
- 走行速度段階: 前進16段 後進16段 (シヤトル変速)
- クリーブ変速付き
- PTO変速段階: 正4段 逆1段
- パワーアシスアアリンク付
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・斜降制御装置付き
- 安全キャッチアップ付きもあり
- 装着安全フレーム: 型式名 クボタGSF32 (合格番号: 96027)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ
    - 全長: 3.18m (バンパ〜下部リンク後端)
    - 全幅: 1.46m (後輪最外側)
    - 試験時の前輪軸距1.13m
    - 試験時の後輪軸距1.11m
    - 全高: 1.98m (安全フレーム上端)
    - 質量: 1280kg
    - 前輪584kg
    - 後輪696kg
    - 軸距: 1.75m
    - 軸距: 前輪 1.13m (固定)
    - 後輪 1.11, 1.21, 1.24, 1.33
    - 1.48, 1.58m (6段階)
  - タイヤ: 前輪 8-16-4PR 後輪 13.6-24-4PR
  - PTO軸高さ: 0.54m
  - PTO軸端〜下部リンク後端: 0.63m
- 機関
    - 種類: 水冷4サイクル3気筒ディーゼル
    - 呼称出力: 24.3kW (33PS)/2700rpm
    - 総行程容積: 1.647l
    - 燃焼室形式: 渦流室式
    - 過給機: なし
  - 伝動装置
    - 主クワッチ形式: 乾式単板
    - 主変速: 8段



## II 検査成績

- PTO性能
  - トルクバックアップ比: 1.30
  - 弾性値: 2.20
  - 最大出力時:

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
20.8kW (28.3PS)	299g/kW・h (220g/PSH)	565rpm	1%

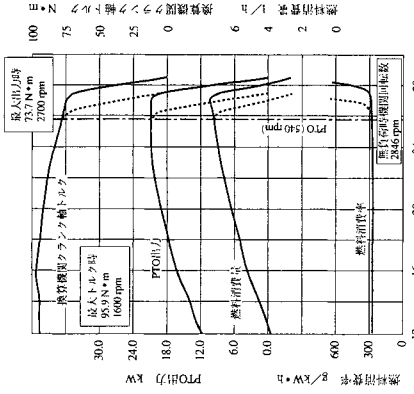
  

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
20.8kW (28.3PS)	299g/kW・h (220g/PSH)	565rpm	1%

- けん引性能 (コンクリート上)
 

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	10.48kN (1069kgf)	10.2kW (13.9PS)	3.50km/h (10速)
7.5km/hに最も近い速度段	10.01kN (1021kgf)	15.7kW (21.3PS)	5.65km/h (12速)
最大けん引力	6.91kN (705kgf)	17.0kW (23.1PS)	8.83km/h (13速)



※ 調整レバー位置  
実線: 全開位置  
点線: 標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図 PTOの性能曲線

- 作業機昇降装置性能
    - リリーフ弁設定圧力: 16.3MPa (166kgf/cm<sup>2</sup>)
    - 油圧ポンプ性能:
- | 条件            | 流量                                   | 圧力                                | 出力              |
|---------------|--------------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 最大出力          | 22.3 l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> ) | 14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> ) | 5.43kW (7.38PS) |
| リリーフ弁設定圧力の90% | 22.3 l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> ) | 14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> ) | 5.43kW (7.38PS) |
- 
- | 条件        | 揚力                |
|-----------|-------------------|
| 下部リンクヒッチ点 | 11.18kN (1140kgf) |
| フレーム上     | 8.88kN (905kgf)   |

- 騒音 (運転者の耳もと): 86dB(A)
- 静的横転角: 38°
- 最小旋回半径 (コンクリート上) プレーキ使用時: 2.27m
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

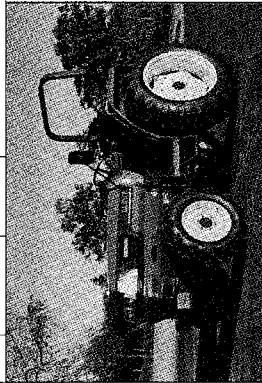
トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
弾性値: (最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
最大けん引力: コンクリート上のスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。  
揚力: 最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力で換算した実用的揚力値。  
騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第I類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

合 格 番 号	96083	型 式 名	クボタ GL367
依 頼 者 名	株式会社クボタ	日 付	平成 25 年 1 月 7 日
住 所	大阪府大阪市浪速区敷津東 1 丁目 2 番 47 号	技 術 構 造	農務系特定産業技術 研究開発機構 農業機械試験場

■ 4 輪駆動  
 ■ 機関呼称出力：26.5kW (36PS)/2600rpm  
 ■ 走行速度段数：前進16段 後進16段 (シヤトル変速)  
 ■ クリーブ変速付き  
 ■ PTO変速段数：正3段 逆1段  
 ■ パワーステアリング付き  
 ■ 旋回時前輪増速機構付き  
 ■ 水平・耕深制御装置付き  
 ■ 安全キャブ付きもあり  
 ■ 装着安全フレーム；型式名 クボタGSF418 (合格番号：96088)



## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
  - 全長：3.33m (バンパ〜下部リング後端)
  - 全幅：1.50m (後輪最外側)
  - 試験時の前輪輪距：1.13m
  - 試験時の後輪輪距：1.18m
  - 全高：2.18m (安全フレーム上端)
  - 質量：1431kg
    - 前輪674kg 後輪757kg
  - 軸距：1.83m
  - 輪距：前輪 1.13m (固定)
  - 後輪 1.18, 1.20, 1.30, 1.38, 1.47m (5段階)
- 機 関**
  - 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
  - 呼称出力：26.5kW (36PS)/2600rpm
  - 総行程容積：1.857 l
  - 燃焼室形式：渦流室式
  - 過給機：なし
- 機 関**
  - 制御方式：ボジションコントロール
  - 油圧外部取出口：PTI/4 1個
  - 作業機装着装置：3点リンク1形
- かじ取装置**
  - 形式：油圧式 (全油圧式)
- 伝動装置**
  - 主クラッチ形式：乾式単板
  - 主変速：4段



## II 検査成績

### 1. PTO性能

- トルクバックアップ比：1.27
- 弾性値：2.04
- 最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
23.6kW (32.1PS)	288g/kW・h (212g/PSh)	540rpm	0%
■ 機関定格回転数時：			
出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
23.6kW (32.1PS)	291g/kW・h (214g/PSh)	544rpm	0%

### 2. けん引性能 (コンクリート上)

条 件	けん引出力	けん引出力	速 度
最大けん引出力	11.56kN (1179kgf)	4.28kW (5.82PS)	1.33km/h (9速)
7.5km/hに最	10.76kN (1097kgf)	19.0kW (25.8PS)	6.35km/h (13速)
も近い速度段	7.50kN (765kgf)	20.0kW (27.2PS)	9.58km/h (14速)
最大けん引			
出 力			

### 3. 作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力：16.2MPa (165kgf/cm<sup>2</sup>)
- 油圧ポンプ性能：

条 件	流 量	圧 力	出 力
最 大 出 力	23.9 l/min	14.2MPa (145kgf/cm <sup>2</sup> )	5.66kW (7.70PS)
リリーフ弁設	21.5 l/min	14.6MPa (149kgf/cm <sup>2</sup> )	5.24kW (7.12PS)
定圧力の90%			

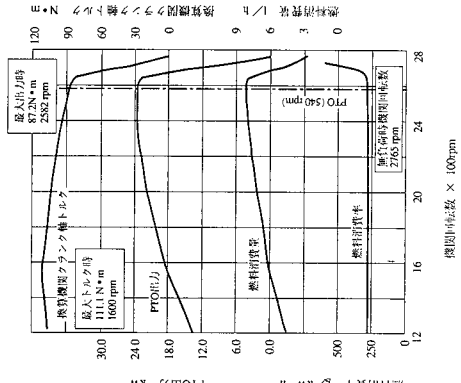
### 4. 騒音 (運転者の耳もと)：89dB(A)

### 5. 静的横転角：38°

### 6. 最小旋回半径 (コンクリート上) プレーキ使用時：2.34m

### 7. 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置 御装置は円滑に作動した。

### 8. その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御 御装置は円滑に作動した。



※ 脚注レバー位置  
 実線：全開位置  
 破線：PTO回転数で最大出力の  
 得られる位置は全開位置と同じ

図 PTOの性能曲線

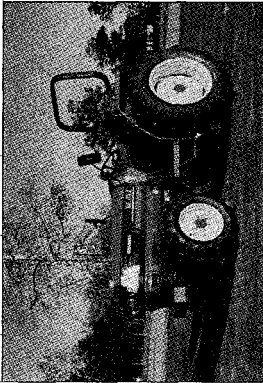
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値：(最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
 最大けん引出力：コンクリート上のスリップ率15%時のけん引出力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引出力としている。  
 揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。  
 騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

## III 付 記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第II類に属するものである。

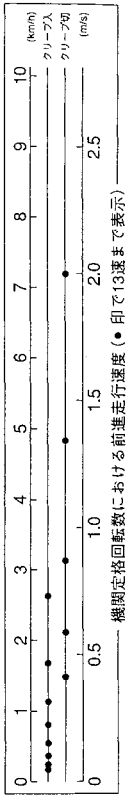
# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

合格番号	96084	型式名	クボタ GL417
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区津島1丁目2番47号
試験日	平成9年11月7日	試験場所	生物系特定産業技術研究センター 推進部 性能試験場



## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
  - 全長: 3.33m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅: 1.50m (後輪最外側)
  - 呼称出力: 30.9kW (42PS)/2600rpm
  - 試験時の前輪軸距: 1.13m
  - 試験時の後輪軸距: 1.16m
  - 全高: 2.18m (安全フレーム上端)
  - 質量: 1429kg (前輪669kg 後輪760kg)
  - 軸距: 1.83m
  - 輪距: 前輪 1.13m (固定) 後輪 1.16, 1.23, 1.33, 1.35, 1.45m (5段階)
  - タイヤ: 前輪 8-16-4PR 後輪 13.6-26-4PR
  - PTO軸高さ: 0.58m
  - PTO軸端〜下部リンク後端: 0.64m
- 機関**
  - 種類: 水冷4サイクル4気筒ディーゼル
  - 呼称出力: 30.9kW (42PS)/2600rpm
  - 総行程容積: 2.197l
  - 燃焼室形式: 渦流室式
  - 過給機: なし
- 伝動装置**
  - 主クラッチ形式: 乾式単板
  - 主変速: 4段
- 4. PTO**
  - クラッチ形式: 普通型
  - 規格: 6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機定格回転数のとき): 正転 544, 806, 1252rpm 逆転 544rpm
- 5. けん引装置**
  - 形式: 固定ヒッチ (オプション)
- 6. 作業機昇降装置**
  - 制御方式: ポジションコントロール
  - 油圧外部取出口: PF1/4 1個
  - 作業機装着装置: 3点リンク1形
- 7. かけ取装置**
  - 形式: 油圧式 (全油圧式)
- 8. 装置安全フレーム**
  - 型式名: クボタ GSF418 (合格番号: 96088)



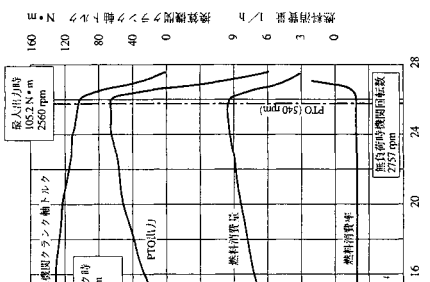
## II 検査成績

- PTO性能**
  - トルクバックアップ比: 1.25
  - 弾性値: 2.00
  - 最大出力時:
 

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
28.2kW (38.3PS)	287g/kW・h (211g/PSH)	503rpm	2%
- けん引性能 (コンクリート上)**

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	12.73kN (1298kgf)	4.73kW (6.43PS)	1.34km/h (9速)
7.5km/hに最も近い速度段	12.50kN (1275kgf)	21.3kW (29.0PS)	6.14km/h (14速)
最大けん引力	9.27kN (945kgf)	23.6kW (32.1PS)	9.14km/h (16速)
- 作業機昇降装置性能**
  - リリーフ弁設定圧力: 16.2MPa (165kgf/cm<sup>2</sup>)
  - 油圧ポンプ性能:
 

条件	流量	圧力	出力
最大出力	23.9l/min (145kgf/cm <sup>2</sup> )	14.2MPa (7.70PS)	5.66kW
リリーフ弁設定圧力の90%	21.5l/min (149kgf/cm <sup>2</sup> )	14.6MPa (7.12PS)	5.24kW



※ 調整レバ位置  
実線: 全開位置  
虚線: 半開位置  
得られる位置は全開位置と同じ

図 PTOの性能曲線

- 騒音 (運転者の耳もと): 89dB(A)
- 静的横転角: 38°
- 最小旋回半径 (コンクリート上) プレーキ使用時: 2.37m
- 安全装置 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

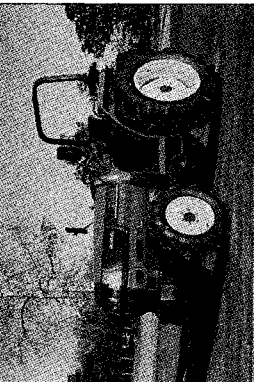
トルクバックアップ比: 最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
弾性値: (最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比) × (トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
排気煙濃度: 排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
最大けん引力: コンクリート上のスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。  
揚力: 最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力で換算した実用的揚力。  
騒音: 無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第II類に属するものである。

# 農用トラクター (乗用型) 検査成績表

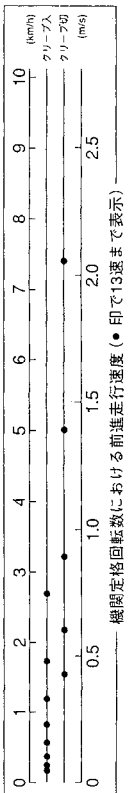
合格番号	96085	型式名	クボタ GL467
依頼者名	株式会社クボタ	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造年	平成9年1月	製造工場	生物系特定産業技術研究部推進機構



- 4輪駆動
- 機関呼称出力：33.8kW (46PS)/2800rpm
- 走行速度段数：前進16段 後進16段 (シヤトル変速)
- クリープ変速付き
- PTO変速段数：正3段 逆1段
- パワーステアリング付き
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・耕深制御装置付き
- 安全キャッチアップ付きもあり
- 装着安全フレイム：型式名 クボタGSF418 (合格番号：96088)

## I 主要諸元・構造

- 機体の大きさ**
  - 全長：3.33m (バンパ〜下部リンク後端)
  - 全幅：1.50m (後輪最外側)
  - 試験時の前輪輪距1.13m
  - 試験時の後輪輪距1.16m
  - 全高：2.18m (安全フレイム上端)
  - 質量：1429kg
  - 前輪660kg 後輪769kg
  - 軸距：1.86m
  - 輪距：前輪 1.13m (固定)
  - 後輪 1.16, 1.23, 1.33, 1.35
  - 後輪 1.45m (5段階)
- 機関**
  - 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
  - 呼称出力：33.8kW (46PS)/2800rpm
  - 総行程容積：2.197 l
  - 燃焼室形式：渦流室式
  - 過給機：なし
- 伝動装置**
  - 主クラッチ形式：乾式単板
  - 主変速：4段
- PTO**
  - クラッチ形式：普通型
  - 規格：6スプライン軸径35mm
  - 回転数 (機関定格回転数のとき)：正転 549, 814, 1263rpm 逆転 549rpm
- けん引装置**
  - 形式：固定ヒッチ (オプション)
- 作業機昇降装置**
  - 制御方式：ボジションコントロール
  - 油圧外部取出口：PF1/4 1個
  - 作業機装着装置：3ポイント1形
- かじ取装置**
  - 形式：油圧式 (全油圧式)
- 装置安全フレイム**
  - 型式名：クボタ GSF418 (合格番号：96088)



## II 検査成績

- PTO性能**
  - トルクバックアップ比：1.25
  - 弾性値：2.19
  - 最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
30.8kW (41.9PS)	283g/kW・h {208g/PSH}	549rpm	5%

■ 機関定格回転数時：

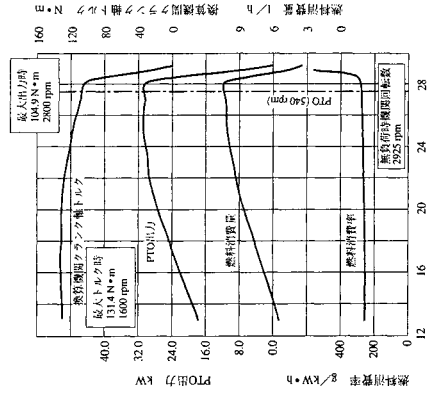
出力	燃料消費率	PTO回転数	排気煙濃度
30.8kW (41.9PS)	283g/kW・h {208g/PSH}	549rpm	5%
- けん引性能 (コンクリート上)**

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	13.50kN {1377kgf}	5.06kW {6.88PS}	1.35km/h (9速)
7.5km/hに最も近い速度段	13.54kN {1380kgf}	23.6kW {32.1PS}	6.27km/h (13速)
最大けん引出力	9.64kN {983kgf}	25.5kW {34.7PS}	9.53km/h (14速)
- 作業機昇降装置性能**
  - リリーフ弁設定圧力：16.6MPa (169kgf/cm<sup>2</sup>)
  - 油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	24.9 l/min	14.1MPa {144kgf/cm <sup>2</sup> }	5.86kW {7.97PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	19.9 l/min	14.9MPa {152kgf/cm <sup>2</sup> }	4.94kW {6.72PS}

■ 揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.67kN {1190kgf}
フレイム上	8.63kN {880kgf}



※ 調整レバー位置  
 実線：全開位置  
 破線：全閉位置  
 得られる位置は全開位置と同じ

図 PTOの性能曲線

- 騒音 (運転者の耳もと)：90dB(A)**
- 静的横転角：37°**
- 最小旋回半径 (コンクリート上) プレーキ使用時：2.37m**
- 安全装置** 可動部、高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
- その他** 旋回時前輪増速機構、水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。  
 弾性値：(最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比)×(トルクバックアップ比)。大きい方が良好。  
 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0~100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。  
 最大けん引力：コンクリート上のスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。  
 揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。  
 騒音：無負荷時走行速度が7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

## III 付記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針 (平成5年8月30日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第II類に属するものである。

## 補修用部品の供給年限について

---

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

# 株式会社クボタ

札幌支店：電(011) 662-2121      〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号  
仙台支店：電(022) 384-5151      〒981-1221 名取市田高字原182番地の1  
東京支店：電(048) 862-1121      〒338-0832 浦和市西堀5丁目2番36号  
大阪支店：電(0722) 41-8506      〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号  
岡山支店：電(086) 279-4511      〒703-8216 岡山市宍甘275番地  
福岡支店：電(092) 606-3161      〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号

## 株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所：電(0188) 45-1601      〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54  
仙台事業所：電(022) 384-5162      〒981-1221 名取市田高字原182番地の1

## 株式会社クボタアグリ東京

東京事業所：電(048) 862-1124      〒338-0832 浦和市西堀5丁目2番36号  
新潟事業所：電(025) 285-1261      〒950-0992 新潟市上所上1丁目14番15号

## 株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所：電(0762) 75-1121      〒924-0038 松任市下柏野町956-1  
名古屋事業所：電(0586) 24-5111      〒491-0031 一宮市観音町1番地の1  
大阪事業所：電(0722) 41-8550      〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号

## 株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所：電(0859) 33-5011      〒683-0804 米子市米原7丁目1番1号  
岡山事業所：電(086) 279-4511      〒703-8216 岡山市宍甘275番地  
高松事業所：電(0878) 74-5091      〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

## 株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所：電(092) 606-3725      〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号  
熊本事業所：電(096) 357-6181      〒861-4147 熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

品番 T0270-1920-8

Kubota